

# 江木下大日遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その1)報告書

縄文時代以後の調査

2006

国 土 交 通 省  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 江木下大日遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その1)報告書

縄文時代以後の調査

2006

国 土 交 通 省  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

上武道路は国道17号線のバイパスとして、平成4年2月に熊谷から国道50号線までの間が供用開始となりました。

長きにわたる、県民待望の道路の開通でありました。

この国道50号線以南で発掘調査を実施した22遺跡につきましては、その豊富な調査成果を発掘調査報告書として、当事業団より公開しております。

平成11年度からは、国道50号線以北の工事区域13.1kmの内、4.9km区間の発掘調査が当事業団に委託され、平成11年4月から平成17年3月にかけて、今回の工事区域に当たりまず、前橋市今井町・富田町・江木町・亀泉町・荻窪町に所在する18遺跡の発掘調査を実施しました。

本報告書はこのうち、前橋市江木町に所在します江木下大日遺跡の発掘調査成果について報告するものです。

江木下大日遺跡では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の集落と、平安時代の浅間山テフラで埋没した水田などが見つかりました。

時代を追って移り変わる集落のありさまが良くとらえられる遺跡です。関西からもたらされたと思われる縄文土器や、文字の書かれた奈良時代の土器、斧や鎌などの鉄製品も含め、出土遺物も多様です。

これらの貴重な資料は、地域の歴史解明に大いに役立つことと思います。

発掘調査から報告書刊行までには国土交通省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者等の皆様に大変お世話になりました。

また、遺物整理の効率化をはかるため、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団にも協力を賜りました。

ここに、関係者の皆様に心より感謝申し上げ、序とさせていただきます。

平成18年10月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇 夫



## 例 言

- 1 本書は一般国道17号（上武道路）改築工事に伴い、記録保存のために発掘調査が実施された江木下大日遺跡のうち、縄文時代以後の遺構・遺物についての発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は以下のとおりである。  
前橋市江木町 927-3・1022-1・1027-1・1030-1・1030-2・1030-3・1030-4・1030-5・1032・1043-4・1043-5・1043-6・1043-11・1043-12・1043-16・1048・1058-3・1058-6・1058-8・1058-9・1058-10・1047-2・1048・1064-2・1049・1052-1・1052-2・1053-1・1057-5・1341-13・1341-14・1341-27・1341-36・1341-30
- 3 遺跡名称は、前橋市教育委員会と協議の上、当団の設定方法に従い、大字名と小字名を組み合わせて付した。ただし発掘調査時点での事業名称は江木Ⅱ遺跡であり、江木Ⅰ遺跡には高田原田遺跡、高田下大日遺跡と江木下大日遺跡が含まれる。
- 4 遺跡の略号は「K16」である。
- 5 事業主体 国土交通省
- 6 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 7 発掘調査期間 平成13年4月1日～平成14年3月31日及び平成14年8月1日～平成14年10月25日
- 8 発掘調査組織及び事務担当  
平成12年度  
理事長 小野守三郎 常務理事兼事務局長 赤山容造 管理部長 住谷進 調査研究第1部長 水田健  
調査研究第2部長 小山友孝 総務課長 坂本敏夫 総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山健夫 主幹兼係長代理 須田朝子  
係長代理 吉田有光 主任 森下弘美 柳岡良宏 主事 片岡徳雄  
非常勤嘱託 大沢友治 土橋まり子 原田恒弘 奈良部清満  
事務補助員 吉田忠子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佳子 本間久美子 北原かおり 田村恭子  
竹野真子 廣津真希子 松下次男 吉田茂 藤原正義  
発掘調査担当 主幹兼専門員 木津博明 専門員 田村公夫 兒島昌昌  
平成13年度  
理事長 小野守三郎 常務理事 赤山容造 常務理事 吉田忠 管理部長 住谷進 調査研究部長 能登健  
調査研究第2部長 小山友孝 総務課長 大島信夫 総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山健夫 主幹兼係長代理 須田朝子  
係長代理 吉田有光 森下弘美 主幹兼専門員 中沢悟 主事 片岡徳雄  
非常勤嘱託 土橋まり子 原田恒弘 奈良部清満  
事務補助員 吉田忠子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佳子 本間久美子 北原かおり 田村恭子  
竹野真子 廣津真希子 松下次男 吉田茂 藤原正義  
発掘調査担当  
主幹兼専門員 女屋和志雄 洞口正史 木津博明 主任調査研究員 吉田和夫 新井美樹 高柳浩道 調査研究員 青木さおり  
平成14年度  
理事長 小野守三郎 常務理事 住谷栄市 常務理事 神保信史 管理部長 萩原利通 調査研究部長 中野行  
調査研究第2部長 中沢悟 総務課長 植原恒夫 総務課長 小山健夫 総務係長 高橋房雄 主幹兼係長代理 須田朝子  
係長代理 吉田有光 森下弘美 主事 田中賢一 非常勤嘱託 土橋まり子 原田恒弘 奈良部清満  
事務補助員 吉田忠子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佳子 本間久美子 北原かおり 田村恭子  
竹野真子 廣津真希子 松下次男 吉田茂 藤原正義  
発掘調査担当 主幹兼専門員 洞口正史 主任調査研究員 新井美樹
- 9 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 10 整理期間 平成16年4月1日～平成18年3月31日
- 11 整理組織及び事務担当  
平成16年度（埼玉埋蔵文化財調査事業団への委託事業期間）  
事業名称 平成16年度埋蔵文化財資料整理業務委託  
委託期間 平成16年4月1日から平成17年3月31日  
業務内容 複合・復元・実測・トレース・拓本・写真撮影・仮レイアウト・遺物観察表作成・金出土器・石器の分類データベース作成  
事務担当  
理事長 小野守三郎 常務理事 住谷栄市 常務理事 神保信史 管理部長 萩原利通 調査研究部長 石島和夫  
資料整理課長 相草建史 総務課長 植原恒夫 総務係長 竹内宏 整理担当 主幹兼専門員 徳江秀夫  
財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団整理担当 金子直行 安生素明 亀田直美  
平成17年度  
理事長 小野守三郎（～7月）高橋勇夫（7月～） 事務局長 津金澤吉茂 常務理事 木村祐紀 総務部長 欠崎俊夫

資料整理部長兼第1課長 中東靖志 調査研究部長 西田健彦 資料整理課長 相京建史 総務課長 宮前結城  
 総務係長 竹内宏 経理係長 石井清 専門員 高藤利昭 主幹 須田朝子 吉田有光 今泉大作  
 主任 清水寿紀 佐藤聖行 栗原幸代 非常勤嘱託 土橋まり子 市村良治 黒澤隆一  
 事務補助員 今井もと子 内山佳子 若田 誠 佐藤美佐子 本間久美子 北原かおり 田村志子 狩野真子 六本木弘子 武藤秀典  
 整理担当 専門員 洞口正史 写真撮影 専門員 佐藤元彦 整理補助員 増田政子 矢野純子 安藤美奈子 下田真弓 石田由美子

- 12 発掘調査時の遺構等にかかる記録図は1:20の縮尺を基本として作図したが、遺構種により一部1:10・1:40・1:60・1:100の等の縮尺で作図したものがあ。記録保存原図の作図の一部は株式会社横田調査設計・技研測量設計株式会社に委託した。
- 13 記録写真発掘調査中に伴う写真撮影は発掘調査担当者が撮影したが、航空写真撮影は技研設計測量株式会社に委託した。
- 14 以下の項目について、それぞれ業務委託を行った。  
 テフラ・植物柱状体分析 株式会社古環境研究所  
 大型建物遺体特定 株式会社パレオ・ラボ  
 金体図作成・石器データ作成 株式会社シン技術コンサル
- 15 本書の作成にかかる作業分担は以下による  
 編集・構成 洞口正史  
 遺構写真 上記調査担当者  
 図版作成 増田政子 矢野純子 安藤美奈子 下田真弓 石田由美子  
 遺物実測図作成・トレース・写真撮影 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
 補足遺物写真撮影 佐藤元彦  
 第1章1・第3章4執筆 岡晴彦  
 第5章1執筆 株式会社古環境研究所  
 第5章2執筆 株式会社パレオ・ラボ  
 土器・石器観察所見・観察表執筆 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
 その他の文章作成は、特に断りのない限り洞口が担当した。
- 16 本書の記録図・記録写真・出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管し、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理している。

## 凡 例

- 本書で使用した地形図は、国土地理院発行1:50,000「宇都宮」「長野」、1:25,000「前橋」前橋市発行白図1:2,500を編集した。
- 挿図中に使用した方位は、日本測地系平面直角座標系第Ⅰ系における座標北を使用している。
- 挿図における座標は日本測地系平面直角座標系第Ⅰ系を用いつつ、上武道路関連遺跡の発掘調査遺跡共通のグリッド名称を付している。これについては第1章3を参照されたい。
- 土層観察所見については、農林水産省水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修「新標準土色帳」を参考に記載を行った。
- 土層観察所見中のテフラ名については、町田洋・新井房夫『新編火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版会2003 所載の略称を用いた。
- 挿図中の遺構図面の縮尺は1:60を基準とし、部分図については1:30を用いているが、対象によってこれ以外の縮尺を用いる場合がある。個別図面の縮尺についてはその都度示した。
- 挿図中の遺物図面の縮尺は、土器1:6、石器1:3を基準とするが、対象によってこれ以外の縮尺を用いる場合がある。個別図面の縮尺についてはその都度示した。
- 挿図中のスクリーン・トーンについては図中に注記のない限り、以下の表現を示す。



砂土



粘土



炭化物



As-B



# 目次

序

例言

凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

第1章 発掘調査の経過と方法	1
1 調査に至る経過	1
2 遺跡名称について	2
3 調査区とグリッドの設定	2
4 調査の経過	4
5 整理事業の経過	4
第2章 江木下大日遺跡の立地と環境	6
1 遺跡の位置と立地	6
2 周辺の遺跡	6
第3章 縄文時代の遺構と遺物	13
1 概要	13
2 竪穴住居	14
3 土坑・ピット	40
4 遺構外出土遺物	51
第4章 古墳時代の遺構と遺物	97
1 概要	97
2 遺構と遺物	98
第5章 奈良・平安時代以後の遺構と遺物	122
1 概要	122
2 竪穴住居	122
3 掘立柱建物・柱穴列	270
4 井戸・土坑・ピット	322
5 溝・水田	370
第6章 遺物観察表	376
第7章 自然科学分析報告	429
写真図版	

## 挿図目次

第1図	江木下大日遺跡の位置	1	第60図	グリッド出土土器 5	74
第2図	土武遺跡と江木下大日遺跡	3	第61図	グリッド出土土器 6	75
第3図	江木下大日遺跡の調査区	5	第62図	グリッド出土土器 7	76
第4図	江木下大日遺跡と周辺の遺跡	7	第63図	グリッド出土土器 8	77
第5図	江木下大日遺跡と隣接地の発掘調査	11	第64図	グリッド出土土器 9	78
第6図	縄文時代遺構分布概念図	13	第65図	グリッド出土土器10	79
第7図	32号住居遺物出土状況	14	第66図	グリッド出土土器11	80
第8図	32号住居平面図 高低図 柱穴土層断面図	15	第67図	グリッド出土土器12	81
第9図	32号住居高低図	16	第68図	グリッド出土土器13	82
第10図	32号住居出土遺物 1	17	第69図	グリッド出土土器14	83
第11図	32号住居出土遺物 2	18	第70図	グリッド出土土器15	84
第12図	32号住居出土遺物 3	19	第71図	石器・剥片類のグリッド別出土量概念図 1	84
第13図	32号住居出土遺物 4	20	第72図	石器・剥片類のグリッド別出土量概念図 2	85
第14図	57号住居遺物出土状況	21	第73図	グリッド出土土器類 1	86
第15図	57号住居平面図 土層断面図 ビット土層断面図 出土遺物 1	22	第74図	グリッド出土土器類 2	87
第16図	57号住居出土遺物 2	23	第75図	グリッド出土土器類 3	88
第17図	58号住居遺物出土状況	24	第76図	グリッド出土土器類 4	89
第18図	58号住居平面図 高低図 土坑土層断面図	25	第77図	グリッド出土土器類 5	90
第19図	58号住居土層断面図 埋設土器土層断面図	26	第78図	グリッド出土土器類 6	91
第20図	58号住居出土遺物 1	30	第79図	グリッド出土土器類 7	92
第21図	58号住居出土遺物 2	31	第80図	グリッド出土土器類 8	93
第22図	58号住居出土遺物 3	32	第81図	グリッド出土土器類 9	94
第23図	58号住居出土遺物 4	33	第82図	グリッド出土土器類10	95
第24図	58号住居出土遺物 5	34	第83図	グリッド出土土器類11	96
第25図	58号住居出土遺物 6	35	第84図	古墳時代遺構分布概念図	97
第26図	58号住居出土遺物 7	36	第85図	33号住居平面図 土層断面図 掘方平面図	98
第27図	58号住居出土遺物 8	37	第86図	33号住居掘方平面図 土層断面図	99
第28図	58号住居出土遺物 9	38	第87図	33号住居掘方平面図 高低図	99
第29図	58号住居出土遺物10	39	第88図	33号住居出土遺物	99
第30図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 1	41	第89図	34号住居遺物出土状況図	100
第31図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 2	42	第90図	34号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図	101
第32図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 3	43	第91図	34号住居掘方平面図 高低図 ビット土層断面図	102
第33図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 4	44	第92図	34号住居1遺物出土状況図 平面図 土層断面図	103
第34図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 5	46	第93図	34号住居2平面図 土層断面図	103
第35図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 6	48	第94図	34号住居出土遺物 1	104
第36図	土坑平面図 土層断面図 出土遺物 7	50	第95図	34号住居出土遺物 2	105
第37図	出土土器片の時期別数量比	52	第96図	34号住居出土遺物 3	106
第38図	前期土器片の型式別数量比	52	第97図	36号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴・ビット土層断面図	106
第39図	縄文土器片のグリッド別出土量概念図 1	52	第98図	36号住居掘方平面図 高低図	109
第40図	縄文土器片のグリッド別出土量概念図 2	53	第99図	36号住居掘方平面図 土層断面図	110
第41図	縄文土器片のグリッド別出土量概念図 3	54	第100図	36号住居掘方平面図 高低図	110
第42図	A15・A17・C17グループ遺物出土状況	57	第101図	36号住居出土遺物 1	111
第43図	A15グループ出土遺物 1	58	第102図	36号住居出土遺物 2	112
第44図	A15グループ出土遺物 2	59	第103図	55号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図	113
第45図	A15グループ出土遺物 3	60	第104図	55号住居掘方平面図 土層断面図	114
第46図	A15グループ出土遺物 4	61	第105図	55号住居掘方平面図 高低図	115
第47図	A15グループ出土遺物 5	62	第106図	55号住居出土遺物 1	115
第48図	A17グループ出土遺物 1	63	第107図	55号住居出土遺物 2	116
第49図	A17グループ出土遺物 2	64	第108図	55号住居出土遺物 3	117
第50図	A17グループ出土遺物 3	65	第109図	56号住居計測模式図	118
第51図	C17グループ出土遺物 1	65	第110図	56号住居平面図 土層断面図	119
第52図	C17グループ出土遺物 2	66	第111図	56号住居貯蔵穴 土層断面図 高低図	119
第53図	H17グループ遺物出土状況	67	第112図	56号住居高低図	120
第54図	H17グループ出土遺物 1	68	第113図	56号住居ビット 1 遺物出土状況 平面図 高低図	120
第55図	H17グループ出土遺物 2	69	第114図	56号住居掘方平面図 土層断面図 高低図	120
第56図	グリッド出土土器 1	70	第115図	56号住居出土遺物	121
第57図	グリッド出土土器 2	71	第116図	壱穴住居の時期別数	122
第58図	グリッド出土土器 3	72	第117図	古代壱穴住居分布概念図	123
第59図	グリッド出土土器 4	73	第118図	1号住居平面図 土層断面図 高低図	124
			第119図	1号住居出土遺物	124
			第120図	2号住居平面図 土層断面図 高低図	125

第121図	2号住居平面図	土層断面図	掘方平面図	126	第180図	16号住居平面図	土層断面図	高低図	166	
第122図	2号住居出土遺物			126	第181図	16号住居平面図	土層断面図		166	
第123図	3号住居平面図	高低図	土層断面図	127	第182図	16号住居掘方平面図			166	
第124図	3号住居掘方平面図	土層断面図		128	第183図	16号住居出土遺物			166	
第125図	3号住居平面図	土層断面図		129	第184図	17号住居平面図	土層断面図	高低図	167	
第126図	3号住居掘方平面図			129	第185図	17号住居掘方平面図	土層断面図		168	
第127図	3号住居出土遺物			129	第186図	17号住居平面図	土層断面図		169	
第128図	4号住居平面図	土層断面図		130	第187図	17号住居掘方平面図			169	
第129図	4号住居掘方平面図	高低図		130	第188図	17号住居出土遺物			170	
第130図	4号住居平面図	土層断面図	掘方平面図	131	第189図	18号住居平面図	土層断面図	高低図	171	
第131図	4号住居出土遺物			131	第190図	18号住居掘方平面図	土層断面図		172	
第132図	5号住居平面図	土層断面図		132	第191図	18号住居掘方平面図			172	
	高低図	貯蔵穴土層断面図		132	第192図	18号住居出土遺物			172	
第133図	5号住居掘方平面図	ビット土層断面図		133	第193図	19号住居平面図	土層断面図	高低図	173	
第134図	5号住居掘方平面図	土層断面図		133	第194図	19号住居掘方平面図	土層断面図		174	
第135図	5号住居掘方平面図	高低図		133	第195図	19号住居掘方平面図	土層断面図		174	
第136図	5号住居出土遺物			134	第196図	19号住居出土遺物			175	
第137図	6号住居平面図	土層断面図		135	第197図	20号住居平面図	土層断面図	高低図	176	
第138図	6号住居掘方平面図	高低図		136	第198図	20号住居掘方平面図	土層断面図		177	
第139図	6号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	136	第199図	20号住居掘方平面図			177	
第140図	6号住居出土遺物			137	第200図	20号住居掘方平面図	土層断面図		178	
第141図	7号住居平面図	土層断面図		139	第201図	20号住居出土遺物1			178	
	高低図	掘方平面図	ビット土層断面図	139	第202図	20号住居出土遺物2			179	
第142図	7号住居掘方高低図			140	第203図	21号住居平面図	土層断面図	高低図	180	
第143図	7号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	140	第204図	21号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	181	
第144図	7号住居出土遺物1			141	第205図	21号住居出土遺物1			181	
第145図	7号住居出土遺物2			142	第206図	21号住居出土遺物2			182	
第146図	8号住居平面図	土層断面図	高低図	143	第207図	22号住居平面図	土層断面図	高低図	183	
第147図	8号住居掘方平面図			143	第208図	22号住居出土遺物			183	
第148図	8号住居掘方平面図	土層断面図		144	第209図	23号住居平面図	土層断面図	高低図	184	
第149図	8号住居掘方平面図	高低図		144	第210図	23号住居掘方平面図	土層断面図		184	
第150図	8号住居出土遺物			145	第211図	23号住居出土遺物1			184	
第151図	9号住居平面図	土層断面図		146	第212図	23号住居出土遺物2			185	
第152図	9号住居掘方平面図	土層断面図		146	第213図	24号住居平面図	土層断面図		186	
第153図	9号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	147	第214図	24号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	186	
第154図	9号住居出土遺物			147	第215図	24号住居出土遺物			187	
第155図	10号住居平面図	土層断面図	高低図	148	第216図	25号住居平面図	土層断面図	高低図	188	
第156図	10号住居掘方平面図			149	第217図	25号住居掘方平面図	土層断面図		189	
第157図	10号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	149	第218図	25号住居掘方平面図			189	
第158図	10号住居出土遺物			150	第219図	25号住居掘方平面図			189	
第159図	11号住居平面図	土層断面図		151	第220図	25号住居出土遺物			190	
第160図	11号住居掘方平面図	高低図		151	第221図	26号住居平面図	土層断面図		191	
第161図	11号住居出土遺物			151	第222図	26号住居高低図			192	
第162図	12号住居平面図	土層断面図		152	第223図	26号住居掘方平面図	土層断面図		192	
第163図	12号住居掘方平面図	土層断面図		153	第224図	26号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	193	
第164図	12号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	154	第225図	26号住居出土遺物			194	
第165図	12号住居出土遺物			155	第226図	27号住居平面図	土層断面図	高低図	195	
第166図	13号住居平面図	土層断面図	高低図	156	第227図	27号住居掘方平面図			196	
第167図	13号住居掘方平面図			157	第228図	27号住居掘方平面図	土層断面図		196	
第168図	13号住居掘方平面図	土層断面図		157	第229図	27号住居掘方平面図			196	
第169図	13号住居掘方平面図	土層断面図		158	第230図	27号住居出土遺物			197	
第170図	13号住居掘方平面図			158	第231図	28・29号住居平面図	土層断面図	掘方平面図	198	
第171図	13号住居出土遺物1			159	第232図	28・29号住居貯蔵穴・ビット土層断面図			198	
第172図	13号住居出土遺物2			160	第233図	28・29号住居掘方平面図	土層断面図		200	
第173図	14号住居平面図	土層断面図	高低図	161	第234図	28・29号住居掘方平面図	土層断面図		200	
第174図	14号住居掘方平面図			162	第235図	28・29号住居出土遺物1			201	
第175図	14号住居掘方貯蔵穴	北西向き出し部土層断面図		162	第236図	28・29号住居出土遺物2			202	
第176図	14号住居掘方平面図	土層断面図	掘方平面図	162	第237図	30号住居平面図			202	
第177図	14号住居出土遺物			163	第238図	30号住居出土遺物			202	
第178図	15号住居平面図	土層断面図		163	第239図	31号住居平面図	土層断面図	高低図	掘方平面図	203
	高低図	貯蔵穴土層断面図		163	第240図	35号住居平面図	土層断面図			203
第179図	15号住居掘方平面図	高低図		164						

	高低図 掘方平面図 高低図	205	第298図	48号住居平面図 土層断面図	252
第241図	35号住居電機平面図 土層断面図 掘方平面図	206	第299図	48号住居掘方平面図	252
第242図	35号住居出土遺物	206	第300図	48号住居出土遺物	252
第243図	37号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図	207	第301図	49号住居平面図 土層断面図	253
第244図	37号住居掘方平面図 高低図 床下土塊土層断面図	208	第302図	49号住居掘方平面図	253
第245図	37号住居電機平面図 土層断面図	209	第303図	50号住居平面図 高低図	254
第246図	37号住居掘方平面図 高低図	209	第304図	50号住居出土遺物	254
第247図	37号住居出土遺物 1	210	第305図	51号住居平面図 高低図	255
第248図	37号住居出土遺物 2	211	第306図	51号住居土層断面図	256
第249図	37号住居出土遺物 3	212	第307図	51号住居掘方平面図 土層断面図	257
第250図	38号住居平面図 土層断面図	213	第308図	51号住居貯蔵穴土層断面図	257
第251図	38号住居掘方平面図	213	第309図	51号住居掘方平面図 高低図	258
第252図	38号住居電機平面図 土層断面図	214	第310図	51号住居掘方平面図 高低図	258
第253図	38号住居出土遺物	215	第311図	51号住居出土遺物 1	259
第254図	39号住居平面図 土層断面図 高低図	217	第312図	51号住居出土遺物 2	260
第255図	39号住居電機・掘方平面図 土層断面図 貯蔵穴・ピット・土坑土層断面図	218	第313図	52号住居遺物分布図	261
第256図	39号住居掘方平面図 高低図 ピット土層断面図	219	第314図	52号住居平面図 土層断面図	261
第257図	39号住居出土遺物 1	222	第315図	52号住居電機平面図 土層断面図	262
第258図	39号住居出土遺物 2	223	第316図	52号住居出土遺物 1	262
第259図	39号住居出土遺物 3	224	第317図	52号住居出土遺物 2	263
第260図	39号住居計測模式図	224	第318図	53号住居平面図 土層断面図	264
第261図	40・41号住居遺物分布図	225	第319図	53号住居掘方平面図 高低図	264
第262図	40・41号住居平面図 土層断面図	226	第320図	53号住居電機平面図 土層断面図	265
第263図	40号住居西電機平面図 土層断面図	227	第321図	53号住居掘方平面図	265
第264図	40号住居東電機平面図 土層断面図 掘方平面図 土層断面図	228	第322図	53号住居出土遺物 1	266
第265図	41号住居電機平面図 土層断面図 掘方平面図 土層断面図	229	第323図	53号住居出土遺物 2	267
第266図	40・41号住居掘方平面図 土層断面図	230	第324図	53号住居出土遺物 3	268
第267図	40号住居床下土塊土層断面図	230	第325図	54号住居平面図 高低図 土層断面図	269
第268図	40・41号住居掘方高低図	230	第326図	54号住居掘方平面図 土層断面図 高低図	269
第269図	40号住居出土遺物 1	231	第327図	54号住居出土遺物	269
第270図	40号住居出土遺物 2	232	第328図	掘立柱建物分布概念図	270
第271図	40号住居出土遺物 3	233	第329図	1号掘立柱建物平面図 高低図 柱穴土層断面図	271
第272図	40号住居出土遺物 4 41号住居出土遺物	234	第330図	1号掘立柱建物計測模式図	272
第273図	42・43号住居平面図 掘方平面図 土層断面図 高低図	236	第331図	2・4・6・7号掘立柱建物重複概念図	272
第274図	42号住居ピット土層断面図	236	第332図	2号掘立柱建物平面図 高低図	273
第275図	42号住居電機平面図 土層断面図	237	第333図	2号掘立柱建物柱穴土層断面図	274
第276図	42号住居掘方平面図 土層断面図	237	第334図	2号掘立柱建物計測模式図	274
第277図	42・43号住居出土遺物	238	第335図	3号掘立柱建物平面図 高低図1	275
第278図	44号住居平面図 土層断面図	239	第336図	3号掘立柱建物平面図 高低図2	276
第279図	44号住居掘方平面図 土層断面図 高低図	240	第337図	3号掘立柱建物柱穴土層断面図	276
第280図	44号住居電機平面図 土層断面図	241	第338図	3号掘立柱建物計測模式図	276
第281図	44号住居掘方平面図 土層断面図	241	第339図	4号掘立柱建物計測模式図	277
第282図	44号住居出土遺物 1	242	第340図	4号掘立柱建物平面図 高低図	278
第283図	44号住居出土遺物 2	243	第341図	4号掘立柱建物柱穴土層断面図	278
第284図	45号住居平面図 土層断面図	244	第342図	5号掘立柱建物平面図 高低図	280
第285図	45号住居掘方平面図 高低図	244	第343図	5号掘立柱建物計測模式図	280
第286図	45号住居電機平面図 土層断面図	245	第344図	5号掘立柱建物柱穴土層断面図	281
第287図	45号住居貯蔵穴 床下土塊 土層断面図	245	第345図	6号掘立柱建物出土遺物	281
第288図	45号住居出土遺物	246	第346図	6号掘立柱建物計測模式図	282
第289図	46号住居平面図 土層断面図	247	第347図	6号掘立柱建物平面図 高低図	282
第290図	46号住居掘方平面図 土層断面図 高低図	247	第348図	6号掘立柱建物柱穴土層断面図	282
第291図	46号住居電機平面図 土層断面図	248	第349図	7号掘立柱建物平面図 高低図	284
第292図	46号住居貯蔵穴土層断面図	248	第350図	7号掘立柱建物柱穴土層断面図	284
第293図	46号住居掘方平面図 土層断面図 高低図	249	第351図	7号掘立柱建物計測模式図	284
第294図	46号住居出土遺物	250	第352図	8号掘立柱建物柱穴土層断面図	285
第295図	47号住居平面図 土層断面図	250	第353図	8号掘立柱建物平面図 高低図	286
第296図	47号住居掘方平面図	250	第354図	8号掘立柱建物計測模式図	286
第297図	47号住居出土遺物	251	第355図	9号掘立柱建物計測模式図	287
			第356図	9号掘立柱建物柱穴土層断面図	287
			第357図	9号掘立柱建物平面図 高低図	288
			第358図	10号掘立柱建物平面図 高低図	289
			第359図	10号掘立柱建物柱穴土層断面図	290

第360図	10号獨立柱建物計測模式図	290	第422図	土坑平面図	土層断面図 4	39号土坑出土遺物	333
第361図	11号獨立柱建物平面図	291	第423図	土坑平面図	土層断面図 5		335
第362図	11号獨立柱建物計測模式図	291	第424図	土坑平面図	土層断面図 6	9号土坑出土遺物	337
第363図	11号獨立柱建物柱穴土層断面図	292	第425図	土坑平面図	土層断面図 7		339
第364図	12号獨立柱建物柱穴土層断面図	292	第426図	土坑平面図	土層断面図 8	94号土坑出土遺物	341
第365図	12号獨立柱建物平面図	293	第427図	土坑平面図	土層断面図 9		343
第366図	12号獨立柱建物計測模式図	293	第428図	土坑平面図	土層断面図10	45号土坑出土遺物	345
第367図	12号獨立柱建物出土遺物	293	第429図	土坑平面図	土層断面図11		347
第368図	13号獨立柱建物平面図	294	第430図	ビット平面図	土層断面図 1	10号ビット出土遺物	349
第369図	13号獨立柱建物計測模式図	294	第431図	ビット平面図	土層断面図 2		350
第370図	13号獨立柱建物柱穴土層断面図	295	第432図	ビット平面図	土層断面図 3		351
第371図	14号獨立柱建物平面図	295	第433図	ビット平面図	土層断面図 4		352
第372図	14号獨立柱建物計測模式図	295	第434図	ビット平面図	土層断面図 5		353
第373図	15号獨立柱建物平面図	296	第435図	ビット平面図	土層断面図 6		354
第374図	15号獨立柱建物計測模式図	296	第436図	ビット平面図	土層断面図 7		355
第375図	15号獨立柱建物柱穴土層断面図	296	第437図	ビット平面図	土層断面図 8		356
第376図	16号獨立柱建物平面図	297	第438図	ビット平面図	土層断面図 9		357
第377図	16号獨立柱建物計測模式図	298	第439図	ビット平面図	土層断面図10		358
第378図	17号獨立柱建物計測模式図	298	第440図	ビット平面図	土層断面図11		359
第379図	17号獨立柱建物平面図	299	第441図	ビット平面図	土層断面図12		360
第380図	17号獨立柱建物柱穴土層断面図	299	第442図	ビット平面図	土層断面図13		361
第381図	18号獨立柱建物平面図	301	第443図	ビット平面図	土層断面図14		362
第382図	18号獨立柱建物柱穴土層断面図	301	第444図	ビット平面図	土層断面図15		363
第383図	18号獨立柱建物計測模式図	301	第445図	ビット平面図	土層断面図16		364
第384図	19号獨立柱建物計測模式図	304	第446図	ビット平面図	土層断面図17		365
第385図	19号獨立柱建物柱穴土層断面図	304	第447図	ビット平面図	土層断面図18		366
第386図	19号獨立柱建物平面図	305	第448図	ビット平面図	土層断面図19		367
第387図	20号獨立柱建物柱穴土層断面図	307	第449図	ビット平面図	土層断面図20		368
第388図	20号獨立柱建物平面図	308	第450図	ビット平面図	土層断面図21		369
第389図	20号獨立柱建物計測模式図	310	第451図	溝・水田	分布概念図		370
第390図	21号獨立柱建物柱穴土層断面図 1	310	第452図	1号溝平面図	土層断面図		371
第391図	21号獨立柱建物柱穴土層断面図 2	311	第453図	1号溝出土遺物			372
第392図	21号獨立柱建物平面図	311	第454図	2号溝及び水田想定地平面図	土層断面図		372
第393図	21号獨立柱建物計測模式図	312	第455図	3・4・5・6号溝模式図			373
第394図	21号獨立柱建物出土遺物	312	第456図	4・5・6号溝土層断面図			373
第395図	22号獨立柱建物平面図	313	第457図	3・4・5・6号溝及び水田部平面図	土層断面図		374
第396図	22号獨立柱建物計測模式図	313					
第397図	22号獨立柱建物柱穴土層断面図	314					
第398図	23号獨立柱建物平面図	315					
第399図	23号獨立柱建物柱穴土層断面図	316					
第400図	23・24号獨立柱建物重複概念図	316					
第401図	23号獨立柱建物計測模式図	316					
第402図	24号獨立柱建物柱穴土層断面図	317					
第403図	24号獨立柱建物計測模式図	317					
第404図	24号獨立柱建物平面図	318					
第405図	1号柱穴列平面図	柱穴土層断面図	320				
第406図	2号柱穴列平面図	柱穴土層断面図	320				
第407図	3号・4号柱穴列平面図	高低図	柱穴土層断面図	321			
第408図	井戸・土坑・ビット分布概念図	322					
第409図	1号井戸平面図	土層断面図	323				
第410図	2号井戸ビット土層断面図	323					
第411図	2号井戸平面図	土層断面図	324				
第412図	2号井戸出土遺物 1	324					
第413図	2号井戸出土遺物 2	325					
第414図	3号井戸平面図	土層断面図	325				
第415図	3号井戸出土遺物 1	326					
第416図	3号井戸出土遺物 2	327					
第417図	4号井戸平面図	土層断面図	327				
第418図	4号井戸出土遺物	327					
第419図	土坑平面図	土層断面図 1	329				
第420図	土坑平面図	土層断面図 2	330				
第421図	土坑平面図	土層断面図 3	331				

## 表目次

第1表	39号住居ビット計測表	224
第2表	1号竪立柱建物柱穴計測表	271
第3表	2号竪立柱建物柱穴計測表	274
第4表	3号竪立柱建物柱穴計測表	277
第5表	4号竪立柱建物柱穴計測表	277
第6表	5号竪立柱建物柱穴計測表	279
第7表	6号竪立柱建物柱穴計測表	281
第8表	7号竪立柱建物柱穴計測表	284
第9表	8号竪立柱建物柱穴計測表	286
第10表	9号竪立柱建物柱穴計測表	287
第11表	10号竪立柱建物柱穴計測表	290
第12表	11号竪立柱建物柱穴計測表	291
第13表	12号竪立柱建物柱穴計測表	293
第14表	13号竪立柱建物柱穴計測表	294
第15表	14号竪立柱建物柱穴計測表	295
第16表	15号竪立柱建物柱穴計測表	297
第17表	16号竪立柱建物柱穴計測表	298
第18表	17号竪立柱建物柱穴計測表	298
第19表	18号竪立柱建物柱穴計測表	301
第20表	19号竪立柱建物柱穴計測表	304
第21表	20号竪立柱建物柱穴計測表	310
第22表	21号竪立柱建物柱穴計測表	312
第23表	22号竪立柱建物柱穴計測表	313
第24表	23号竪立柱建物柱穴計測表	316
第25表	24号竪立柱建物柱穴計測表	317

## 写真図版目次

PL.1	江木下大日遺跡の遺構集約部分
PL.2	江木下大日遺跡
PL.3	32号住居
PL.4	32号住居
PL.5	32号住居出土遺物1
PL.6	32号住居出土遺物2
PL.7	32号住居出土遺物3 / 57号住居
PL.8	57号住居 / 67号住居出土遺物
PL.9	58号住居
PL.10	58号住居 / 58号住居出土遺物1
PL.11	58号住居出土遺物2
PL.12	58号住居出土遺物3
PL.13	58号住居出土遺物4
PL.14	58号住居出土遺物5
PL.15	58号住居出土遺物6
PL.16	58号住居出土遺物7 / 土坑・ビット1
PL.17	土坑・ビット2
PL.18	土坑・ビット3
PL.19	土坑・ビット4
PL.20	土坑・ビット5
PL.21	土坑・ビット出土遺物
PL.22	グリッド出土遺物
PL.23	A15グループ出土遺物1
PL.24	A15グループ出土遺物2
PL.25	A15グループ出土遺物3
PL.26	A15グループ出土遺物4
PL.27	A17グループ出土遺物1
PL.28	A17グループ出土遺物2
PL.29	C17グループ出土遺物
PL.30	H17グループ出土遺物
PL.31	グリッド出土土器1
PL.32	グリッド出土土器2
PL.33	グリッド出土土器3
PL.34	グリッド出土土器4
PL.35	グリッド出土土器5
PL.36	グリッド出土土器6
PL.37	グリッド出土土器7
PL.38	グリッド出土土器8
PL.39	グリッド出土土器9
PL.40	グリッド出土土器10
PL.41	グリッド出土土器11
PL.42	グリッド出土土器12
PL.43	グリッド出土土器類1
PL.44	グリッド出土土器類2
PL.45	グリッド出土土器類3
PL.46	グリッド出土土器類4
PL.47	グリッド出土土器類5
PL.48	グリッド出土土器類6
PL.49	グリッド出土土器類7
PL.50	グリッド出土土器類8
PL.51	グリッド出土土器類9
PL.52	グリッド出土土器類10
PL.53	33号住居出土遺物
PL.54	34号住居
PL.55	34号住居出土遺物1
PL.56	34号住居出土遺物2 / 36号住居
PL.57	36号住居出土遺物 / 55号住居
PL.58	55号住居出土遺物 / 56号住居出土遺物1
PL.59	55号住居出土遺物2 / 56号住居
PL.60	56号住居出土遺物

PL.61	1号住居出土遺物/ 2号住居出土遺物	PL.123	ビット3
PL.62	3号住居出土遺物/ 4号住居	PL.124	ビット4
PL.63	4号住居出土遺物/ 5号住居	PL.125	ビット5
PL.64	5号住居出土遺物/ 6号住居/ 30号住居	PL.126	ビット6
PL.65	6号・30号住居出土遺物/ 7号住居	PL.127	ビット7
PL.66	7号住居出土遺物/ 8号住居/ 9号住居	PL.128	ビット8
PL.67	9号住居出土遺物/ 10号住居	PL.129	ビット9
PL.68	10号住居出土遺物/ 11号住居/ 12号住居	PL.130	ビット10
PL.69	12号住居出土遺物/ 13号住居	PL.131	ビット11
PL.70	13号住居出土遺物1	PL.132	ビット12
PL.71	13号住居出土遺物2/ 14号住居	PL.133	1号溝
PL.72	14号住居出土遺物/ 15号住居/ 16号住居	PL.134	1号～6号溝/ 水田
PL.73	16号住居出土遺物/ 17号住居	PL.135	4号溝/ 5号溝/ 水田
PL.74	17号住居出土遺物/ 18号住居出土遺物	PL.136	主要器書土器集成
PL.75	19号住居出土遺物	PL.137	植物珪酸体(プラントオパール)の顕微鏡写真
PL.76	20号住居	PL.138	出土した大型硝化化石
PL.77	20号住居出土遺物/ 21号住居	PL.139	出土良材組織の走査電子顕微鏡写真
PL.78	21号住居出土遺物/ 22号住居		
PL.79	23号住居出土遺物/ 24号住居		
PL.80	24号住居出土遺物/ 25号住居		
PL.81	25号住居出土遺物/ 26号住居		
PL.82	26号住居出土遺物/ 27号住居		
PL.83	27号住居出土遺物/ 28号住居		
PL.84	28号住居出土遺物/ 31号住居		
PL.85	35号住居出土遺物/ 37号住居		
PL.86	37号住居出土遺物/ 38号住居		
PL.87	38号住居出土遺物/ 39号住居		
PL.88	39号住居出土遺物1		
PL.89	39号住居出土遺物2/ 40・41号住居		
PL.90	40・41号住居出土遺物1		
PL.91	40・41号住居出土遺物2		
PL.92	40・41号住居出土遺物3/ 42号住居		
PL.93	42号住居出土遺物/ 43号住居出土遺物/ 44号住居		
PL.94	44号住居出土遺物1		
PL.95	44号住居出土遺物2/ 45号住居出土遺物		
PL.96	46号住居		
PL.97	46号住居出土遺物/ 47号住居出土遺物/ 48号住居		
PL.98	49号住居/ 50号住居出土遺物/ 51号住居		
PL.99	51号住居出土遺物1		
PL.100	51号住居出土遺物2/ 52号住居		
PL.101	52号住居出土遺物/ 53号住居		
PL.102	53号住居出土遺物1		
PL.103	53号住居出土遺物2/ 54号住居		
PL.104	54号住居出土遺物/ 1号掘立柱建物		
PL.105	2号掘立柱建物/ 3号掘立柱建物		
PL.106	4号掘立柱建物/ 5号掘立柱建物		
PL.107	6号掘立柱建物/ 7号掘立柱建物/ 8号掘立柱建物		
PL.108	9号掘立柱建物/ 10号掘立柱建物		
PL.109	11号掘立柱建物/ 12号掘立柱建物/ 13号掘立柱建物		
PL.110	14号掘立柱建物/ 15号掘立柱建物/ 16号掘立柱建物		
PL.111	17号掘立柱建物/ 18号掘立柱建物		
PL.112	19号掘立柱建物/ 20号掘立柱建物		
PL.113	21号掘立柱建物/ 22号掘立柱建物		
PL.114	23号・24号掘立柱建物		
PL.115	1号～4号柱穴/ 1号井戸		
PL.116	2号井戸・出土遺物/ 3号井戸		
PL.117	3号井戸出土遺物・4号井戸		
PL.118	土坑1		
PL.119	土坑2		
PL.120	土坑3		
PL.121	土坑4/ ビット1		
PL.122	ビット2		

## 報告書抄録

書名ふりがな	えぎしもだいにちいせき
書名	江木下大日遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その1)報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第377集
編著者名	洞口正史・関晴彦・株式会社古環境研究所・新山雅広・植田弥生
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2006.09.30
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	えぎしもだいにちいせき
遺跡名	江木下大日遺跡
遺跡所在地	群馬県前橋市江木町
市町村コード	10201
遺跡番号	0743
北緯(日本測地系)	362344
東経(日本測地系)	1390815
北緯(世界測地系)	362355
東経(世界測地系)	1390803
調査期間	2000.04.01～2002.3.31
調査面積	18,219.3m <sup>2</sup>
調査原因	道路建設
種別	集落・生産
主な時代	縄文時代/古墳時代/奈良・平安時代
遺跡概要	縄文時代前期竪穴住居3棟、前期・中期遺物集中地点2か所、土坑及びピット37基/古墳時代後期竪穴住居5棟/奈良・平安時代竪穴住居50棟、掘立柱建物24棟、柱穴列4条、井戸4基、水田2か所、土坑85基、ピット221基、溝7条。
特記事項	縄文時代前期及び8世紀から10世紀の集落。竪穴住居。掘立柱建物。井戸。小鍛冶遺構。墨書土器「寺」「院」「主」など。



## 第1章 発掘調査の経過と方法

### 1 調査に至る経過

上武道路は「昭和30年代後半からの交通需要の急速な増大により、各地域で交通混雑を生むようになり」、「こうした交通需要に対応し地域の活性化を図るため、東京～前橋間の大規模バイパスの一环として計画」され、平成元年3月3日には埼玉県境から国道50号線までが供用された（「」内は国土交通省パンフレットから引用）。

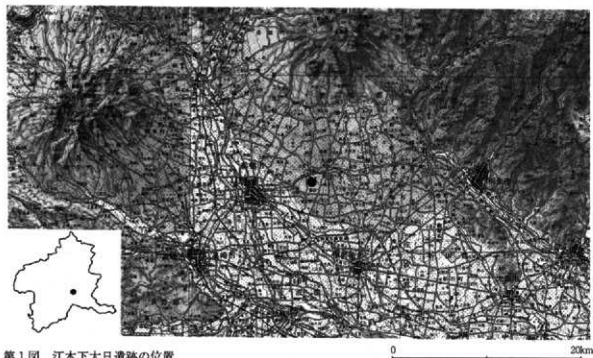
群馬県教育委員会文化財保護課は、昭和時代に建設省関東地方整備局高崎工事事務所から事業の照会を受け、事業予定地内の埋蔵文化財の有無について現地踏査をおこなった。

同課は分布調査を実施し、事業予定地に縄文時代から平安時代の集落、古代の埋没水田・畠等が広く分布していることが明らかになったが、その時点では事業実施に至らなかった。

後年、この分布調査の結果を受けて、群馬県教育委員会と前橋市教育委員会は、平成10年度に事業地内の埋蔵文化財包蔵地を改めて把握し、埋蔵文化財の取り扱いを協議して、事業予定地全体に遺跡が分布しており、本格的な発掘調査を行う必要があることを事業者に通知した。

建設省関東地方整備局長と群馬県教育委員会教育長及び財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年4月1日付けで、一般国道17号（上武道路）改築事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その1）に関する協定を締結し、国道50号線以北で、かつ前橋市江木町までを対象とした区間の発掘調査が実施されることとなった。

発掘調査は協定書に基づいて、平成11年4月1日に富田細田遺跡から開始され、用地の買収および発掘調査体制が整うのを待って、順次着手した。一部の未調査区域については、用地買収の解決した平成14年度後半に終了した。



第1図 江木下大日遺跡の位置

## 第1章 発掘調査の経過と方法

発掘調査表面積は18,219.3㎡である。

### 2 遺跡名称について

上武道路は、谷と台地が交互に現れるという赤城山麓の特徴的な地形を、南東から北西に横切るように走ることになる。各台地上には居住跡や墓跡としての遺跡が認められ、谷地にはテフラ等に被覆された水田の遺跡があるものと想定された。

上武道路関連埋蔵文化財の発掘調査に当たっては、初期段階の発掘調査担当者が作成した原案に基づいて前橋市教育委員会と協議を行い、これにより地形に従って、南（あるいは東）側の谷地とその北（あるいは西）側の台地をあわせて一単位の「遺跡」としてとらえ、遺跡名称を付するという考え方を採った。また、遺跡名称については、所在地の大字名と小字名を冠することを基本とし、すでに調査が行われ、命名済みの遺跡がある部分の隣接地等については、既存の名称を踏襲した上で後ろに「Ⅱ」を付すこととして、平成11年4月からの発掘調査を開始している。これに従って、今回の発掘調査部分については、大字名「江木」と小字名「下大日」を合わせた「江木下大日遺跡」と命名し、東南の富田下大日遺跡との間の谷の東縁辺から、西北の置野Ⅱ遺跡に含まれる谷の西縁辺までを範囲とした。

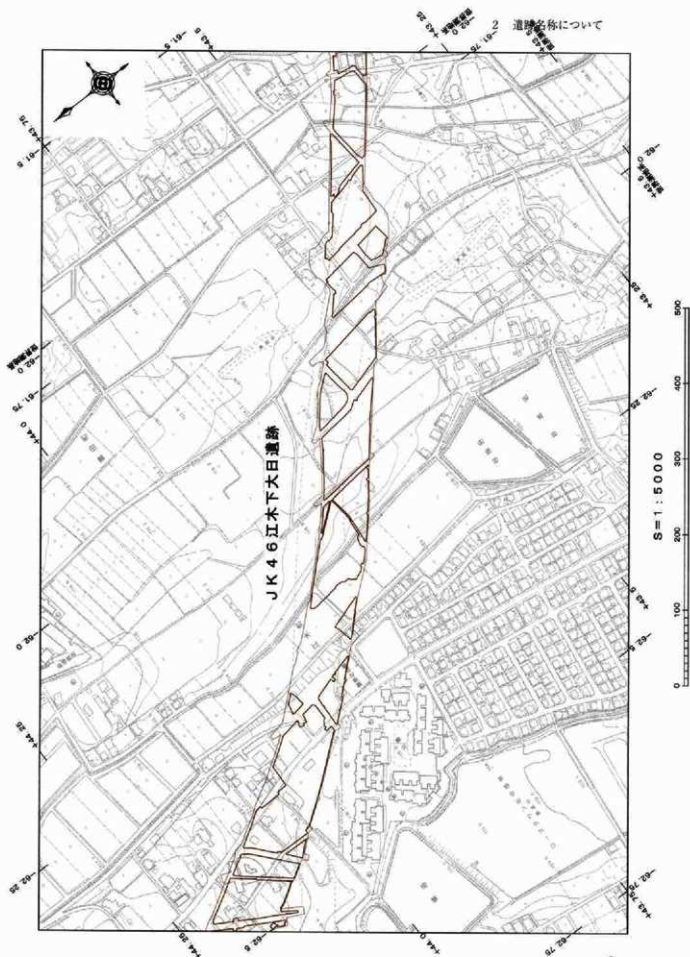
その後平成12年5月から、本遺跡周辺では前橋市埋蔵文化財発掘調査団によりローズタウン住宅団地の建設に伴う発掘調査が行われた。この調査に際しては、事業地内の遺跡の総称として「ローズタウン遺跡群」が使用され、その中に富田下大日遺跡と堤沼下遺跡が置かれた。群馬県遺跡情報システムでもこの遺跡名が採用されており、本遺跡はこの命名に従うと「富田下大日遺跡」の範囲に含まれることとなる。

一方で、上武道路関連遺跡においては、本遺跡の東に隣接する台地を中心とする前橋市富田町字下大日所在部分を、先の協議に従ってすでに「富田下大日遺跡」と命名している。このため、さらなる編纂を避けるため、本遺跡は「江木下大日遺跡」として扱う。

### 3 調査区とグリッドの設定

上武道路関連遺跡の発掘調査に当たっては遺跡相互の関連性が把握しやすいように、調査の基準となる階層的なグリッド網を設定することとした。1000m四方の大グリッド→100m四方の中グリッド→5m四方の抄グリッドの3段階であり、大グリッド1から9により調査区全体をカバーする。江木下大日遺跡は大グリッド6に全域が含まれるため、平面図上ではこれを特に使用していない。中グリッドは大グリッドを100個に区切ることになる。東南隅を1とし、西方向へ2から10までの番号を付し、1の北を11として西へ順次番号を付す。江木下大日遺跡では61、71、72、81、82の中グリッドにかかる。小グリッドは中グリッドをさらに100個に区切るもので、各分界線に東から西へAからT、南から北へ1から20の名称を付し、各区画の東南隅の交差点をグリッド名称とした。

なお発掘調査時点では、道路や水路に区切られた現行地割りに従って工事用の区画が設定されていたため、便宜的にこれを調査区画として使用している。国道50号線以北の上部国道関連遺跡最南端の遺跡である今井道上Ⅱ遺跡の最南端の調査区画を「1」として、順次北に向かって数を増やすので、本遺跡にあっては51区画から54区画が相当した。この区画は考古学的な遺跡の動向とは関連しないものであるため、報告中では用いないこととされたが、調査経過の記述においてはこれを用いたほうが総合的であるので、本章の中に限ってはこれを用いることがある。また、発掘調査時の採取図面、写真、遺物注記等においてはすべてこの工事区画単位で記載が行われており、本書における遺構番号と同一ではない。



第2図 上武道路と江木下大日遺跡

## 第1章 発掘調査の経過と方法

51区画は遺跡南部の広い菱形区画であり、東端に谷地が入る。この谷地は試掘調査の結果後世の擾乱が著しく、遺構がないものと判断されたので調査対象としていない。東の富田下大日遺跡とは道路で区切られ、52区画、53区画とは水路で区切られる。

52区画は水路を挟んで51区画北部の西に接した、狭い三角形の区画である。53区画は調査区中央近くの三角形の区画で、西の54区画の間に道路、水路を挟む。54区画は調査区北西部の広い菱形の区画で、東側は道路、西側は急斜面で谷地に落ち込み、谷底の水路で萱野Ⅱ遺跡と画される。

## 4 調査の経過

江木下大日遺跡の調査は平成12年4月から着手した。発掘調査に当たっての事業名称は富田漆田遺跡の一部と富田下大日遺跡を合わせて「江木Ⅱ」とされており、西に接する萱野Ⅱ遺跡とも並行しつつ発掘調査を行った。

初年度は表土掘削及び遺構確認を行ない、奈良時代・平安時代の堅穴住居及び掘立柱建物や縄文時代遺構がある可能性が高いことを確認した。この遺構確認状況を受けて、翌平成13年度から遺構調査を開始した。

調査は51区画のうち、未買収地となっていた谷地東縁辺の一部を除く部分及び54区画から着手し、並行して53区と52区の調査を行った。

平成14年8月から10月にかけて、新たに調査可能となった51区の残地部分を調査し、本遺跡の調査を終了した。

## 5 整理事業の経過

### (1) 整理事業の埼玉県埋蔵文化財調査事業団への一部委託

整理事業の財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団への一部委託について、群馬県教育委員会と埼玉県教育委員会とは、平成12年11月に他県協力について協体制協議を開始し、平成13年度中には4回にわたって協議を重ね、平成14年3月27日付けで「埋蔵文化財保護の協力に関する協定書」を締結した。同日付けで、群馬県教育委員会教育長から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団あて、「埋蔵文化財保護の協力に関する協定について」の依頼があり、平成14年度事業のうち、整理事業について協力することが協議され、具体的な業務仕様や発注方法等については、両事業団間で調整して決定することとなった。

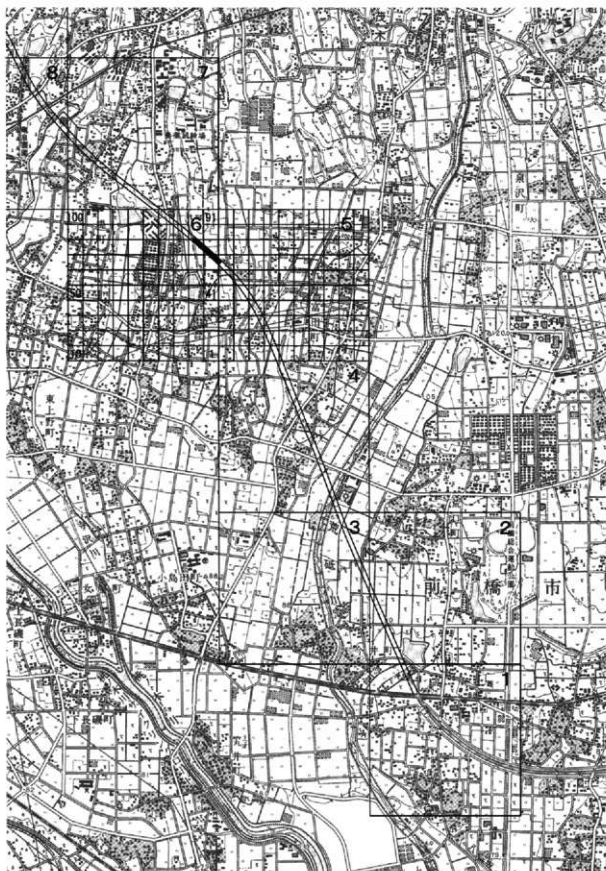
### (2) 整理事業の経過

発掘調査現場においては、採取図面、写真資料に関する仮台帳の作成及び遺物の洗浄、注記を調査区画単位に行った。

平成16年4月1日から平成17年3月31日までを上記による財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団での整理委託期間とした。この委託事業では、遺物の接合、復元、実測、拓本、トレース、写真撮影、遺物図版の仮レイアウト、遺物観察表作成、所見記載、基礎データ集積、縄文土器・石器に関する分類及びデータベース作成が行われた。

平成17年4月1日から平成18年3月31日までを行い、平成18年度に報告書を刊行した。

整理事業では遺構図と遺構写真を整理・編集し、記載及び観察所見を加え、鉄器など特殊遺物の整理、実測図作成を行い、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に委託して作成した遺物図・写真・遺物観察所見原稿と併せ、報告書刊行のための再編集を行った。



第3図 江木下大日遺跡の調査区

0 1:25,000 1km

## 第2章 江木下大日遺跡の立地と環境

### 1 遺跡の位置と立地

江木下大日遺跡は、群馬県前橋市の東南部、江木町にある。前橋市街地からは6kmほど東方に離れている。長く裾を引く赤城山南麓の裾部終端近くにあたり、この遺跡の南方1.5kmほどで山麓地形は沖積地へと変換する。赤城山南麓には北から南へ下る荒砥川、白川、粕川などの河川を幹として、中小の放射谷が枝状に発達している。ローム層を基盤とする台地がこの谷にはさまれて、南北方向に細長く伸びている。

今回の発掘調査部分は、東の荒砥川と西の寺沢川に挟まれた台地内であって、さらに小河川によって形成された谷地に東西を区画される台地を中心とする。この台地は、南北2kmほどの長さで、巾は最も広いところで300mほど、調査地付近では150mほどの細長い形状である。なだらかに北から南に下り、調査地付近での標高は114mから115mほどである。調査地の南800mほどの、東西の谷が合流する地点でこの台地はとぎれることになるが、本遺跡北東部には西側の谷に向かう小さな埋没谷があり、微視的に見ればさらに複雑な地形が隠されているものと思われる。

東側の谷は本調査地点の北200mほどの位置に谷頭を有するものと思われる。東西の台地からは比較的緩い傾斜で下り、本遺跡側の台地頂部との比高は2mほど、幅は70mほどの狭く浅い谷である。この谷の対岸が富田下大日遺跡である。西側の谷は萱野Ⅱ遺跡との境界としたものである。調査地の北1kmほどにある江木新沼を谷頭としている。100m弱の幅があり、本遺跡の台地からは5mほどの比高があって、比較的急傾斜で落ち込む、やや深い谷である。発掘調査時点では、どちらの谷にも河川はなく、水田として耕作されていた。

赤城山南麓の台地は赤城山の火山活動と、その後の堆積、浸食の繰り返しによって形成されている。発掘調査時に確認できた最下層の堆積物は7.5万年前とされる大胡火砕流の堆積物層であり、その上位には榛名八崎テフラ（以下Hr-HP）、浅間板鼻褐色軽石（同As-BP）、浅間大窪沢第1軽石（同As-ok1）、板鼻黄色軽石（同As-YP）等がローム中に混じて見られる。ローム層の上部は漸移的に黄褐色のソフトロームとなる。表土との間には比較的薄い暗褐色から黒褐色土壌があるが、黒ボク土の発達は谷地をのぞいてごく弱い。この中には、浅間Cテフラ（同As-C）や榛名浅川テフラ（同Hr-FA）の軽石が混在している。谷部や一部の堅穴住居のくぼみ部分には浅間Bテフラ（同As-B）が降下時の状況を良く残した状態で堆積している。また、表土中には浅間Aテフラ（同As-A）の軽石が混入することがある。

地形、地質環境とともに、この地域の自然環境として人間生活に大きな影響を与えたとであろうと思われるのが気候条件、なかんずく強い季節風である。具体的な小気候データとして示せるものはないが、冬型の気圧配置がもたらす北西風は、時として発掘作業を中止せざるを得ないほどに強くなる。西向き斜面から台地頂部にかけてのローム層以上の土壌堆積層の薄さも、これに起因するかもしれない。特に西向き斜面での作業には多大な影響があったことを思うとき、各時代の遺構の粗密があるいはこうした気候条件に左右されたものではないかとの感を禁じ得ない。

### 2 周辺の遺跡

埋蔵文化財の宝庫と言われる本県にあって、赤城山南麓は特に密度濃く、多種多様な埋蔵文化財があることで知られている。明治22年の町村制施行時に荒砥村とされたこの地域は、昭和10年に行われた群馬県下



第4図 江木下大日遺跡と周辺の遺跡

## 第2章 江木下大日遺跡の立地と環境

### 江木下大日遺跡周辺の遺跡

- 1: 大明城跡 (平安/中世) 文献3
- 2: 養林寺西遺跡 (奈良・平安/中世/近世) 文献3
- 3: 養林寺南 (平安) 文献3
- 4: 殿町遺跡 (奈良) 文献11
- 5: 茂木上ノ町堀1号墳 (古墳)
- 6: 天神遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献30
- 7: 堀越小北水遺跡 (縄文/平安)
- 8: 堀越五十山遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安/近世)
- 9: 大明町第17号墳 (古墳) 文献1
- 10: 堀越水原寺遺跡 (奈良・平安)
- 11: 堀越城泉寺遺跡 (縄文/奈良・平安)
- 12: 堀越平真木B地点遺跡 (旧石器/縄文)
- 13: 生協団地古墳 (古墳)
- 14: 堀越平真木遺跡 (平安)
- 15: 堀越平真木D地点遺跡 (縄文)
- 16: 茂木二本松遺跡 (縄文) 文献39
- 17: 茂木本野道上遺跡 (縄文/古墳/平安)
- 18: 勝山遺堀 (中世) 文献3
- 19: 柴崎遺跡 (縄文/近世) 文献30
- 20: 大明町第40号墳 (古墳) 文献3
- 21: 桂堂58号墳 ほこし塚古墳 (古墳) 文献1
- 22: 灰塚城 (中世)
- 23: 塚上遺跡 (古墳)
- 24: 西沢宮城 (中世)
- 25: 高尾遺跡 (縄文)
- 26: 塔の塚 (中世) 文献2
- 27: 桂堂57号墳 (古墳) 文献1
- 28: 新田塚古墳 (古墳/縄文) 文献1
- 29: 上泉風袋遺跡 (縄文)
- 30: 西久保遺跡 (縄文/古墳)
- 31: 栗原塚古墳 (古墳) 文献36
- 32: 足軽町遺跡 (縄文/古墳/奈良)
- 33: 農業試験場東遺跡 (縄文)
- 34: 大日遺跡 (古墳)
- 35: 今城遺跡 (奈良) 文献26
- 36: 足軽グランド遺跡 (奈良・平安)
- 37: 茂木大日遺跡 (古墳/奈良・平安)
- 38: 稲荷堂遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献37/40
- 39: 茂木大道下遺跡 (縄文/平安/近代)
- 40: 柳沢遺跡 (平安)
- 41: 天神風呂遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献8
- 42: 西小路遺跡 (縄文/古墳/近世) 文献31
- 43: 大明町第3号墳 (古墳) 文献3
- 44: 大明町第4号墳 (古墳) 文献3
- 45: 大明町第10号墳 (古墳) 文献3
- 46: 上ノ山遺跡 (旧石器/縄文/古墳/中世/近世) 文献27
- 47: 大明町第5号墳 (古墳) 文献27
- 48: 大明町第6号墳 (古墳) 文献27
- 49: 茂木古墓 (平安) 文献3
- 50: 下宮岡遺跡 (古墳)
- 51: 山神遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献28
- 52: 稲荷前遺跡 (縄文/古墳) 文献41
- 53: 寛延355号墳 (古墳) 文献41
- 54: 中富田高石 (古墳)
- 55: 少符塚古墳 (古墳)
- 56: 丸山遺跡 (縄文)
- 57: 北原遺跡 (古墳) 文献15
- 58: 第328号御殿山古墳 (古墳) 文献1
- 59: 寛延348号墳 (古墳) 文献1
- 60: 寛延347号墳 (古墳) 文献1
- 61: 富田東白輪遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安)

- 62: 富田中前遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安)
- 63: おとうか山古墳 (古墳) 文献1
- 64: 東原遺跡 (縄文) 文献5
- 65: 富田細田遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安)
- 66: 富田宮下遺跡 (弥生/古墳/奈良・平安) 文献7
- 67: 西風遺跡 (古墳)
- 68: 大塚古墳 (古墳) 文献1
- 69: 高石遺跡 (古墳/奈良・平安/中世)
- 71: 富田下大日遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献44/45/46/47/53
- 73: 農業試験場遺跡 (縄文)
- 74: 堂野遺跡 (古墳/奈良・平安) 文献24
- 75: 堀沼下遺跡 (縄文/奈良・平安) 文献43
- 76: 桂堂70号墳 (古墳) 文献1
- 77: 桂堂69号墳 (古墳) 文献1
- 78: 堀沼西遺跡 (奈良・平安) 文献49
- 80: 桂堂東小西遺跡 (古墳/奈良)
- 81: 寺沢川遺跡 (古墳)
- 82: 江戸原古墳群 (古墳)
- 84: 中山遺跡 (縄文/古墳)
- 85: 亀堂窪地内A遺跡 (古墳)
- 86: 亀堂窪地内B遺跡 (古墳)
- 87: 本郷遺跡 (縄文)
- 88: 正円寺古墳 (古墳) 文献2
- 89: 江木吹地遺跡 (古墳/奈良・平安)
- 90: 大泉坊遺跡 (古墳)
- 91: 宮田遺跡 (古墳/奈良・平安/弥生) 文献51/52
- 92: 木舟遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安)
- 93: 前田遺跡 (古墳) 文献2
- 94: 今井城 (中世)
- 95: 寛延三木堂遺跡 (旧石器/縄文/古墳/奈良・平安) 文献25/29
- 96: 今井道上遺跡 (縄文) 文献33
- 97: 寛延大日塚 (古墳/奈良・平安) 文献32
- 98: 鶴谷遺跡群 (古墳/奈良・平安) 文献10
- 99: 寛延北原遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安)
- 100: 寛口前坂遺跡 (弥生) 文献14/16
- 101: 寛口小塚遺跡 (古墳) 文献2
- 102: 寛延前田遺跡 (古墳) 文献52
- 103: 第333号古墳 (古墳) 文献1
- 104: 寛延宮田遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献52
- 105: 寛延諏訪西遺跡 (古墳/奈良・平安) 文献48/50
- 106: 第330号小塚古墳 (古墳) 文献1
- 107: 大道古墳 (古墳) 文献1
- 108: 第332号古墳 (古墳) 文献1
- 109: 寛延諏訪遺跡 (古墳/奈良・平安) 文献50
- 110: 寛口大道古墳 (古墳) 文献1
- 111: 柳久保遺跡群 (旧石器/古墳/平安) 文献12/13/17/18/20/21/22
- 112: 大道古墳B (古墳)
- 113: 大道古墳A (古墳)
- 114: 笥井八日市遺跡 (縄文/古墳/奈良・平安) 文献34
- 115: 小島田八日市遺跡 (縄文/中世/近世) 文献35
- 116: 木瀬7号墳 (古墳) 文献1
- 117: 木瀬6号墳 (古墳) 文献1
- 118: 万福寺遺跡 (奈良)
- 119: 女塚 (中世)

### 上武道路開通遺跡

- ①今井道上遺跡
- ②寛延三木堂遺跡
- ③寛延北原B遺跡
- ④寛延前田B遺跡
- ⑤富田細田遺跡
- ⑥富田宮下遺跡



- ①富田西原遺跡  
②富田高石遺跡  
③富田窪田遺跡
- ④江木下大日遺跡  
⑤萱野日遺跡  
⑥堤沼上遺跡

## 参考文献

- 『群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告書第5輯 上毛古墳総覧』 群馬県 1938
- 『前橋市史 第1巻』 前橋市史編さん委員会 1971
- 『大胡町誌』 大胡町誌編纂委員会 1976
- 『群馬県古墳古跡の研究』 上・下 山崎 一 1978
- 『寛延東京遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1979
- 『群馬県古墳古跡の研究 補遺編』 上・下 山崎 一 1979
- 『富田遺跡群・西大室遺跡群・清里南遺跡群』 前橋市教育委員会 1980
- 『勢多郡大胡町茂木天神風呂遺跡』 大胡町教育委員会 1981
- 『群馬県史 資料編3 原始古代3』 群馬県史編さん室 1981
- 『鶴谷遺跡群II』 前橋市教育委員会 1982
- 『殿町遺跡』 大胡町教育委員会 1983
- 『柳久保遺跡群I』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985
- 『柳久保遺跡群II』 前橋市教育委員会、前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985
- 『寛延前原遺跡 赤石城址』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985
- 『寛延北原遺跡 今井神社古墳群 寛延青柳遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986
- 『群馬県史 資料編2 原始古代2』 群馬県史編さん室 1986
- 『柳久保遺跡群III』 山武考古学研究所 1986
- 『柳久保遺跡群IV』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団/前橋市教育委員会 1987
- 『群馬県史 資料編1 原始古代1』 群馬県史編さん室 1988
- 『柳久保遺跡群V』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
- 『柳久保遺跡群VI』 山武考古学研究所 1988
- 『柳久保遺跡群VII』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
- 『群馬県の中世城館跡』 群馬県教育委員会 1989
- 『萱野遺跡・下田中遺跡・矢場遺跡』 群馬県企業局 1991
- 『寛延北三木堂遺跡I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- 『今城遺跡』 前橋市教育委員会 1992
- 『中川原遺跡群 上ノ山遺跡』 大胡町教育委員会 1992
- 『中川原遺跡群 小林・山神・大畑遺跡』 大胡町教育委員会 1992
- 『寛延北三木堂遺跡II』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 『大胡北西部遺跡群 乙西尾引遺跡、西天神遺跡、柴崎遺跡』 大胡町教育委員会 1994
- 『西小路遺跡』 大胡町教育委員会 1994
- 『寛延大日塚遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 『今井道上遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 『穴井八日市遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 『小島田八日市遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994
- 『亀京町東部塚古墳』 前橋市教育委員会 1996
- 『茂木遺跡群 稲荷窪A地遺跡』 大胡町教育委員会 1996
- 『柳久保遺跡群』 前橋市教育委員会 1996
- 『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』 大胡町教育委員会 1998
- 『茂木遺跡群 稲荷窪B地遺跡』 大胡町教育委員会 1998
- 『市内遺跡発掘調査報告書 平成8年度』 前橋市教育委員会 1998
- 『諏訪西遺跡・諏訪遺跡・柳久保遺跡・川籠菅戸遺跡・向原遺跡』 群馬県教育委員会 1998
- 『ロズタウン遺跡群 堤沼下遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
- 『ロズタウン遺跡群 富田下大日I遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
- 『ロズタウン遺跡群 富田下大日II遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000
- 『ロズタウン遺跡群 富田下大日III遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
- 『ロズタウン遺跡群 富田下大日IV遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
- 『寛延諏訪西遺跡I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002
- 『堤沼西I遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
- 『寛延諏訪西遺跡II・寛延諏訪遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- 『寛延宮田遺跡I』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- 『寛延宮田遺跡II・寛延前田遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
- 『富田窪田遺跡 富田下大日遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006
- 『今井道上I遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006

群馬県文化財情報システムWeb版 <http://www2.wagimaschi-guide.com/gunma/index.html> 2006年3月31日取得

古墳一斉調査に際して、古墳数のあまりの多さに、一年の日数と同じ365基を報告するに留めたというエピソードも伝えられる地域である。東方の荒砥川を越えた荒子町、荒口町、今井町、さらに神沢川を越えた東大室町、西大室町では、古くから知られる遺跡が数多く、また圃場整備事業に伴う発掘調査が比較的早い時期から行われて、各時代の豊富な資料が得られている。赤城山南麓の遺跡分布については先行研究も多く、上武道路関連遺跡の先行調査報告である「今井道上Ⅱ遺跡・荒砥北三木堂Ⅱ遺跡」や「富田下大日遺跡・富田漆田遺跡」においても評述されているので、これを参照されたい。

一方、微視的に本遺跡直近の周辺を見ると、「著名な」遺跡は無く、発掘調査例自体も少なかった。第4図は東の荒砥川と西の寺沢川に挟まれた間にある主立った遺跡をプロットしたものであるが、この遺跡周辺がポケット状に遺跡分布が希薄な地域となっていたことがわかる。

昭和54年から56年にかけて、東に隣接する富田町において、圃場整備事業に伴って発掘調査された富田遺跡群が、この地域での大規模な埋蔵文化財調査としては嚆矢となる。この調査では、縄文時代前期、弥生時代から平安時代にかけての集落、後期古墳、中世の古墓群などが見つかっている。

また、昭和60年度、61年度に、西側の谷を隔てた萱野住宅団地建設に際して萱野遺跡が調査された。縄文時代および古墳時代前期から平安時代の集落、横穴式石室を持つ古墳などが見つかっている。注目されたのは古墳時代中期の集落で、台地の東南傾斜地に40棟が密集しており、質、量とも豊富な土器があった。袋状鉄斧や鋸など、県内でも古い時期に位置づけられる鉄製品も出土している。

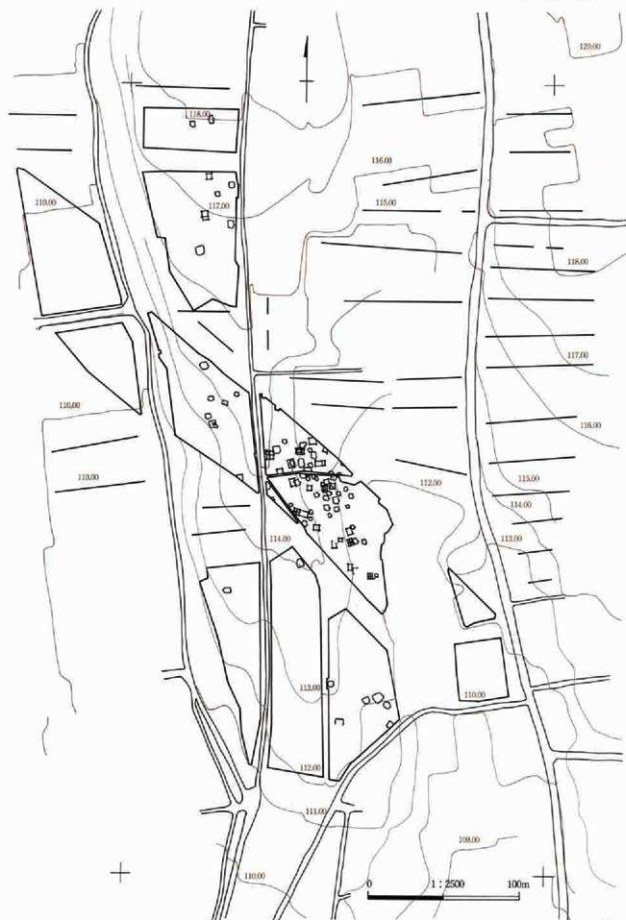
上武道路建設に伴う発掘調査では、この萱野遺跡に隣接する路線部分を「萱野Ⅱ遺跡」として平成13年度から平成15年度まで、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査している。この調査では古墳時代住居は認められず、旧石器時代遺物包含層、縄文時代集落、横穴式石室を有する古墳、奈良時代、平安時代の集落が見つかっている。

東側の比較的浅い谷を挟んだ富田下大日遺跡でも、縄文時代前期・中期、古墳時代後期、平安時代の集落と後期古墳等が見つかっている。さらに東の富田漆田遺跡では縄文時代中期、古墳時代中期・後期、平安時代の集落が見つかっており、中でも平安時代では60棟以上の堅穴住居と須恵器焼成土坑5基などが見つかっており、平安時代におけるこの周辺の核となる集落であったものと思われる。

富田下大日遺跡と本遺跡を囲むように、前橋工業団地造成組合による「ローズタウン住宅団地」の造成が計画されており、これに伴う発掘調査報告が「ローズタウン遺跡群」として刊行されている。ローズタウン遺跡群には「富田下大日Ⅰ～Ⅳ遺跡」及び「堤沼下遺跡」が含まれる。遺跡名に混乱を生じているが、このうち富田下大日Ⅱ遺跡の「西側調査区」と富田下大日Ⅳ遺跡が本書で報告する「江木下大日遺跡」と同一台地上にあるものである。富田下大日Ⅱ遺跡西側調査区と同Ⅳ遺跡の北調査区は南北に隣接して並び、台地中央から西側にあたる。縄文時代前期住居1棟と奈良・平安時代住居5棟、掘立柱建物3棟などが見つかっている。同Ⅳ遺跡の南調査区は台地の先端に近い位置で、東側に縄文時代住居4棟、奈良・平安時代住居3棟、掘立柱建物1棟、西側に平安時代住居1棟がある。西側の堅穴住居には鉄滓が見られる。

ローズタウン遺跡群の発掘調査に際しては、本調査実施前に遺構確認用の試掘用トレンチが比較的密度濃く入れられている。このため、江木下大日遺跡を合わせて、この台地の先端部分についての遺跡情報をかなり確実に把握することができる。第6図では、本遺跡とローズタウン遺跡群の発掘調査で見つかった堅穴住居、掘立柱建物と試掘トレンチ掘削位置を示した。本書の後段でも繰り返し触れることになるが、上武道路路線部分、すなわち江木下大日遺跡部分に遺構が多く、とりわけその東向き傾斜の部分に顕著なまとまりが見られ、遺構分布域はそれからさほど広い範囲には広がらないことがわかる。

2 周辺の遺跡



第5図 江木下大日遺跡と隣接地の発掘調査

## 第2章 江木下大日遺跡の立地と環境

この台地には、縄文時代前期、古墳時代後期、奈良・平安時代の遺構があるのだが、それぞれの時期においてさほど大きな規模を持たない集落であった。平安時代以後は遺構・遺物ともにとぎれてしまう。1108年降下とされるAs-Bが9世紀後葉の51号住居内に厚いレンズ状をなして堆積していることから考えると、この住居の廃絶以後As-Bの降下までの間は、住居窪地が埋められたり整地されたりするような事もなかったようである。

『上野国郡村誌』所載の「上野国勢多郡江木村」の項では、「地勢 北ハ赤城山麓南ハ平坦ニシテ田野遠ク開ケ水路不便ナリ北部ハ谷田少ク樹林多シ水上ハ寺沢末ニシテ年々干損ス畑林等足リ因テ桑薪等不足ナシ」「税地 更正田反別四十町四歩 更正畑反別六十六町四反六畝歩 更正宅地反別七町二反六畝歩 更正林反別八十五町八畝二歩」とあって、畑が田を上回り、林地も四割を占めるといふ、この地域農村の典型を示しているのだが、この遺跡がある「字下大日」については「本村東北ニシテ東西二町五間南北五町四十間田地少々林多シ畑宅地等ノ類ナシ」との記述で、谷間にわずかに水田が開かれていた他は林地であったとされ、積極的な土地利用には乏しい場所であったことが示されている。

東の富田下大日遺跡、西の萱野・萱野Ⅱ遺跡と本遺跡を比較すると、堅穴住居のあり方や时期的な変遷に共通点、相違点をそれぞれ抽出することができそうである。たとえば、古墳時代中期には萱野遺跡に大きな集落が作られるが、後期にはそれが消え、江木下大日、富田下大日両遺跡にわずかな堅穴住居が見られるにとどまるようになる。奈良時代には萱野・萱野Ⅱ遺跡と江木下大日遺跡に小規模な集落が作られ、平安時代まで継続するが、9世紀には富田下大日遺跡から富田漆田遺跡にかけて大規模な集落が現れる。小さな岡城を限ってみても、集落が単純に継続・廃絶するのではなくて、複雑な変遷過程をたどっていることが示されるものと解したい。本遺跡を含む勢多郡域は、古代上野の中心地域でありながら、「倭名抄」の郷名比定もままならない。複雑な集落動態がこの困難さを招来する一因となっているのかもしれない。今後も続く上武道路関連遺跡の発掘調査により、こうした課題を解き明かす鍵が得られようとしているものと期待したい。

### 第3章 縄文時代の遺構と遺物

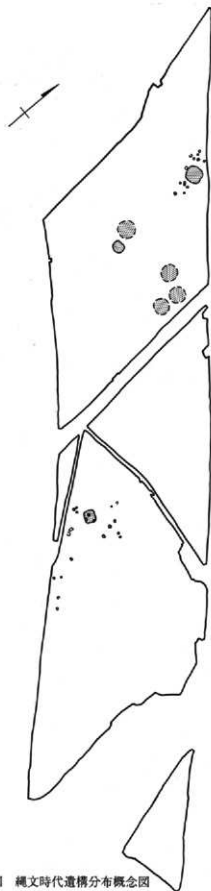
#### 1 概 要

縄文時代の遺物は、前期を中心に、一部早期、中期の土器が調査範囲の全域で見られた。遺構として調査できたものは竪穴住居およびその存在が想定される遺物集中地点5、土坑35基である。遺構として捉えられた竪穴住居は、花積下層式期、黒浜式期、諸磯b式期各1棟であり、そのほかに花積下層式期と後期掘之内式の遺物集中地点がある。住居、遺物集中地点は、南北に延びる台地の頂部から西向き斜面にかけての部分に多く、東向き傾斜部では土坑が比較的多く見ついているものの、住居は1棟のみにとどまる。

出土土器について、整理を担当した財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の金子氏より以下の所見を頂戴している。

花積下層式が比較的まとまっており、近隣の五目牛清水田遺跡との様相の違いが興味深い。また、全て尖底で、縦位鋭角羽状縄文を施文するが、口縁部に隆帯を廻らす第56図20、21、第48図1、第56図34のような比較的新相と思われる土器群が含まれていることが面白い。時間差として考えるか、系統差として考えるか検討する価値があろう。

58号住居出土遺物の把握が難しい。通常ならば、諸磯b1式の新しいものと、b2式の古いものとが混在しているものと考えるのであろうが、第110号土坑の共存関係を考えると、爪形土器を新しく考えるか、浮線土器を古く考えるかのいずれかになろう。この場合、爪形土器がb1式新で、浮線土器がb2式古と考えたい。両者が同時期であることから考えを進めたい。第34図2の浮線土器の口縁部には「米」字状文のモチーフが浮線で描かれている。これは明らかに諸磯a式の「米」字状文の承譜を引くものであり、この浮線土器がそれほど新しくないことを物語っている。また、この土器の波状口縁の波底部には2個対の小突起が付けられ



第6図 縄文時代遺構分布概念図

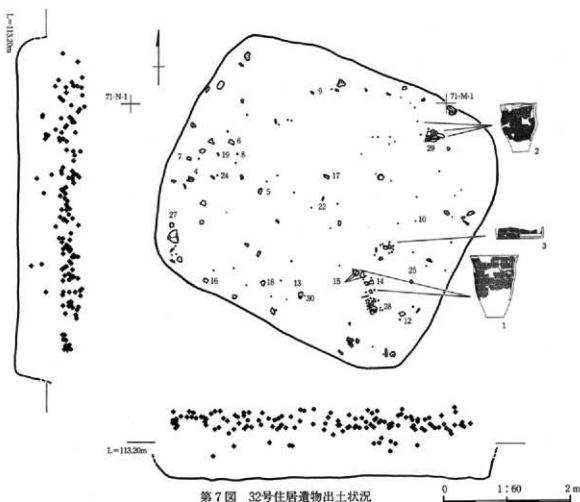
### 第3章 縄文時代の遺構と遺物

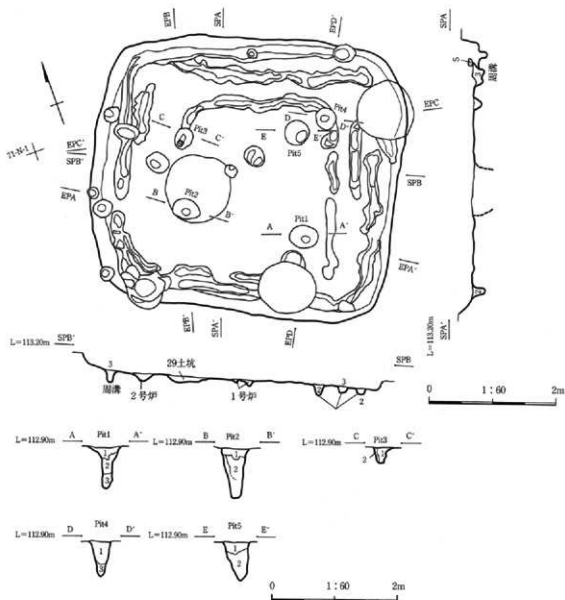
ており、これも黒浜式や諸磯a式を通して系譜する要素で、この土器が諸磯a式からそれほど離れていない時期に位置付けられることが予想されるのである。従来、浮線文の出現を持って諸磯 b2 式としているが、爪形文土器との関係や、最古の浮線文土器が検討されて来なかった経緯があり、地域的な様相も含めて検討する価値がある。かつて、山内清男が諸磯a式と認定した先史土器図譜の土器には、縦位の円形竹管文列と、口縁部と胴部を区画する浮線を持つ土器が紹介されている。諸磯b1式段階に浮線文が存在しないとは軽々に判断できず、むしろ、今日的には b1 式といわれた段階の土器群の組成を検討し直す時期に来ているものと思われる。諸磯a式の最新段階と諸磯 b1 式の爪形文土器や平行沈線文土器の境目が不明瞭なこと、多くの場合浮線文土器が絡んでいることを再度検討しなおしてみる価値があることを、今回の資料を検討して強く感じた次第である。諸磯 b 式土器研究の停滞状況を打破する良い機会になるのではないだろうか。今回の資料には、それなりの価値があるものと考えている。

## 2 竪穴住居

### 32号住居

位置 61-L, M-20・71-L, M-1グリッド 標高113.3mから113.4mの台地頂部に近い東向き緩傾斜部に立地する。南壁の中央やや東よりを19号土坑に、東壁北隅近くを20号土坑に、また住居中央やや西よりを21号土坑に切られる。ともに縄文時代の土坑であり、この時代の遺構が希薄な部分にあって特異な状況を示す。





第8図 32号住居平面図 高低図 柱穴土層断面図

## 32号住居 土層観察所見

- 10YR2/3黒褐色土～10YR5/4にぶい黄褐色土が斑状に混じる。灰白(黄)色軽石粒3%含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。砂質。しまっている。
- 10YR5/4 にぶい黄褐色土 As-ok1, As-BPを思われる軽石を含む。しっかりした砂質。
- 2層に10YR5/8黄褐色ロームと軽石を含む10YR3/1黒褐色土が斑点状に混入する。

## ピット1・2・3・4

- 10YR4/1黒灰色-10YR3/1黒褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土の斑を含む。As-BPを少量含む。径1mm以下の炭化物粒をまばらに含む。密に硬く締まっている。
- 1層にロームブロックを斑状に含む。密に硬く締まっている。
- 10YR6/6 明黄褐色粘質土 やや緻密だが締まり弱くやわらかい。

## ピット5

- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR5/8黄褐色ロームが斑状に混入する。白色軽石を含む。砂質。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 大きいものでは径1cmほどの炭化物を多く含む。As-BP, As-ok1と思われる軽石粒を含む。砂質。

### 第3章 縄文時代の遺構と遺物

形態・規模 東西に長軸をおく、東壁より西壁がやや短いため隅丸の台形状を呈するが、基本的には隅丸長方形を指向したものである。壁周溝が三重に廻り、少なくとも二回の建て替えがあったものと思われる。最も内側の壁周溝は南北がやや長く、その後の建て替え時に長軸方向が変わっている。最終使用時の住居規模は東西4.57m、南北4.06m。中位の壁周溝間距離は東西3.6m、南北3.3m、最も内側の壁周溝残存長は東西2.4m、南北2.7mである。

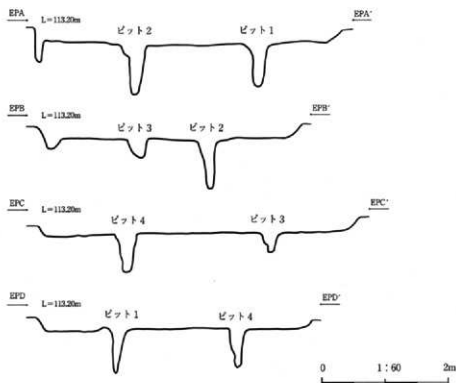
床・壁 残存壁高は28cmから30cmある。基本的に地山ロームを床面とする。東壁側ではやや不明瞭になるが、壁下に幅10cmから27cm、深さ10cmから30cmの周溝がめぐる。また、床面下からさらに二重の周溝痕跡が見つかった。柱穴と思われるピットは5基あり、ピット1は長軸46cm×短軸36cm×深さ67cm、ピット2は45cm×32cm×78cm、ピット3は35cm×27cm×28cm、ピット4は35cm×32cm×59cm、ピット5は40cm×38cm×59cmである。

炉 住居中央よりやや北寄り、西壁よりの2か所で見つかった。どちらも地床炉と思われる。北よりの炉はピット3とピット5の間から35cmほど内側に入ったところにあり、長軸35cm、短軸30cmほどの楕円形の平面形を呈する。8cmほどの深さの掘り込みがあり、床面より軟質で炭化物粒を混じた土で覆われていた。西壁よりの炉はピット2とピット3の間から50cmほど西壁に寄った位置にある。長軸40cm、短軸32cmほどの楕円形の平面形で、深さ10cmほどの掘り込みがあり、焼土粒、炭化物粒を含む軟質の土で覆われていた。

遺物出土状況 住居内覆土全体に土器片が散在する。

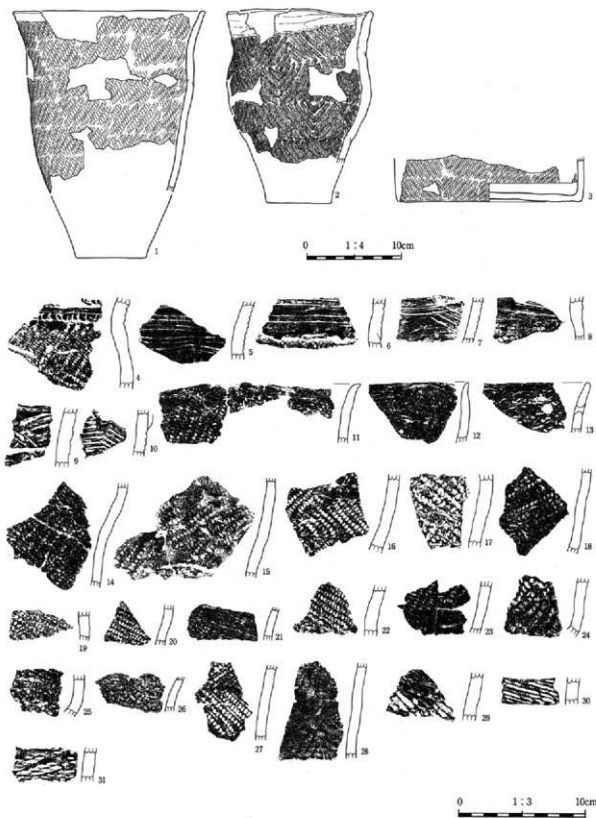
#### 32号住居出土遺物

土器 器形を復元できたものは3点である。いずれも黒浜式土器で、縄文のみ施文する土器群である。1は推定口径20.5cm、現存高19.2cmを測る口縁部の開く深鉢形土器で、単筋LRの斜縄文を施文する。2は推定

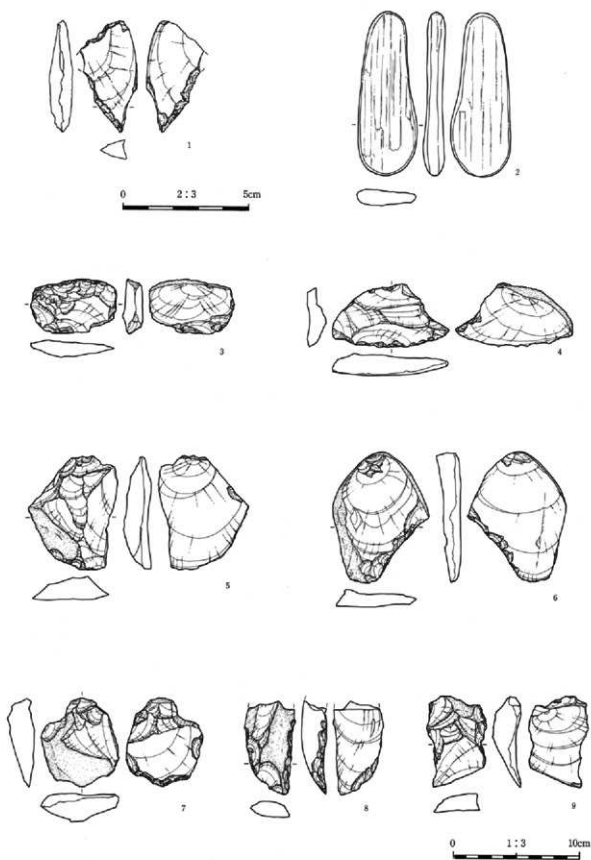


第9図 32号住居高低図

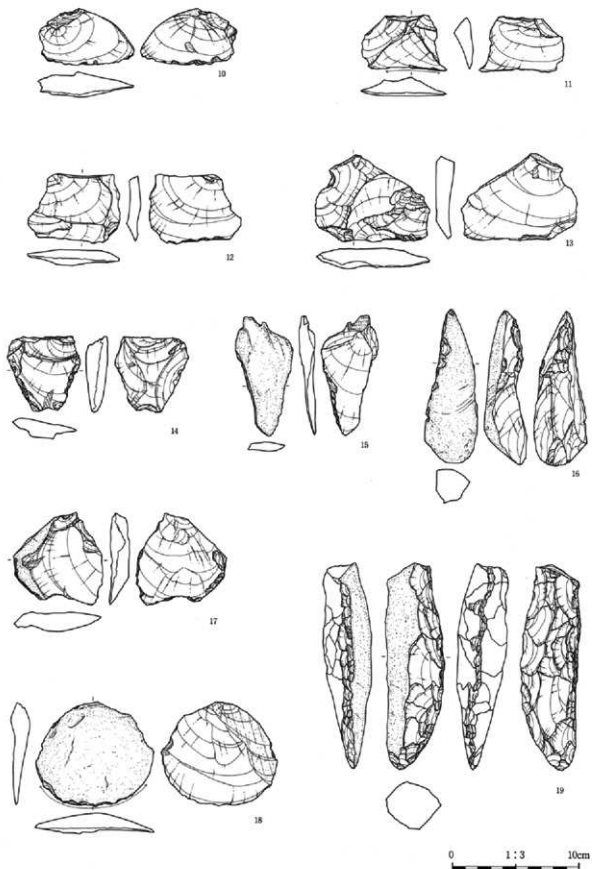




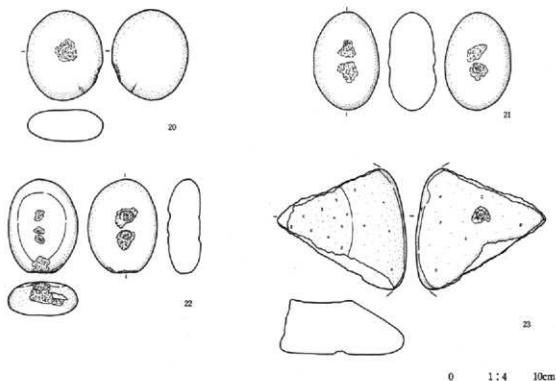
第10図 32号住居出土遺物 1



第11図 32号住居出土遺物2



第12图 32号住居出土遺物 3



第13図 32号住居出土遺物4

口径15.8cm、現存高16.2cmを測る胴部がやや膨らむ深鉢形土器で、無節 R と L の羽状縄文を施文する。3は推定底径20cm、現存高5cmを測る底径の大きな深鉢と思われるが器形は不明であり、比較的薄い器壁で、単節 RL と LR の羽状縄文を施文する。4～10はいわゆる有文土器で、4は爪形文で、6～10は平行沈線文で、菱形のモチーフを描くものと思われる。4は胴部に単節 RL と LR の羽状縄文を施文する。10は口縁部付近の破片と思われ、縦位の棒状貼付文を垂下させる。11～31は地文のみのいわゆる無文土器である。11～13は口縁部破片で、14～31は胴部破片である。11、13は口縁部が開き、12はやや内湾気味に立つ器形を呈する。地文は一覧表の通りである。

**石器** 出土している石器の点数は比較的多いが、定型的な石器は少ない。特に石蔵などの小型石器類はほとんどなく、1の剥片の末端に鎌状の機能部を作出したもの以外は固化するべき資料はほとんど見当たらない。組成する石器の半数近くに二次加工が認められるが、それは主に、黒色頁岩や黒色安山岩の剥片を素材とし、その縁辺に粗い二次加工を施したもので、搔器、削器などと同様の機能を想定させる（3～18）。そのうち3に関しては、剥片の上下から剥離が施されており、楔形石器としての機能も評価した。これらの石器の素材となる剥片の形状には規格性が乏しく、一部に礫面を残すものが多い。二次加工も粗く、鋸歯状を残したり、不連続なものが多い。

10～13・18に見られる、微細な剥離は、機能部を作出する意図的な二次加工を加えたというよりも、剥片の鋭利な1辺をそのまま使用したため刃こぼれと考えられる。いわゆる「臨機」な石器が主体をなすといえるだろう。石斧類が破片資料を含め、ほとんど認められないのも特筆すべき点だろう。磨石類は、円礫の中央に敲打による窪みが観察できるものが多く比較的中型から小型のものが多い。石皿は破片が1点出土している。特記する石器としては19の角鎌状の石器が上げられよう。大型の剥片を素材として、礫面を残している。面的な加工で成形し、左右の側縁は細かな剥離がさらに加えられている。やや風化が激しいが、側縁

にはつぶれが見える部分もある。末端部は側縁の加工により細くなり、端部からの加工も加わり、ビック状となる。

### 57号住居

位置 72-G, H-16グリッド 標高112.9mから113.0mの東向き緩傾斜部に立地する。周辺には縄文土器が比較的多く散布している。特に北側では濃密で、H17グループとした遺物集中地点が接し、土器の量や破片の大ききとしては本住居部分の方が希薄なほどである。

形態・規模 確認面では炭化物粒を含むやや暗い色調のローム再堆積土中に土器片が含まれるはやけたシミ状の広がりとして捉えられた。土層断面では壁周辺にはブロック化した地山ハードロームが流れ込んでいる様子が捉えられたため、これを住居の範囲として認定した。長軸4.45m、短軸4.06mの東西にやや長い、ゆがんだ隅丸長方形の平面形を呈する。

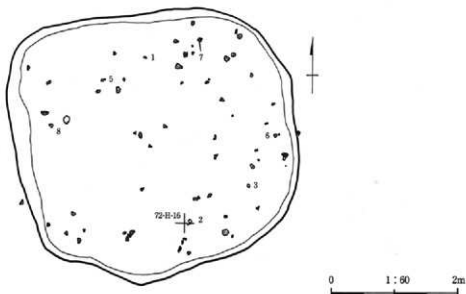
床・壁 掘削前面は確認面から25cmほどの深さのハードローム中に達している。北半が一段低く、南半が弱いテラス状に高まるが、全体に凹凸が多く、明確な床面は捉えられない。壁も明確に立ち上がる状態では捉えられていない。掘方の下底面近くのみが残存したものと判断した。南東隅近くに径40cmほど、深さ13cmのゆがんだ円形を呈するピットがある。表層の覆土は住居と共通する。

炉 確認できない。住居中央よりやや西に寄った位置に、径20cmほどの円形の範囲に灰白色粘質土が貼られたような状態で残されており、これが炉に関係するものであるかもしれない。

遺物出土状況 特定の集中傾向を持たず、覆土全体に土器片が散在する。

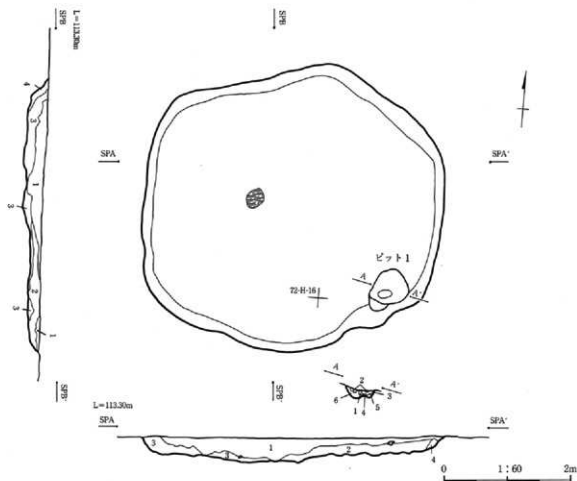
### 57号住居出土遺物

全て花積下層式に比定される土器群である。1は口縁部にRとLの側面圧痕文を施文するもので、2は折り返し状の段帯口縁部を形成するが、縄文を施文する。9の底部は尖底を呈し、胴部破片は0段多条RLの鋭角羽状縄文を施文し、6のみ横位羽状縄文を施している。同時期か、時期が異なるのか、花積下層式の中でも新しい土器なのか判断が難しい。あまり石器数は多くない。グリッド出土石器と類似した傾向をもつ。



第14図 57号住居遺物出土状況

第3章 縄文時代の遺構と遺物

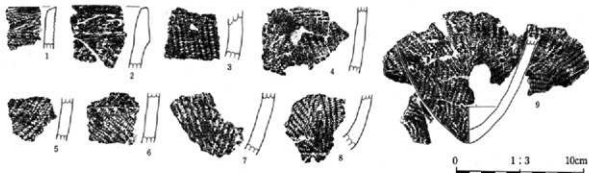


57号住居 土層観察所見

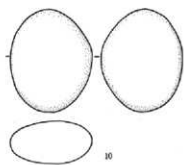
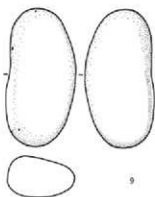
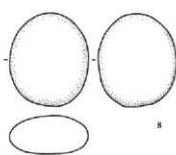
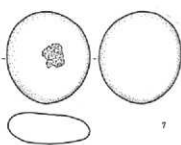
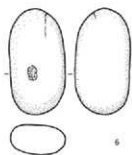
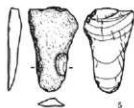
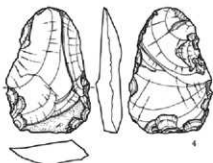
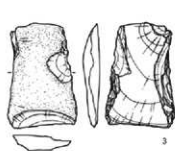
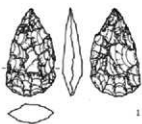
- 1 10YR4/6 褐色壤土 灰白色軽石粒、焼土粒を含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性なし。
- 2 10YR4/6 褐色壤土 灰白色軽石粒含む。1層より硬く締まる。粘性なし。
- 3 10YR5/6 黄褐色壤土 灰白色軽石粒含む。硬く締まる。粘性なし。
- 4 10YR4/6 褐色壤土 10YR5/6明黄褐色ロームブロックを含む。硬く締まる。粘性なし。

57号住居ピット1 土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色壤土 灰白色軽石粒を含む。やわらかい。粘性なし。
- 2 10YR4/6 褐色壤土 灰白色軽石粒、炭化物粒をわずかに含む。硬く締まる。粘性なし。
- 3 10YR5/6 黄褐色壤土 灰白色軽石粒含む。硬く締まる。粘性なし。
- 4 10YR4/6 褐色壤土 灰白色軽石粒を含む。やわらかい。粘性なし。
- 5 10YR5/6 黄褐色壤土 灰白色軽石粒をごくわずかに含む。やわらかい。粘性なし。
- 6 10YR4/6 褐色壤土 径3mm程度の黄褐色軽石粒を含む。炭化物粒を含む。硬く締まっている。粘性なし。



第15図 57号住居平面図 土層断面図 ピット土層断面図 出土遺物1



第16图 57号住居出土遺物 2

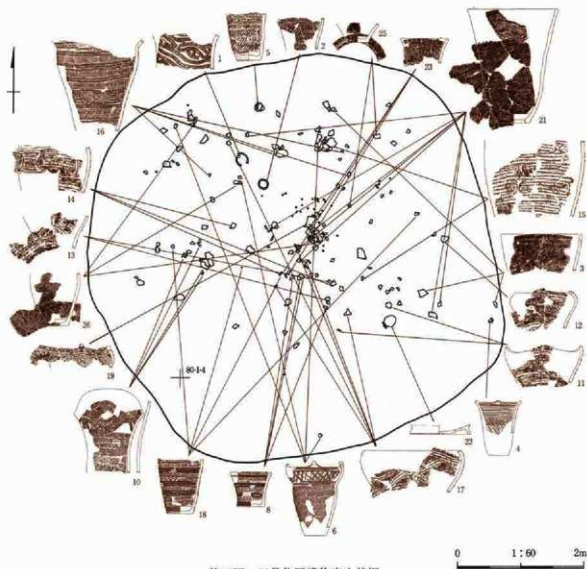
58号住居

**位置** 82-HJ-34グリッド 標高114.3mから114.5mの西向き傾斜部に立地する。この住居の西で斜度がかなり強くなり、いわば台地の肩に位置する。この住居周辺では表土直下面から縄文土器が多く出土している。57号住居や土器集中部とはかなり離れているが、109号から120号の12基の土坑、223ピットなどがまとまってこの周囲にある。110号、112号土坑は時期が近い。112号土坑はごく近接し、この住居中央部を切る土坑もあるが、110号土坑を含め、土坑のいくつかはこの住居に伴う屋外施設と見て良いだろう。

**形態・規模** この地域特有のソフトロームを掘り込んで作られ、ソフトロームで埋没するため、試掘溝を併用して形状、規模の確認を行った。東西方向に長軸を置く。東西6m、南北5.45mほどの隅丸方形の平面形で、柱穴の南北方向は北から20°ほど西に振れる。

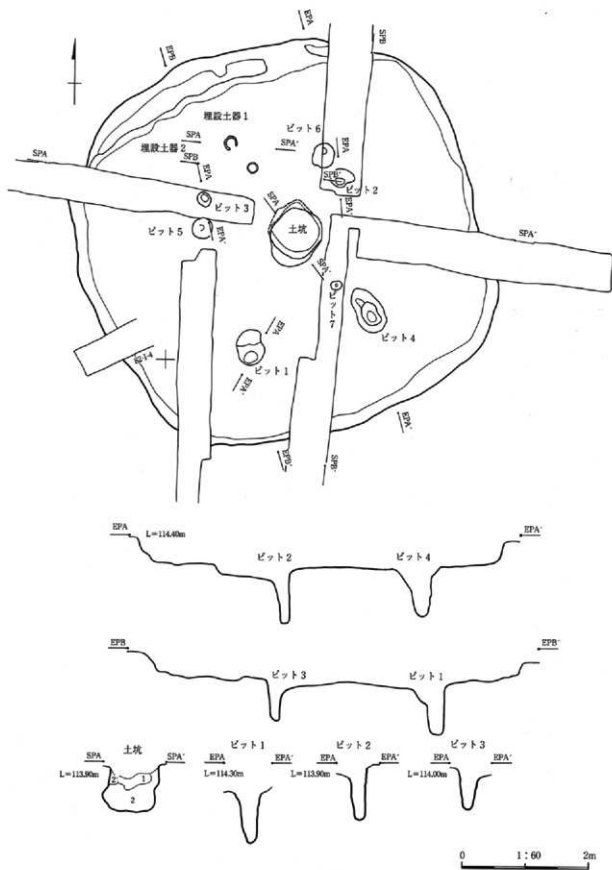
**床・壁** 残存壁高は30cmから35cmある。基本的に掘削底面にあたるロームを床面としている。柱穴が床面で4基あり、東西方向の柱間は2mほど、南北方向では2.4mから2.5mほど、ある。さらに床下精査時に南西柱穴をのぞく3基の柱穴に近接して古い柱穴の痕跡と思われるピットが見つかった。

**屋内施設** 明確に炉と判断しうる施設はない。住居北部の柱穴に囲まれた範囲の外に2か所、土器が埋設さ



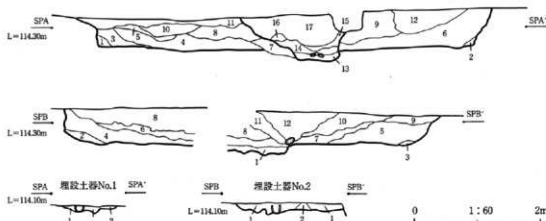
第17図 58号住居遺物出土状況





第18図 58号住居平面図 高低図 土坑土層断面図

### 第3章 縄文時代の遺構と遺物



第19図 58号住居土層断面図 埋設土器土層断面図

#### 58号住居 Aライン土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 浅黄褐色軽石粒、灰白色軽石粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
- 2 10YR5/6 黄褐色土 灰白色軽石粒、焼土粒を含む。かたい。粘性なし。
- 3 10YR4/6 褐色土 灰白色軽石粒、焼土粒、炭化物粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
- 4 10YR4/6 褐色土 焼土、炭化物が3層より多い。かたい。粘性なし。
- 5 10YR4/6 褐色土 焼土、灰白色軽石粒を含む。4層より褐色。4層よりかたい。粘性なし。
- 6 10YR4/6 褐色土 焼土、炭化物が3層より多い。かたい。粘性なし。
- 7 10YR4/6 褐色土 灰白色軽石粒、焼土を含む。微細粒。やわらかめ。粘性なし。
- 8 10YR4/4 褐色土 焼土を含む。炭化物をおおくふくむ。非常にかたい。粘性なし。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
- 10 10YR4/6 褐色土 焼土を含む。炭化物をおおくふくむ。非常にかたい。粘性なし。
- 11 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
- 12 10YR4/6 褐色土 焼土を含む。微細粒。やわらかい。粘性なし。
- 13 10YR4/6 褐色土 炭化物、焼土を微量含む。微細粒子。やわらかめ。粘性なし。
- 14 10YR4/6 褐色土 焼土、炭化物を多く含む。13層より暗色。13層よりかため。粘性なし。
- 15 10YR4/6 褐色土 焼土粒を微量含む。14層より赤みがかる。14層と同じかたさ。粘性なし。
- 16 10YR4/6 褐色土 焼土粒多い。微細粒子。14層より暗色。やわらかめ。粘性なし。
- 17 10YR4/6 褐色土 焼土粒、炭化物を含む。やや明色のブロックを含む。硬く締まる。粘性なし。

#### 58号住居 Bライン土層観察所見

- 1 10YR5/8 黄褐色土 炭化物、灰白色軽石粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
- 2 10YR4/6 褐色土 灰白色軽石粒を含む。かたい。粘性なし。
- 3 10YR6/6 明黄褐色土 非常に細かい粒子からなる。浅黄褐色軽石粒を含む。硬く締まる。粘性なし。
- 4 10YR5/8 黄褐色土 炭化物、灰白色軽石粒を含む。やわらかめ。粘性なし。
- 5 10YR5/6 黄褐色土 浅黄褐色軽石粒を含む。硬く締まるが、3層土より粗い粒子。
- 6 10YR4/6 褐色土 灰白色軽石粒を含む。やわらかい。粘性なし。
- 7 10YR4/6 褐色土 炭化物を含む。浅黄褐色軽石粒を含む。5層土より暗色。硬く締まる。粘性なし。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒を含む。6層より硬く締まる。粘性なし。
- 9 10YR5/6 黄褐色土 5層より暗色。5層よりやわらかい。粘性なし。
- 10 10YR4/6 褐色土 径2mm以下の浅黄褐色軽石粒を含む。7層よりやわらかい。粘性なし。
- 11 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、炭化物を含む。浅黄褐色軽石粒を含む。8層と同程度の堅さ。粘性なし。
- 12 10YR4/6 褐色土 焼土粒、炭化物を含む。やや明色のブロックを含む。硬く締まる。粘性なし。

#### 58号住居埋設土器1・2 土層観察所見

- 1 7.5YR4/6 褐色土 ロームに黒褐色土が混じる。白色からクリーム色の軽石粒 (As-ok あるいは As-TP か) をわずかに含む。焼土がわずかにある。やや軟質。
- 2 7.5YR5/8 明褐色土 地山と同様のロームを主体とし、わずかに黒褐色土が混じる。1層と同様の軽石粒をわずかに含む。1層より固いが、地山よりやや軟らかい。

※ 土器下面付近の地山は特に固く締まっている。

#### 58号住居 土坑セクション

- 1 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒多く、斑状に濃く含む部分が特に微塵に多い。白色軽石粒 (As-ok か) を含む。炭化物はほとんどない。
- 2 7.5YR4/6 褐色土 1層とはほぼ同じ。炭化物片を少量含む。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム粒を少量含む。径1cm以内の炭化物片を含む。白色軽石粒を少量含む。やや軟質。

れている。埋設土器1は最大径21.5cmほどの深鉢の胴部を埋め込んだもので、埋設土器2は径15cmほどの深鉢の胴部である。

**遺物出土状況** 上記埋設土器のほか、多量の土器片が出土している。特に住居中央部の覆土中に多いが、これはこの住居を切って掘り込まれた土坑の影響があるのかもしれない。北白川下層式と思われる土器8は住居中央部でやや高い位置から出土している。

## 58号住居出土遺物

### 土器

出土土器群は殆どが前期後葉の諸磯b式土器群であり、沈線文系、爪形文系、浮線文系土器群が出土している。土器群の様相から若干の時間差のある土器群が出土しているが、大半はb2式古段階の土器群と思われる。系列的な要素に分けて説明を加える。

### 埋塞

まずは、住居跡に直接付随する埋塞であるが、1は埋設土器1であり、最大径約21.5cmを測る深鉢土器の胴部を埋塞したもので、諸磯b式の爪形文系土器である。右下に直れるような波状モチーフとやや崩れたレンズ状文を爪形文で描くものである。諸磯b1新～b2式古にかけての所産と思われる。

2は埋設土器2であり、推定最大径14.8cm、現存高10cmを測る深鉢の胴部で、結束の羽状縄文を施すものである。

### 覆土出土土器

#### 沈線文系土器 (3-7、27-34)

3は推定口径26cm、現存高15.5cmを測る深鉢で口縁部と胴部を平行沈線で区画し、胴上半部に平行沈線による上下対弧状の重弧文を施すもので、区画間にはランダムに円形竹管文を1個か2個施す。地文は単節RLを施す。

4は推定口径14.8cm、現存高10.2cmを測る口縁部の開く深鉢で、口縁に4単位の小突起が付くものと思われる。口縁部には横位の並行沈線文を多段に施す、胴部に斜位から縦位方向の粗い沈線文を施す。

5は底径7.5cm、現存高15cmを測る深鉢で、胴下半を現存する。間隔の開いた平行沈線文で胴部を区画し、地文は無節Lを施す。

6は推定口径16cm、現存高20.5cmを測る深鉢で、口縁部が内湾し、頸部で括れる器形を呈し、口縁部に4単位の小突起が付くものと思われる。口縁部は上下を平行沈線で区画し、斜格子目文を描くもので、若干張る胴部の地文には単節RLを施す。

7は推定口径22cm、現存高16.5cmを測る深鉢で、口縁部が大きく外反する器形を呈する。外反する口縁部には平行沈線で斜格子目文を、胴部には弧線や直線文を組み合わせた変形木葉文系の崩れたモチーフを描き、胴部地文に単節RLを施す。口唇上には押圧状の刻みを施す。

27-34は沈線文系土器群の破片で、27は3と同様な対弧状のモチーフであるが、上段部分がレンズ状モチーフとなっている。口縁部に小突起を持つ。28は単節RL縄文上に平行沈線で連続するモチーフを描くが、構成は不明瞭である。やはり口縁部に小突起を持つ。29-34は口縁部に平行沈線で斜格子目文を描くもので、30、32のように地文に縄文を施すものや、31、33のように構成がやや崩れているものがある。33、34は接合しないが7と同一固体である。

爪形文系土器 (8~10, 35~50)

8は推定口径13.2cm、底径9cm、器高11cmを測る小型の鉢形土器で、口縁部が段帯状に肥厚し、幅広の爪形文で口縁部、胴部、底部を区画する、胴部は爪形文で長方形の区画文を施し、単節RLを施文する。赤彩された土器である。

9は推定口径23.2cm、現存高16cmを測る波状口縁の深鉢で、幅広の爪形文によるレンズ状文やレンズ状文が連結した渦巻文を施文する。モチーフの間にはランダムに円形竹管文を施文する。

10は推定口径23cm、現存高22.5cmを測る2単位大波状口縁を呈する深鉢と思われ、爪形文間に刻みを挟む幅広爪形文で波状文を描き、部分的に垂下する区画文を施す。胴部の区画には同種の爪形文を4段に施文し、地文に無節Lを施文する。

35は外反する口縁部に低隆帯が2条めぐり、細かな刻みを施す。口縁部は幅広の爪形文で区画される。37は幅広爪形文で波状文と渦巻文を組み合わせたモチーフを描き、区画内に円形竹管文を施文する。45~47も刻みを施さない幅広爪形文で波状文やレンズ状文を描く。36・38は刻みを挟む幅広爪形文で波状文と渦巻文を施文するもので、対の円形竹管文をランダムに施文する。39~44は刻みを挟む幅広爪形文でモチーフを描くものであるが、円形竹管文を施文しないものである。39~41は同一固体で、角頭状口唇部には押圧状の刻みを施す。48~50は2単位大波状口縁深鉢の口縁部破片であり、48、50には波頂部と波底部の間の口縁部に台形状の突起が付く。

浮線文系土器 (11~20)

11は推定口径24.5cm、現存高12cmを測る緩い波状口縁深鉢で、縄文を転がす浮線文を口縁部から胴部にかけて多段に施文し、口唇部には小貼付文を等間隔に施文する。地文は不明瞭であるが、単節RLとLRを施文する。

12は推定口径19.2cm、現存高12cmを測る平口縁土器で、左右非対称の突起が付く。大きく内湾する口縁部と胴部をやや太い浮線で区画し、刻みを施す。地文には、末端の結節回転文を持つ単節LRを施文する。

13は最大径21cm、現存高10.5cmを測る頸部から胴部にかけての破片で、刻みを施す太い浮線でモチーフを描くものである。

14~16は胴部に浮線の楕円区画文を施すもので、14は最大径24cm、現存高14.5cmを測り、地文と浮線上に単節RLを施文する。15は最大径32.5cm、現存高24.5cmを測る大形土器で胴部に楕円区画文を多段に施文する。浮線には単節LRを施文する。16は最大径30cm、現存高30.5cmを測る深鉢で、頸部で大きく括れる器形を呈す。胴部は1~3本単位の浮線で多段に区画し、部分的に短い浮線を挟む。胴下半部には楕円区画文を施文し、複数施文の浮線には異方向の刻みを施し、単独施文される浮線には大きな鋸歯状の刻みを施す。区画間には大きな円形竹管文を等間隔に施文し、地文に単節RLを施文する。

17は推定口径31cm、現存高13.5cmを測る深鉢の口縁部破片で、口唇部上には短い浮線を等間隔に施文する。口縁部は2~3本の浮線で大きな波状文を描き、部分的に垂下するモチーフを組み合わせている。浮線には縄文を転がし、地文には単節RLを施文する。

18は最大径14.8cm、底径8.5cm、現存高17.5cmを測る深鉢の胴部で、1本と3本単位の浮線を組み合わせる胴部を区画し、1本浮線には鋸歯状の刻みを、3本浮線にはそれぞれ異方向の刻みを施している。地文は単節RLとLRの羽状を構成する。

19は推定口径24cm、現存高6.8cmを測るキャリバー形深鉢で、内湾する口縁部に浮線の渦巻文を連結するモチーフを施文する。口縁部には柱状の突起が付き、口唇上には横位連結の菱形浮線文を施文する。

20は推定口径21cm、最大径31cm、現存高11.2cmを測るキャリバー形深鉢で、口縁部の内湾が強い。口縁部には3~4本の浮線で波状文を描き、その間にトメ文を持つ渦巻文を施文しており、浮線の刻みは同方向に施される部分が多い。

52~55、57、58は浮線上に縄文を施文するもので、52は波状口縁に沿って小突起を持つ。53は17と同一個体で、54は口縁部の浮線渦巻文部分に円形竹管文を施文する。57、58は楕円区画文を施文するものである。

56は口縁部の橋状把手で、把手の周辺に円形竹管文を施す。59~61はモチーフ間に円形竹管文を等間隔に施文するもので、やや太目の浮線で施文し、浮線上には異方向の刻みを施す。62、63はやや太めの浮線でモチーフを描くものである。

64~74は渦巻文を連結するモチーフを描くもので、64~66は柱状の突起が付く。68、69は口唇上に刻み状もしくは鋸歯状の浮線を貼付する。75~84は横位の浮線で胴部を区画するもので、85、86は底部に幅狭の文様帯を持つ。

87、88は浅鉢であり、87は内折する口縁部に刻みを施さない浮線でモチーフを描く。

89~92は浮線文の付く獣面把手で、89はややリアルな表現が採られており、若干古く位置付けられようか。92は形骸化した獣面把手で、顔の表現はなくなっている。

#### 浮島式系土器

21は推定口径29.5cm、底径10.5cm、現存高36.5cmを測る深鉢土器で、口縁部に集合平行沈線の鋸歯状文を描いている。胴部には末端の結節痕を持つ単節LRを施文する。胎土は若干砂質を帯びる。95は貝殻腹縁と思われるロッキング文を施すもので、96は21の胴部破片である。

#### 他の土器群

93、94は同一個体であり、大きく外反する口唇部の内外面に深い縦位の刻みを施しており、大木4式的な要素が窺える。口縁部の無文帯下には、単節RLを施文する。

22は浅鉢の底部破片で、底径19.5を測る。底部外面には単節RLを施文する。

23~26、72~87は縄文のみ施文される土器群である。23は推定口径15.5cm、現存高8cmを測る深鉢で、縦く開く口縁部に小突起が付く。地文は単節LRで、末端の結節回転文が残る。24は最大径10.5cm、現存高5cmを測る胴部で、単節LRを施文する。25、26は底部破片で、25は底径7.4cm、現存高6cmを測り、地文は単節RLである。26は底径8.8cm、現存高16.5cmを測り、地文に単節RLを施文する。

97~101は結束羽状縄文を施文するもので、102~111は単節の斜縄文を、112は無節のランダムな縄文を施文している。

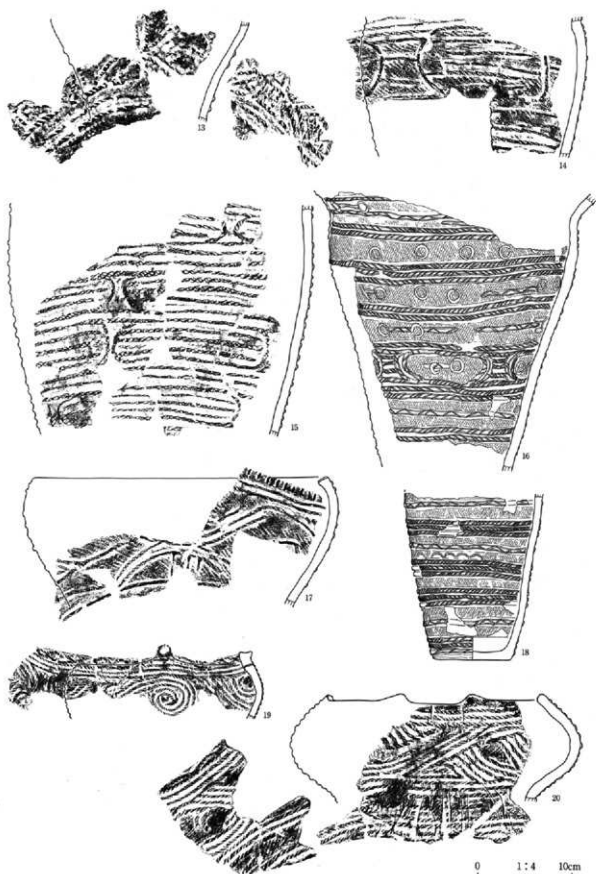
#### 石器

小型剥片石器では、石錐が他と比べ比較的多く出土しているほか、小型の黒曜石製の石核も組成している。やや大型の剥片石器は、32号住居と同じく、剥片の一部に簡単な二次加工を施すだけのものが目立つ。32は上下端に顕著な敲打痕が観察できるが、打製石斧や礫器を再利用したようにも見える。33や31も類似している。34は磨製石斧だが、先端部、基部とも欠損し表面には浅いくぼみ状の敲打痕跡が見られることから、敲き石として転用した可能性もある。

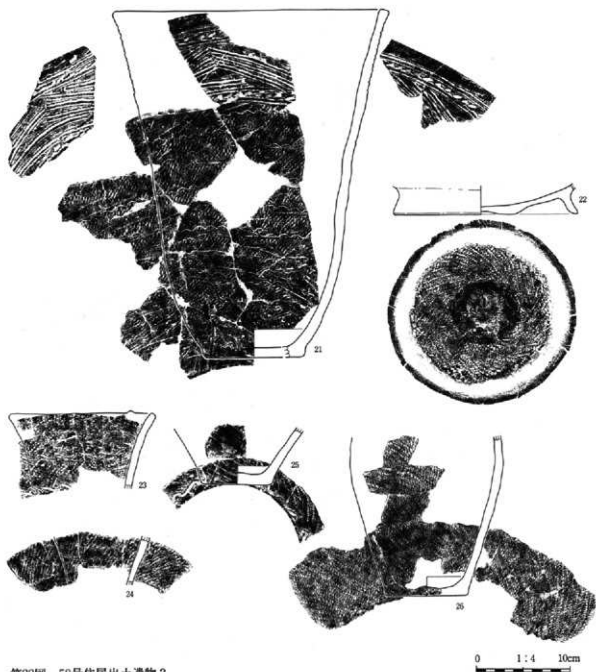
第3章 縄文時代の遺構と遺物



第20図 58号住居出土遺物1

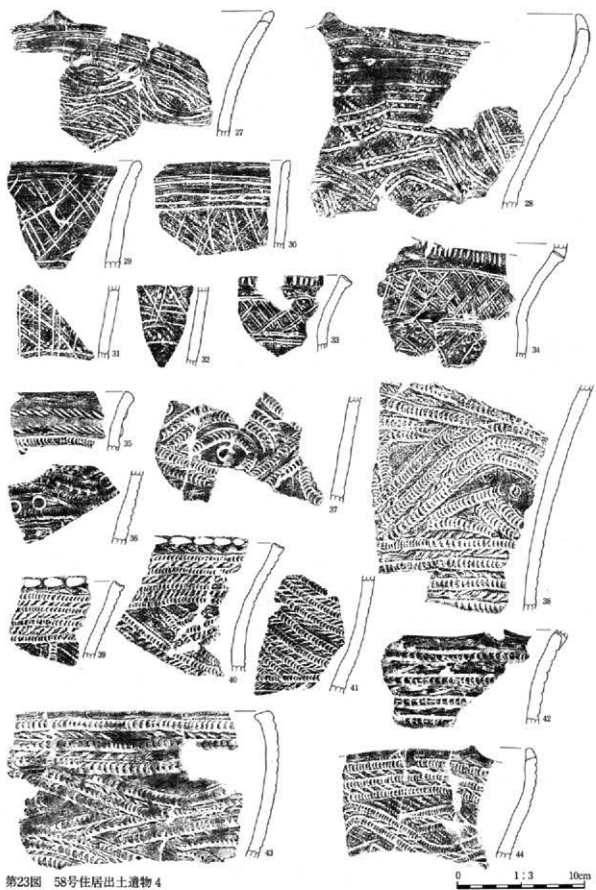


第21圖 58号住居出土遺物 2

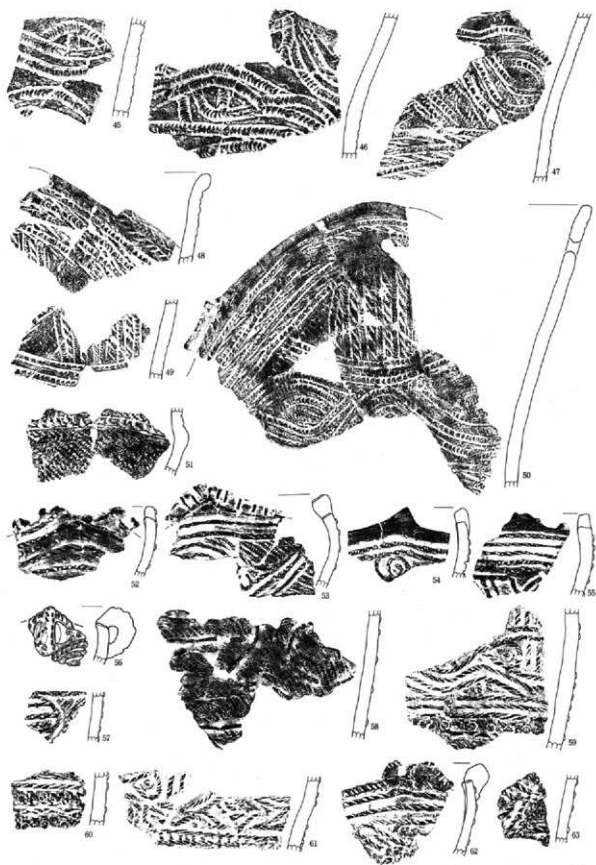


第22図 58号住居出土遺物3

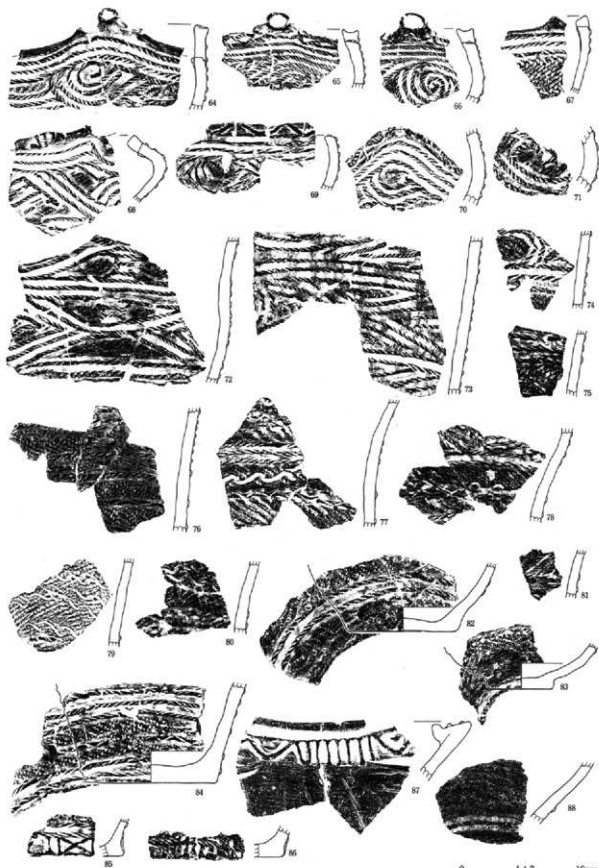




第23图 58号住居出土遺物4



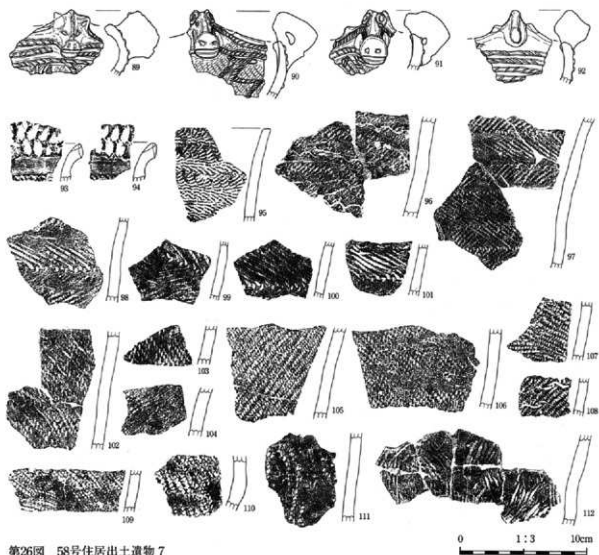
第24図 58号住居出土遺物 5



第25图 58号住居出土遺物 6

0 1:3 10cm

第3章 縄文時代の遺構と遺物

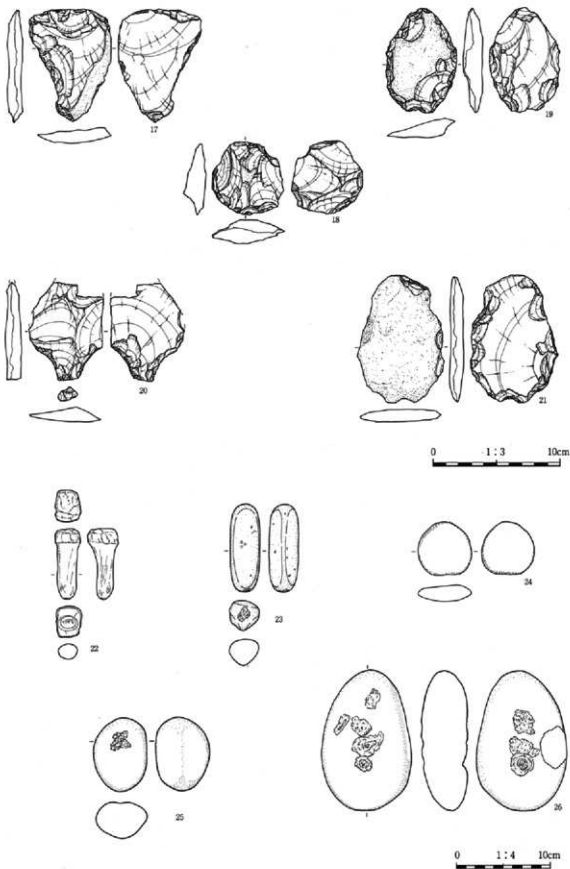


第26図 58号住居出土遺物 7

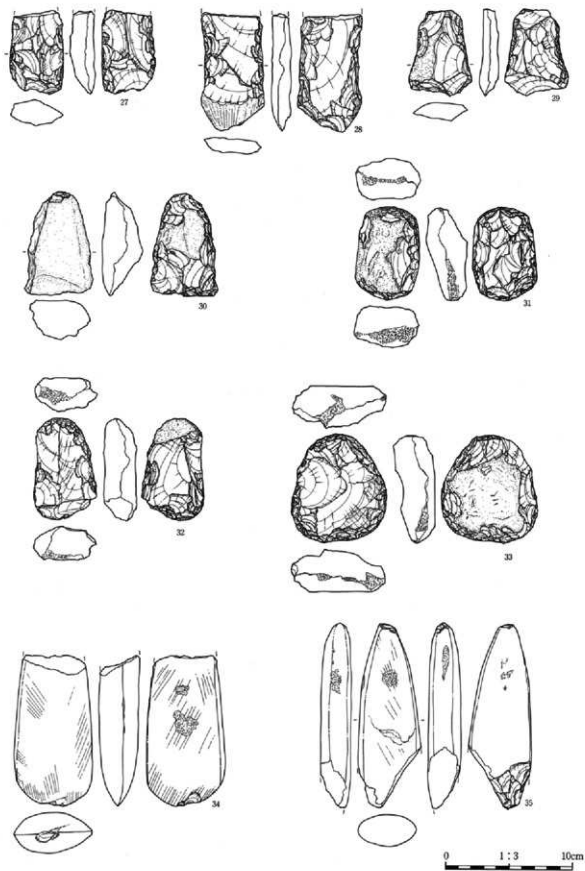


第27图 58号住居出土遺物 8

第3章 縄文時代の遺構と遺物



第28図 58号住居出土遺物 9



第29図 58号住居出土遺物10

### 3 土坑・ピット

11号土坑 61-J-15グリッド 標高112.7mの東向き傾斜部に立地する。東部を欠くが、口径108cm、最大径126cm、深さ72cm。平面形は円形を呈し、断面形は袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土の主体は黒褐色砂質土で、炭化物粒をやや多く含む。出土土器は非結束縦位の単節羽状縄文を施文するもので、黒浜式と判定したが、縦位構成羽状縄文であることから花積下層式の可能性も残る。また、黒色頁岩、砂岩の剥片が出土している。

12号土坑 61-L-17グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部に立地する。口径60cm、最大径113cm、深さ57.5cm。平面形は東西がわずかに長い円形を呈し、断面形は袋状で底面にはやや凹凸がある。ローム漸移層下部からソフトローム上面で検出している。2層が主たる埋没土で、炭化物粒を少量含む。1層は転圧後の流入土で、遺物は埋没が完了した頃、2層上面に混入したものかと思われ、この部分に多い。出土土器は胴上半部に平行沈線で菱形のモチーフを施文するもので、有尾式系の土器である。また、砂岩、黒色安山岩の剥片が出土している。

13号土坑 71-K-1グリッド 標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長146cm、短軸長106cm、深さ41cm。平面形は楕円形を呈し、本来は袋状の断面形状を有したものかと思われる。底面はほぼ平坦である。覆土の主体は明黄褐色土で、炭化物粒を少量含む。出土土器は平行沈線でモチーフを描くもので、有尾式系の土器と思われる。

14号土坑 71-M-3グリッド 標高113mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長66cm、短軸長60cm、深さ43cm。平面形はいびつな円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。底面は一部乱れるが、ほぼ平坦である。覆土の主体はしまった暗褐色土で、炭化物粒を含む。出土遺物はない。

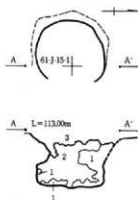
15号土坑 71-L-1グリッド 標高112.8mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長114cm、短軸長110cm、深さ97cm。平面形はみだれた円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。底面は東半部が弱い段を持って低くなる。黒浜式土器小片が出土している。

17号土坑 71-L-2グリッド 標高113mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長110cm、短軸長106cm、深さ42.4cm。全体の平面形は円形を呈するが、南東部が一段深くなっていて、この部分は楕円形をなす。断面形はほぼ箱形で、底面は平坦である。覆土の主体はにぶい黄褐色砂質土で、ローム小ブロックを含む。壁際に炭化物粒を含む部分がある。黒浜式と思われる土器小片および黒色頁岩の剥片が出土している。

18号土坑 71-M-3グリッド 標高113mの東向き傾斜部に立地する。南部を欠くが、長軸は南北方向にあるものと思われる。口径94cm、最大径158cm、深さ73.3cm。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は袋状で、底面は平坦である。出土遺物はない。

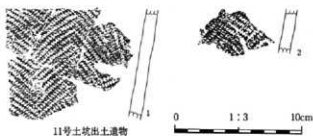


11号土坑



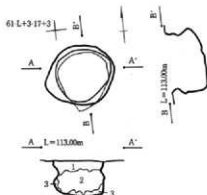
11号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土砂質土 ローム粒、As-BPを含む。粘性やや強い。密で硬く締まる。
- 2 10YR3/2 黒褐色土砂質土 ロームとの混土。炭化物粒をやや多く含む。粘性やや強い。密で硬く締まる。
- 3 ローム漸移土。



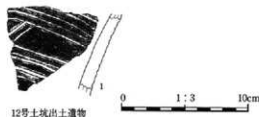
11号土坑出土遺物

12号土坑



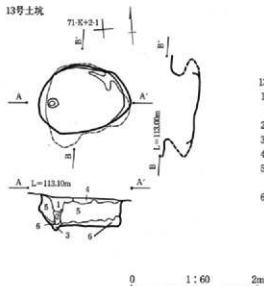
12号土坑土層観察所見

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色土砂質土 直径1cm大のローム小ブロックを含む。やや密で硬く締まる。
- 2 10YR3/3 暗褐色土砂質土 (10YR3/3)。As-BPを多く含む。炭化物粒を少量含む。密で硬く締まる。
- 3 2層と、10YR6/8-7/8ロームブロックの混土。As-BPを少量含む。密で硬く締まる。



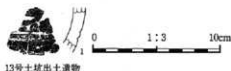
12号土坑出土遺物

13号土坑



13号土坑土層観察所見

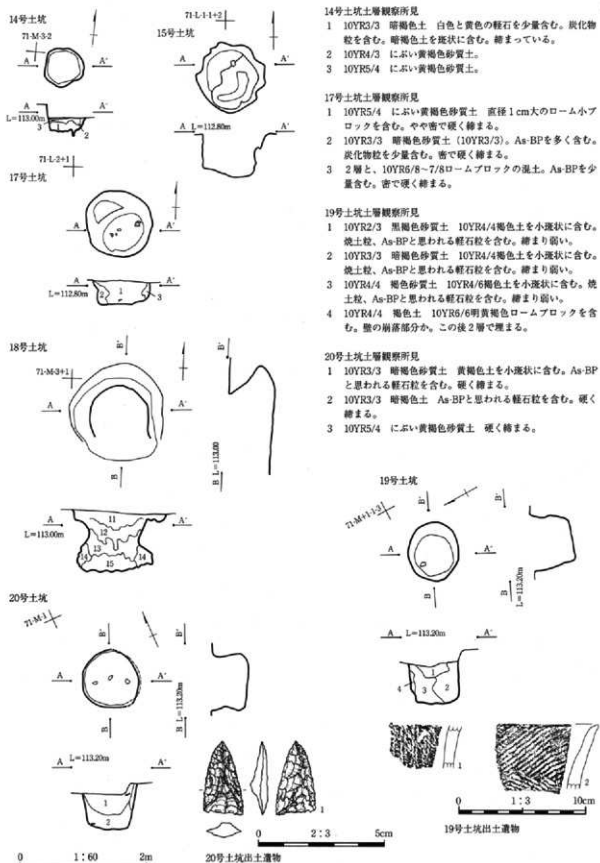
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土砂質土 白色と黄色の軽石を少量含む。炭化物粒を含む。褐色土を塊状に含む。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 炭化物粒を含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 褐色土を塊状に含む。
- 4 10YR5/2 灰黄褐色土、縄文層。
- 5 10YR6/6 明黄褐色土、白色と黄色の軽石を少量含む。炭化物粒を含む。暗褐色土を塊状に含む。
- 6 10YR5/6 黄褐色土 締まり弱い。



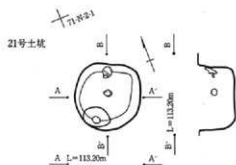
13号土坑出土遺物

第30図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 1

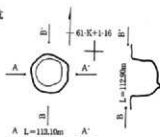
第3章 縄文時代の遺構と遺物



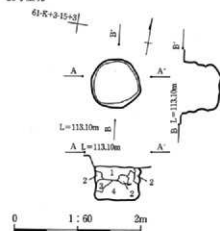
第31図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 2



22号土坑



23号土坑



## 21号土坑土層観察所見

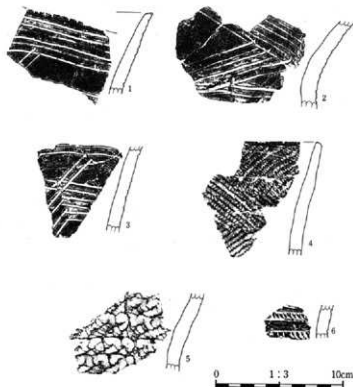
- 10YR3/3 暗褐色砂質土 黄褐色土を小塊状に含む。As-BPと思われる軽石粒を含む。硬く締まる。
- 10YR3/3 暗褐色土 As-BPと思われる軽石粒を含む。径2mm以下の炭化物粒を少量含む。
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質土 直径1mm以下の炭化物粒を少量含む。硬く締まる。

## 22号土坑土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。硬く締まる。
- 1層にロームを多く混ざる。硬く締まる。
- 10YR2/3 黒褐色土 硬く締まる。隙隙はロームを多く含む明るい。炭化物粒を少量含む。

## 23号土坑土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色土 直径1cm以下のローム粒を含む。炭化物粒を少量含む。硬く締まる。
- 1層に径1cm大のローム小ブロックを多く混ざる。硬く締まる。
- 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒、炭粒をやや多く含む。硬く締まる。
- 10YR2/3 黒褐色砂質土 径1cm大のローム小ブロック、炭化物粒をやや多く含む。上半にAs-BP起源と思われる灰白色微砂を含む。硬く締まる。

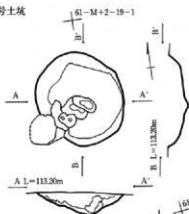


23号土坑出土遺物

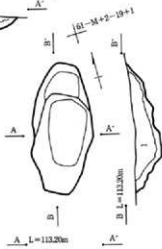
第32図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 3

第3章 縄文時代の遺構と遺物

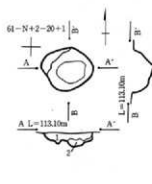
24号土坑



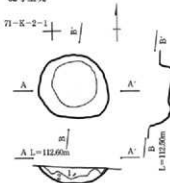
25号土坑



28号土坑



32号土坑



25号土坑土層観察所見

1 10YR3/1黒褐色土~1/4褐色土 As-BPと思われる軽石粒を含む。硬く締まる。

28号土坑土層観察所見

1 10YR2/2 黒褐色砂質土 10YR5/6黄褐色砂質土の1cmから2cm大の斑を含む。やや硬く締まる。  
2 10YR5/6 黄褐色土 やや粘質。締まり弱い。

29号土坑土層観察所見

1 10YR3/1 黒褐色砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色土の1cmから2cm大の斑を含む。全体に径1mm以下の炭化物粒を含む。遺物を含む層。やや硬く締まる。  
2 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土と10YR5/6黄褐色砂質土の混土。  
3 10YR5/6 黄褐色砂質土 10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を多く含む。  
4 1層と10YR7/8黄褐色ロームとの混土。木の根による攪乱か？。

31号土坑土層観察所見

1 10YR4/3 にぶい黄褐色土  
2 10YR5/6 黄褐色土  
3 10YR6/8 明黄褐色土 やや密。やや粘質。

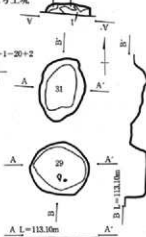
32号土坑土層観察所見

1 10YR3/5暗褐色砂質土と10YR5/6黄褐色砂質土の混土。やや硬く締まる。  
2 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 10YR5/6黄褐色砂質土を含む。やや硬く締まる。

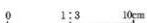
33号土坑土層観察所見

1 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土  
2 1層と10YR5/6黄褐色砂質土の混含む。  
3 1層に10YR5/6黄褐色砂質土のブロックを含む。やや硬く締まる。

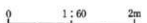
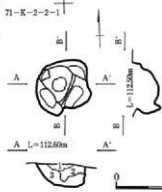
29・31号土坑



29号土坑出土遺物



33号土坑



第33図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 4

19号土坑 71-M-1グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。32号住居を切る。長軸を東西方向におく。長軸長91cm、短軸長80cm、深さ84cm。平面形は円形を呈し、断面形はわずかに上部が開く箱形で、底面はほぼ平坦である。覆土の主体は褐色、暗褐色の砂質土で焼土粒を含む。出土土器のうち、1は内削状の口唇部が開く口縁部破片で、非結束の無節羽状縄文を施文する。2は摺糸Rを施文する。また、黒色頁岩の剥片が出土している。

20号土坑 71-M-1グリッド 標高113mの東向き傾斜部に立地する。32号住居を切る。長軸を東西方向におく。長軸長94cm、短軸長92cm、深さ72cm。平面形は円形を呈し、断面形は箱形ないしごく弱い袋状で、底面はほぼ平坦である。覆土は暗褐色土で、硬く締まっている。土器は見られないが、黒色安山岩製の石鏝、黒色安山岩、黒色頁岩の剥片が出土している。

21号土坑 71-M-1グリッド 標高113mの東向き傾斜部に立地する。32号住居を切る。長軸を南北方向におく。長軸長106cm、短軸長104cm、深さ80.5cm。平面形は円形を呈し、断面形は中程がややふくらむ箱形で、底面はほぼ平坦である。底面近くの覆土にはふい黄褐色砂質土で、その上位に暗褐色土が乗る。ともに炭化物粒を少量含んでいる。土器は見られないが、覆土中位から流れ込むように、粗粒輝石安山岩の石皿片などが出土している。

22号土坑 61-K-16グリッド 標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長64cm、短軸長48cm、深さ48cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で、底面はやや乱れるが、北西側に低くなる傾向がある。覆土の主体は硬く締まった黒褐色土で、炭化物粒を少量含む。出土遺物はない。

23号土坑 61-K-15グリッド 標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長80cm、短軸長76cm、深さ78.5cm。平面形は円形を呈し、断面形は底部がやや広がり気味であるがほぼ箱形で、底面は凹凸があるものの平坦である。覆土の主体は黒褐色土で、炭化物粒を含む。底部近くの黒褐色砂質土中には、ローム小ブロックや炭化物粒が、やや多く含まれる。出土土器のうち1～3は平行沈線で、6は爪形文で施文する有尾式系の土器である。4は非結束の単節羽状縄文を施文する口縁部破片で、5はループ縄文を施文する。その他、黒色頁岩の剥片が出土している。

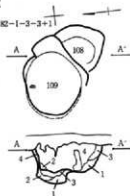
24号土坑 61-M-19グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。長軸を北西-南東方向におく。長軸長150cm、短軸長136cm、深さ33.3cm。平面形は円形を呈し、断面形は中央部が深い皿状で、底面は乱れている。出土遺物はない。

25号土坑 61-M-19グリッド 標高113.2mの東向き傾斜部に立地する。長軸を北東-南西方向におく。長軸長206cm、短軸長94cm、深さ45.6cm。平面形は長円形を呈し、断面形はほぼ皿状であるが、北側が小さな段を持って徐々に浅くなる。覆土は硬く締まった黒褐色から灰褐色土である。出土遺物はない。

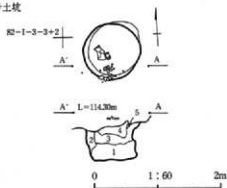
28号土坑 61-O-20グリッド 標高113mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長82cm、短軸長70cm、深さ31.4cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形であるが底面は乱れる。覆土の主体

### 第3章 縄文時代の遺構と遺物

#### 108・109号土坑



#### 110号土坑



#### 108号土坑土層観察所見

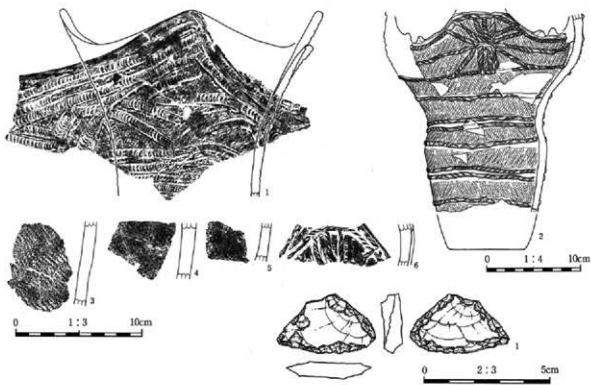
- 7.5YR4/6 褐色土 10YR5/8 黄褐色ハードロームブロックを含む。やや粘質。締まっている。
- 10YR4/6 褐色土 焼土粒を少量含む。やや粘質。硬く締まっている。
- 7.5YR5/8 黄褐色土 地山が崩れた、やや汚れたハードロームのブロックを主体とする。やや粘質。締まっている。
- 10YR5/6 黄褐色土 炭化物粒、焼土粒を比較的多く含む。縄文時代前期の土器片を含む。やや粘質。硬く締まっている。

#### 109号土坑土層観察所見

- 7.5YR4/6 褐色土 10YR5/6黄褐色ハードロームブロックを含む。やや粘質。締まっている。
- 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒を少量含む。粘性やや強い。硬く締まっている。
- 10YR4/6 褐色土 炭化物粒、焼土粒を少量含む。粘性やや強い。硬く締まっている。
- 10YR5/8 黄褐色土 炭化物粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

#### 110号土坑土層観察所見

- 7.5YR3/4 暗褐色土 白色およびAs-BP、As-MPと思われる褐色から橙色の軽石粒、As-BPを含むロームブロックを含む。最大長5cm程度の炭化物片を含む。締まっている。
- 7.5YR4/6 褐色土 地山ロームの再堆積土主体。暗褐色土を含む。締まりやや弱い。
- 7.5YR4/4 褐色土 白色およびAs-BP、As-MPと思われる褐色から橙色の軽石粒、As-BPを含むロームブロックを含む。炭化物片をやや多く含む。
- 7.5YR4/4 褐色土 ロームブロックを斑状に含む。径2mm以下の白色軽石粒を含む。As-BP、As-MPと思われる褐色から橙色の軽石粒を少量含む。炭化物細片をわずかに含む。
- 4層とはほぼ同相。ローム分がやや多い。



110号土坑出土遺物

第34図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 5

はローム斑を含む黒褐色砂質土である。磨石片が出土している。

29号土坑 61-O-20グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長95cm、短軸長84cm、深さ33.3cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で壁は垂直に立ち上がる。土器小片が出土している。黒色安山岩の剥片が出土している。

31号土坑 61-O-20グリッド 標高113.1mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長103cm、短軸長70cm、深さ23.4cm。平面形は楕円形を呈し、断面形は中央部が緩く窪んだ箱状で、北側の方が深くなっている。覆土の下位は地山ロームの再堆積と見られる黄褐色砂質土、上位は炭化物粒を含むしまった黒褐色砂質土である。出土遺物はない。

32号土坑 71-K-2グリッド 標高112.4mの東向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長115cm、短軸長105cm、深さ34.2cm。平面形は円形を呈し、断面形は皿状であるが底面には凹凸が多く、南側がやや深くなる。覆土は明黄褐色からいび黄褐色土で、地山ロームの乱れたものである。出土遺物はない。

33号土坑 71-K-2グリッド 標高112.4mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長96cm、短軸長84cm、深さ55.7cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼU字形であるが、攪乱されて底面を確実に捉えることができない。覆土は黄褐色からいび黄褐色土で、地山ロームの乱れたものと見られる。出土遺物はない。

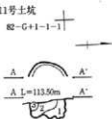
108号土坑 82-H-3グリッド 標高114.2mの西向き傾斜部に立地する。109号土坑に切られ、全体形状は把握できない。北東-南西方向の確認最大長80cm、短軸長58cm、深さ57.5cm。平面形は円形ないし楕円形を呈するものと思われ、断面形はほぼ箱形であろう。底面はほぼ平坦である。覆土は褐色から黄褐色土で、上位の黄褐色土に炭化物粒や土器小片が含まれている。

109号土坑 82-H-3グリッド 標高114.2mの西向き傾斜部に立地する。108号土坑を切る。長軸を東西方におく。長軸長130cm、短軸長84cm、深さ60cm。平面形は円形を呈し、断面形は上方にやや開く箱形である。底面は108号土坑を切る部分が波打つが、ほぼ平坦である。覆土の主体は炭化物粒を少量含む黄褐色土で、壁際に炭化物粒、焼土粒を少量含む褐色土が堆積する。土器小片が出土している。

110号土坑 82-H-3グリッド 標高114.3mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長98cm、短軸長86cm、深さ55.5cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形であるが、北部では壁がわずかにオーバーハングする。底面は平坦である。覆土の主体は褐色から暗褐色土で、下位に比較的大きな炭化物片が含まれる。土器片および剥片が出土している。1は推定口径28cm、現存高19.5cmを測る深鉢で、口縁が大きく開く4単位の波状口縁深鉢である。胴上半部には幅広の爪形文で構成の崩れたモチーフを施文する。2は推定口径21.2cm、現存高23cmを測る4単位の波状口縁の深鉢土器で、頸部が大きく括れ、口縁の波底部には2個対の小突起が付いている。内湾する口縁部には波頂下に2～3本の浮線で「米」字状のモチーフを構成し、頸部から胴部にかけては1本と2本の浮線が交互に施文され区画する。浮線上には1本でも異なる方向の刻

第3章 縄文時代の遺構と遺物

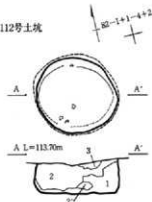
111号土坑



111号土坑土層観察所見

- 7.5YR4/6 褐色土 暗褐色土を多く含む。上位は白色軽石粒多く、下位はAs-BPと思われる褐色の軽石粒を多く含む。
- 7.5YR5/6 明褐色土 暗褐色土をやや多く含む。白色軽石粒、As-BPと思われる褐色の軽石粒を含む。
- 7.5YR5/8 明褐色土 暗褐色土を含む。白色軽石粒、As-BPと思われる褐色の軽石粒を含む。

112号土坑

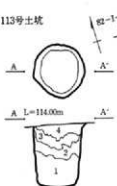


112号土坑出土遺物



113号土坑出土遺物

113号土坑



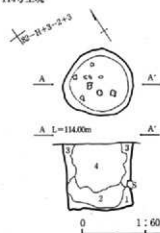
113号土坑土層観察所見

- 7.5YR3/3 暗褐色土 炭化したケルミ殻片、焼土粒を多く含む。ローム粒、軽石 (As-BP, As-ok) をわずかに含む。締まりやや弱い。
- 7.5YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。炭化物細片を含む。軽石粒 (As-okか) を含む。
- 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。炭化物細片を含む。軽石粒 (As-okか) を含む。
- 7.5YR4/6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土。炭化物細片、軽石粒 (As-YP, As-okか) を含む。締まっている。

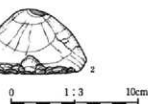
114号土坑土層観察所見

- 7.5YR3/4暗褐色~4/6褐色土 暗色帯周辺のやや粘質のロームと暗褐色土の混土。
- 7.5YR2/3 極暗褐色土 ローム、軽石をほとんど混じらない。炭化物片を少量含む。締まり弱い。
- 7.5YR4/6 褐色土 ロームに暗褐色土を混じる。軽石 (As-okか) を含む。締まりやや弱い。
- 10YR3/4 暗褐色土 軽石 (As-YP, As-okか)、炭化物片を少量含む。上位は締まっている。

114号土坑



114号土坑出土遺物



第35図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 6



みや、鋸歯状の刻みを施している。地文は単節RLとLRの羽状縄文である。3～5は縄文のみ施文される破片で、6は2の同一個体である。黒色安山岩、砂岩などの剥片も出土している。

**111号土坑** 82-G-19グリッド 標高113.4mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長60cm、短軸長21cm、深さ26cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形であるが、底面は乱れており、凹凸が激しい。覆土は褐色から明褐色土で、地山ロームが乱れたものと見られる。出土遺物はない。

**112号土坑** 82-I-4グリッド 標高114.2mの西向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長140cm、短軸長122cm、深さ54cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で壁はやや内傾気味に直立する。底面は平坦である。覆土は東側から地山ロームが崩れたものと思われる明褐色土が流入し、次いで炭化物粒をわずかに含む褐色土が堆積する。前期の土器片および黒色頁岩などの剥片が出土している。

**113号土坑** 82-H-3グリッド 標高113.9mの西向き傾斜部に立地する。長軸長86cm、短軸長80cm、深さ98cm。平面形は円形を呈し、断面形は深い箱形である。底面は平坦である。覆土全体に炭化物の細片を含むが、最下位の暗褐色土中には焼土粒および炭化したオニグルミ核の小片が多く含まれる。諸磯a式、諸磯b式土器片と黒色安山岩の剥片が比較的多く出土している。

**114号土坑** 82-H-2グリッド 標高113.9mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南西-北東方向におく。長軸長112cm、短軸長102cm、深さ105cm。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は深い箱形で、壁は強く直立する。底面はほぼ平坦である。覆土は極暗褐色土から暗褐色土で、炭化物粒を少量含む。諸磯b式土器片および黒色頁岩、黒色安山岩などの剥片、粗粒輝石安山岩のくぼみ石などが出土している。

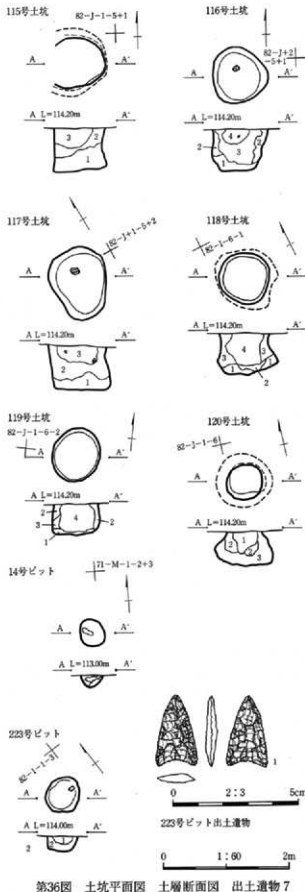
**115号土坑** 82-I-5グリッド 標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸長108cm、短軸長76cm、深さ70cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形であるが、壁は外反気味に直立する。底面はほぼ平坦である。覆土の主体は褐色土で、炭化物粒をごく少量含む。諸磯b式を中心とする土器小片、黒色頁岩の剥片などが出土している。

**116号土坑** 82-I-5グリッド 標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸長89cm、短軸長80cm、深さ68cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形で、壁はわずかに開き気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。覆土の主体は褐色から黄褐色土で、炭化物粒を少量含む。花積下層式の土器小片、黒色安山岩、黒色頁岩の剥片、粗粒輝石安山岩の磨石などが出土している。

**117号土坑** 82-I-5グリッド 標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長116cm、短軸長76cm、深さ73cm。平面形はゆがんだ楕円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。底面は平坦である。覆土の主体は炭化物粒を少量含む褐色土で、諸磯b式、花積下層式の土器小片、黒色安山岩、黒色頁岩の剥片、緑泥片岩の碎片などが比較的多く出土している。

**118号土坑** 82-H-5グリッド 標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長

第3章 縄文時代の遺構と遺物



第36図 土坑平面図 土層断面図 出土遺物 7

115号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土。軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。締まりやや弱い。
- 2 10YR4/6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土。細粒の白色軽石粒、炭化物粒を少量含む。締まり強い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

116号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ロームの再堆積土主体。暗褐色土を含む。締まりやや弱い。軽石、炭化物はほとんど含まない。
- 2 10YR5/8 黄褐色土 ロームの再堆積土主体。白色軽石を少量含む。
- 3 10YR4/6褐色~10YR5/8黄褐色土 締まりの弱いロームの再堆積土を主体とする。締まった暗褐色土混を含む。炭化物を少量含む。
- 4 10YR3/4暗褐色~10YR4/6褐色土 暗褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

117号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土。軽石粒をごく少量含む。炭化物細片を含む。締まりごく弱い。
- 2 10YR4/6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土。細粒の白色軽石粒、炭化物粒を少量含む。上位は締まっている。下部は締まりやや弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。炭化物細片を含む。締まっている。

118号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6褐色~10YR5/8黄褐色土 ロームと暗褐色土の混土。軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。
- 2 10YR4/6 褐色土 ロームと暗褐色土の混土。軽石粒、炭化物粒をごく少量含む。
- 3 10YR4/6 褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を少量含む。締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

119号土坑土層観察所見

- 1 10YR3/4暗褐色~4/6褐色土 黄褐色のロームブロックを含む。締まっている。
- 2 7.5YR4/6褐色~5/8明褐色土 ロームに暗褐色土を混する。細粒の白色軽石を少量含む。締まりやや弱い。
- 3 10YR3/4暗褐色~10YR4/6褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を少量含む。締まっている。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。締まっている。

120号土坑土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ロームに暗褐色土を混する。炭化物を少量含む。底部近くは締まりやや弱い。上位は硬く締まっている。
- 2 10YR4/6 褐色土 炭化物を少量含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を少量含む。締まりやや弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色ロームをまだらに含む。白色、黄色、褐色の軽石粒を含む。炭化物細片を含む。締まっている。

223号ピット

- 1 7.5YR5/6 明褐色土 地山ロームの再堆積土を主体とし、暗褐色土が混じる。軽石 (As-okk) を少量含む。
- 2 7.5YR4/6 褐色土 ロームを含む。軽石 (As-okk) を少量含む。炭化物片をわずかに含む。締まっている。

#### 4 遺構外出土遺物

108cm、短軸長84cm、深さ64cm。平面形は円形を呈し、断面形は弱い袋状で、底面中央部がやや低くなる。床面は中央部がやや深くなっている。覆土は褐色から暗褐色土で、炭化物粒を少量含む。出土遺物はない。

119号土坑 82-I-5グリッド 標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長85cm、短軸長72cm、深さ50cm。平面形は円形を呈し、断面形は箱形で、壁は直立する。底面はわずかに波打つがほぼ平坦である。覆土の主体はローム斑を含む暗褐色土で、花積下層式土器小片、黒色頁岩、黒色安山岩、チャートの剥片が出土している。

120号土坑 82-I-5グリッド 標高114.1mの西向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。口徑長軸長89cm、同短軸長80cm、深さ57cm。平面形は円形を呈し、断面形は袋状で、最大径は108cmある。底面は小さな凹凸が多く、東側がやや低くなる。覆土は褐色土で炭化物粒を少量含む。諸磯b式を中心とする土器小片、黒色安山岩の剥片および自然石が出土している。

14号ピット 71-M-2グリッド 標高112.9mの東向き傾斜部に立地する。長軸を南北方向におく。長軸長46cm、短軸長40cm、深さ20.9cm。平面形は円形を呈し、断面形はU字形である。出土遺物はない。

223号ピット 82-H-2グリッド 標高113.9mの西向き傾斜部に立地する。長軸を東西方向におく。長軸長60cm、短軸長50cm、深さ25cm。平面形は円形を呈し、断面形はほぼ箱形である。チャートの石鏃、黒色安山岩の剥片が出土している。

#### 4 遺構外出土遺物

本遺跡からは、8000片を超える縄文土器片、5000点近い石器類が出土している。これらの遺物については、破片単位で、型式、器形、部位、施文原体等の観察を行っている。前項までで示した遺構に伴う出土遺物のうち、土器581片、石器類121点、また本項では遺構外遺物のうち土器858片、石器類141点を図示する。

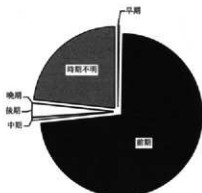
出土遺物全体の時期的傾向を見ると、時期不明の小片が23%を占めるが、縄文時代前期のものが74%と圧倒的に多く、後期が3%、早期及び後期がごく少量ある。草創期、晩期の土器は見られない。前期のうちでは、花積下層式42%、有尾式系1%、黒浜式22%、諸磯a式6%、諸磯b式27%、諸磯c式1%という構成比である。石器類では剥片が71%を占め、石鏃、石錐、刮器・搔器などの剥片石器類が17%、石斧や磨石などの礫石器類が12%ある。

土器1974片、石器類1148点は前記した遺構に伴うものである。これ以外の遺物のうち、土器591片、石器類320点については大まかな調査区画ごとに取り上げられたものであるが、土器5726片、石器類3569点については、グリッド単位で取り上げられており、おおよそ空間的位置の把握が可能である。

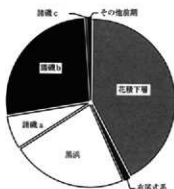
遺構として確実に捉えられたものは、61区北端から71区南端部分と72区北部、82区南部に集中し、遺物も調査区全体で見つかってはいるが、遺構の周辺部分で特に多い。また、遺物が集中的に見つかる地点が、72区A-12からC-17グリッド周辺及びH-17グリッド周辺にある。この部分については住居があるものと見て、精査を重ねたのであるが、遺構を確認することができず、炉の痕跡を思わせるような焼土なども認められなかった。耕作等により攪乱されて、土器片のみが残されたものであるかもしれない。

A-12からC-17グリッド部分については、土器の分布状況から3つのグループに分けられる。A-15グリッド

### 第3章 縄文時代の遺構と遺物



第37図 出土土器片の時期別数量比



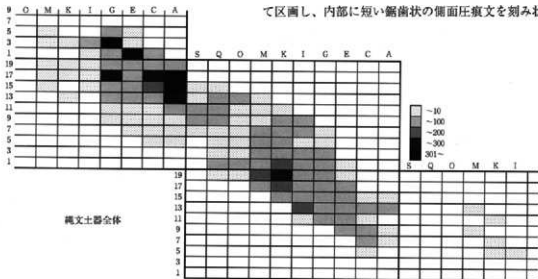
第38図 前期土器片の型式別数量比

からB-16グリッド南半にかけて (A15グループ) と、A-17からB-17グリッドにかけて (A17グループ) は花積下層式がまとまっており、住居があったことを彷彿とさせるものであるが、C-17からD-18グリッドにかけて (C17グループ) は花積下層式その他、諸磯 a・b・c 式も混在しており、出土状況もやや散在的であるため、前者のような遺構の残痕ではないだろう。

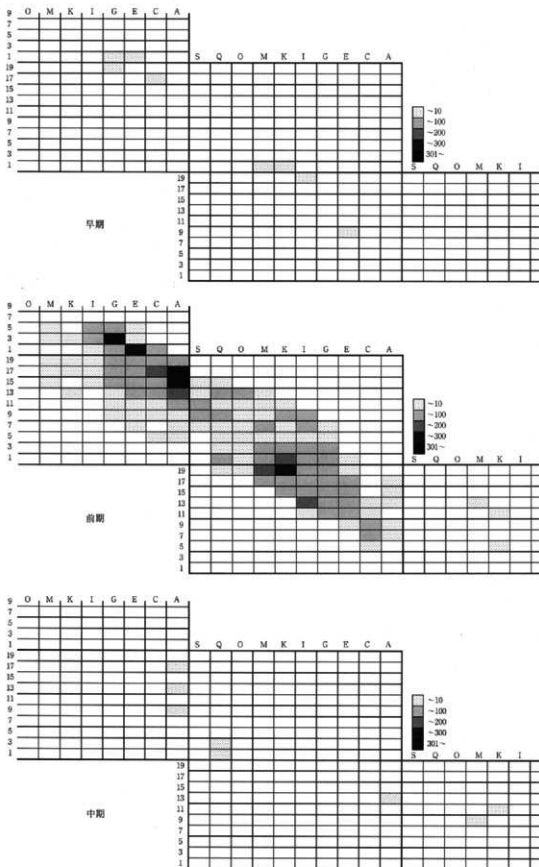
なお、以下の遺物の記述については、整理を担当した財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の金子氏、亀田氏による記載に基づいている。しかし、委託時点での整理単位である調査区画を上武道路関連遺跡の報告書編集に当たって採用しないこととなったため、図版の大幅な組み替えを行うこととなり、これに伴って両氏の記載文についても、個別遺物の記載単位に分解して再編せざるを得ないこととなってしまった。龍顔の無いように注意したつもりではあるが、両氏の意を尽くせない結果となってしまったかもしれない。非は編集者にあることを明記し、お詫びしておきたい。

#### 土器

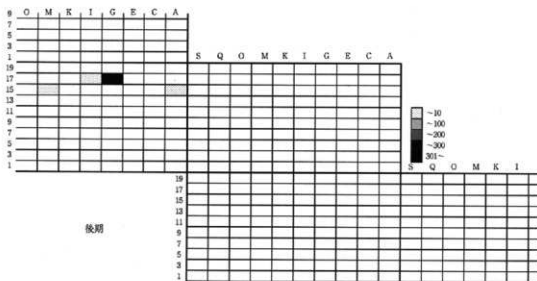
A15グループは前期初頭花積下層式土器である。1、2は折り返し状の段帯部で口縁部文様帯が形成されており、幅狭な口縁部文様帯には R と L を合わせた側面圧痕文で菱形状の鋸歯状文を描く。3はやや幅広の口縁部文様帯が形成され、R と L の側面圧痕文を横位に施して区画し、内部に短い鋸歯状の側面圧痕文を刻み状に施



第39図 縄文土器片のグリッド別出土量概念図 1



第40図 縄文土器片のグリッド別出土量概念図 2



第41図 縄文土器片のグリッド別出土量概念図 3

文する。波頂部下には「の」字状の側面圧痕文を縦列に施文する。4、5はRとLの側面圧痕文を口縁部に施文する。6、7は幅狭の段帯状口縁部に羽状縄文を施文する。8~14は口縁部文様帯を形成しない。8、9は口唇直下に2段の縄の側面圧痕文を1条廻らす。胴部は0段多条RLの縦位鋭角羽状縄文を施文する。40、41、61、62は底部破片で、底部は尖底を呈する。42~48は胴部破片であり、格子目状の羽状縄文や鋭角羽状縄文を施文する。49、50は口縁部にRとLを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。49は刻み状のモチーフを側面圧痕文で施文する。51は無肥厚の口縁部破片で、やや外反する器形を呈す。52~60は胴部破片で、0段多条RLの縦位鋭角羽状縄文である。

A17グループも花積下層式土器で、1は口唇部外端に断面三角の隆帯を貼付し、幅広の口唇部を形成している。口唇部に細沈線文を施しており、口唇直下には2段の縄の側面圧痕文を1条施文する。胴部は0段多条RLの縦位鋭角羽状縄文を施文する。2~4は口縁部にRとLを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。2は小さな渦巻状の側面圧痕文を縦列に施文する。3は口縁部に隆帯を垂下する。5は肥厚する段帯状の口縁部に羽状縄文を施文し、側面圧痕文と同様の効果を表している。6、7は若干内湾気味に開く器形を呈する。8~37は胴部破片で、0段多条RLの縦位鋭角羽状縄文である。38~41は底部破片で尖底を呈する。平底はない。

C17グループ出土土器には、やや時期的なばらつきがある。1は早期の撫余文系土器群で、縞条体条線文を施文する稲荷台式に比定される土器群と思われる。2~10は前期初頭花積下層式土器である。2は幅狭な口縁の段帯部に2の縄の側面圧痕で集合鋸歯状文を施文する。3、4は口縁部にRとLを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。5は無肥厚の口縁部破片で、やや外反する器形を呈す。6、7は肥厚する段帯状の口縁部に羽状縄文を施文し、側面圧痕文と同様の効果を表している。8~10は胴部破片で、0段多条RLの縦位鋭角羽状縄文である。11、12は前期後半諸磯a式土器である。11は口縁部の内折する無文の浅鉢で、推定口径19.8cm、現存高4.5cmを測る。12は平行沈線で木葉文を施文する。13、14は諸磯b式土器に比定される爪形文系土器で、刻みを挟む幅広爪形文でモチーフを描くものである。15は集合沈線文を施文する諸磯c式土器である。横位羽状の集合沈線を施文する。

H-17グリッド周辺では、本遺跡では数少ない後期の土器がまとめて出土している。特に大型破片が多く、

遺構の存在を前提として調査に当たったが、ついにこれを捉えることができなかった部分である。1～6は同一個体と思われる称名寺Ⅱ式土器で、1の推定口径41.5cm、現存高45cmを測る、口縁部が大きく開き胴部に深く括れる深鉢形土器である。口縁部は幅広い無文帯を沈線で区画し、胴部に鈎状文を施し区画内に列点を充填する。7、8、14～20は沈線で鈎状のモチーフや渦巻文などのモチーフを施し、列点を充填するものもある。称名寺式最終末から堀之内式初頭にかけての土器群と思われる。9～13は列点文を施す三十稲場式系の土器と思われる。21は底部に網代痕のある浅鉢か鉢状の土器と思われ、器壁の薄さなどから堀之内Ⅱ式に位置付けられる可能性が高い。

その他のグリッドからの出土土器も前期が中心である。第56図以後にこれを示した。1～4は早期の熱糸文系土器群で、絡糸体条線文を施する稲荷台式に比定される土器群と思われる。5～15は早期前半の楕円押型文土器である。沈線文期並行と思われる。

16～208は前期初頭の花積下層式土器で、16～19、24は口縁部に2段の縄の側面圧痕で鋸歯状文を中心としたモチーフを施文する。20、21は接合しないが同一個体と思われる。口唇部外端と口縁部に断面三角の隆帯を廻らして口縁部を区画し、隆帯間に三角形の連続刺突文を施文する。外削状の幅広い口唇部上には細沈線で鋸歯状文を施文する。胴部は0段多条RLで縦位鋭角羽状縄文を施文する。22、23は2段の縄の側面圧痕文が施される。25～42はRとLを合わせた側面圧痕文で鋸歯状のモチーフを描くものである。25は小さな渦巻状の側面圧痕文を縦列に施文し、32は屈曲する段帯部で口縁部文様帯を構成し、屈曲部分に瘤状の突起を持つ。34は口唇部外端に断面三角の隆帯を貼付し、幅広い口唇部を形成している。35は弧線状のモチーフを施文する。43、45は肥厚する段帯状の口縁部に羽状縄文を施文し、側面圧痕文と同様の効果を表している。44は無肥厚の口縁部破片で、やや外反する器形を呈す。46～49は0段多条のRLで縦菱形の鋭角羽状縄文を施文する口縁部破片、50は幅狭口縁部を低隆帯で区画し、羽状縄文を施文する。60以後の胴部破片の多くは、0段多条RLの縦位鋭角羽状縄文を施文する。207では縦走縄文や斜格子目状縄文を施文する。91は底部破片である。146、147、198、199、206なども尖底であり、平底は見られない。

209～234は前期中葉の黒浜式並行の有尾式系土器群である。209～213は爪形文で菱形文を描き、214～233は平行沈線で菱形文を描く。234は施文縄文上に平行沈線で菱形文を描いている。235～238は黒浜式土器で、古段階のものと思われる。格子目文や刺突文、短沈線文、鋸歯状沈線文等を施文する。235～338は黒浜式土器に比定され、235～248が古段階、249～338が新段階のものと思われる。235は平行沈線でモチーフを描く。236～238、245、247、248は格子目文や刺突文、短沈線文、鋸歯状沈線文等を施文する。239～244は小波状文を描く中段階のものと思われる。249・250・253・254・319は同一個体で、器壁に繊維を含む。4単位の波状口縁を呈し、肋骨文を施すものである。259～268は爪形文を施文する。259、260は爪形文で口縁部と胴部を区画し、261～268は爪形文で「米」字状文を描く最新段階のものと思われる。269はモチーフの結合点に「の」字状の小さな側面圧痕文を施文する。297～338は縄文施文のもので、271-276、290～308は非結束RL+LRの羽状縄文を施すもの、277、309-311は付加条縄文を施すもの、278・279、312～317はL+R無節羽状縄文を施文する。280-282はループ縄文、283-285、318-337は無節の縄で、286-289、327-333は単節の縄で羽状縄文、斜縄文を施文する。334-336は熱糸文を施文する。

339-392は諸磯a式土器に比定される。339は条線文の肋骨文系の土器。樹枝状の肋骨文で、円形竹管文列を垂下させる。340-348は葉脈状肋骨文、349は単方向の肋骨文を描く。350-354は横位多段の鋸歯状文を施文する。縦位の円形竹管文列を施文する。355は文様帯内に多段の波状沈線文を描き、356は横位区画文内に鋸歯状沈線文を描く。357は地文縄文上に円形竹管文を施文するものである。358は横位多段の鋸歯状文を施

文する。横位の円形竹管文を施文する。359は横位多段の鋸歯状文を施文する。平行爪形文で胴部を区画し、区画内に円形竹管文を施文する。361、362は平行沈線や爪形文を口縁部に施文するもので、文様帯の省略形のものが多い。367は木葉文を施文する浅鉢で、推定口径16.5cm、現存高6.2cmを測る。胴部で強く屈曲する。368-373は変形木葉文系のモチーフを持つ深鉢で口縁部に幅狭な文様帯を持つ。374-390は縄文のみ施文する。375-380は比較的器壁の整形が丁寧で、細かな縄文を施文するのが特徴である。381-388は単節RLを施文する。391は平底の底部片、392は無文の浅鉢片である。

393-414は諸磯b式土器に比定される。394は爪形文系土器で、細い爪形文で口縁部を区画したり、モチーフを描いたりするものである。柱状の突起を基点として口縁部に幅狭の文様帯を区画し、爪形文で長方形区画を施す。395-398、400-412は刻みを挟む幅広爪形文でモチーフを描くものである。396は円形竹管文をランダムに施文するものである。397、412は地文縄文上に幅広の爪形文で弧線状のモチーフを描く。400は細い爪形文で口縁部を区画したり、モチーフを描いたりするものである。401-406は円形竹管文をランダムに施文する。415は非対称の突起が付く波状口縁の深鉢で、口縁部に3本の爪形文が廻る。399、413、414は沈線文系土器で、地文縄文上にモチーフを描いている。416-444は浮線文系土器である。416、417は浮線の上に縄文を施文し、417は波状口縁の口唇部に小瘤状突起を等間隔に配する。420、421、430、438は刻みを施す浮線と円形竹管文が併施文される。422は台形状の突起を巻くように浮線を施文し。424は楕円区画を施す。425-429、431-441は刻みを施す浮線で渦巻文を連結するモチーフを描く。444は内折する幅大口縁部に、刻みを施さない浮線で鋸歯状のモチーフを描く浅鉢である。445、446は諸磯b2式段階の沈線文系土器である。447、467は無文土器で、467は58号住居No21と同一個体である可能性が高い。448-470は縄文施文の土器である。450、451は結束羽状縄文を施文し、452、453は無節縄文を施文するが、単節斜縄文を施文するものが多い。448は浅鉢で、推定口径22cm、現存高8cmを測る。

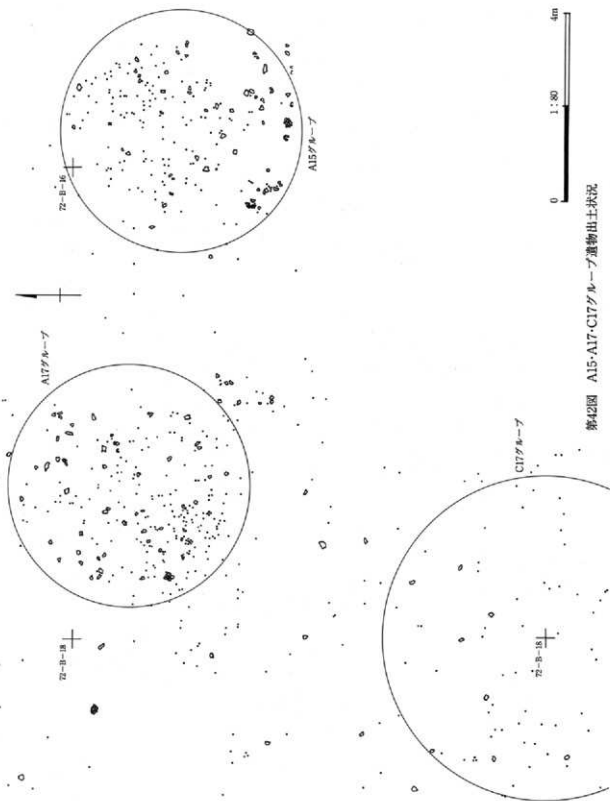
471-483は諸磯c式土器に比定される。471は推定口径32cm、現存高11cmを測る、口縁部が開く深鉢である。緩い波状を呈し、波頂部は内面側に押されて変形し、穿孔を伴う切り込みが施されている。切り込みの下部には背高の縦位の貼付文を施し、口縁部を区画している。口縁部は横位の集合沈線文を施し、口唇外端部には爪起し状の連続刻みを施している。貝殻状貼付文出現以前の、諸磯c式古段階の土器と思われる。472も口縁部に耳殻状の貼付文を施す古段階の土器である。473-478は精節浮線文を施文する新段階のものである。479-483は集合沈線文を施文する。279、282が横位、480は縦位、481、483は斜位の集合沈線文を施文する。

484-486は平行沈線区画内に貝殻腹縁をロッキング施文する興津式である。諸磯c式に伴うものと思われる。

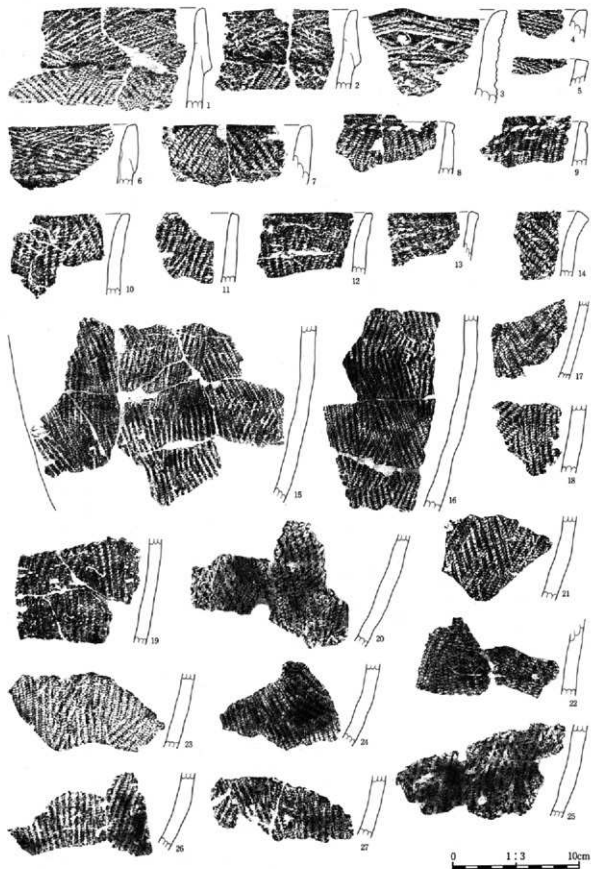
487-491は中期中葉の土器群で、型式比定は難しいが、三角印刻文や平行沈線文、押圧隆帯、角頭口唇部などから阿玉台Ib式並行期に位置付けられようか。493-495は同一個体と思われ、中期中葉の阿玉台Ⅱ式に比定されよう。496-501は磨消懸垂文を垂下する中期末葉の加曾利EⅢ式土器である。地文に単節RLを施文する。



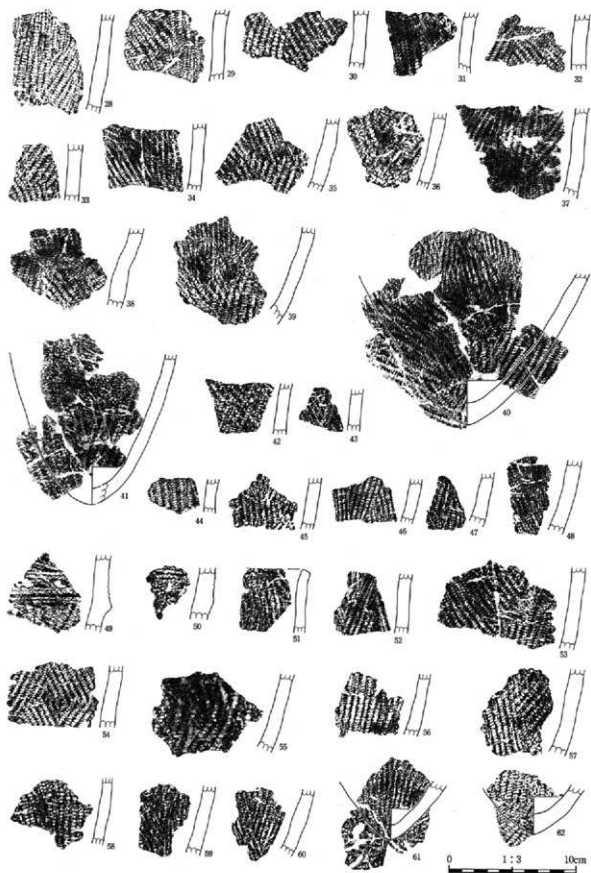
4 遺構外出土遺物



第42図 A15・A17・C17グループ遺物出土状況



第43図 A15グループ出土遺物 1

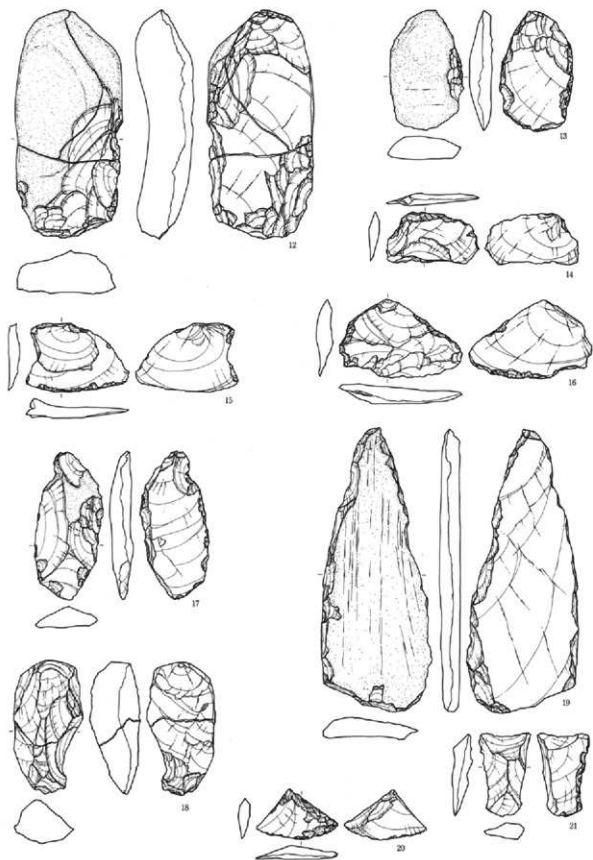


第44図 A15グループ出土遺物 2

第3章 縄文時代の遺構と遺物

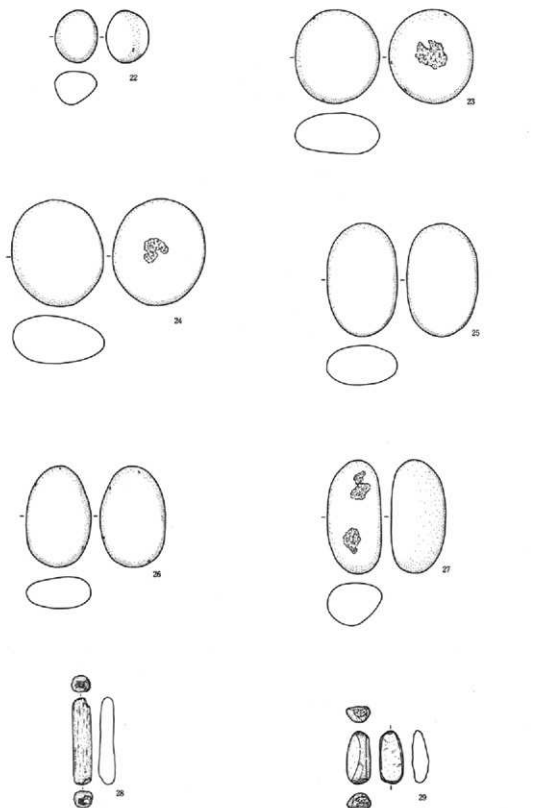


第45図 A15グループ出土遺物3



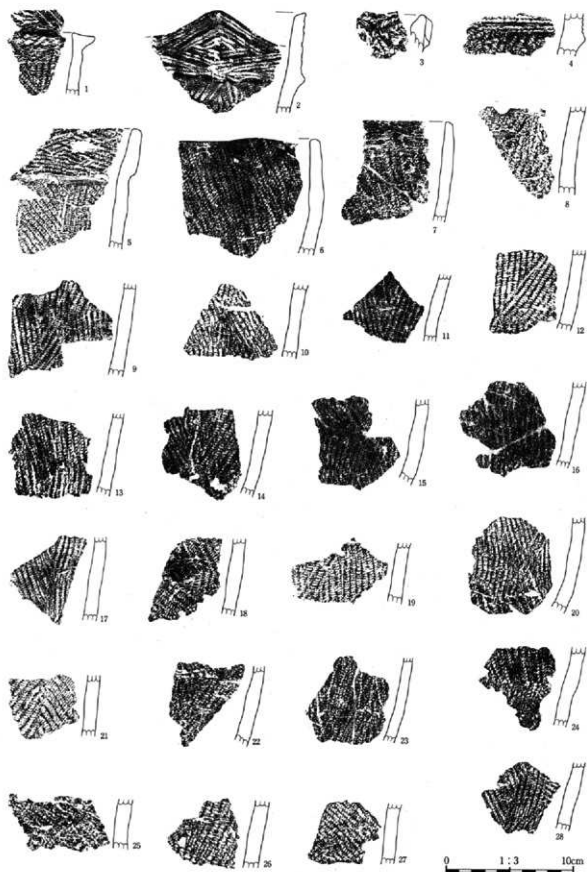
第46図 A15グループ出土遺物 4

第3章 縄文時代の遺構と遺物



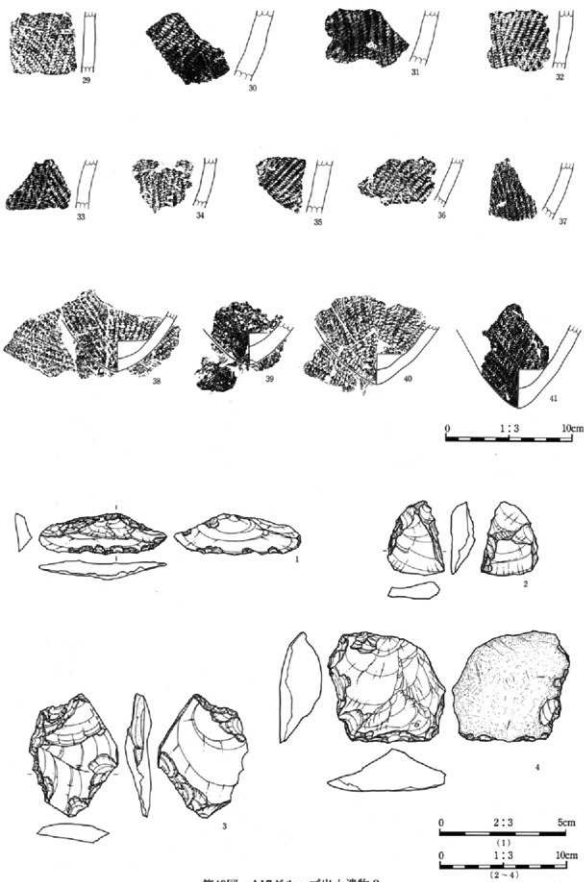
0 1:4 10cm

第47図 A15グループ出土遺物 5



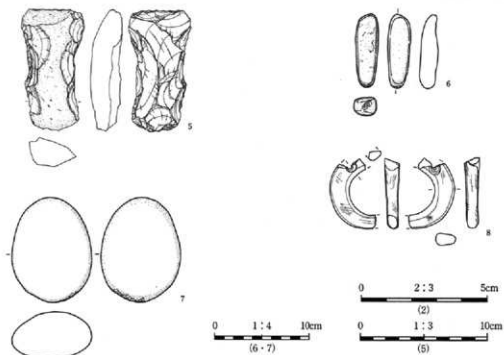
第48図 A17グループ出土遺物 1

第3章 縄文時代の遺構と遺物

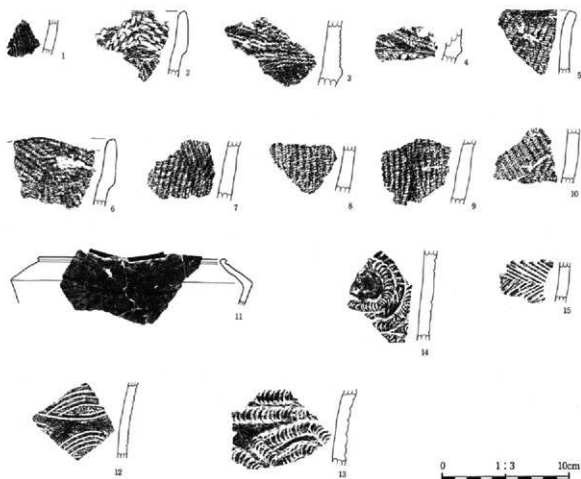


第49図 A17グループ出土遺物 2



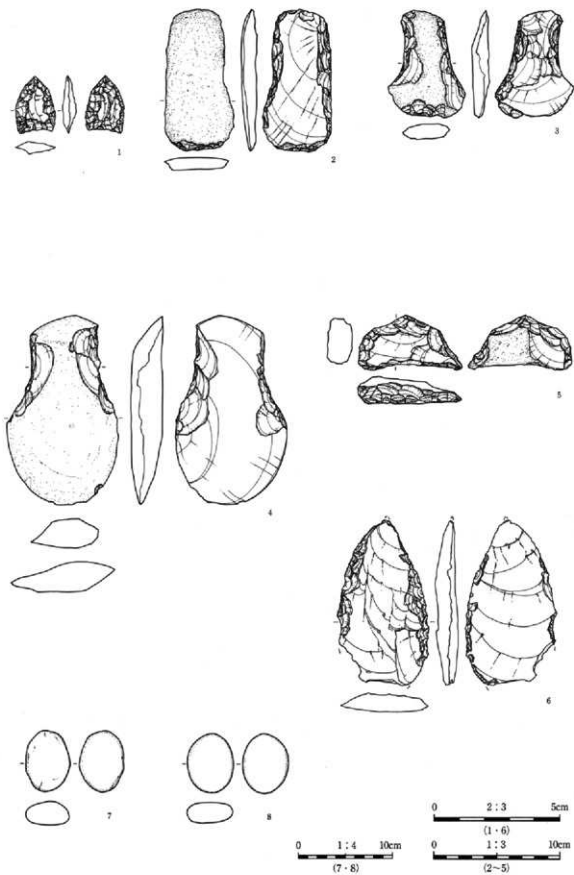


第50図 A17グループ出土遺物 3

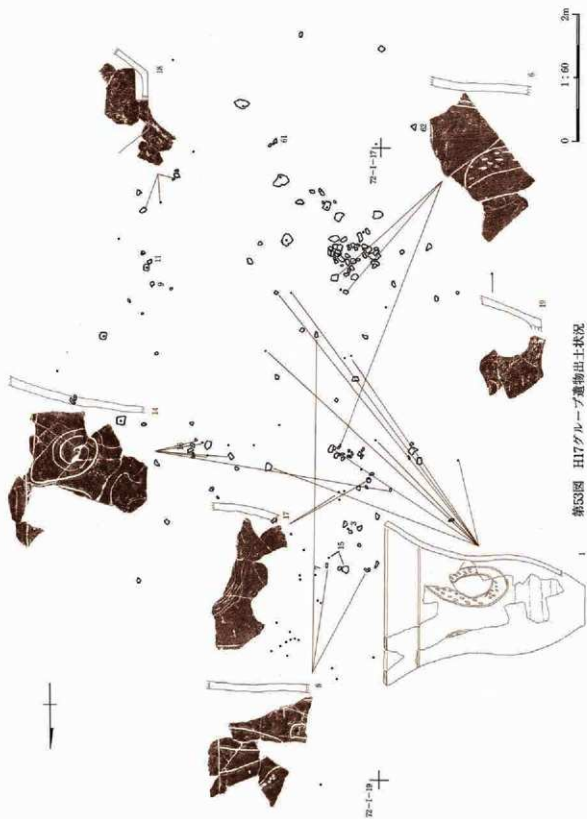


第51図 C17グループ出土遺物 1

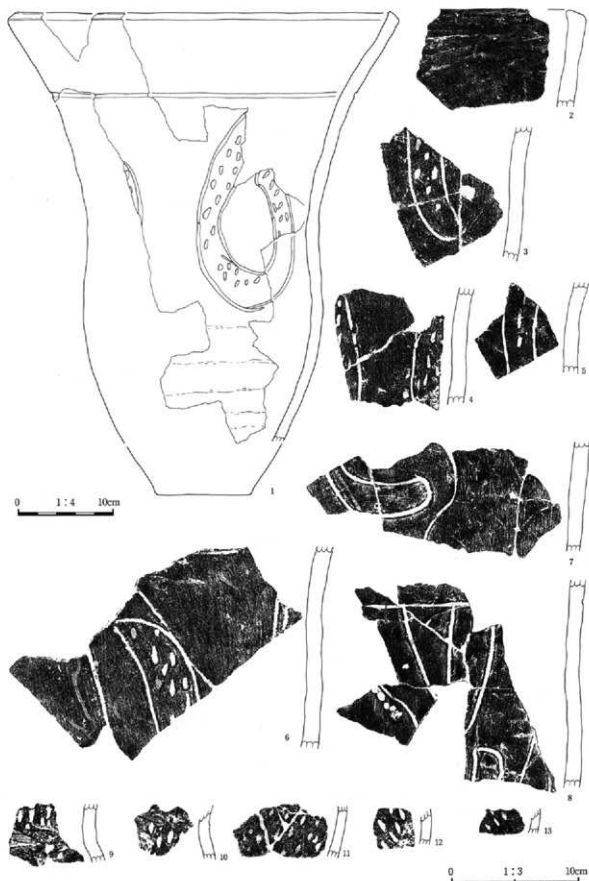
第3章 縄文時代の遺構と遺物



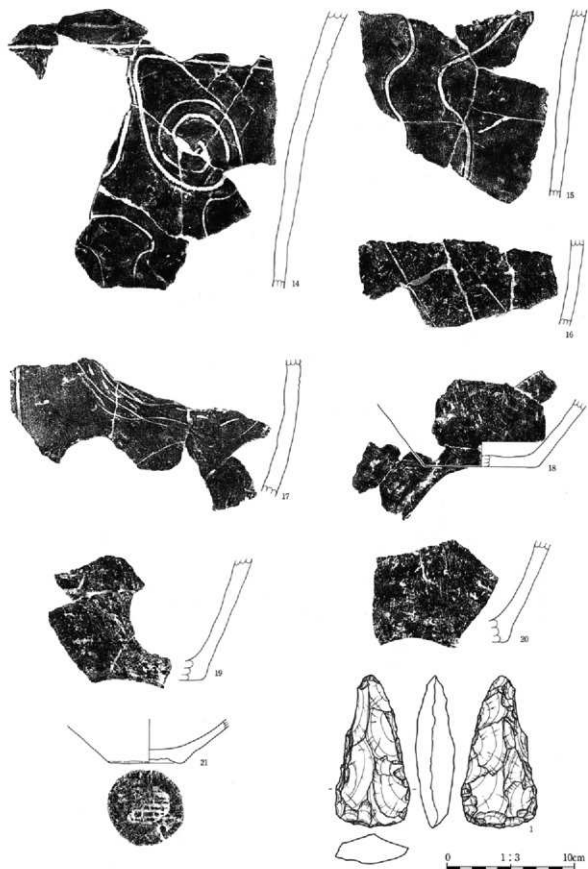
第52図 C17グループ出土遺物 2



第53図 H17グループ遺物出土状況

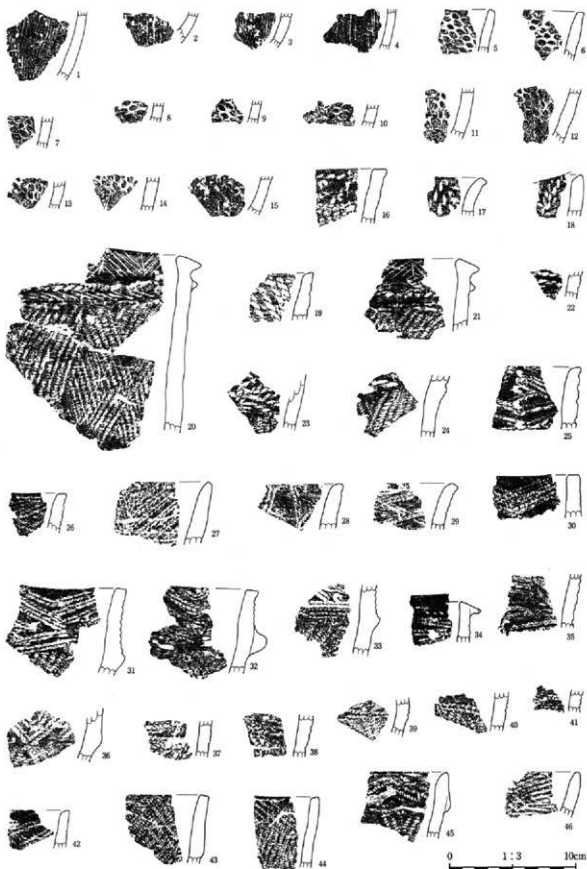


第54図 H17グループ出土遺物 1

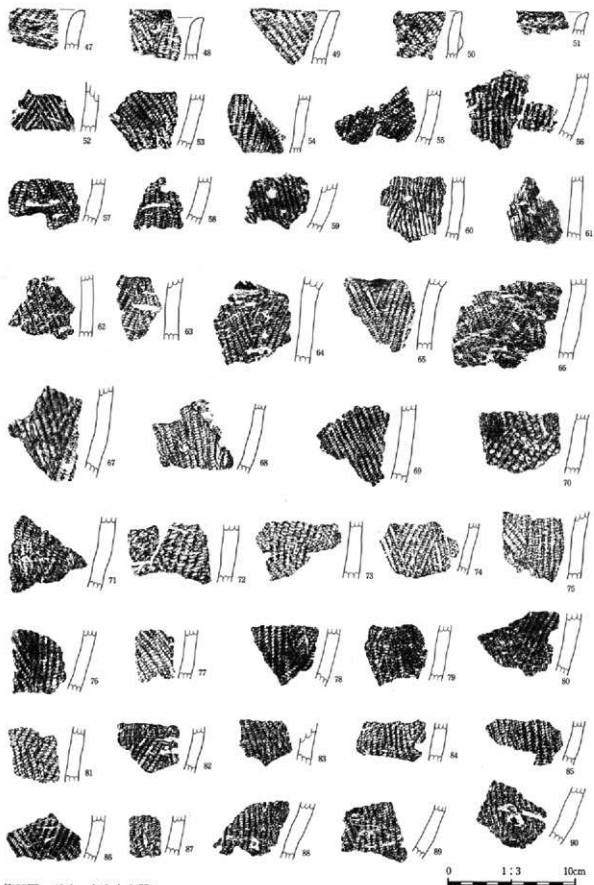


第55図 H17グループ出土遺物 2

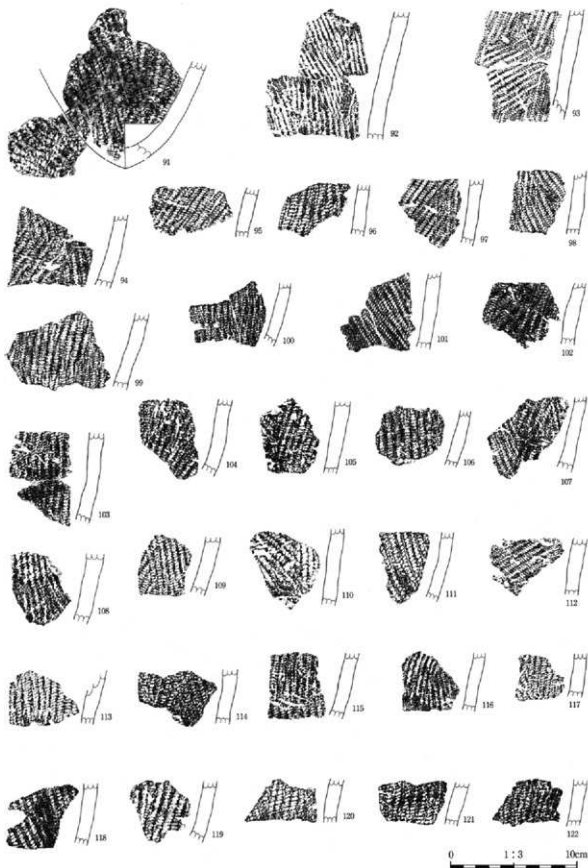
第3章 縄文時代の遺構と遺物



第56図 グリッド出土土器1

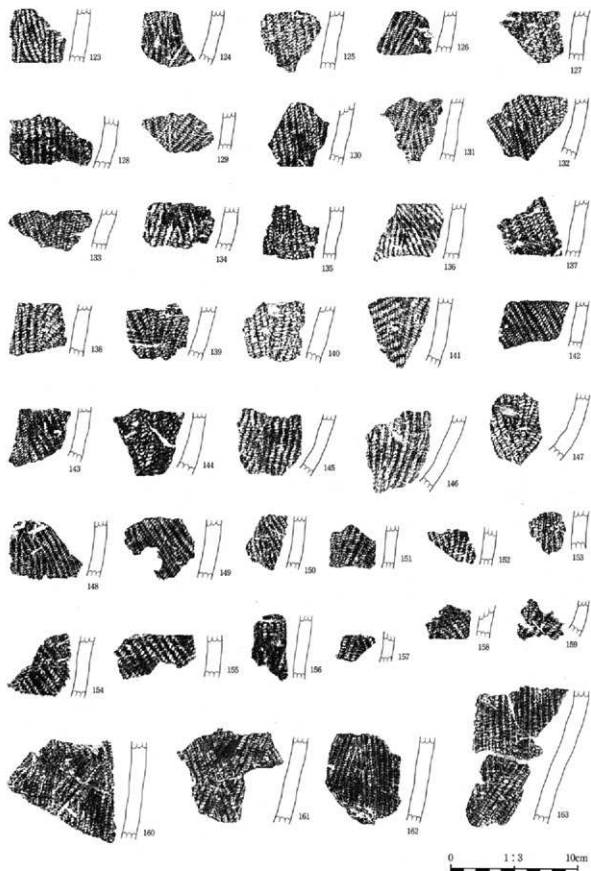


第57図 グリッド出土土器2



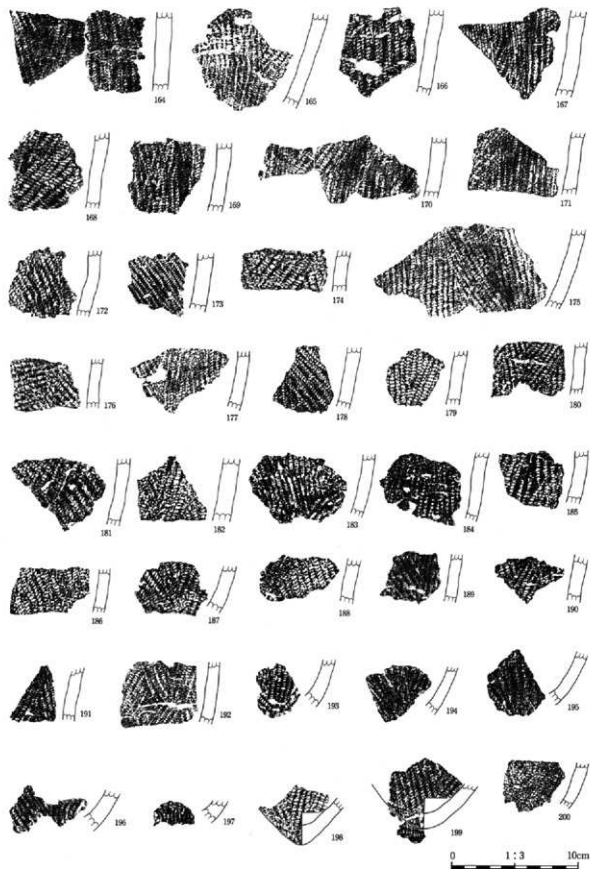
第58図 グリッド出土土器 3



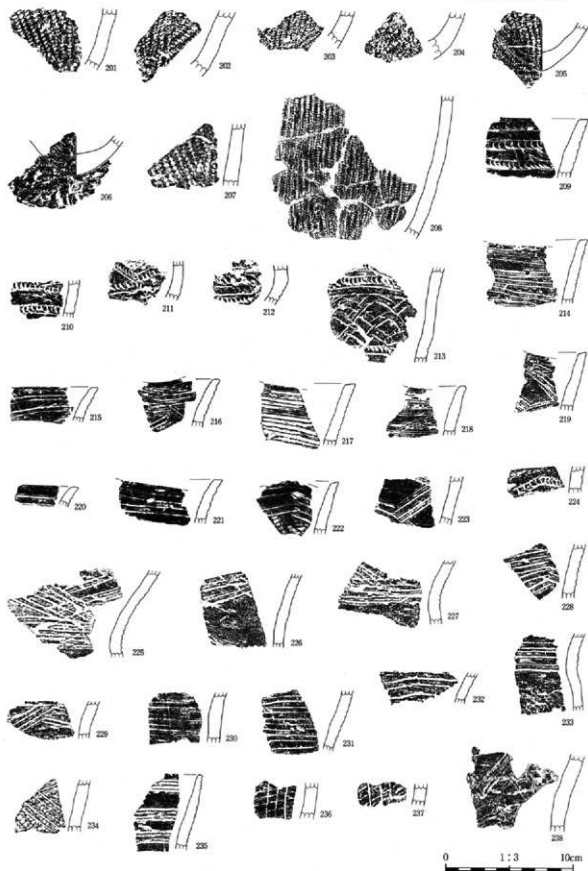


第59回 グリッド出土土器4

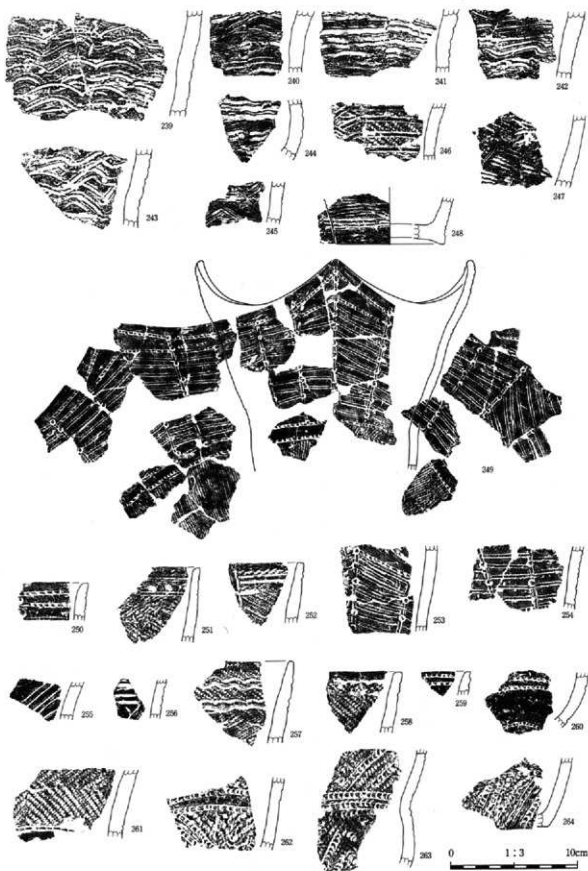
第3章 縄文時代の遺情と遺物



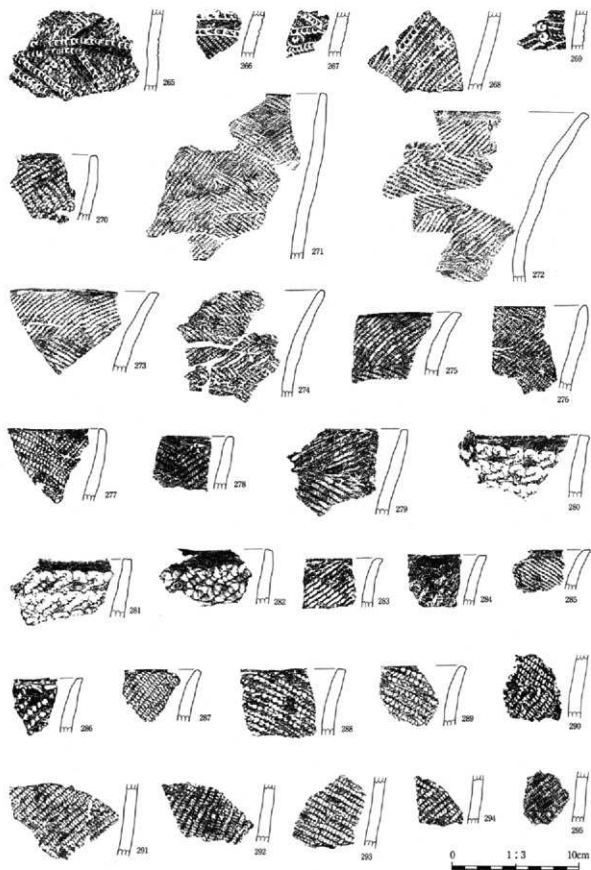
第60図 グリッド出土土器 5



第61図 グリッド出土土器6

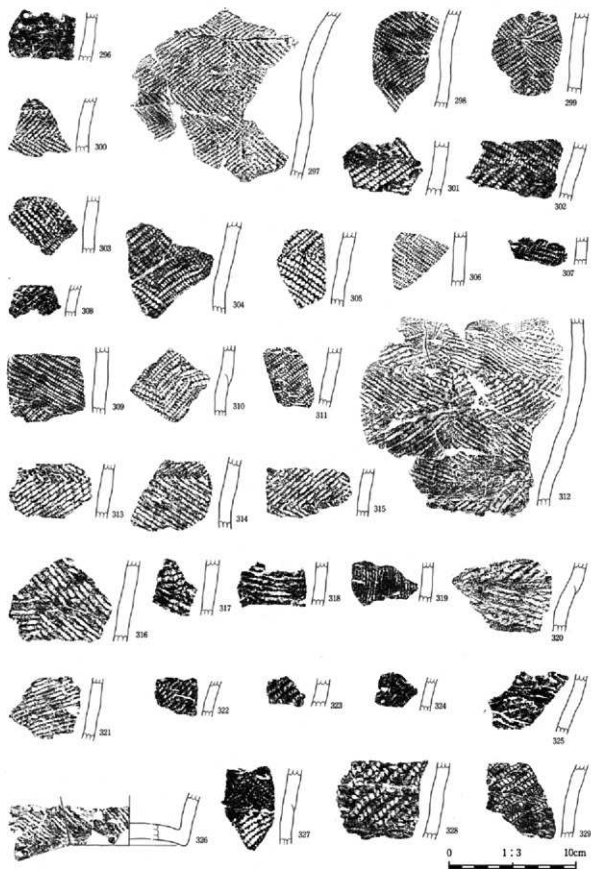


第62図 グリッド出土土器 7



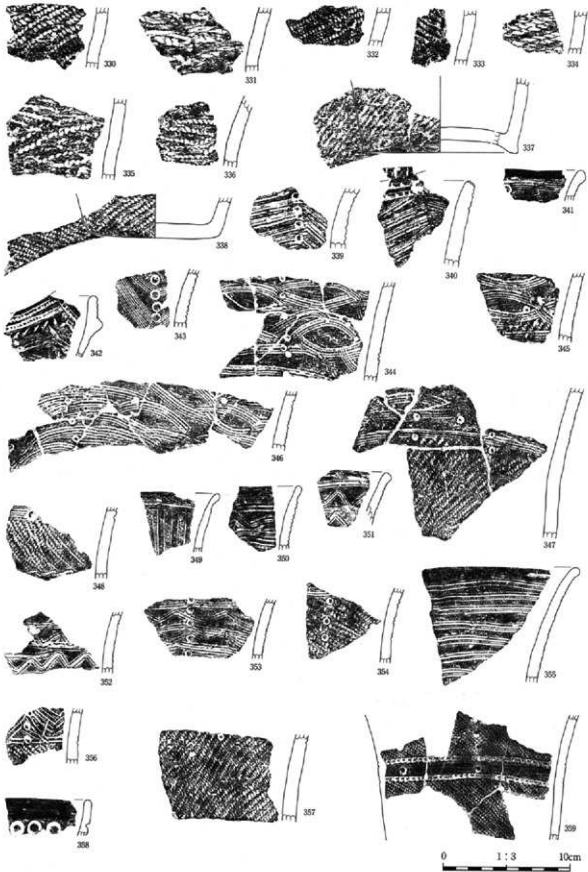
第63図 グリッド出土土器 8

第3章 縄文時代の遺構と遺物



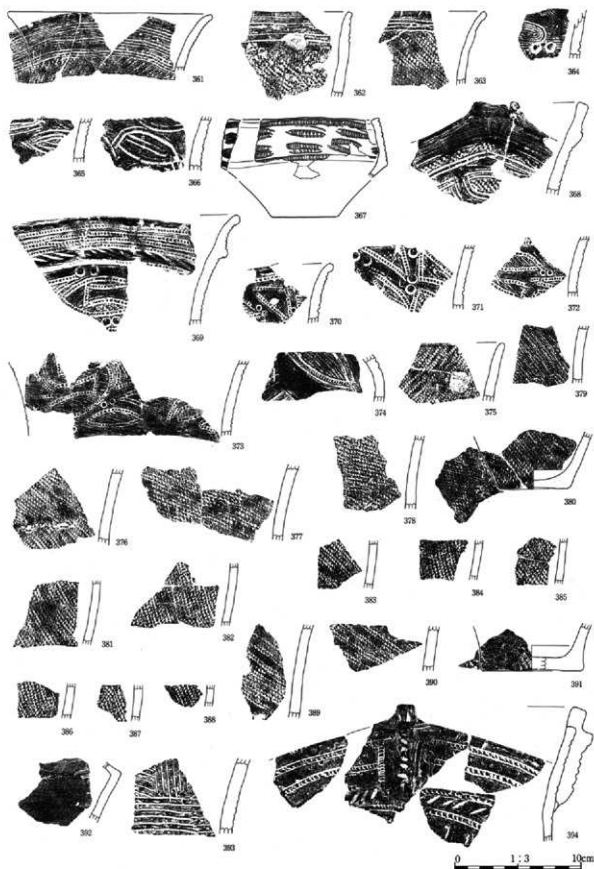
第64図 グリッド出土土器9

4 遺構外出土遺物



第65図 グリッド出土土器10

第3章 縄文時代の遺構と遺物



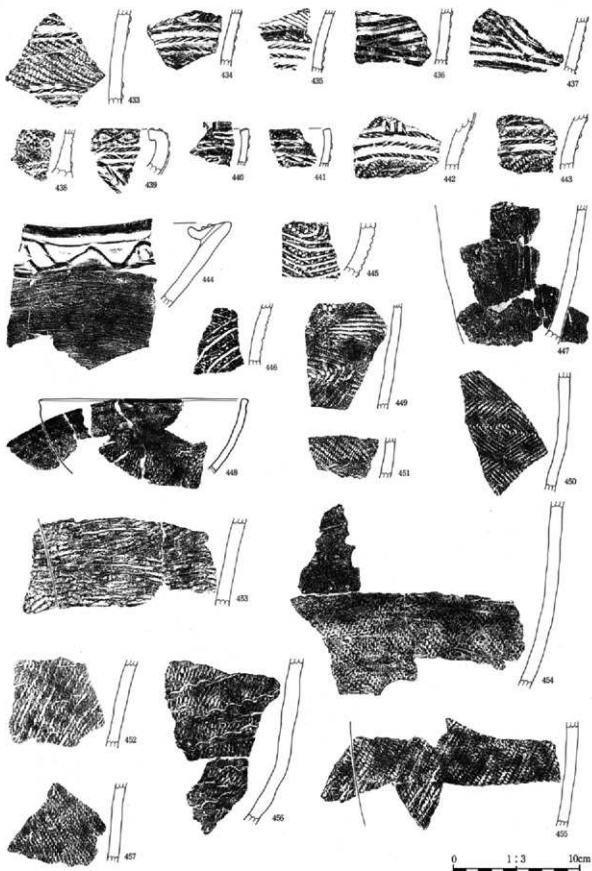
第66図 グリッド出土土器11



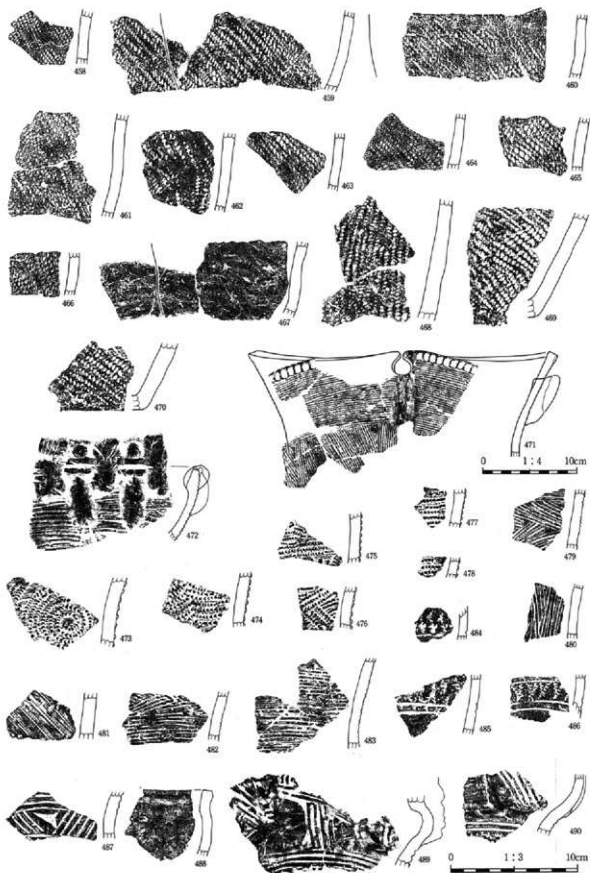


第67図 グリッド出土土器12

第3章 縄文時代の遺構と遺物

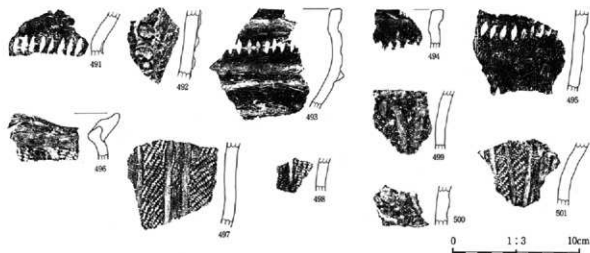


第68図 グリッド出土土器13



第69図 グリッド出土土器14

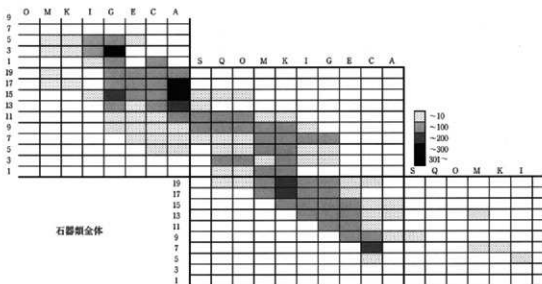
### 第3章 縄文時代の遺構と遺物



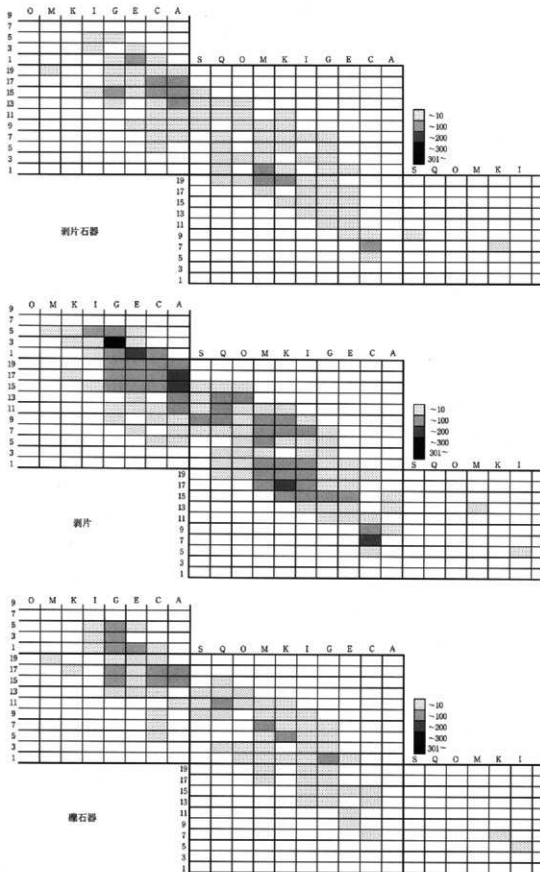
第70図 グリッド出土土器15

### 石器

小型剥片石器に関しては、石匙など、石鏃以外の組成が貧弱である。石鏃には舌部を持つものが若干含まれている。やや大型の剥片を素材としたものでは、表面に礫面を残した剥片の一縁辺に加工を施すものが多い。厚手の剥片を素材としたものでは、急角度の二次加工を施し、搔器の機能を想定させるものもある。遺構外22の石鏃は表裏面を磨かれており、擦痕が観察できる。打製石斧は刃部が片面からの打撃で作出され、搔器状の角度を持つものがある。遺構外61などが典型である。また逆に陣部に加工を施さず、剥片縁辺を残す筈状の遺構外80のようなものも組成している。磨石類に関しては特記することはあまりない。A17グループでは、耳飾の欠損後垂飾に転用したと考えられる石製品 (9) が組成している。

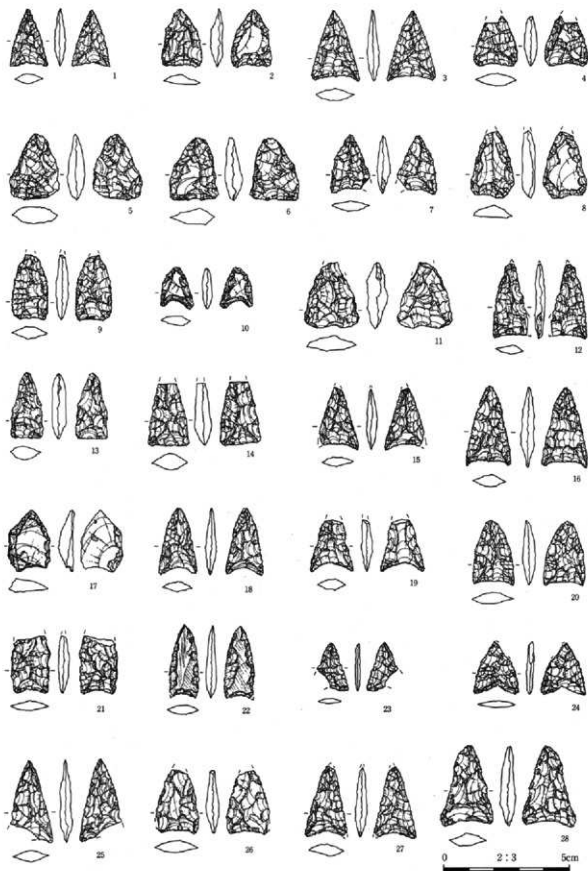


第71図 石器・剥片類のグリッド別出土量概念図 1

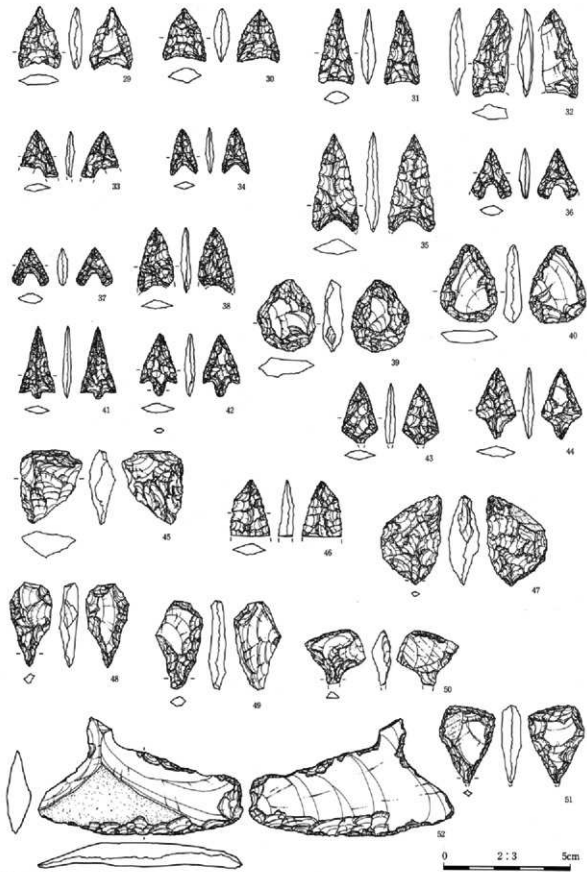


第72図 石器・剥片類のグリッド別出土量概念図 2

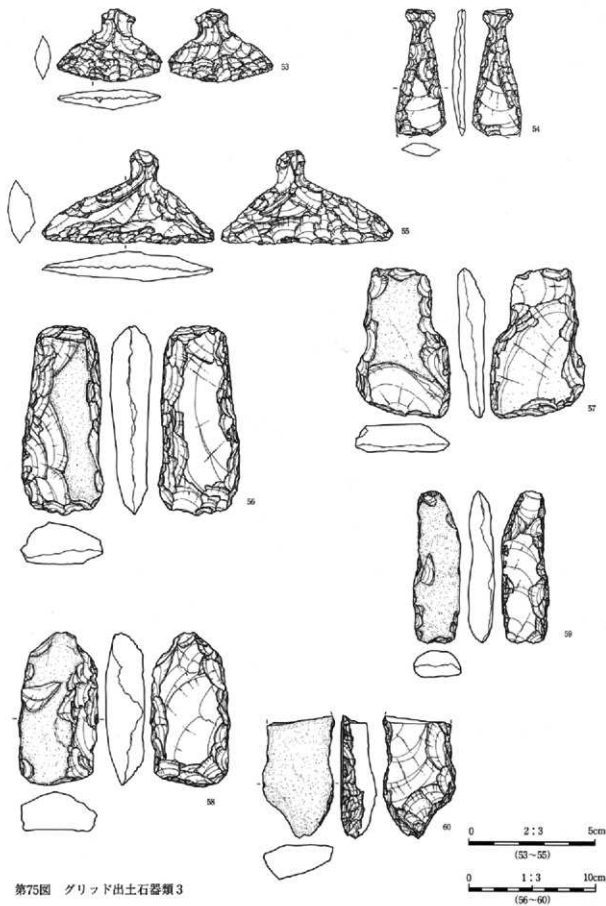
第3章 縄文時代の遺構と遺物



第73図 グリッド出土石器類1

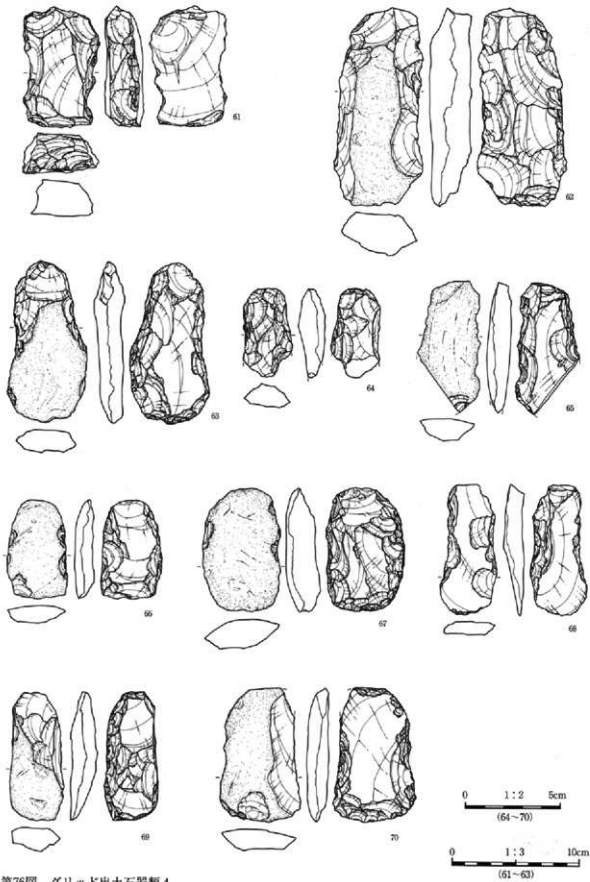


第74図 グリッド出土石器類 2



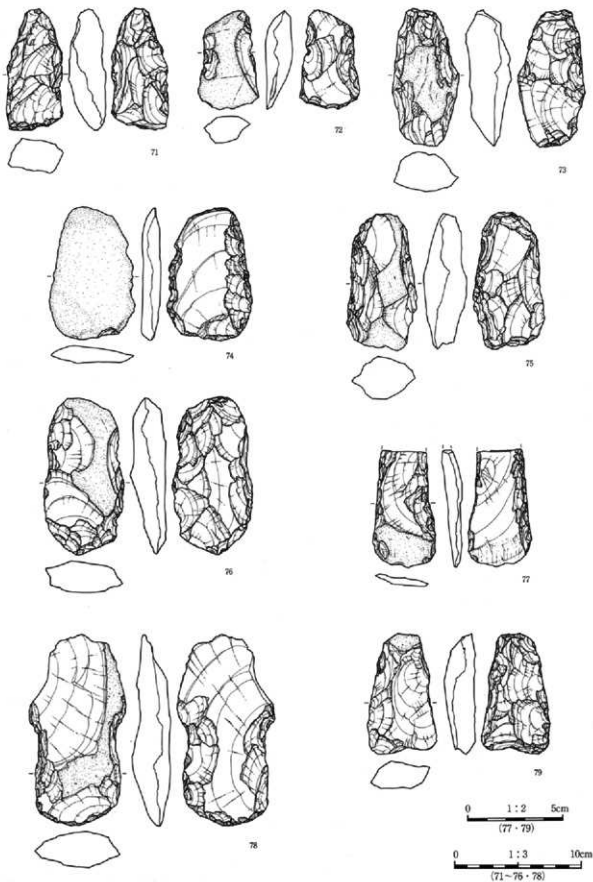
第75図 グリッド出土石器類3



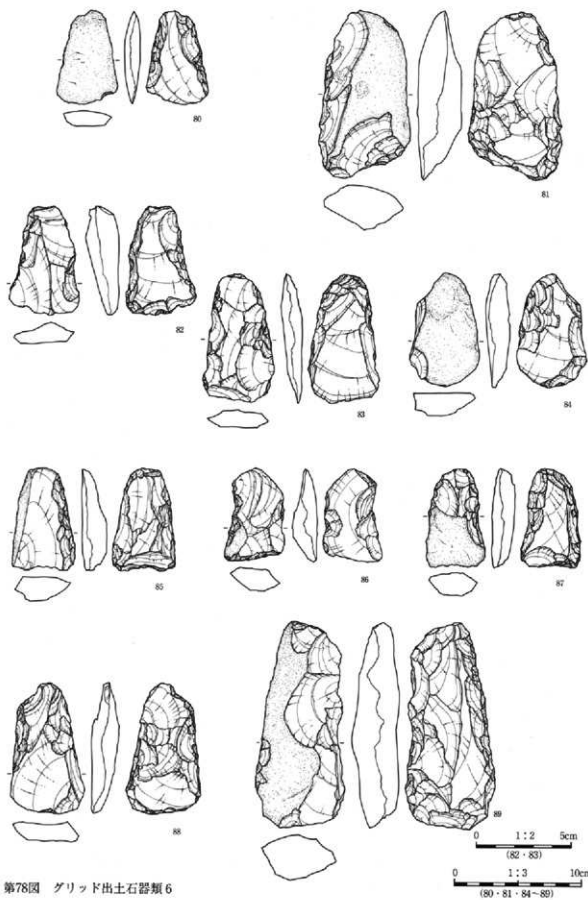


第76図 グリッド出土石器類 4

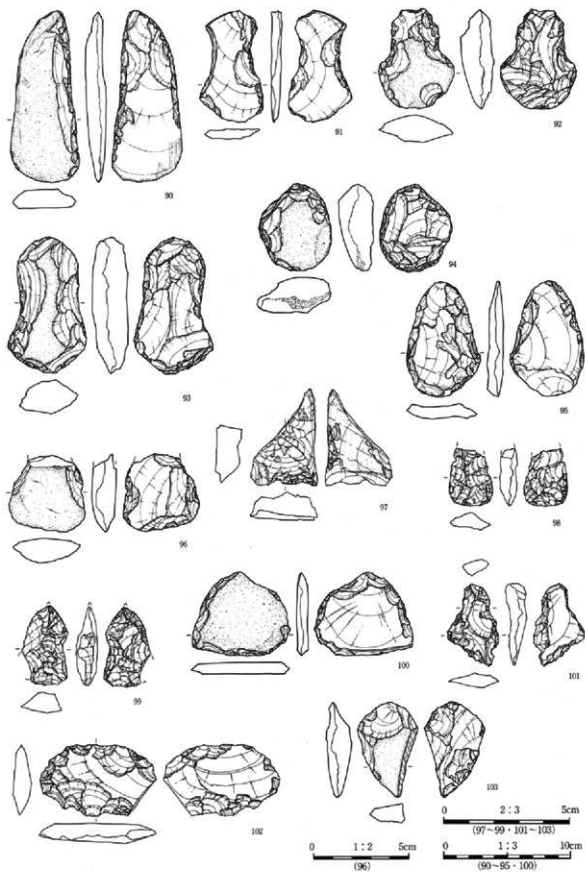
第3章 縄文時代の遺構と遺物



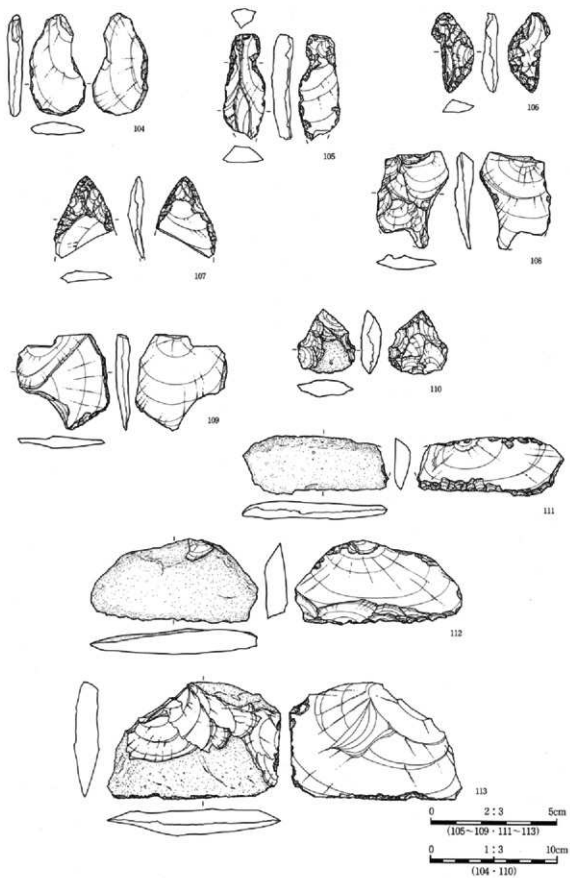
第77図 グリッド出土石器類5



第78図 グリッド出土石器類6

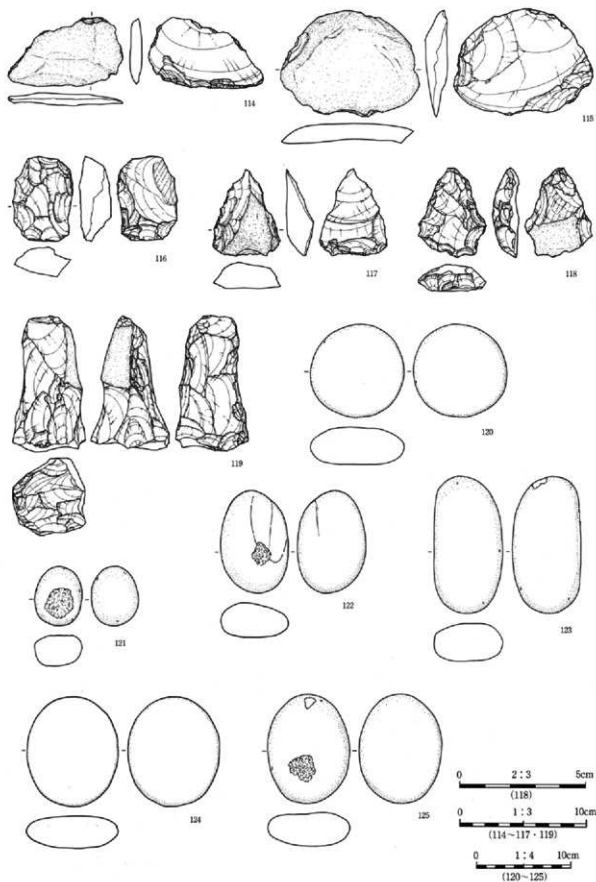


第79図 グリッド出土石器類7

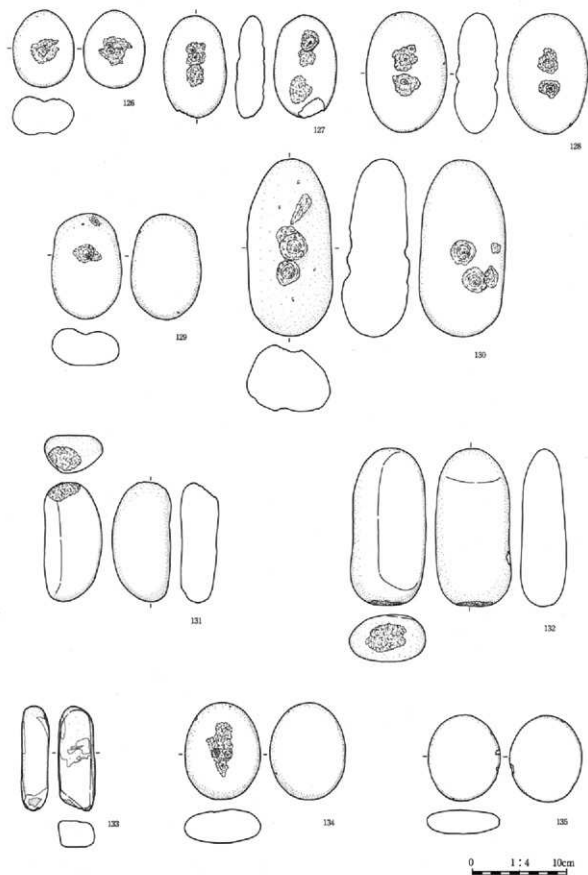


第80図 グリッド出土石器類 8

第3章 縄文時代の遺構と遺物

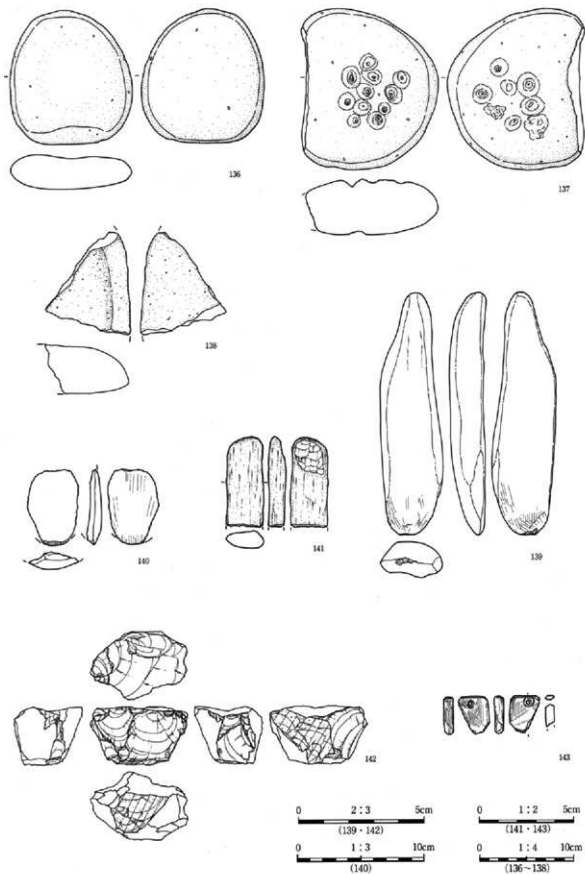


第81図 グリッド出土石器類9



第82図 グリッド出土石器類10

第3章 縄文時代の遺構と遺物



第83図 グリッド出土石器類11



## 第4章 古墳時代の遺構と遺物

### 1 概要

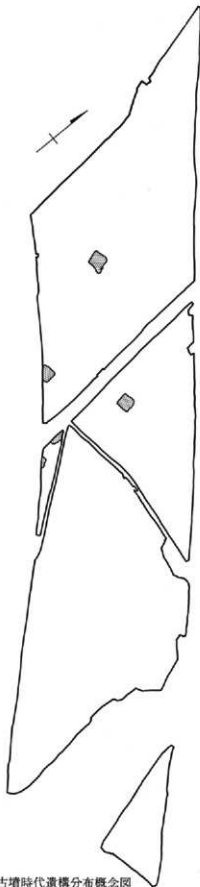
縄文時代後期以後、弥生時代から古墳時代前期、中期にかけての時期の遺構、遺物については、この調査区内ではともに全く認められない。

西側の谷を隔てた萱野遺跡では、台地上に古墳時代中期の比較的大きな集落遺跡が調査されているが、本遺跡では、古墳時代後期、6世紀代にいたってようやく、人々の活動痕跡を再びたどることができるようになる。

本遺跡では、古墳時代の遺構として確認できるものは少ない。堅穴住居5棟のみである。数が少ないため、分布上の傾向を窺うことは難しいが、調査区中央部の台地頂部近くから西向き斜面にかけて、点在するように残されており、全体としては台地頂部近くに占地すると見て良い。前橋市教育委員会による隣接地の調査でも、この時期の遺構が広がる様子は見られない。東側の谷を隔てた富田下大日遺跡では、6世紀代の堅穴住居が数棟調査されていて、本遺跡と同じような状況が認められる。本遺跡にもごく小規模な集落があったものと考えて良いだろう。

調査した堅穴住居はともに、比較的深く地山を掘り込んで作られている。全形をうかがうものはみな、大きめの、整った方形の平面形を持つ。東壁の中央よりに、住居内に張り出した燃焼部を持つ竈がある。この時期の堅穴住居に通有の特徴を備えたものである。33号住居、34号住居は部分的な調査にとどまるが、34号住居では竈の作り替えが認められた。55号住居は火を受けたものらしく、炭化物が多く認められた。56号住居は東壁の延長上に張り出しを持ち、そこに深く大きな貯蔵穴を設備するという形状を有している。

出土遺物は土師器の坏、高坏、壺、甗などで、須恵器がほとんど見られない。33号住居からは石製の紡錘車が出土している。34号住居出土の土師器坏には、底部を削り残した台状突起がつくものがある。



第84図 古墳時代遺構分布概念図

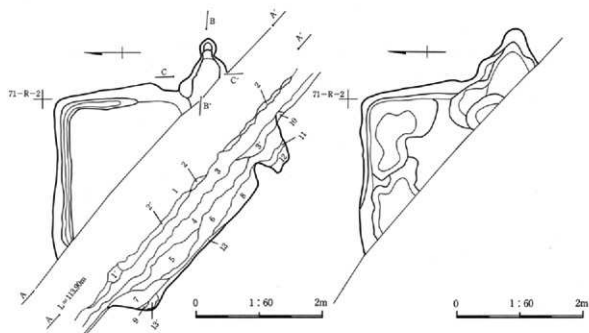
## 2 遺構と遺物

### 33号住居

**位置** 71-R-S-1グリッド 標高113.4mから113.5mの台地頂部に立地する。狭小な調査区であるため、一部を調査したのみである。重複する遺構はなく、北に6mほど離れた、ほぼ同時期と思われる34号住居が最も近い住居である。西の15号住居との間は15mほどある。

**形態** 北西隅部から東壁の中央近くにと当たると思われる一角のみの調査である。北辺の西端は南に屈曲する角部近くに達しているものと思われる。東壁は竈左袖部以北までの調査部分において北壁確認長を越える規模を持っている。横長長方形の平面形であったものと考えられる。**規模** 北壁確認長2.2m 東壁確認長2.6m  
**床** 固く締まったロームを掘り込んでおり、住居中央部はこれをそのまま床とする。壁際は不定形な浅い掘り込みを埋め戻し、これを固めて均平な床を作る。北壁から東壁の竈左手前部分まで周溝がめぐる。

**壁** 全体に40cm強の残存壁高がある。壁周溝を介して、ほぼ垂直に立ち上がる。



### 33号住居 土層観察所見

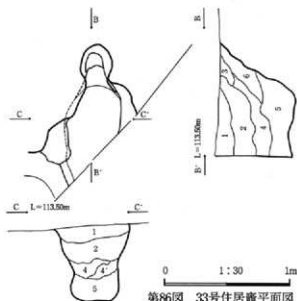
- 1 10YR3/3 暗褐色土 現表土 1' 10YR2/2 黒褐色土
- 2 10YR2/2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。降下堆積状態が大きく乱されていない部分もある。 2' As-Bを多く含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。 3' ローム粒を多量に含む。粘性ない。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒、焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA、ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FA、暗褐色粘土ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 7 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。As-C、Hr-FA、焼土粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 9 10YR4/6 褐色土 ローム粒を含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 10 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。粘性やや弱い。締まりやや弱い。
- 11 7.5YR3/2 黒褐色土 焼土粒、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まっている。
- 12 7.5YR3/4 暗褐色土 灰、焼土ブロックを多く含む。粘性ない。締まり弱くはそぼそ。
- 13 ロームブロック主体。踏み固められた床面 13' ロームブロック少ない。

第85図 33号住居平面図 土層断面図 掘方平面図

柱穴 貯蔵穴 認められない。

竈 東壁を壁外に掘り込み、天井部を暗褐色粘土で構築する。左袖部は地山を掘り残して住居内に張り出す。支脚や構造用材は認められない。燃烧部から短い煙道へ急角度で立ち上がる。主軸方向はN-90°-Eを示す。

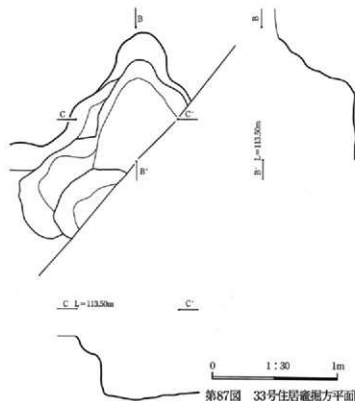
遺物 遺物は少なく、資料化可能であったのは覆土出土の石製紡錘車1点のみであるため、遺物から年代を確実に判断することは困難である。住居の形状や竈の方向が34号住居と共通点するところから、古墳時代後期、6世紀後半ごろの可能性が高いものと思われる。



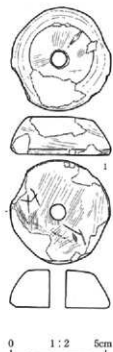
第86図 33号住居竈平面図 土層断面図

33号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA、ローム粒を多量に含む。粘性なし。締まり強い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA、暗褐色粘土ブロックを含む。ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まり強い。
- 4 7.5YR3/2 黒褐色土 焼土粒、焼土ブロック、暗褐色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まっている。4' 締まりなくぼそぼそしている。
- 5 7.5YR3/4 暗褐色土 灰、焼土ブロックを多く含む。粘性なし。締まり強くぼそぼそしている。
- 6 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒、焼土ブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。



第87図 33号住居竈掘方平面図 高低図



第88図 33号住居出土遺物

## 34号住居

**位置** 71-R-S-3.4グリッド 標高113.4mから113.5mの台地頂部に立地する。水路と道路に挟まれた狭小な調査区であるため、東壁から南壁にかけての一部を調査したのみである。重複する遺構はなく、南6mの33号住居が最も近い住居である。北西の56号住居、東の26号住居との間はそれぞれ20m以上ある。

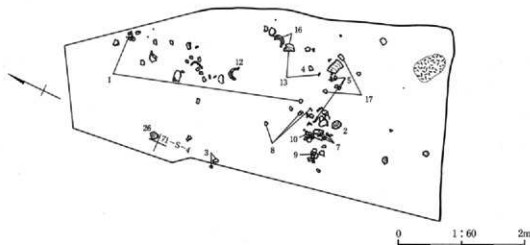
**形態** 東南部のみが調査されたものであるため、全体の形状を確認することはできないが、確認できた東壁および南壁はゆがみのない直線で、東南隅は直角に曲がることから、整った方形あるいは長方形の平面形であるものと思われる。掘方調査では、東部が一段低く掘削されていて、東壁際に竈の煙道口の残痕が認められた。その正面に当たる位置には焼土塊があって、焚口の痕跡と考えられることなどから、この竈を持っていた当初の住居が、東および南へ拡張するように作り直されたものと判断した。なお、調査終了時に住居範囲を確認するための試掘坑を掘削したところ、南壁から6.8mの位置で北壁を確認している。規模 南北6.8m 東西確認長2.9m

**床** 西側は地山をそのまま床として踏み固めている。東側は一段深く掘り窪められた部分に、ロームブロックを多く含む暗褐色土を貼っている。ほぼ均平で、硬く締まった床面である。壁が確認できた竈右手から南壁にかけて、幅は狭いが、深さ6cmから10cmのしっかりとした壁周溝がめぐっている。

**壁** 残存壁高は50cmから54cmある。壁周溝を介して垂直に立ち上がる。崩れのない、しっかりとした壁である。

**柱穴** ビット1およびビット2が支柱穴に当たるものと思われる。南壁東よりも50cm×70cm、深さ10cmほどの、不整形の浅い落ち込みがあるが柱穴とは認められない。ビット1は上端径70cmから90cm、最大深さ78cmであるが、深さ50cmほどに中段を持ち、2基のビットが重複したものと判断した。7層を覆土とする古いビットを切って、新たにビット2と類似した断面形状のビットが作られている。新しいビットの底面近くに礫が置かれているものと考ええる。ビット2は直径50cmほどの円形の平面形を呈し、底径27cmほどの平らな底面を持つ。深さは37cmある。

**貯蔵穴** 東壁の南部に2基の土坑がある。このうち北側の土坑が最終使用時に開口していたものと思われる。上端径70cmほどの円形土坑の北側に、方形の浅い掘り込みが付属する。床面からの深さ66cmで径22cmの円形の底面に達する。竈の右手にあたり、貯蔵穴として良い位置であるが、やや小さく、深い。この土坑の

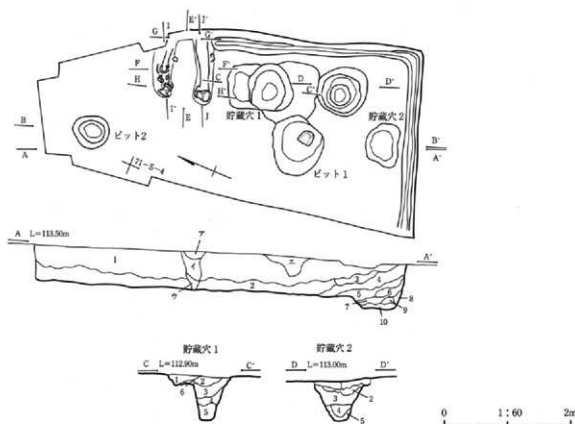


第89図 34号住居遺物出土状況図

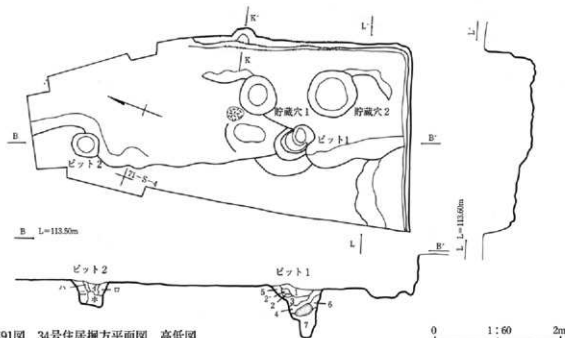
南側にもう1基の土坑がある。上端径78cmほどの円形の平面形を有し、床面から60cmほどの深さで径20cmほどの円形の底面に至る。こちらは床構成土が土坑覆土の上に乗るため、最終使用時には開口していないことがわかる。掘方で認められた旧竈の右手に当たるため、拡張前の住居に伴う貯蔵穴の可能性はあるが、これも貯蔵穴としてはやや深い。

**竈** 最終使用時の竈は東壁中央近くに作られている。煙道部は現水跡下にかかって確認できない。にぶい黄褐色および白色の粘土を用いて住居内に燃焼部を構築している。燃焼部左壁は粘土を基礎にして、土師器の甕を口縁を下にする形で2個並べて構造材としている。焚き口には石を据え、さらに口縁を下に向けた甕を被せた上に粘土を貼っている。右壁は粘土のみで構築されるが、焚き口にはやはり石を据え、これに口縁を下に向けた甕を被せて粘土を貼っている。焚き口天井部には口縁を右に向けた甕を入れ子にして横たえている。燃焼部中央やや奥には、やや小振りの須恵器の甕が据えられ、支脚として用いられていたものと考えられた。主軸方向はN-72°-Eを示す。掘方調査時にはこの竈の南1mほどの壁に、被熱した白色粘土ブロックが入った掘り込みが認められ、この掘り込みの西1.2mの床下には、径20cmほどの範囲で地山が焼けた焼土塊があって、古い竈の痕跡と考えられた。壁際の掘り込みは煙道として間違いなく、焼土塊の部分が焚き口部と考えると、最終使用時と同じような大きさの竈が作られていたものと想定される。

**遺物** 出土遺物は竈構造材のほか、竈以南にかなり多くの土器が分布している。壁際には比較的少なく、貯蔵穴から竈にかけておよびピット1の周辺に多く見られる傾向がある。土師器を中心とし、6世紀後半の土師器の甕、甗、高坏、坏、須恵器の甕、坏など多様な器種がそろっている。また、東南隅近くで鉄製刀子片が出土している。



第90図 34号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図



第91図 34号住居掘方平面図 高低図  
ピット土層断面図

34号住居 土層観察所見

- 1 10YR2/1 黒色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。砂質。締まり弱い。平安朝の土器片を含む。
- 2 10YR4/4 褐色土 As-C, Hr-FAを少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 4 10YR4/6 褐色土 As-C, Hr-FA含む。ロームブロック少量含む。焼土粒、炭化物をごくわずかに含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 5 10YR4/4 褐色土 焼土粒、炭化物粒を含む。As-C, Hr-FAを含む。粘土ブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 6 10YR4/6 褐色土 As-C, Hr-FA含む。ロームブロック少量含む。焼土粒、炭化物をごくわずかに含む。粘性強い。やや締まっている。
- 7 10YR4/6 褐色土 ロームブロック多く含む。As-C, Hr-FA含む。焼土粒、炭化物粒ごくわずかに含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 8 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 9 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 10 10YR5/8 黄褐色土 ロームブロック主体。粘性強い。締まりやや弱い。

34号住居貯蔵穴1 土層観察所見

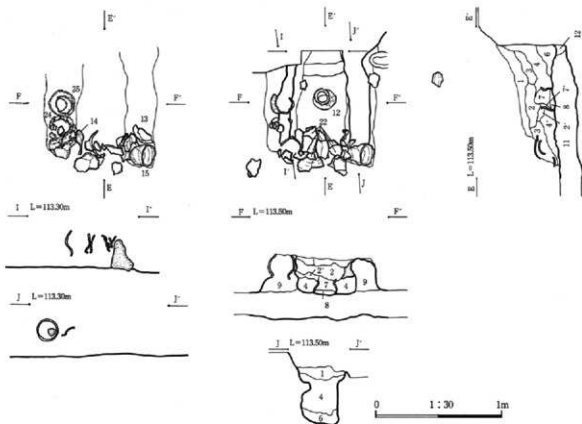
- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ロームブロック少量含む。焼土粒をわずかに含む。粘性弱い。締まり弱くほそぼそ。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを極めて多量に含む。粘性強い。締まりやや弱い。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック、炭化物粒を少量含む。粘性やや強い。締まり弱い。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 BPの混じったロームブロック、焼土粒を含む。粘性やや強い。締まり弱い。

34号住居貯蔵穴2 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック主体。粘性弱い。強く締まっている。粘土床。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、灰色粘土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを極めて多く含む。粘性強い。締まりない。
- 4 10YR4/6 褐色土 ローム土を多く含む。ローム粒、ローム小ブロックを含む。粘性やや強い。締まり弱い。
- 5 10YR5/4 ぶい黄褐色土 ロームを多く含む。炭化物を少量含む。粘性やや強い。締まり弱い。

34号住居ピット1・ピット2 土層観察所見 (1~7:ピット1 イ~ホ:ピット2)

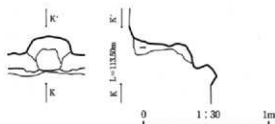
- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA含む。ローム粒少量含む。焼土粒、炭化物粒わずかに含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性ない。締まり弱い。 2' 灰色粘土ブロック。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒を多量に含む。ロームブロック少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多量に含む。炭化物を少量含む。粘性強い。締まり強い。
- 5 10YR5/8 黄褐色土 ローム土を良く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 6 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を良く含む。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性強い。締まり強い。
- 7 10YR5/6 黄褐色土 ローム土を良く含む。ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
- イ 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。焼土ブロックをわずかに含む。粘性強い。締まり強い。
- ロ 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- ハ 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性強い。締まり強い。
- ニ 10YR3/3 暗褐色土-10YR3/2黒褐色土 ローム粒少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- ホ 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体。ロームブロックを多量に含む。粘性強い。締まり強い。



第92図 34号住居竈1遺物出土状況図 平面図 土層断面図

## 34号住居竈1 土層観察所見

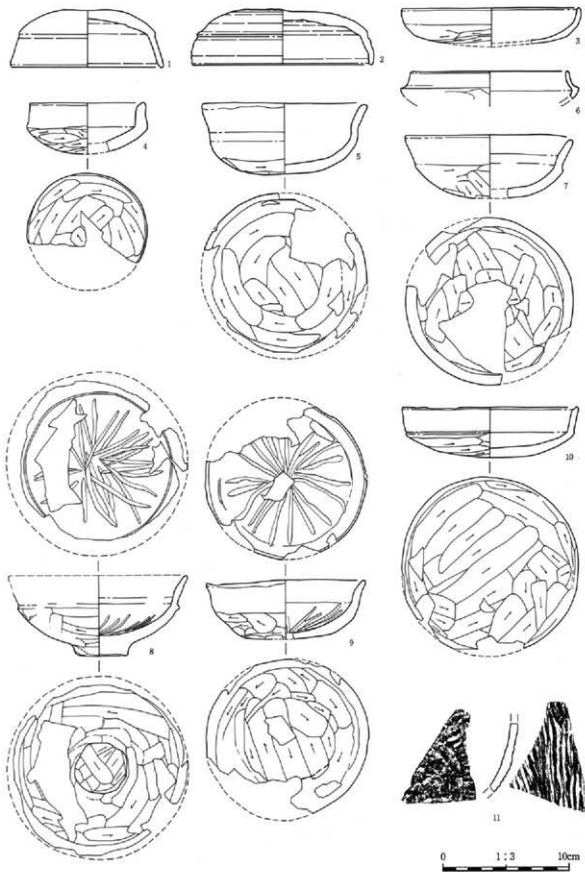
- 1 10YR4/4 褐色土 As-C、Hr-FAを多量に含む。ローム粒含む。暗褐色粘土ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 2 10YR4/6 褐色土 As-C、Hr-FA、ローム粒を多量に含む。ロームブロック、白色粘土ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。2' 粘土ブロックの混入量少ない。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒、白色粘土ブロックを多量に含む。天井崩落土。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。焼土ブロックを少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色土 下面が焼熟した白色粘土ブロックを含む。天井崩落土。
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色土 白色粘土ブロック、焼土ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色土 白色粘土ブロックを含む。支脚内に詰められたもの。7' 粘土ブロック混入量多い。
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 白色粘土ブロックを含む。硬化している。
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色土 白色粘土、ロームブロックをわずかに含む。非常に良く締まっています。
- 10 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 11 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱くぼそぼそしている。
- 12 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まり弱い。



第93図 34号住居竈2平面図 土層断面図

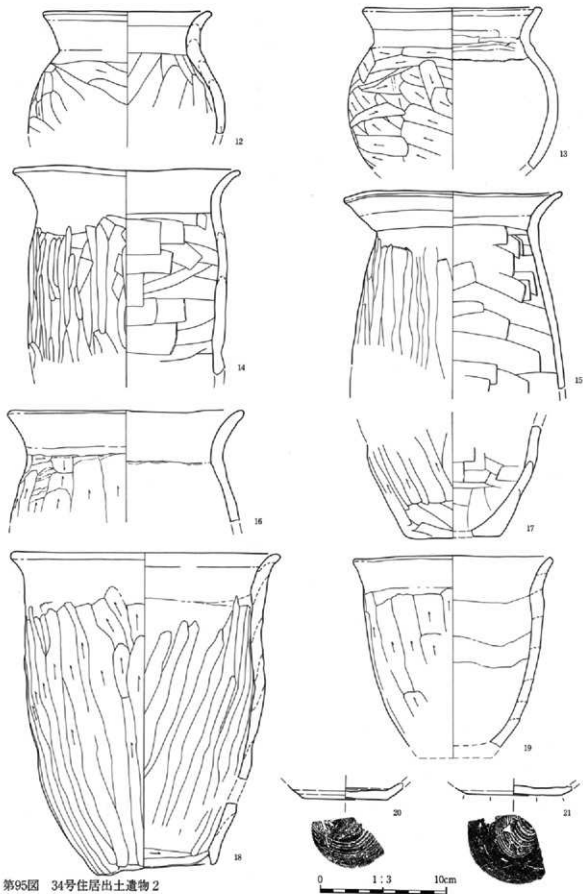
## 34号住居竈2 土層観察所見

- 1 2.5YR4/3 にぶい赤褐色土 白色粘土、ロームブロックをわずかに含む。非常に良く締まっています。

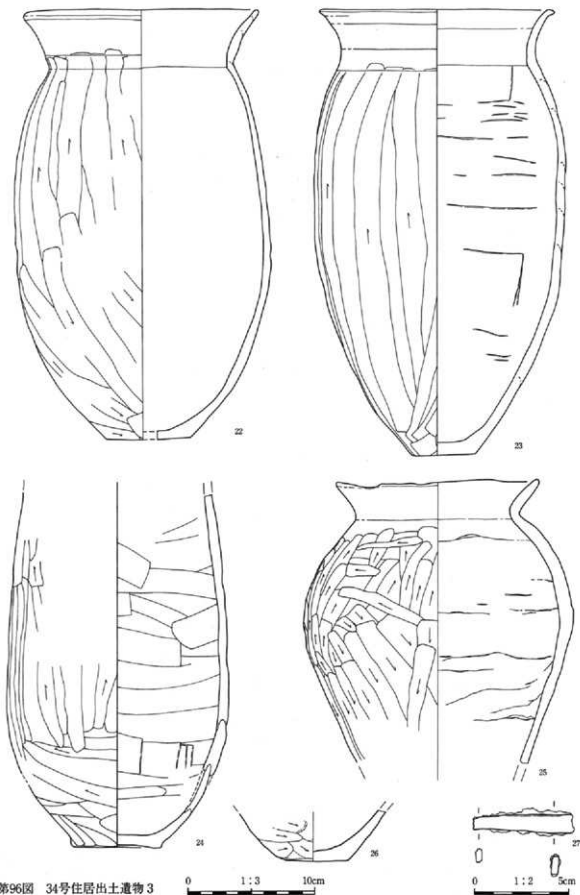


第94図 34号住居出土遺物 1





第95図 34号住居出土遺物 2



第96図 34号住居出土遺物 3

## 36号住居

**位置** 71-P-Q-9グリッド 標高113.8mから140.0mの緩傾斜部に立地する。42号土坑、38号土坑、18号掘立柱建物に切られる。西に35号住居、北東に37号住居がある。同時期の住居として33号住居、34号住居があるが、南西方向にそれぞれ30mほど離れている。

**形態** 整った方形の平面形を有する。東南角はわずかに丸みを持つが、他の三角は稜を持つかのように、鋭く直角に曲がる。規模 東西3.24m 南北3.24m

**床** ハードルーム中に床面がある。掘方には小さな凹凸があり、これをわずかに汚れたブロック状の地山ルームを主体とする褐色土で埋めている。均平で、ごく堅く締まった床面となっている。竈前から住居中央近くにかけて、床面下に炭化物層が見られた。

**壁** 東壁側で56cmから60cm、西壁側で62cmから69cmの残存壁高がある。南壁では、中央部近くでわずかに上方に開き気味になるが、全体としてはほぼ垂直に立ち上がる、整った壁面である。

**柱穴** ビット1からビット4が柱穴に当たるものと思われる。ビット1は長径25cm、短径20cmほどの楕円形で深さ60cm強。ビット2は径24cmほどのゆがんだ円形で、50cmほどの深さがある。ビット3は径24cmほどのゆがんだ円形で深さ36cm。ビット4は長径30cm、短径20cmほどの楕円形で深さ50cm強で、このビットのみ柱痕を残している。それぞれの柱穴間は2mから2.1mある。

**貯蔵穴** 東南隅にある。1辺50cmほどの隅丸方形の平面形で、床面から55cmの深さで、30cm四方の平底気味の底部に至る。

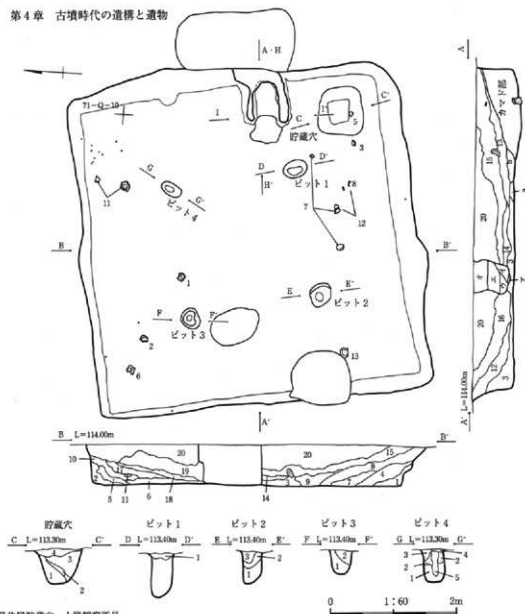
**竈** 東壁中央よりやや南側に作られる。にぶい黄褐色粘土を構築材とし、スサを混じた痕跡が残されている。石などの構築材は用いられていない。燃焼部中央近くに小ビットがあり、支脚の据え方かと思われる。燃焼部は住居内にあり、壁外に煙道を延ばすが、105号土坑に切られている。主軸方向はN-97°-Eを示す。

**遺物** 出土遺物は特定の場所に集中することなく散在する。古墳時代後期のもので、大小の土師器壺、須恵器坏蓋の模倣坏、高坏、須恵器蓋の摘み破片などが出土している。6世紀後半のものと思われる。

## 36号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。ローム小ブロック多く含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 1層とはほぼ同相。ローム粒、ローム小ブロック多く含む。
- 3 7.5YR4/4 褐色土 崩れた地山ルーム主体。ハードルームの小ブロックを含む。暗褐色土の斑を含む。
- 3' 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。
- 4 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、炭化物粒含む。やや締まっている。
- 5 10YR2/2 黒褐色土
- 6 7.5YR2/2 黒褐色土 ローム小ブロック多く含む。炭化物多く含む。
- 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒含む。As-C少量含む。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C含む。
- 9 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。ローム小ブロック、As-C少量含む。
- 10 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。As-C含む。
- 11 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。やや粘質で全体が硬く締まっている。
- 12 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。As-C、炭化物粒含む。やや締まっている。
- 13 10YR4/4 褐色土 As-Cを多く含む。a・b層の円形斑を含む。
- 14 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を含む。As-C、Hr-FAを含む。
- 15 10YR1.7/1 黒色土 As-C、Hr-FA含む。炭化物含む。
- 16 10YR1.7/1 黒色土 As-C、Hr-FA含む。炭化物含む。
- 17 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒含む。As-C少量含む。
- 18 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C含む。
- 19 10YR1.7/1 黒色土 As-C、Hr-FA含む。炭化物含む。
- 20 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA多く含む。10YR2/3の円形斑を多く含む。
- a 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 焼土粒、焼土小ブロック含む。
- b 10YR4/4 褐色土 a層のブロックを含む。焼土、炭化物を含む。

第4章 古墳時代の遺構と遺物



36号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 10YR4/3 におい黄褐色土 ロームブロック、ローム塵を含む。やや粘質。やや締まる。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。1層との境界に沿って径2cmほどのロームブロックが並ぶ。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。やや粘質。1層より締まり強い。
- 4 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。AsC、Hr-FAをごく少量含む。やや粘質。締まりやや強い。

36号住居ピット1 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを含む。AsC、Hr-FAをごく少量含む。堅く締まっている。

36号住居ピット2 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 1層よりローム粒を多く含む。ロームブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。やや粘質。締まりやや強い。

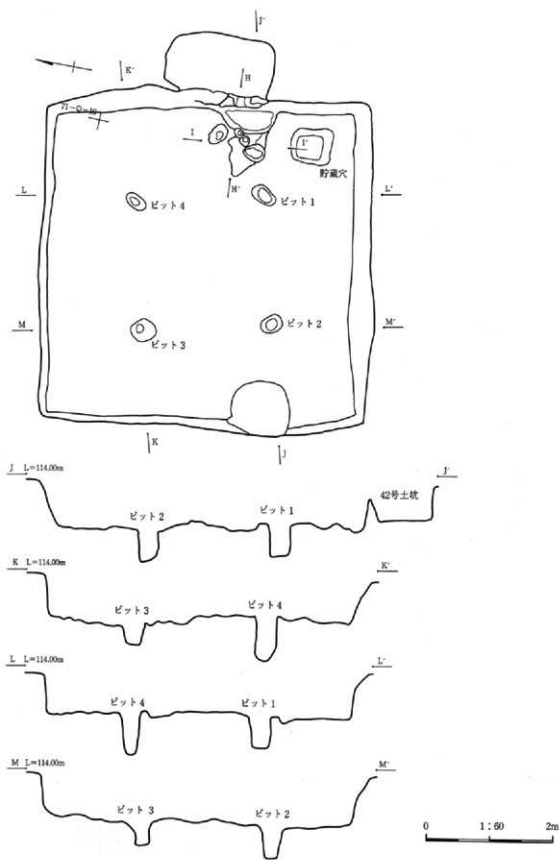
36号住居ピット3 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 1層よりローム粒を多く含む。ロームブロック多く含む。やや粘質。やや締まっている。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。やや粘質。締まりやや強い。

36号住居ピット4 土層観察所見

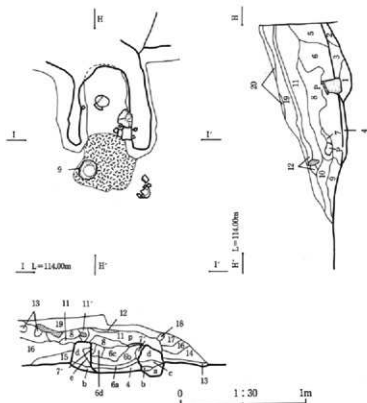
- 1 10YR4/4 褐色土 ロームの再堆積土主体。ロームブロックを含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 2 10YR4/6 褐色土 ロームブロック主体。粘性強い。締まっている。
- 3 10YR4/6 褐色土 AsC、Hr-FAを少量含む。やや粘質。締まっている。
- 4 10YR5/3 におい黄褐色土 微構塵土と同質の粘質土。AsC、Hr-FAを含む。粘性強い。締まっている。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 粘性ない。しりり弱い。柱状。

第97図 36号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴・ピット土層断面図

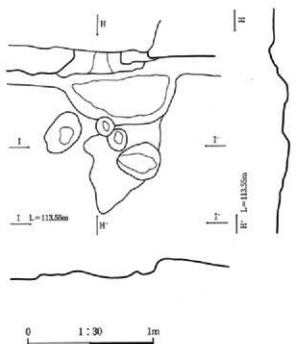


第98図 36号住居掘方平面図 高低図

第4章 古墳時代の遺構と遺物



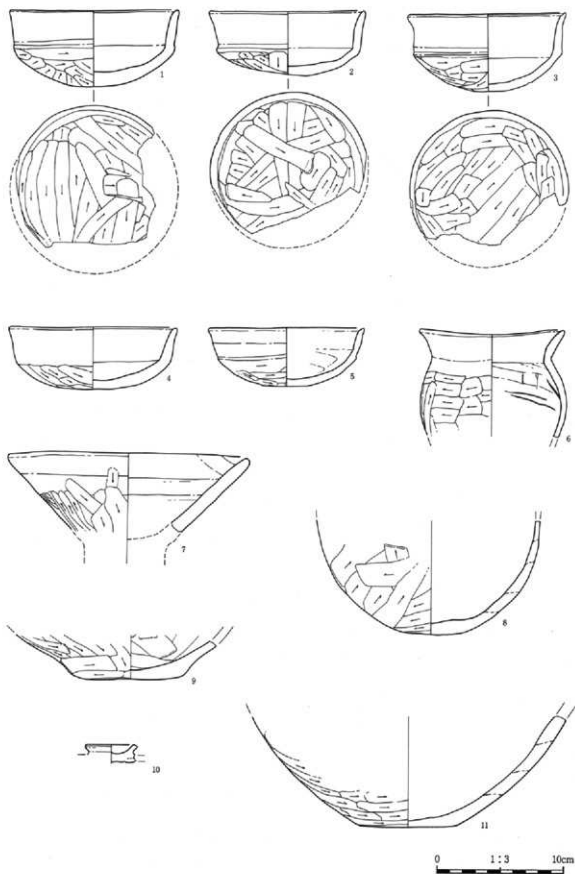
第99図 36号住居壙平面図 土層断面図



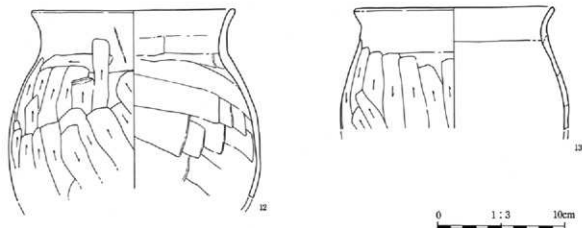
第100図 36号住居壙掘方平面図 高低図

36号住居壙 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 粘質土 Hr-FA、As-C粒を含む。強く締まっている。
- 2 10YR2/3 ローム粒含む。やや粘質、やや締まっている。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 Hr-FA、As-C粒を含む。焼土粒を多く含む。粘性弱く、締まりも弱い。
- 4 焼土
- 5 10YR5/4 炭化物、焼土粒含む。構築粘土の斑を含む。粘性強く、締まっている。
- 6a 灰と褐色土の混土。焼土小ブロック3%含む。
- 6b 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（腐構築土）を主体とし、焼土ブロック5%含む。
- 6c 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（腐構築土）。天井が崩落したもので、下部が強く焼け焼土化する。
- 6d 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（腐構築土）を主体とし、焼土ブロックを少量含む。
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（腐構築土）。締まっている。
- 7' 腐築土が焼き締まった部分。スサが入っている。
- 8 10YR4/4 ローム粒多く含む。7層の斑を含む。焼土粒少量含む。やや締まっている。
- 9 10YR2/3 ロームブロック、7層斑を少量含む。Hr-FA、焼土粒、炭化物を含む。
- 10 10YR3/3 As-C、Hr-FA、炭化物を含む。7層の斑を多く含む。
- 11 10YR3/4 暗褐色土 7層の斑を主体とする。As-C粒を含む。粘質。締まっている。
- 11' 10YR3/4 暗褐色土 7層の斑を主体とする。As-C粒を含む。粘質。締まり弱く乱れる。
- 12 10YR4/4 7層の斑を多く含む。As-C粒を含む。ローム粒少量含む。締まっている。
- 13 10YR4/4 7層の崩れたもの。
- 14 10YR3/4 暗褐色土 粒状の7層、ローム粒、炭化物粒を含む。締まり弱い。
- 15 10YR3/4 暗褐色土 粒状の7層、ローム粒を含む。締まり弱い。
- 16 10YR4/4 ローム粒、ローム斑を多く含む。炭化物粒を含む。締まり弱い。
- 17 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム斑を多く含む。焼土粒を少量含む。締まり弱い。
- 18 ロームブロック。
- 19 10YR3/3 As-C、Hr-FA、炭化物、7層の斑を含む。
- 20 10YR2/3 As-C、Hr-FA、炭化物を含む。
- a 10YR5/6 黄褐色土 腐築土のブロックを少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- b 地山ロームのブロック。
- c 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質土 袖基部の粘土。ローム粒を少量含む。粘性強く、締まっている。
- d 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土 構築土。砂粒を含む。ごく硬く締まっている。
- e d層が焼けて、やや変質している。



第101図 36号住居出土遺物1



第102図 36号住居出土遺物 2

#### 55号住居

**位置** 72-B-C-5.6グリッド 標高113.3mから113.5mの台地頂部に近い西南向き緩傾斜部に立地する。北側に小さな谷が入る。西に向かう傾斜はこれ以西で急に強くなり、各時代を通じて遺構が認められなくなる。南西隅が調査区外になる。遺構が希薄な部分であり、北西の54号・56号住居まで40m以上、北東の36号住居まで30m、南東の34号住居まで20mほどの間隔がある。

**形態** 南西隅が調査区外になるため、全体の形状を把握できないが、ほぼ整った方形の平面形を呈するものと見られる。東南角は貯蔵穴が占めてわずかに張り出す傾向を見せるが、北東、北西の両角は比較的強く屈曲する。 **規模** 南北4.73m 東西4.68m

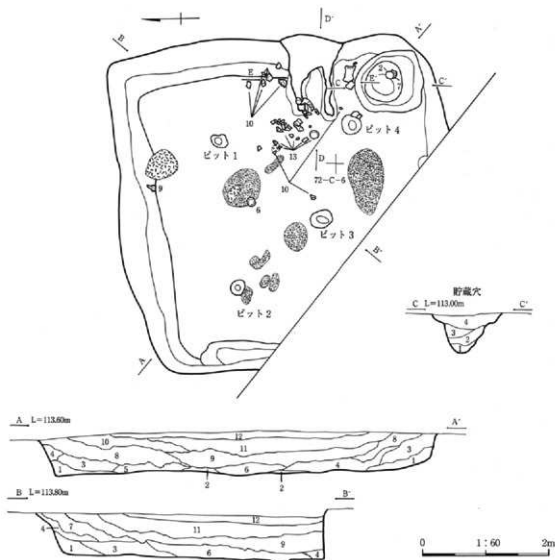
**床** 掘削面を床面とし、貼り床は見られない。ハードルーム中において、緩やかに波打つような凹凸があるものの、堅く締まった床面である。竈と貯蔵穴部分を除く壁際は、周溝状に掘り窪められる。西壁部ではこの幅がやや広くなる。焼失した住居であるらしく、床直上の各所に焼土や炭化物の集中が見られる。柱穴間および柱穴に囲まれた内側の部分に炭化物が多い傾向が認められる。個々の形をとどめない、細片化した炭が多く、住居構造にかかわる材としての形状をとどめたものはない。

**壁** 上部がわずかに崩れているが、総体としては垂直に近い立ち上がりを示す。南部では50cmほど、北部から東部に架けては60cm前後の残存壁高がある。

**柱穴** 主柱穴と考えられるもの3基（ピット1-3）がある。住居の対角線上に配置されるようで、南東の柱穴も調査区外にあるものと思われる。ピット1は径29cm、深さ22cm、ピット2は径28cm、深さ34cm、ピット3は径26cm、深さ56cmで、それぞれゆがんだ円形の平面形を有する。径は比較的近い数字を示すが、深さにはかなりの差がある。柱間の距離は1-2間が2.18m、2-3間が2.25mある。住居中央やや南よりも径37cm、深さ27cmの円形ピットがある。また、南壁の中央近くには径26cm、深さ8cmのピットがあるが、機能を推定する根拠を欠く。

**貯蔵穴** 南西隅に壁をやや掘り込むように作られている。一辺94cmほどの隅丸方形で、幅10cmほどの犬走





## 55号住居 土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色壤土 10YR5/6黄褐色ロームブロックを多量に含む。
  - 2 10YR3/3 暗褐色壤土 炭化物粒、焼土粒含む。ローム小ブロック含む。
  - 3 10YR4/6 褐色壤土 10YR5/6黄褐色ロームブロックを多く含む。炭化物(材片)含む。
  - 4 10YR4/6 褐色壤土 10YR5/6黄褐色ロームブロック、ローム粒を多く含む。
  - 5 10YR3/3 暗褐色壤土 炭化物粒、焼土粒含む。
  - 6 10YR2/3 黒褐色壤土 As-C多く含む。炭化物(材片)、焼土粒多く含む。
  - 7 10YR3/3 暗褐色壤土 As-C、Hr-FA含む。ローム20%含む。
  - 8 10YR3/3 暗褐色壤土 As-C、Hr-FA含む。ローム7%含む。
  - 9 10YR2/2 黒褐色壤土 As-C、Hr-FA多く含む。
  - 10 10YR3/3 暗褐色壤土 As-C、Hr-FA、ローム粒含む。
  - 11 10YR2/3 黒褐色壤土 As-C、Hr-FA多く含む。
  - 12 10YR2/1 黒色砂壤土 As-Bを多量に含む。
- 貯蔵穴 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(As-BPのバニス)を多く含む。ローム小ブロック含む。締まりない。  
 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。締まりない。  
 3 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ローム小ブロック主体。締まりない。  
 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。炭化物粒少量含む。やや締まっている。

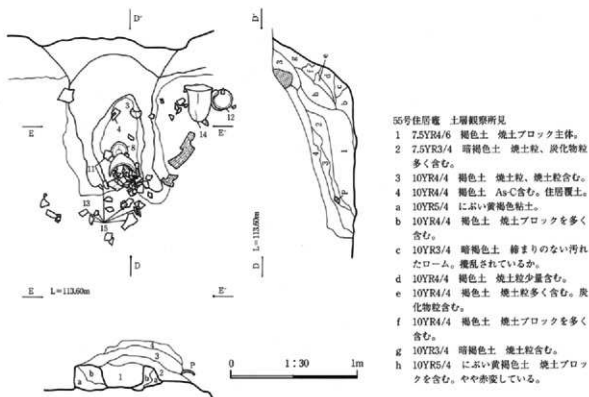
第103図 55号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図

#### 第4章 古墳時代の遺構と遺物

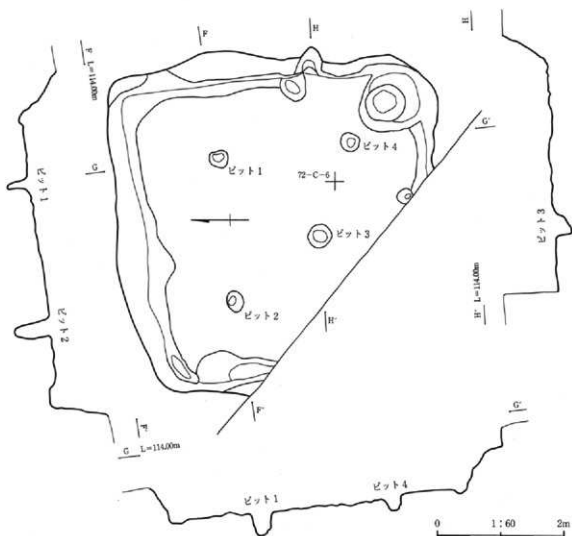
り状の中段を持っており、中央に径70cm、深さ65cmの丸底の底面を持つ円形土坑が掘り込まれている。下層覆土は黒褐色土とロームを多く混じる褐色土であるが、締まりが弱く、上層の暗褐色土のみやや締まっている。

竈 東壁やや南よりにある。にぶい黄褐色粘土で本体を構築し、特定の構造材は用いられていない。強く焼けた構築土が崩落した多量のブロックが燃焼部に落ち込んでいるが、燃焼部底面は床面と同レベルにあって掘り込まれていない。支脚には土師器高坏(6)が使用されており、原位置をとどめているが、灰や炭化物の層は認められない。煙道は壁を切り込んで、傾斜を持って立ち上がっている。主軸方向はN-87°-Eを示す。燃焼部内の支脚から焚き口側にかけて、土師器甕を中心とする多くの土器が出土している。竈右袖と貯蔵穴の間には土師器甕(12・14)が置かれている。

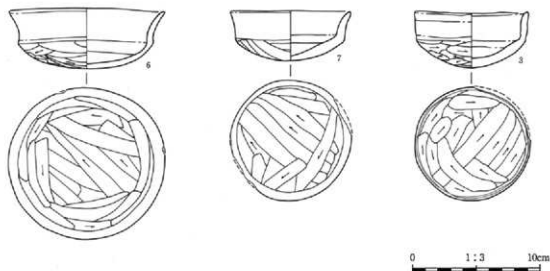
遺物 遺物は竈内およびその周辺から貯蔵穴にかけて集中する。土師器のみであり、甕と須恵器の坏蓋を模倣した坏を中心とする。坏は内面に暗文を施すものが多い。また、口径9cm前後の小型坏が見られる点は56号住居と共通する。6世紀前半と考えられる。



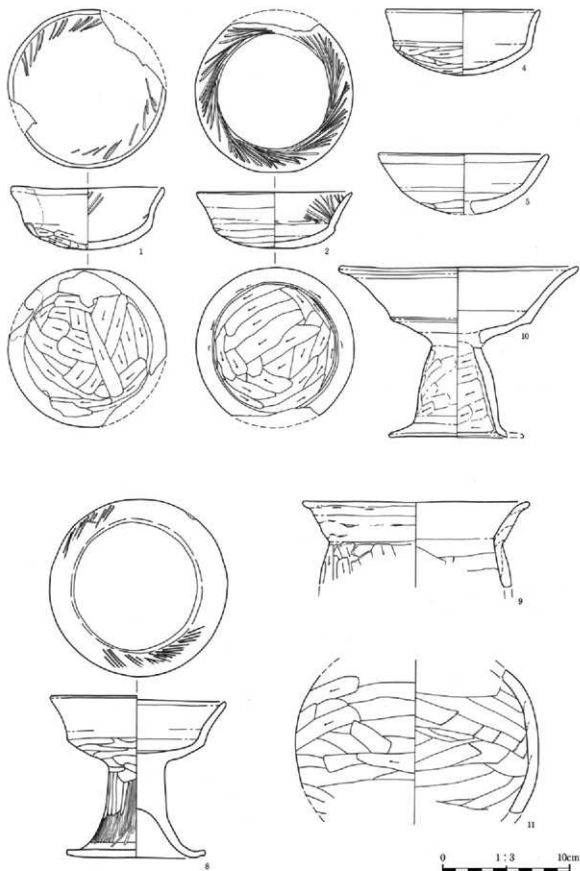
第104図 55号住居竈平面図 土層断面図



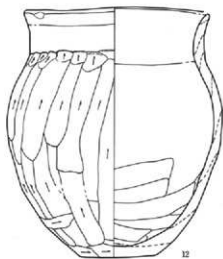
第105図 55号住居掘方平面図 高低図



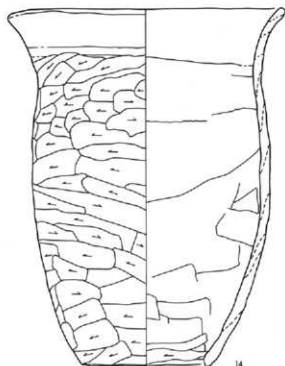
第106図 55号住居出土遺物 1



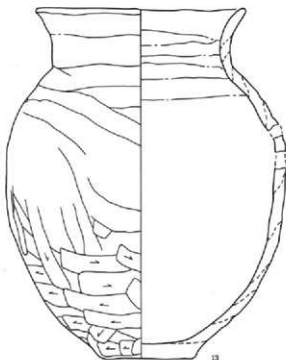
第107図 55号住居出土遺物 2



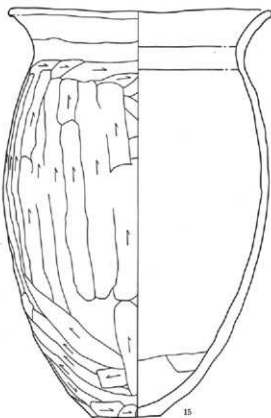
12



14



13



15



第108図 55号住居出土遺物 3

## 56号住居

**位置** 72-F.G.H-14.15グリッド 標高113.1mから113.3mの西向き緩傾斜部に立地する。南側には小さな谷が入る。西に向かう傾斜はこれ以西で急に強くなり、各時代を通じて遺構が認められなくなる。散在的な古墳時代住居の中でも孤立的な位置にあり、直近の55号住居まで40mを越える間隔がある。54号住居が中央東よりすっぽりと入り込むように掘られている。覆土の上位には汚れて、ブロック化してはいるものの、部分的に火山灰部分をとどめるAs-Bが堆積し、その下にAs-C、Hr-FAを含む黒褐色土が堆積しているが、これは54号住居廃絶後の堆積土であり、本来本住居を埋没させているのはローム粒やロームブロックを多く含む褐色から黒褐色の壤土である。

**形態** 東壁南部から北壁中央部にかけてを試掘トレンチが斜めに切っているが、平面形状は損なわれていない。方形を基本としているが、西壁と北壁がそれぞれ対向壁よりやや短いためにわずかにゆがんでいる。この本体の東南隅に、東壁を南に延長した方形の小さな張り出しが付属し、貯蔵穴が作られている。各隅は小さな丸みを持って屈曲する。

**床** 掘削底面を踏み固めて床としており、貼り床は見られない。ハードローム中にあり、緩やかな凹凸はあるものの、ごく堅く締まった、しっかりとした床面である。壁周溝は認められない。

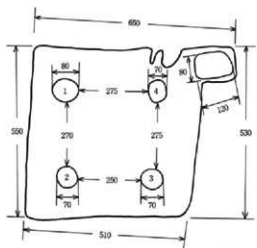
**壁** 西側で50cmほど、東側では70cm近い残存壁高がある。垂直に近く立ち上がる。

**柱穴** 4本ある。それぞれ床面での掘方上端径70cmから80cmほどのゆがんだ円形の平面形を有するが、南西のピット2だけが床面から25cmと浅く、他は60cm以上、特にピット1は70cmを越える深さがある。ピット1には土師器甕が南方向から流入したような形で出土している。

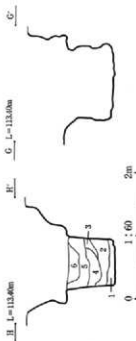
**貯蔵穴** 東南隅に住居本体から南へ突出する張り出し部の中に貯蔵穴が掘られている。張り出しは東壁の延長上に、間口1.1m、奥行き1.2mの大きさがあり、床面は住居本体からそのまま連続する。貯蔵穴は張り出し部壁下から10cmないし15cmの犬走り状の空間をおいて掘られている。東壁に沿って南北に長軸を置く隅丸長方形の平面形で、長軸1.2m、短軸0.82mほどの大きさがある。深さは70cmほどもあり、ほぼ垂直な壁と、平らで締まった底面を有する。覆土最上位は住居埋没土と共通する黒褐色土であるが、以下はローム粒を多く含み、締まりの弱い暗褐色から黒褐色土である。炭化物などはほとんど含まれず、土器等の遺物も出土していない。

**竈** 東壁の南端近くに作られる。右袖部を除いて試掘トレンチに切られる。暗褐色粘土で構築され、右袖には土師器甕を構造材として用いている。燃焼部は床面をわずかに掘り窪めた程度であり、支脚に用いられたと見られる小型の土師器高坏が中央に据えられている。主軸方向はN-91°Eを示す。

**遺物** 遺物量は少なく、竈内と竈からピット1にかけての部分に集中する。土師器の坏、高坏、甕、瓶がある。坏は須恵器坏を模倣したもので、口径10cmほどの小型品である。高坏の坏部もこれに準ずる。6世紀前半と考えられる。



第109図 56号住居計測模式図

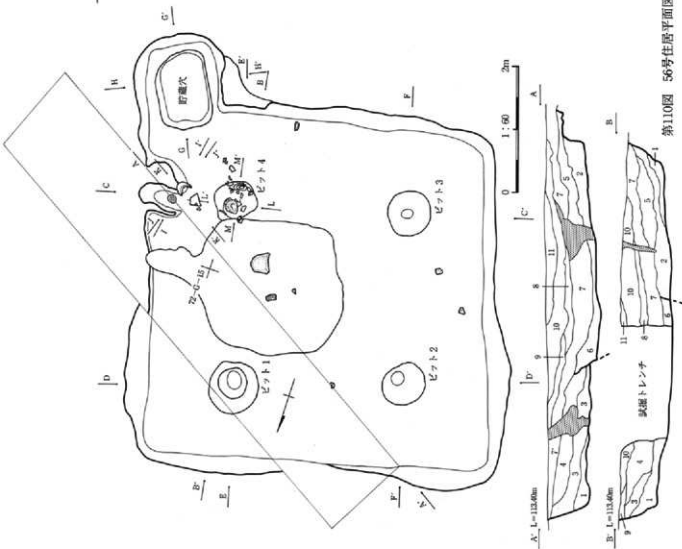


第111図 56号住居貯蔵穴 土層断面図 高低図

56号住居 土層断面所見

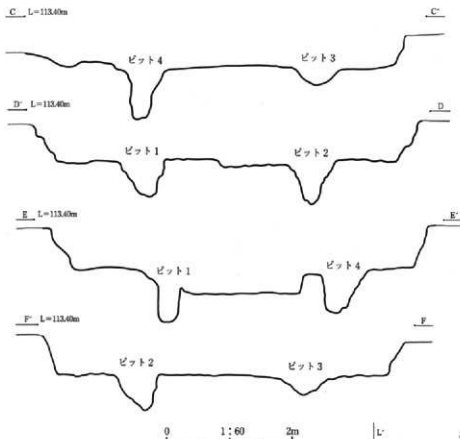
- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA, 炭化物を含む。やや締まっている。
- 2 10YR4/4 褐色・10YR5/6黄褐色壤土 細かいローム粒の堆積層土主体。締めたようにやや密な部分がある。
- 3 7.5YR4/4 褐色壤土 細かいローム粒の堆積層土が主体。ローム小粒を含む。1層の厚を少量含む。
- 4 10YR2/3 黒褐色壤土 Hr-FAをやや多く含む。As-C, 炭化物を含む。粘性や強い。
- 5 10YR2/2 黒褐色壤土 Hr-FAをやや多く含む。ローム粒, As-C, 炭化物を含む。締まりない。
- 6 10YR2/3 黒褐色壤土 炭化物粒, ロームフロックを含む。As-C, Hr-FAはごくわずかに含むのみ。粘性や強い。
- 7 10YR2/3 黒褐色壤土 As-C 多く含む。10YR2/3黒褐色砂質壤土の層を多く含む。粘性や強い。
- 8 10YR1.7/1 黒色土 As-C 含む。やや粘質。いわゆるC混黒に近いが、As-Cの量が少ない。
- 9 10YR1.7/1 黒色土 As-C 含む。やや粘質。いわゆるC混黒。
- 10 掘高されたAs-B層。部分的にふいふい赤褐色の灰がフロック状に散る。

- 貯蔵穴 1 10YR2/4 暗褐色土 As-Bを多量に含む。いわゆるB混。
- 2 7.5YR2/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。ロームフロック含む。締まり強い。
  - 3 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。黒褐色土フロックを含む。
  - 4 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒多く含む。Hr-FA 含む。
  - 5 7.5YR2/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。
  - 6 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。炭化物を含む。

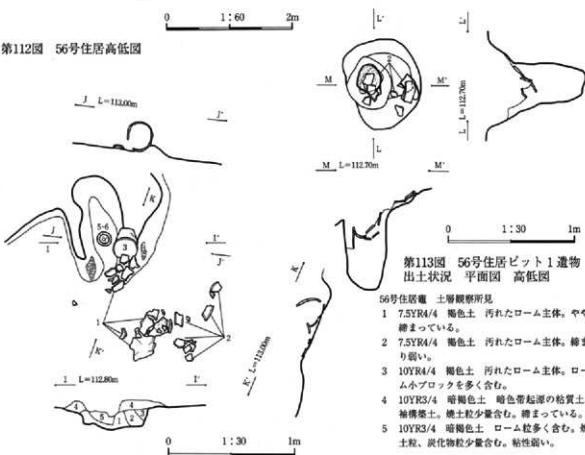


第110図 56号住居平面図 土層断面図

第4章 古墳時代の遺構と遺物



第112図 56号住居高低図



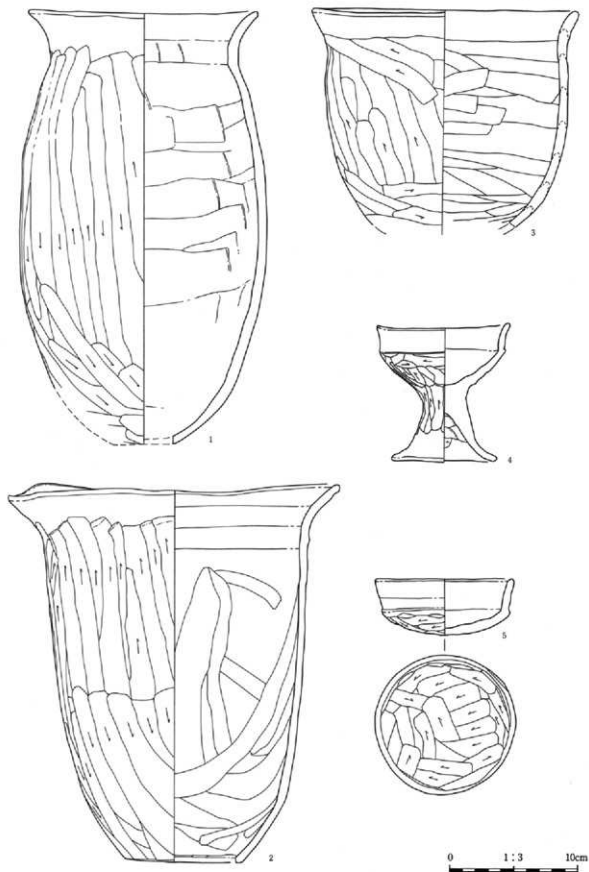
第113図 56号住居ピット1遺物出土状況 平面図 高低図

56号住居竈 土層観察所見

- 1 7.5YR4/4 褐色土 汚れたローム主体、やや締まっている。
- 2 7.5YR4/4 褐色土 汚れたローム主体。締まり弱い。
- 3 10YR4/4 褐色土 汚れたローム主体。ローム小ブロックを多く含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 暗色帯起源の粘質土。袖構造土。焼土粒少量含む。締まっている。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。粘性弱い。

第114図 56号住居竈平面図 土層断面図 高低図





第115図 56号住居出土遺物

## 第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

### 1 概要

7世紀代の遺構、遺物は認められず、空白の時期となるが、8世紀前葉には竪穴住居が再び作られ始める。これ以後がこの遺跡の中心的な時期であり、比較的多くの遺構が残されている。竪穴住居50棟、掘立柱建物24棟、柱穴列4条、土坑85基、ピット221基、井戸4基、溝6条、水田などを調査している。

東向き傾斜部に集中しており、縄文時代の遺構・遺物が西向き傾斜部に分布の中心を置くのと、対照的な立地傾向であり、古墳時代の竪穴住居が台地頂部近くにあるのともやや趣を異にする。調査範囲の中程に遺構が多く、縁辺には少ないという傾向も見られる。調査区の隣接地は、前橋市教育委員会による発掘調査が行われている。遺構確認のための試掘用トレンチも比較的高密度に入れられているが、遺構はきわめて希薄である。こうしてみると、少なくとも竪穴住居や掘立柱建物などに示される居住域としての土地利用は、今回調査を行った範囲からさほど大きく広がらないものと考えることができそうである。

竪穴住居は8世紀前葉から作られ始めるが、9世紀後葉から末葉にかけてのものが最も多い。

掘立柱建物には、大きく深い掘方で整ったものと、柱穴掘方が小さく、やや柱通りの悪いものの2者が見られる。時期判定の根拠となる出土遺物には乏しいが、前者は古代の、後者は中世以後のものであろう。

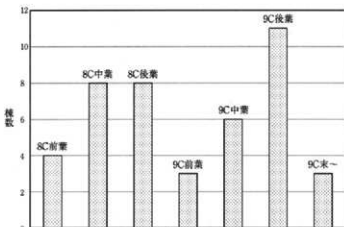
竪穴住居から、「寺」と墨書された土器が出土している。古代の掘立柱建物が「寺」と何らかの関わりを持つものである可能性もあるが、積極的な根拠を見いだすことはできなかった。

集落の東西を挟む低地部分には、As-Bの堆積はあるが、東側谷の東縁辺以外では明確な水田遺構がない。集落を支えた水田はより下流側にあるのだろうか。生産域の把握も今後の課題である。

### 2 竪穴住居

竪穴住居は8世紀前葉から作られ始め、9世紀後葉に最も多くなる。調査区の中央近くや南よりの東向き傾斜部に大きなまとまりがあり、台地の傾斜にあわせて、等高線に沿うかのように南東—北西方向に広がりを持つ。重複は比較的小さい。このまとまりの中でも、8世紀代のものは比較的天南りに偏在する傾向があり、古代の掘立柱建物が北寄りに多く認められたのとは対照的な配置となっている。

東壁南寄りに竪、東南隅に貯蔵穴を作る、通有の特徴を持つが、規模や平面形状にはバリエーションがある。

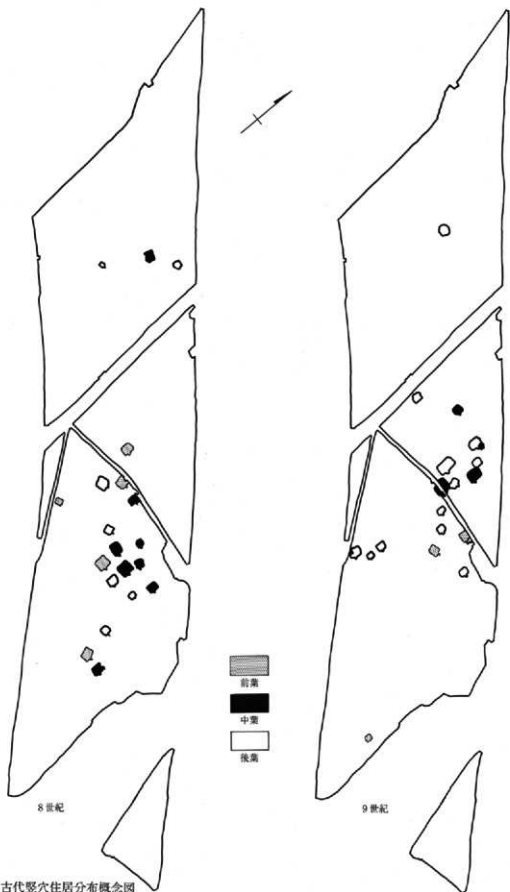


第116図 竪穴住居の時期別数

る。39号住居は特に大型で、周囲に壁柱穴を持つという特異な構造を有する。

北東部の西向き傾斜部にも4棟ある。51・53・54号住居は深く掘り込まれ、覆土上位にAs-Bがレンズ状に堆積している。54号住居は古墳時代の住居の中央を掘り込んで作られた鍛冶工房と見られる。

遺物は土器類の他、鎌、斧、刀子、釘等の鉄器、石製紡錘車などが出土している。「寺」「主」「石」「矢」や、則天文字ふうの構えを持つ「首」などの墨書土器も出土した。



第117图 古代竖穴住居分布概念图

1号住居

位置 60-T-8.9/61-A-8.9グリッド 調査区南端近くに位置し、他の住居とはやや離れている。標高110.5mから110.4mにかけての、比較的急な東向き傾斜部に立地する。西にはほぼ同方向を向く6号掘立柱建物がある。谷地部にあたり、上位にはAs-Bで覆われた水田があったことが想定される位置である。

形態 ほぼ方形

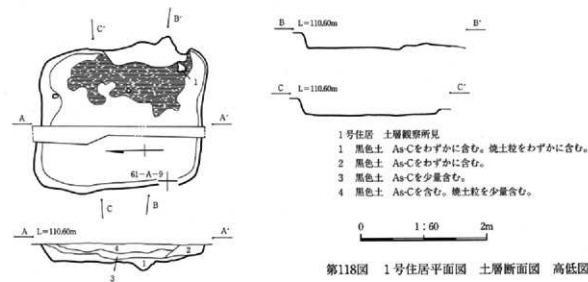
規模 長軸2.6m 短軸2.2m

床 黒ボク土中で確認され、確認面ですでに床面近くまで削平されていた。床面は一部しか確認できないが黒色土中にあり、粘質土で貼り床がなされる。残存部は平坦で硬化している。

壁 特に東半は削平が著しく、明確に壁面が捉えられない。西部は比較的良く残っており、30cmほどの壁高がある。西壁及び南壁は直立する。北壁中央よりやや東寄りではやや内側に張り出すようなゆがみが見られる。

竈 東壁南寄りに痕跡が認められる。

遺物 資料化可能な出土遺物は少ない。竈右手前部で摘みの付かない須恵器蓋が出土している。端部折り返しで、内面にかえりは付かない。扁平な形状である。また、覆土中から土師器甕が出土している。コの字状口縁のものである。9世紀前葉の年代と考えられる。



第118図 1号住居平面図 土層断面図 高低図



第119図 1号住居出土遺物

2号住居

位置 61-C-14.15グリッド 調査区南部にある。標高110.6mから110.5mの比較的ゆるい東向き傾斜部に立地する。2号井戸に切られる。西に3号住居がある。

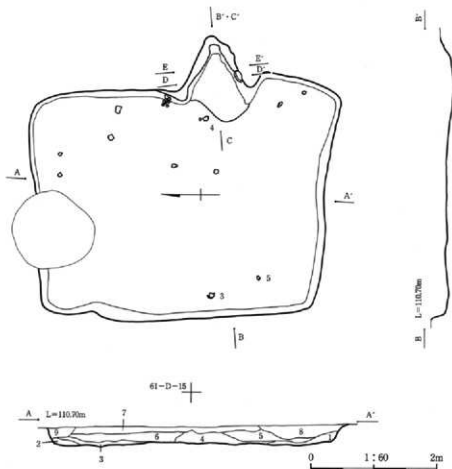
形態 南北に長い横長長方形 規模 長軸4.8m 短軸3.44m

床 緩やかな起伏があり、中央部がやや低くなるが、ほぼ平坦に作られる。

壁 残存壁高は19cmから26cmほどある。床面から弧状をなして壁に連なる。

竈 東壁やや南寄りに、壁面を掘り込んで作られている。主軸方向はN-85°-E。地山の黒ボク土を掘り込んで、黄褐色粘質土を馬蹄形に貼り付けて構築する。右壁部には構造物材として用いられたと思われる石が残る。土層断面では左壁側に強く焼けた焼土層（7層）があるが、全体的には右壁が強く焼けている。土層断面の所見では作り替えが認められ、当初の掘方内に緻密な褐色砂質土（6層）を貼って一回り小ぶりの竈に作り替えていることがわかる。

遺物 住居東半に土器片が散在する。須恵器短頸壺の蓋、須恵器蓋の環状摘み破片や小型の土師器甕、器高の低い粗雑なつくりの土師器甕が出土している。8世紀中葉の年代が当てはまると思われる。

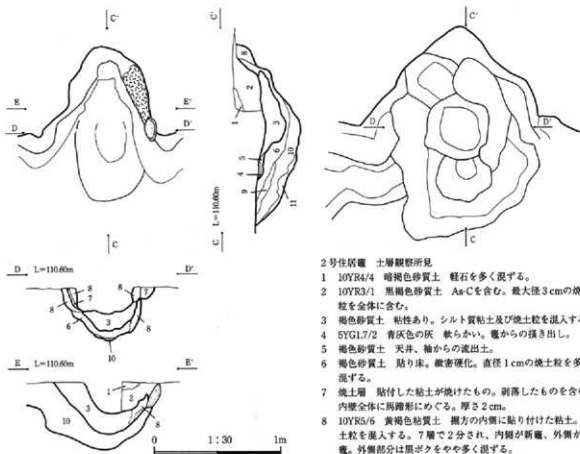


2号住居 土層観察所見

- 1 黒褐色土 細粒のAs-Cをわずかに含む。
- 2 黒褐色土 細粒のAs-Cをごくわずかに含む。ロームブロック含む。
- 3 黒褐色土 細粒のAs-Cをわずかに含む。
- 4 黒色土 As-Cをわずかに含む。

- 5 黒色土 As-Cを含む。焼土粒を少量含む。
- 6 黒色土 As-Cを少量含む。焼土粒を含む。
- 7 黒色土 As-Cを含む。
- 8 黒色土 As-Cを含む。
- 9 2号井戸覆土

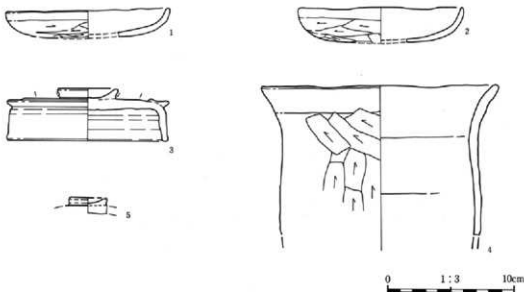
第120図 2号住居平面図 土層断面図 高低図



2号住居 土層観察所見

- 1 10YR4/4 暗褐色砂質土 軽石を多く混ざる。
- 2 10YR3/1 黒褐色砂質土 As-Cを含む。最大径3cmの焼土粒を全体に含む。
- 3 褐色砂質土 粘性あり。シルト質粘土及び焼土粒を混入する。
- 4 SYG1.7/2 青灰色の灰 軟らかい。壺からの掻き出し。
- 5 褐色砂質土 天井、軸からの流出土。
- 6 褐色砂質土 貼り床。緻密硬化。直径1cmの焼土粒を多く混ざる。
- 7 焼土層 貼付した粘土が焼けたもの。剥落したものを含む。内壁全体に凹形にめぐる。厚さ2cm。
- 8 10YR5/6 黄褐色粘質土 掘方の内側に貼り付けた粘土。焼土粒を混入する。7層で2分され、内側が新壺、外側が古壺。外側部分は黒ボクをやや多く混ざる。
- 9 6・7・8層の混土。直径1cm大。良く攪拌され緻密硬化。
- 10 6・7・8層の混土。9層に比して直径1~3cm大と大粒。中央部付近では4層がレンズ状に堆積する。

第121図 2号住居層平面図 土層断面図 掘方平面図



第122図 2号住居出土遺物

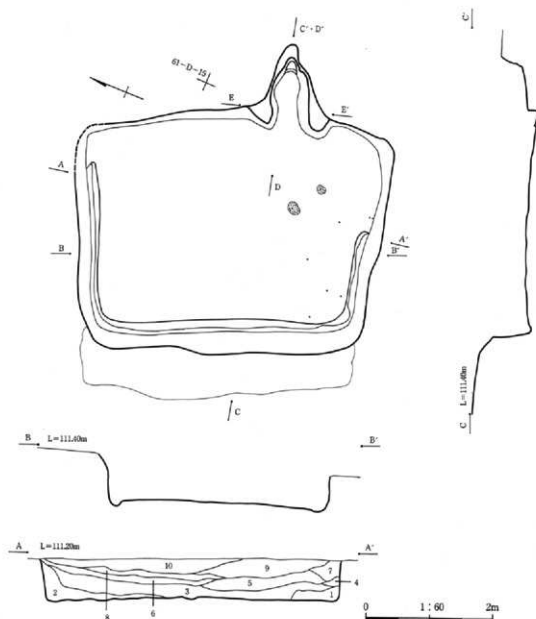
## 3号住居

位置 61-C-14/61D-14.15グリッド 調査区南部にある。標高111mから111.2mの比較的急な東向き傾斜部に立地する。東に2号住居、西に11号掘立柱建物がある。

形態 南北に長い横長長方形 規模 長軸4.68m 短軸3.38m

床 As-C 混土からローム層中にまで掘り込む。ほぼ平坦だが、壁際がわずかに低く、中央部が高い。全体に非常に硬くしまっている。住居中央南寄りに炭化物の集中が点的に見られる。

壁 壁周溝が北壁東部から西壁を経て南壁中央近くまで、コ字状にめぐる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。東側では残存壁高15cmから20cmであるが、西部では最大で80cm近い壁高がある。西壁外には確認面である口



第123図 3号住居平面図 高低図 土層断面図

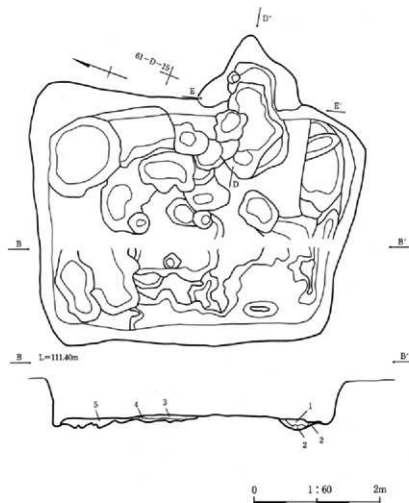
ーム漸移層上面において、As-Cを含む黒色土層が不明瞭ながら帯状に分布していることが観察された。住居を取り囲む周堤のないその内側部の痕跡とも推定される。

**貯蔵穴** 竈の右手に当たる南東隅部にあるが、掘方調査時に確認されているため、使用時の形状や規模はわからない。南北方向での断面では上端径50cm、深さ22cmほどで、北壁が垂直に立ち上がり、南壁は緩やかな弧を描いて立ち上がる。掘方から見ると東西方向に長軸を持つ歪んだ楕円形を呈したものらしい。

**竈** 東壁やや南寄りに壁面を掘り込んで構築する。壁際に小さな袖を持つが、ほとんどが壁外に当たる。掘方内にシルト質の粘土を貼り付けて構築し、石などの構造材は用いていない。主軸方向はN-75°-Eを示す。

**掘方** 竈前から西方向に細長い掘り残し部分があるが、大小の不定型な掘り込みが住居全体に多数見られる。貯蔵穴部分は長軸を東西に持つ楕円形に、また北東隅部は比較的整った円形に掘り込まれる。住居中央部の土坑状掘方底面には灰色の粘土が貼り込まれ、緻密で硬く締まった状態にある。貯蔵穴最深部は床面下35cmであるが、他の部分は10cmから25cmの深さである。

**遺物** 住居全体の残りはよいのだが、出土遺物はごく少なく、土器の小破片が南部に点在するのみである。8世紀前葉と思われる土師器環が資料化可能な唯一の遺物である。



3号住居 土層観察所見

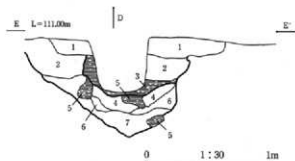
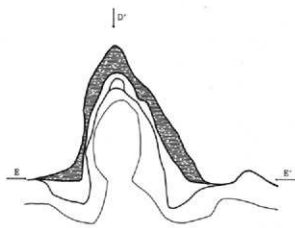
- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 As-Cを少量含む。As-Cを含む黒色土のブロックを含む。ローム粒を少量含む。
- 3 茶褐色土 As-Cを少量含む。焼土粒を多く含む。ローム粒を流す。
- 4 茶褐色土 白色軽石粒をわずかに含む。
- 5 茶褐色土 As-Cを少量含む。ローム粒を含む。
- 6 黒色土 As-Cを若干含む。焼土粒を含む。ローム粒を含む。
- 7 暗褐色土 白色軽石粒を少量含む。
- 8 茶褐色土 As-C粒を含む。やや大粒の焼土粒を多く含む。ローム粒を含む。
- 9 茶褐色土 As-C粒を含む。ロームブロックを少量含む。ローム粒を多く含む。
- 10 黒色土 As-C粒を少量含む。

3号住居床下構造 土層観察所見

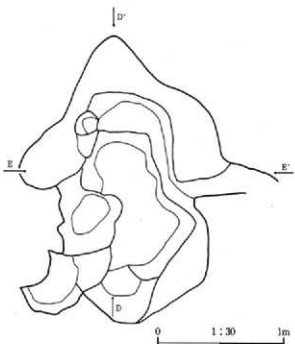
- 1 黒褐色砂質土 As-C粒を流す。As-BPを少量混する。
  - 2 ロームを主とし、1層を少量混する。緻密でやや硬く締まる。
  - 3 As-BPブロックと灰黒色砂質土との混土。直径1cm以下の灰、焼土が混入する。緻密で硬く締まる。
  - 4 5Y1/5 灰色粘土 土坑の底面に貼り込む。緻密で硬く締まる。
  - 5 As-Cを含む黒褐色砂質土、ローム、As-BPとの混土。
- 1・2・5層は壁際を帯状にめぐる掘方の完填土。周溝に作る壁体の造作と関係する。

第124図 3号住居掘方平面図 土層断面図





第125図 3号住居電平面図 土層断面図



第126図 3号住居電掘方平面図



## 3号住居竪 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色砂質土 軽石を混入する。直径1cm以下の焼土粒、ローム粒をやや多く混ざる。
- 2 10YR3/4 褐色砂質土 焼土粒を多く含む。直径1cm大のものが目立つ。基部構築材起源の5YR/4淡黄色粘土粒を混ざる。
- 3 10YR5/4 におい黄褐色粘質土 天井部構築材の崩落土。焼土粒を少量混ざる。緻密でやや硬い。
- 4 硬く焼き締まった焼土ブロックを主体とし、青黒色の灰、3層土が塊点状に混入する。
- 5 におい黄褐色粘質土 3層より明るく、焼土粒をやや多く混ざる。
- 6 黒ボク土とロームの塊状混土。
- 7 黒ボク、ローム、灰色粘土の混土。灰色粘土は底面に多く見られる。



第127図 3号住居出土遺物

4号住居

位置 61-K-18グリッド 調査区中央部の住居集中部の南辺近くにある。標高113.1mから113.2mの台地頂部に近い比較的緩い傾斜部に立地する。周囲に1・3号掘立柱建物、5・6・30号住居などがある。

形態 やや南北に長い横長長方形。規模 長軸2.8m 短軸2.42m

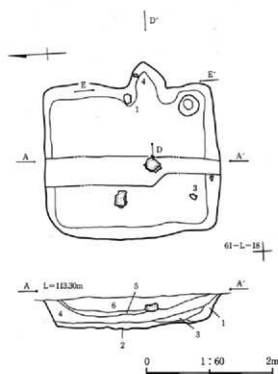
床 はほぼ平坦だが、わずかに東側が低くなる。

壁 残存壁高は東側で30cm、西側で40cmほどある。北壁及び西壁は垂直に近く立ち上がるが、南壁及び東壁は上方にやや開き気味に立ち上がる。

貯蔵穴 座右手に当たる南東隅部にある。直径35cmほどのやや歪んだ円形で、深さは22cmある。

竈 東壁中央よりやや南寄りに壁面を掘り込んで構築している。主軸方向はN-93°-Eを示す。壁際に小さな袖を持つ。燃焼部は壁内から壁外にかけて作られる。茶灰褐色の粘質土が構築材として使用される。

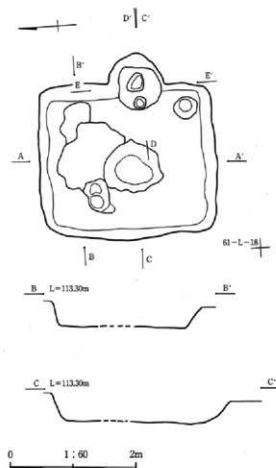
遺物 遺物は室内及び住居南西部にあり、須恵器高台付碗、坏（いずれも酸化焙焼成）と土師器甕がある。土師器甕は口縁部の形状がコの字から崩れており、器内も厚みが増している。9世紀後葉から10世紀前葉のものと思われる。3の坏内面には固化した漆が附着している。



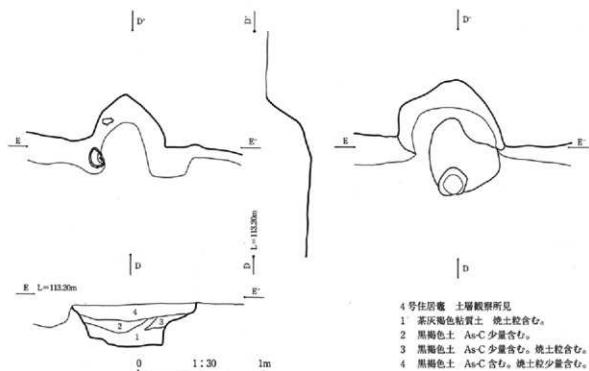
4号住居 土層観察所見

- 1 黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
- 2 ロームブロック主体。
- 3 茶褐色粘質土 ローム粒をわずかに含む。
- 4 茶褐色土 As-Cを少量含む。ローム粒を混ざる。
- 5 黒色土 As-Cを含む。
- 6 茶褐色土 As-C含む。ローム粒をわずかに含む。

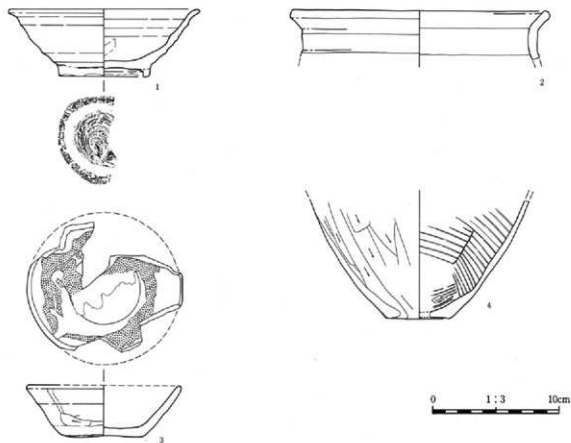
第128図 4号住居平面図 土層断面図



第129図 4号住居掘方平面図 高低図



第130図 4号住居竪平面図 土層断面図 掘方平面図



第131図 4号住居出土遺物

5号住居

**位置** 61-KL-19グリッド 標高113.1mから113.2mの台地頂部に近い比較的緩い傾斜部に立地する。4号の北に並ぶ。4号掘立柱建物を形成するピットのひとつと重複するが、切り合いは確認できない。

**形態** 南北に長い歪んだ横長方形 規模 長軸3.5m 短軸2.6m

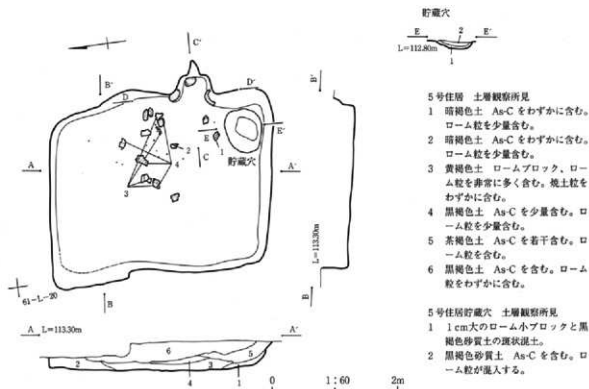
**床** ほほ平坦だが、わずかに東側が低くなる。

**壁** 残存壁高は東側で30cm、西側で43cmほどある。四壁ともほぼ垂直に近く立ち上がる。

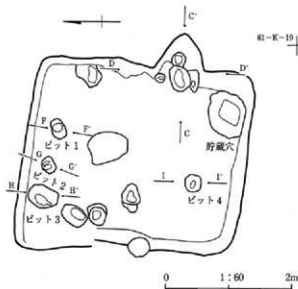
**貯蔵穴** 竈右手に当たる南東隅部にある。東西70cm、南北60cmほどのやや歪んだ長円形で、深さは17cmある。

**竈** 東壁中央よりやや南寄り壁面に掘り込んで構築している。袖の張り出しはほとんど無く、壁との接合部に袖石を据えている。燃焼部は壁外に作られる。袖の張り出しはほとんど無く、壁との接合部に袖石を据えられる。粗粒安山岩かと思われる幅広の棒状転石で、一部黒化、赤変している。竈構築土と思われる粘土の付着も見られる。使用面からの高さは19cmほどで、両袖石の頂部より4～5cmほど低い。両袖石の間は17cmほどである。左袖石は支脚石と同様の棒状転石で、加工痕はない。右袖石は角礫が用いられる。右袖との高さをは合わせるためか、上部を割り欠いた痕跡がある。支脚、袖石ともに小穴を掘って、その中に下部を埋めている。

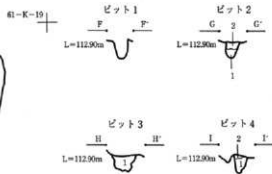
**遺物** 竈左前部から住居中央部にかけて土器片や円礫が散在する。土師器甕が主である。3と4は東側にある破片が比較的高いレベルから出土し、西側の破片が低い状況を示し、埋没途上で流れ込んだものであろう。年代は9世紀後葉と思われる。



第132図 5号住居平面図 土層断面図 高低図 貯蔵穴土層断面図

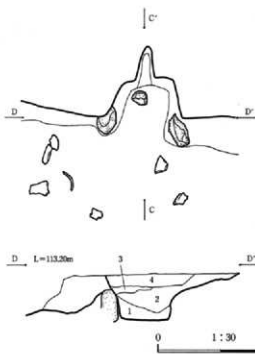


第133図 5号住居掘方平面図 ピット土層断面図



5号住居掘方ピット 土層観察所見

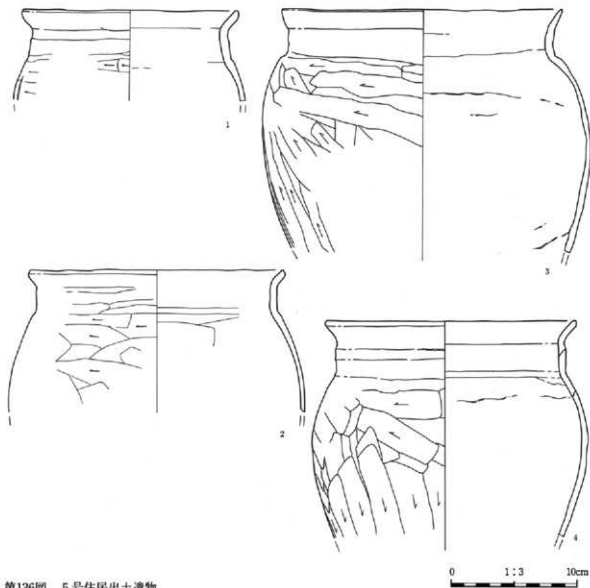
- 1 ロームと黒褐色砂質土の混土。貼り床。
- 2 黒褐色砂質土とロームの炭状混土。



第134図 5号住居竈平面図 土層断面図



第135図 5号住居竈掘方平面図 高低図



第136図 5号住居出土遺物

### 6号住居

位置 61-L-M-17/61-L-18グリッド 標高113.3mから113.4mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。30号住居を切る。南西隅部は調査区外に当たる。

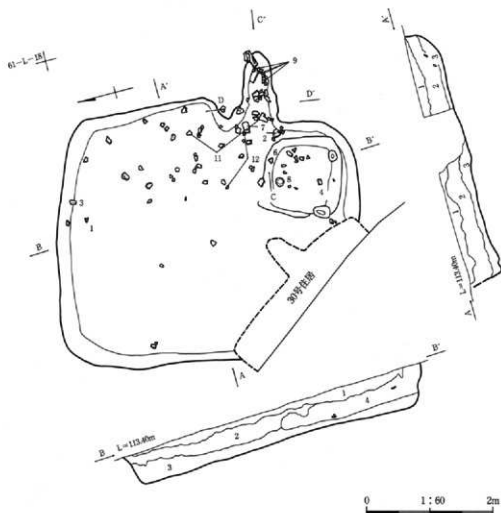
形態 南北に長い横長長方形。南東隅はゆるい弧状をなす。規模 長軸4.32m 短軸3.98m

床 ロームと黒色砂質土との混土が貼られる。ほぼ平坦だが、南側が高く、北側がやや低い。掘方の影響で壁周囲がやや低く、中央部の床面がわずかに高くなる。

壁 最大で54cmほどの壁高がある。四壁ともにわずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 竈右手に当たる住居南東隅部にある。一辺1.2mほどの隅丸方形の平面形である。底面に灰色の粘土を貼っている。

竈 東壁やや南寄りに壁面を掘り込んで構築している。主軸方向はN-100°-Eを示す。左袖は住居内に小さく張り出す。灰黄色のシルト質粘土を構築材とする。構築材として川原石や粗粒安山岩の割石が用いられ、左側壁はこれが良く残っている。右半は崩れが大きい。壁石の残存と思われる礫がある。袖石の抜き取り痕



第137図 6号住居平面図 土層断面図

## 6号住居 土層観察所見

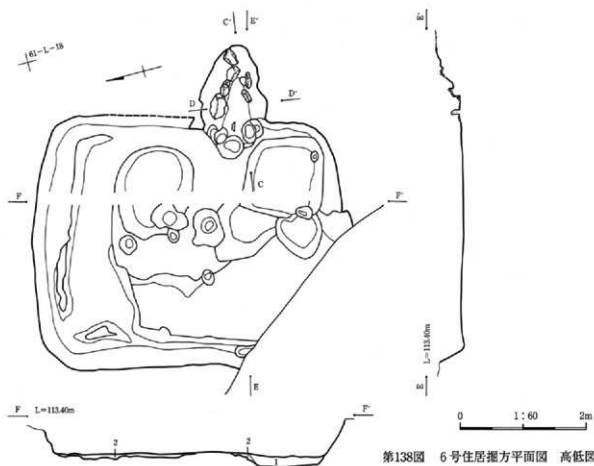
- 1 As-C 混黒褐色土を主とした10YR5/4にぶい黄褐色土との斑状混土。砂質。やや緻密。
- 2 10YR4/4 にぶい黄褐色土を主としたAs-C 混黒褐色土との斑状混土。砂質。ローム粒やや多い。中に1cm大も含む。
- 3 2層と同性状。明暗の差で区分。
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色土。焼土、ローム粒をわずかに含む。
- 5 As-C 混黒色砂質土 焼土、ロームの微粒を少量混入。

## 6号住居竈 土層観察所見

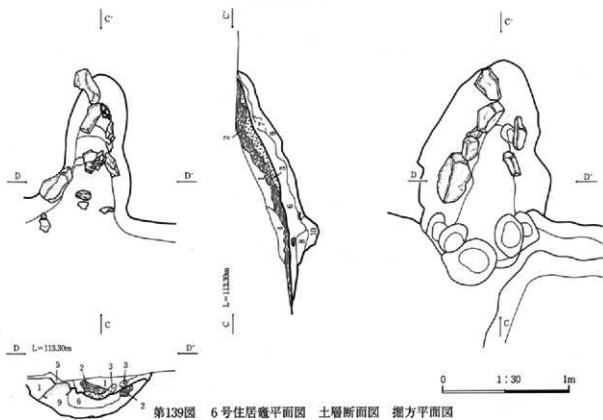
- 1 As-C 混黒褐色砂質土 焼土粒、炭化粒、シルト質粘土混入。
- 2 2.5Y6/2 灰黄色シルト質粘土 微砂やや密。袖と天井部材。
- 3 焼土を主とする。2層との混土。焼土は内壁からの剥落。
- 4 ロームブロック。竈手前に直径1mの範囲で分布。
- 5 10YR4/1 褐灰色土 シルト質土がやや軟らかくなったもの。軽石粒、焼土粒、炭粒を含む。焼土粒のためか、やや赤みがかる。
- 6 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質土 焼土及び2層をやや多く含む。
- 7 焼土ブロック。
- 8 6層と灰、焼土との混土。
- 9 10YR6/5 明黄褐色砂質土 焼土、灰を混入。竈道側では焼土、焚き口側では灰が多い。
- 10 灰を主とする。6層との混土。1cmから3cm大の塊状で、やや硬い。

## 6号住居掘方 土層観察所見

- 1 ロームを主とする。灰色粘土、黒褐色砂質土の混土。粘土は底面に貼り込む。
- 2 ロームと黒褐色砂質土の混土。

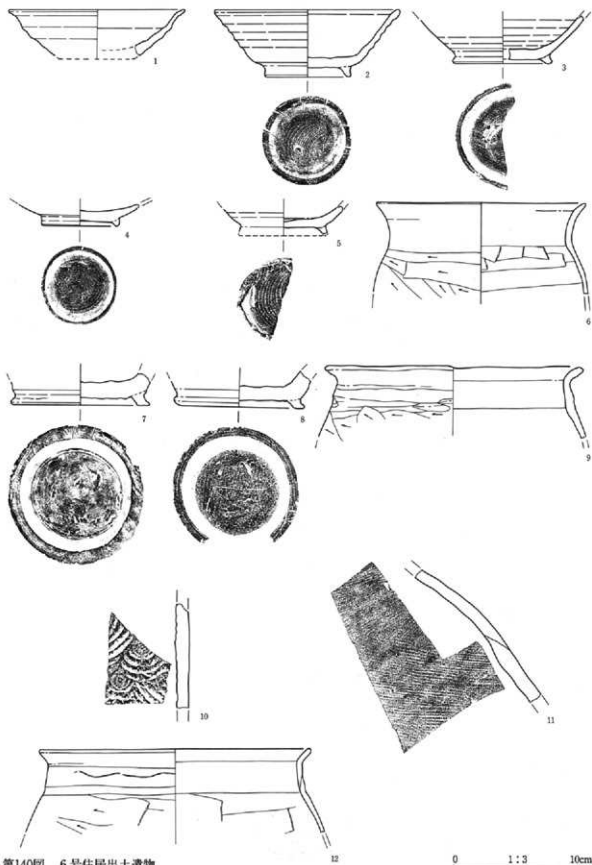


第138図 6号住居掘方平面図 高低図



第139図 6号住居竈平面図 土層断面図 掘方平面図





第140图 6号住居出土遗物

0 1:3 10cm

であろう小ピットもある。

**掘方** 竈前部は掘り残されるが、これを挟んで南側には貯蔵穴が掘られ、北側にも長径1.5mほどの卵形の掘り込みがある。また、住居中央部には大小のピット状の掘り込みが見られる。北壁沿いは幅広の溝状に掘り込まれ、西壁沿いも広く掘り込まれる。

**遺物** 土師器甕、酸化塩焼成の須恵器高台付椀、須恵器壺、碗、坏、高台付き皿、甕などが出土している。土師器の口縁部の形態や、須恵器・高台付皿が出土していることなどから、9世紀後葉の住居と思われる。

#### 7号住居

**位置** 61-LM-4.5グリッド 標高113.1mから113.3mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。28号住居に東壁北部を切られる。北壁は用水路下にあたり、未掘であるが破壊されているものと思われる。

**形態** 北壁が確認できないが、南北にやや長い横長方形を呈するものと思われる。西南隅は比較的直角に近く折れるが、東南隅は東に開き気味の弧状をなしている。規模 長軸4.5m以上 短軸4.2m

**床** 軽石粒を含む暗褐色土と明黄褐色のロームブロックの混土を貼っている。ほぼ均平だが、壁際が深く掘られる掘方の状況を反映して、周囲が低く、住居中央がわずかに高くなる傾向がある。壁周溝が竈周辺を除いて西壁から東壁に至る壁下にめぐる。

**壁** 東壁側で40cm、西壁側では70cm近い残存壁高がある。壁周溝の底からほぼ垂直に立ち上がる。上部はやや崩れ、中ほどからやや上方に開く部分が多い。

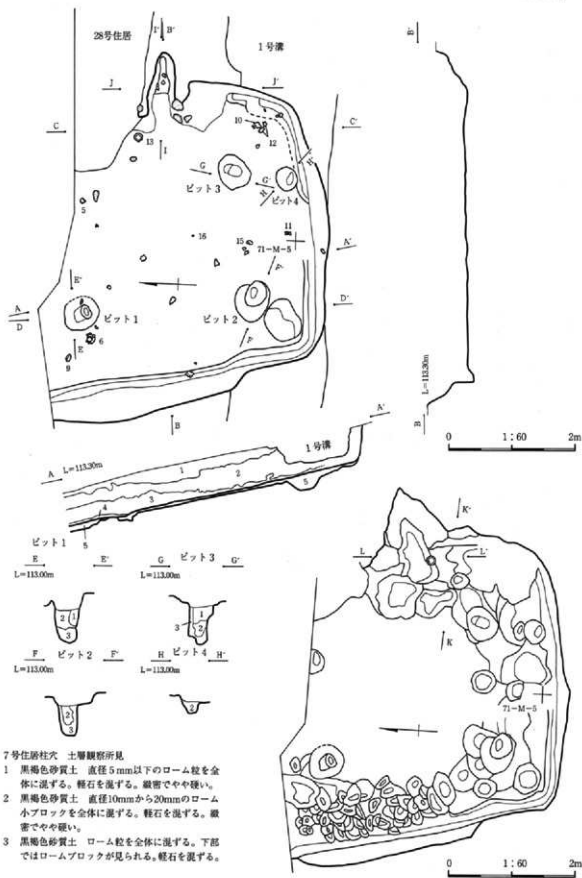
**柱穴** 主柱穴のうち3本が認められた。明確な柱痕は認められないが、直径30cmから40cm、深さ70cmほどの掘方である。南北方向の柱穴間2.7m、東西方向では約2mある。北東部にあるべき柱穴は明確には確認できなかったが、北部の発掘限界近くの完掘状況できなかったピットがこれに当たるものと考えられる。また、南壁中央やや東寄りに、直径30cm、床面からの深さ20cmほどの小ピットがある。覆土が主柱穴の柱位置に当たる部分と共通するため、これも柱穴であるものと思われる。深くほりこまれた住居であることを考えあわせると、入口施設にかかるものと考えたいが、積極的な根拠を得ることはできていない。

**貯蔵穴** 東南隅部に土器片がまとまることから、なんらかの施設があるものと想定されたが、確認できなかった。

**竈** 東壁中央よりやや東寄りに壁面を掘り込んで構築される。主軸方向はN-89°-Eを示す。地山を掘り残して袖をつくり、焚き口両側には袖石が置かれる。構築材は黄褐色から灰褐色の粘土で、燃焼部壁の焼土中には植物の茎が混ぜられていた痕跡が残る。スサ入りの粘土で築いたものであろう。焼土化した粘土壁は一部で2面が確認されており、作り直しが行われたものと想定される。右袖部は幅50cm、奥行き37.5cmほどの平坦面を持つ、床面から20cmほど高い台状の張り出しへと連続する。

**掘方** 主柱穴に囲まれた住居中央部は掘削底面がほぼそのまま床面となるが、主柱穴と壁の間には明瞭な掘削痕跡が残されている。南壁から西壁南半にかけては、ゆがんだ円形の平面形を基本とする浅い皿状の掘り込みが重なり合う。西壁の北部は土工具を突き立てて掘り返したような小さくほみが連続する。それぞれのくほみは南側に弦、北側に弧をもつ半月状の平面形を呈するため、壁に沿った南北方向の動作によって掘削されていることがわかる。

**遺物** 南東隅部に小さなまとまりがあるが、住居全体に土器破片が点在する。須恵器の坏、高台付椀が多く、土師器坏がこれに次ぐ。住居中央部から軟玉製の管玉が1点出土している。床面直上から出土しているものは8世紀前葉の遺物で、覆土中の遺物には8世紀中葉の小型高台付甕や須恵器坏がある。



第141図 7号住居平面図 土層断面図 高低図 掘方平面図 ピット土層断面図

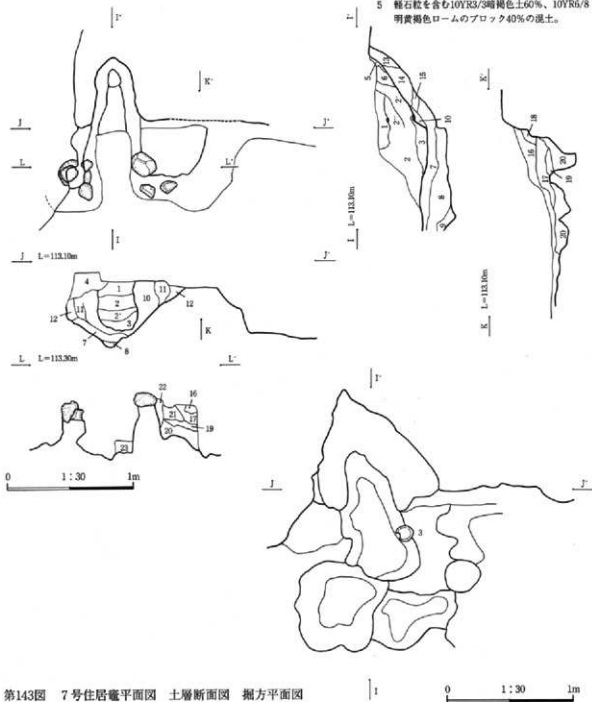
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第142図 7号住居掘方高低図

7号住居 土層観察所見

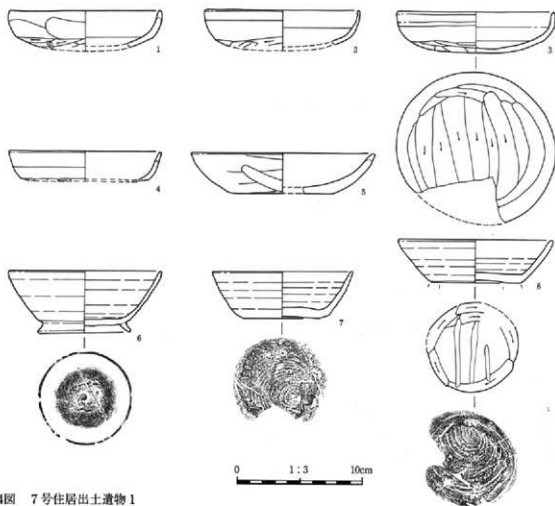
- 1 10YR4/4 褐色砂質土 軽石粒を多く混ざる。特にAs-Cが多く見られる。直径1cmから2cmのぶい黄褐色砂質土が塊状に混入。焼土、炭化物粒を少量含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色砂質土 軽石粒を多く混ざる。ぶい黄褐色砂質土が塊状に混入。焼土、炭化物粒を含むが、1層より粒径が大きく、量も多い。
- 3 10YR3/4 暗褐色砂質土 ぶい黄褐色土が多く混入するため、2層より明るい。軽石粒、焼土、炭化物粒は少ない。
- 4 3層とソフトローム粒の混土
- 5 軽石粒を含む10YR3/3暗褐色土60%、10YR6/8明黄褐色ロームのブロック40%の混土。



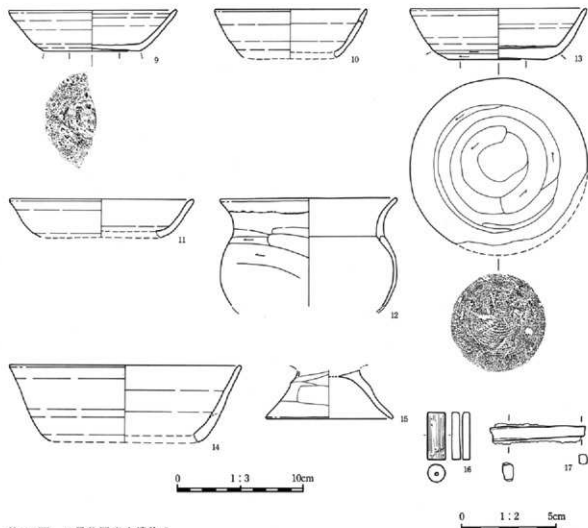
第143図 7号住居竈平面図 土層断面図 掘方平面図

## 7号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR7/2 にぶい黄褐色粘質土 クリーム色の軽石粒10%、直径1cm程度の橙色の焼土ブロック5%、暗褐色土ブロックが層状に混入。やや硬く締まる。天井部。
- 2 1層に炭化物、炭化物粒を含む。2層焼土ブロックを含む。天井部崩落土。
- 3 10YR2/3 黒褐色砂質土 焼土粒20%含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-B混土が攪乱されたもの。
- 5 10YR6/3 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを含む。焼き締まっている。
- 6 5YR3/3 暗赤褐色砂質土 焼土粒、軽石粒を含む。層道部相当。
- 7 10YR2/2 黒褐色砂質土 軽石粒を含む。直径1cmから4cmのローム小ブロック、ローム粒、灰を含む。
- 8 10YR3/1 黒褐色砂質土 軽石粒を含む。直径5mm程度の焼土小ブロック、ローム粒を含む。灰が不定形塊状に混入。
- 9 10YR3/1 黒褐色砂質土 直径2cm程度のロームブロック10%含む。
- 10 7.5YR3/4 暗褐色土 直径1cmから4cmの7.5YR5/6明褐色焼土ブロックを10%含む。
- 11 7.5YR3/4 暗褐色土と7.5YR5/6明褐色焼土ブロックの等量混土。
- 12 7.5YR4/2 灰褐色土 直径5mmから1cmの焼土ブロック、焼土粒を10%含む。
- 13 10YR6/1 褐灰色シルト質粘土 軽石粒を含む。焼土粒を含む。煙道部構築土。
- 14 10YR2/2 黒褐色砂質土 軽石粒を含む。直径1cmから4cmのローム小ブロック、ローム粒を含む。青みがかった灰を多く含む。
- 15 10YR5/6 黄褐色土 汚れたロームブロックの集合。
- 16 10YR5/2 灰黄褐色砂質土 軽石粒、焼土粒、炭化物粒含む。締まっている。
- 17 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 砂粒を含む。軽石粒、焼土粒、炭化物粒含む。硬く締まっている。竈部の崩落土。
- 18 1層、2層の混土にロームブロックが混じる。
- 19 10YR2/2 黒褐色土 長5mm程度の炭化物小片が多く混じる。
- 20 10YR3/4 暗褐色土 直径1cmから2cmの黄褐色ローム小ブロック30%含む。軽石粒、炭化物粒含む。焼土粒はほとんど含まない。
- 21 10YR5/1 褐灰色シルト質土 軟らかい。竈部の崩落土。
- 22 10YR5/1-4/1 褐灰色シルト質土 焼土粒を含む。やや赤染している。
- 23 10YR4/1 褐灰色質土 直径1cmから3cmの焼土小ブロックを含む。灰を含む。旧竈の残骸か。



第144図 7号住居出土遺物 1



第145図 7号住居出土遺物 2

### 8号住居

**位置** 71-J.K-4.5グリッド 標高112.7mから112.9mの緩傾斜部に立地する。25・29号住居に東壁南部を切られる。北壁は用水路下にあたり、未掘であるが破壊されているものと思われる。

**形態** 北壁が確認できないが、南北にやや長い横長方形を呈するものと思われる。

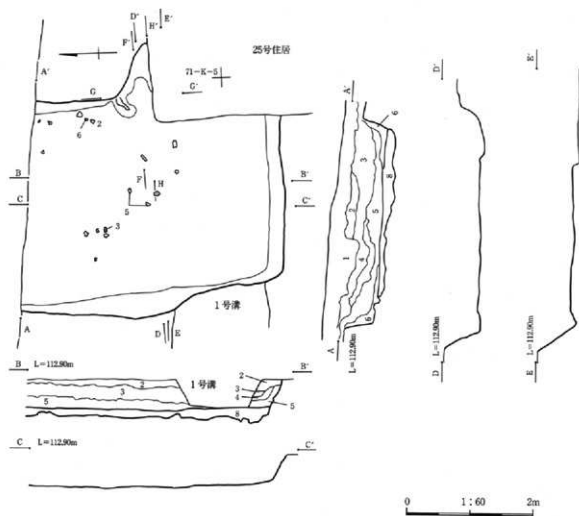
**規模** 長軸3.85m以上 短軸3.01m

**床** As-C 混黒褐色土にロームブロックを混じた土で貼られる。ほぼ均平に仕上げられる。中央部が特に強く硬化する。明確な壁周溝は認められないが、西壁際が帯状にくぼむ。

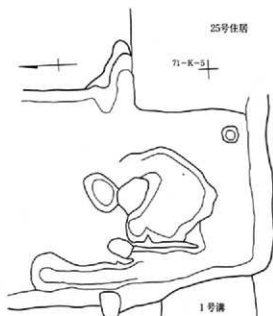
**壁** 40cmから最大53cmの壁高がある。上部が崩れ、やや上方に開く。

**竈** 南半の上部は25・29号住居及び1号溝に切られている。東壁の中央部近くに当たるものと思われる。壁を掘り込み、粘土を貼って構築している。地山を削り残した短い袖を持つが、燃焼部の過半は壁外にある。主軸方向はN-89°-Eを示す。

**掘方** 住居中央やや南西寄りに、不定円形の大きな掘り込みが見られ、その北部にも浅い円形の掘り込みが



第146図 8号住居平面図 土層断面図 高低図



第147図 8号住居掘方平面図

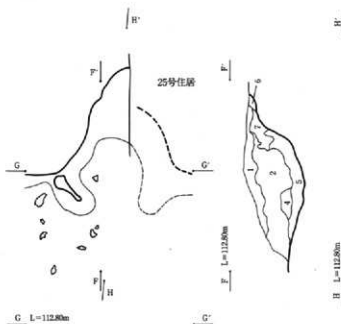
## 8号住居 土層観察所見

- 1 表土 暗褐色砂質土 As-Bなど軽石を多く含む。
- 2 10YR4/4 褐色砂質土 軽石を含む。10YR5/4にぶい黄褐色砂質土を斑点状に混入する。焼土、砕けた土器の細粒を含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色砂質土 軽石を含む。10YR5/4にぶい黄褐色土を斑点状に混入する。焼土やや多い。
- 4 3層にロームをブロック状に混入する。
- 5 3層に壺から流出した10YR7/3にぶい黄褐色粘土を斑点状に混入する。
- 6 3層と壺から崩落したロームブロック、ローム粒との混土。

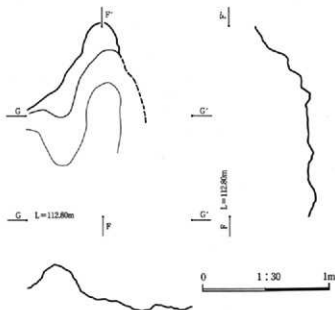
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

連続する。西壁下には壁に沿うように、幅広い浅い帯状掘り込みが見られる。

遺物 竈左手の東壁際および竈前から西壁にかけて狭い帯状に遺物が点在するが、床面直上の遺物はほとんど無く、床面から浮いた覆土中に、土師器の甕や器高の低い坏、小振りの須恵器坏といった8世紀中葉の遺物が出土している。



第148図 8号住居竈平面図 土層断面図



第149図 8号住居竈掘方平面図 高低図

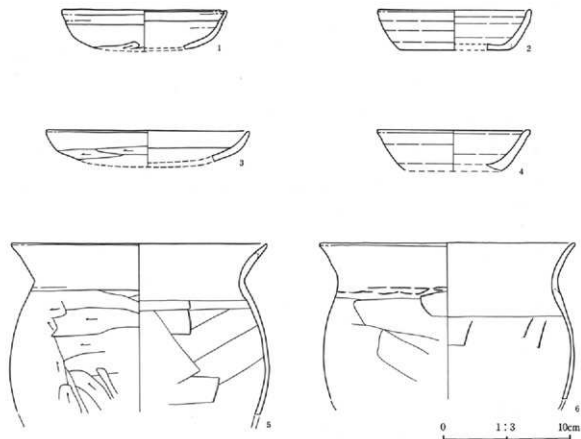
8号住居竈 土層観察所見

- 1 暗褐色砂質土 軽石を含む。にぶい黄褐色砂質土が斑状に混入する。
- 2 にぶい黄褐色砂質土 直径1mmから5mmの焼土粒、シルト質粘土粒を多く含む。
- 3 1層を主体とし、2層がわずかに混入する。
- 4 褐色粘質土 緻密。崩落した天井部。
- 5 4層に直径1mmから3mmの焼土粒をやや多く含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C、焼土粒、炭化物粒を含む。
- 7 10YR4/8 赤褐色砂質土 灰が混ざる。直径1.5cm程度の焼土ブロックを含む。硬く締まる。焼土化した天井部、煙道が崩れたもの。

8号住居竈日ライン 土層観察所見

- 1 7.5YR7/4 にぶい褐色土 焼土ブロックを含む。
- 2 7.5YR6/3 にぶい褐色土 灰白色シルト質土が全体に混入。褐色の焼土ブロックが点在する。灰粒、炭化物粒を含む。





第150図 8号住居出土遺物

## 9号住居

位置 61-D.E-16.17グリッド 標高111.1mから111.4mの緩傾斜部に立地する。9号掘立柱建物と重複する。新旧関係は明確でないが、本住居のほうが新しいものと思われる。

形態 東西に長い縦長長方形。東南隅部がやや南に張り出す。規模 長軸2.96m 短軸2.5~2.76m

床 掘方を暗褐色粘質土で埋め、交互に踏み固められたような薄層が重なっている。ほぼ均平に仕上げられるが、住居中央部がわずかに高い。

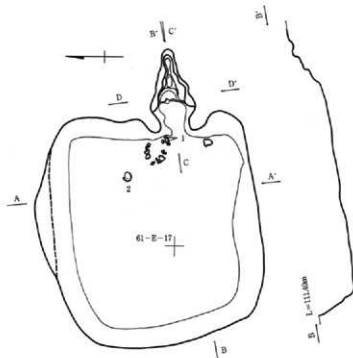
壁 東壁部で50cm弱、西壁部は64cmほどの残存壁高がある。上部が崩れ、上方にやや開く。

柱穴 南北両壁の東端近くに、上端径30cm、深さ15cmほどの小ビットがあり、住居にともなうものと考えられるが、主柱穴に当たるビットは認められない。

竈 東壁南寄りに地山を掘り込み、粘土を貼って構築する。右手前の礫は、構造物とは考えがたい。燃焼部は壁外にあり、二つの段を形成しながら煙道とつながる。住居上端ラインでは袖を意識したかのような地山の掘り残しが見られるが、住居内に明確な袖は形成されない。燃焼部右壁中程に小さなビットがあるが、支脚などの残存は見られず、袖石の掘え方も確認できない。主軸方向はN-84°-Eを示す。

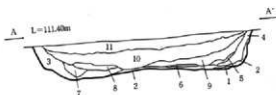
掘方 住居中央に、不定形の大きな掘り込みが見られ、その西半にはこれを取り囲むように不定形の掘り込みが連続する。

遺物 竈左手前部に遺物がまとまっている。土師器の坏および甕で、8世紀後葉のものである。



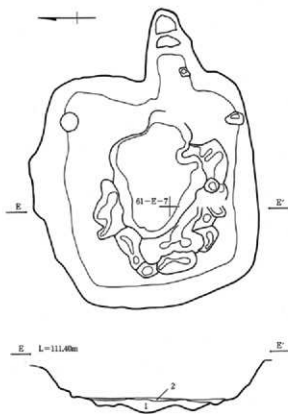
9号住居 土層観察所見

- 1 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土 As-C を若干含む。ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒を含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを若干含む。
- 6 黒褐色土
- 7 黒褐色土 As-C 少量含む。
- 8 黒褐色土 As-C、ローム粒少量含む。
- 9 黒褐色土 ロームブロック含む。As-C 若干含む。
- 10 黒褐色土 As-C を含む。
- 11 黒褐色土 As-C をやや多く含む。



0 1:60 2m

第151図 9号住居平面図 土層断面図



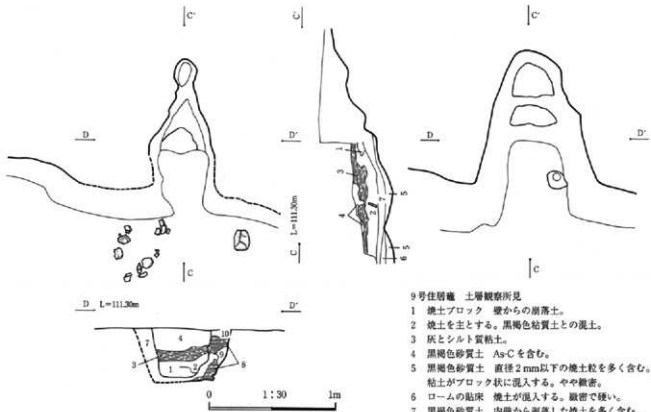
9号住居掘方 土層観察所見

- 1 暗褐色粘質土を主体とする。
- 2 As-Cを含む黒色土を主体に、ロームを混ざる暗褐色土、灰褐色粘質土が交互に踏み固められたような薄層の重なりが見られる。



0 1:60 2m

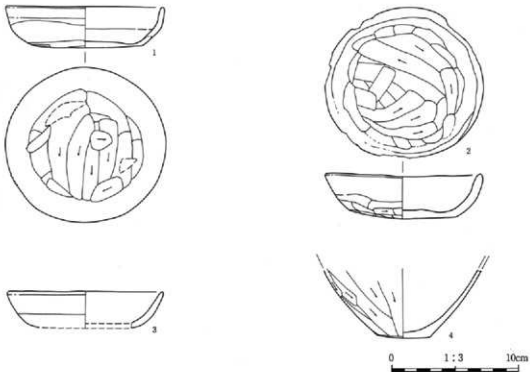
第152図 9号住居掘方平面図 土層断面図



第153図 9号住居竈平面図 土層断面図 掘方平面図

## 9号住居竈 土層観察所見

- 1 焼土ブロック 壁からの崩落土。
- 2 焼土を主とする。黒褐色粘質土との混土。
- 3 灰とシルト質粘土。
- 4 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
- 5 黒褐色砂質土 直径2mm以下の焼土粒を多く含む。粘土がブロック状に混入する。やや緻密。
- 6 ロームの粘床 焼土が混入する。緻密で硬い。
- 7 黒褐色砂質土 内壁から剥落した焼土を多く含む。
- 8 灰紫色粘土 As-Cかと思われる軽石を含む。緻密でやや硬い。
- 9 黒褐色砂質土 8層と焼土を少量含む。
- 10 黒褐色砂質土 As-Cを含む。



第154図 9号住居出土遺物

10号住居

位置 61-G,H-20グリッド 標高111.9mから112.1mの比較的ゆるい傾斜部に立地する。直接重複する遺構はない。北に17号住居、西に12号住居がある。

形態 ほほ隅丸方形を呈する。南壁、西壁は直線的だが、他の二壁は共に外ふくらみを持つ。

規模 長軸3.6m 短軸3.5m

床 硬く締まったローム面まで掘り下げられており、そのまま床面をなしている。ほほ均平だが、北東方向にわずかに下がる傾斜を有する。東壁を除く三壁には浅い周溝がめぐる。

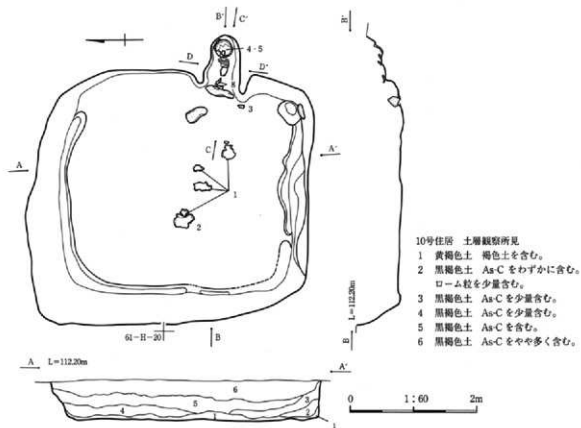
壁 東壁部で50cm以上、西壁では70cm近い壁高がある。北壁及び西壁では上部のソフトロームが大きく崩れ、上方に大きく開いているが、東壁及び南壁では周溝を介してほほ垂直に立ち上がる。

柱穴 床面調査時点では確認できなかったが、掘方では7基のピットが見られた。直径20cmから30cmで、床面から10cmから20cmほどの深さである。主柱穴としては認めがたい位置である。

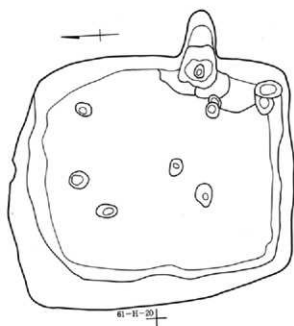
貯蔵穴 南東隅部に長径40cm、短径30cm、深さ25cmほどの土坑が認められたが、遺物等はなく、貯蔵施設とする積極的根拠は得られなかった。

竈 東壁南よりを壁外に掘り込み、砂粒の多い灰褐色粘土を貼って構築している。焚き口部と竈前にやや長い自然石があり、構造材として用いられた可能性がある。掘方では、焚き口から壁の延長部にかけて、燃焼部が一段深く掘り込まれており、その中央に小ピットが掘られている。この掘り込みよりさらに奥に、竈が掘えられた状態で残っている。主軸方向はN-90°-Eを示す。

遺物 竈内から住居中央西寄り、帯状をなして遺物が点在する。土師器の甕が主体で、須恵器甕破片、滴みの無い蓋などがある。8世紀後葉のものと考えられる。

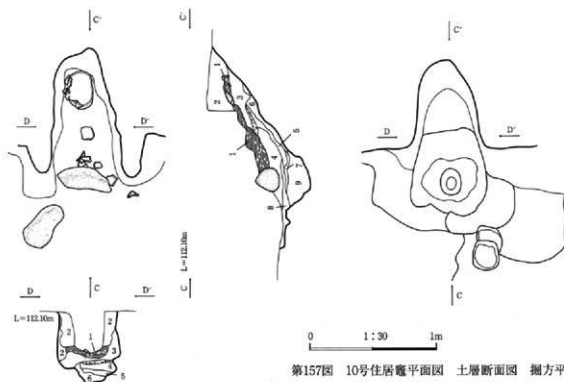


第155図 10号住居平面図 土層断面図 高低図



0 1:60 2m

第156図 10号住居掘方平面図



第157図 10号住居掘方平面図 土層断面図 掘方平面図

## 10号住居竈 土層観察所見

- 1 5YR6/2 灰褐色粘質土 砂粒を含む。黒色の灰や焼土粒を混入する。下部では灰や焼土がかたまる。天井部の崩落土。
- 2 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C 風土中に褐色土が混入する。As-C 15% 含む。焼土粒を含む。竈前落灰の流入土。
- 3 5YR5/2 灰褐色砂質土 粘性強い。竈際は褐色の焼土ブロックを多く含む。
- 4 7.5YR3/4 褐色土 砂粒を多く含む粘質土で、中心部は灰を含み暗い色になる。焼土粒を多く含む。
- 5 10YR3/4 暗褐色砂質土 焼土粒を少量含む。
- 6 10YR3/4 暗褐色砂質土 この上面が使用面か。
- 7 9層上面に貼られたローム土。焚き口部床面。
- 8 10YR7/1 灰白色の灰層 薄い互層をなし、軟らかい。
- 9 6層に大粒のロームブロックを混入する。ロームブロックは底面に近いほど多い。



第158図 10号住居出土遺物

## 11号住居

位置 61-H-18.19グリッド 標高112.2mから112.4mの傾斜地に立地する。直接切り合う遺構はない。北に12号住居、北東に10号住居がある。住居集中域の南端近くに位置する。

形態 南北に長い長方形。東壁南部を大きく擾乱される。竈がないため主軸が決定できない。小型であること、竈を持たないこと、床面硬化が乏しく均平でないこと、出土遺物が乏しいことなどの点で15号住居、31号住居と共通する。居住以外の機能、用途をもった建物と考えるべきかもしれない。規模 長軸2.68m 短軸2.0m

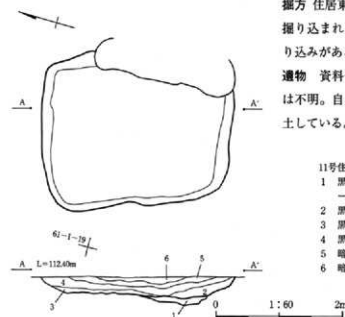
床 ロームブロックを含む黒褐色土で掘方を埋めて床を形成するが、全体に波打ち、硬化も乏しい。

壁 東壁部で15cm弱、西壁部では30cm程度の残存壁高がある。やや上方に開き気味に立ち上がる。

柱穴 貯蔵穴 竈 認められない。

掘方 住居東部から北部にかけての広い範囲で、一段深く掘り込まれる。東南部にはごく浅い楕円形の土坑状の掘り込みがある。

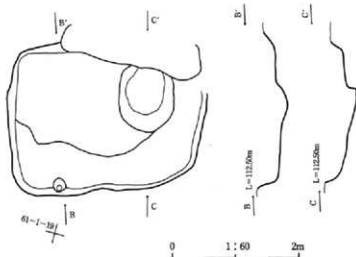
遺物 資料化可能な出土遺物がほとんど無いため、年代は不明。自然軸の付着した須恵器壺の破片が覆土から出土している。



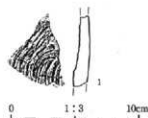
第159図 11号住居平面図 土層断面図

## 11号住居 土層観察所見

- 1 黒褐色土 直径3cmから5cmのロームブロックを含む。ローム斑を含む。炭化物少量含む。
- 2 黒褐色土 大粒のロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックは少ない。As-C含む。
- 5 暗褐色土 As-Cを少量含む。
- 6 暗褐色土 As-Cを含む。



第160図 11号住居掘方平面図 高低図



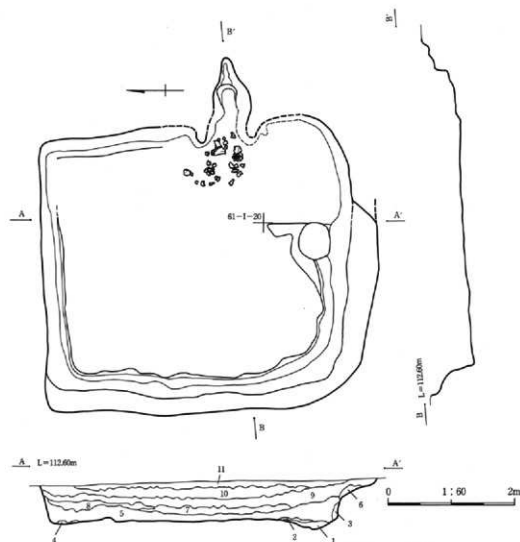
第161図 11号住居出土遺物

12号住居

位置 61-H.I-19.20グリッド 標高112.2mから112.5mの傾斜地に立地する。住居集中域の南部に位置する。北に13号住居、南に11号住居、東に17号、21号住居が隣接してあるが、切り合わない。西の5号住居との間にはやや距離がある。

形態 基本的には方形を呈するものと考えられるが、東南部が膨らむように張り出すため、南北がわずかに長い。北東隅は直角に近いきれいな角をなす。規模 長軸4.2~4.5m 短軸3.9m

床 ソフトロームと As-C を含む黒褐色砂質土のブロック状混土で掘方を埋め、床面を形成する。壁に沿ってやや低く、住居中央部がわずかに高い。壁際では As-C 混土の比率が高く、壁周囲の造作とこれより内側の床面を作る工程との間に不連続が感じられる。南半部では壁周溝が確認できた。



12号住居 土層観察所見

- |                                 |                       |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 ロームブロックを塊状に含む。           | 6 暗褐色土 ローム粒含む。        |
| 2 灰かと思われる灰白色土と褐色土。              | 7 暗褐色土 黒色土を含む。        |
| 3 暗褐色土 ロームブロック含む。               | 8 暗褐色土 As-C、黒色土の斑を含む。 |
| 4 黄褐色土 暗褐色土を含む。                 | 9 暗褐色土 As-C少量含む。      |
| 5 暗褐色土 大きなロームブロック、灰褐色粘土ブロックを含む。 | 10 暗褐色土 As-C含む。       |
|                                 | 11 暗褐色土 As-C含む。       |

第162図 12号住居平面図 土層断面図



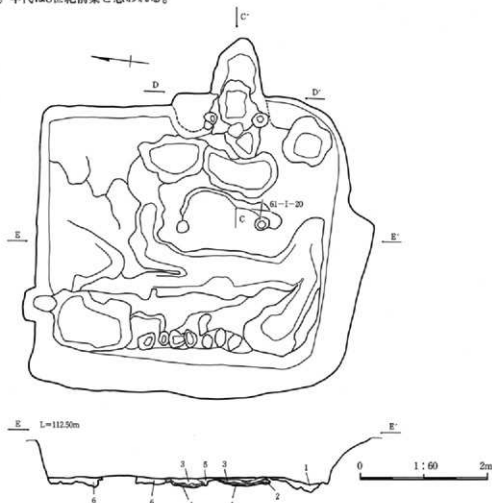
壁 東壁及び北壁は確認面までほぼ垂直に立ち上がる。西壁、南壁は上部が崩れて、途中から大きく上方に開くが、立ち上がり部は垂直に近い。

貯蔵穴 床面調査時には認められなかった。掘方では竈右手に当たる東南隅部にそれらしき掘り込みがあるが、貯蔵穴として確定しうる資料はない。

竈 東壁中央よりやや南側を壁外に掘り込み、灰黄褐色の粘土を貼って構築している。地山を掘り残して小さく袖を作ったものらしい。掘方では壁の延長線上に袖石の掘え方と思われる小ピットが左右に並ぶが、石自体は残されていない。主軸方向はN-84°-Eを示す。

掘方 全体に不定形の掘り込みが連続する。竈を囲むように3つの土坑状の掘り込みがあり、北西隅も土坑状に掘られる。西壁中央部には土工具の痕跡かと思われる小ピットが残されている。

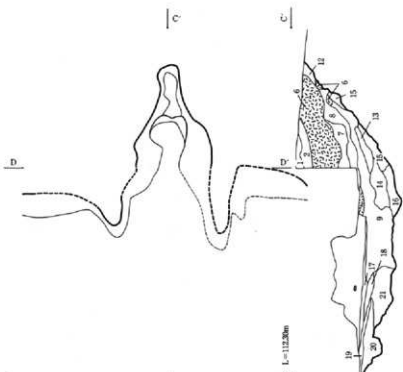
遺物 竈前に集中し、他の部分にはほとんど見られない。土師器坏、甕と須恵器の長頸壺破片が出土している。年代は8世紀前葉と思われる。



12号住居掘方 土層観察所見

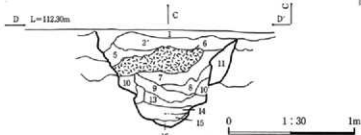
- 1 10YR3/4 暗褐色土 軽石を含む10YR2/2黒褐色土と径1cmから3cmのロームブロックが混入。砂質。
- 2 10YR2/2軽石を含む黒褐色土と径1cm大のロームブロックの50%混入。砂質。
- 3 10YR5/8 黄褐色土 硬く締まったロームで、軽石を含む10YR4/3にぶい黄褐色土と10YR4/1褐灰色粘質土が少量入る。
- 4 3層と10YR4/1褐灰色粘質土の互層。
- 5 10YR5/2 灰黄褐色土 軽石を含む。ロームを混ざる。
- 6 径5cm程度のロームブロックを主体とし、径3cm程度のAs-Cを含む黒色土のブロックが斑点状に入る。

第163図 12号住居掘方平面図 土層断面図

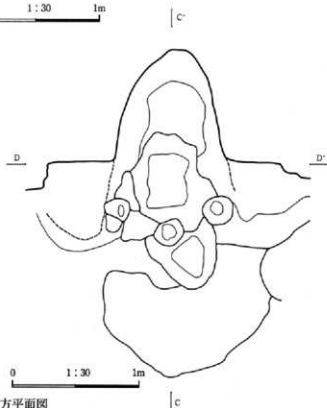


12号住居跡 土層観察所見

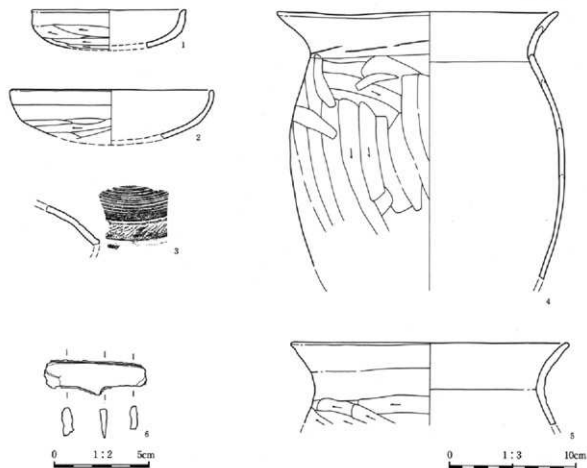
- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-Bを含む。砂質。(地山)
- 2 10YR4/4 褐色土 As-Cを含む。砂質。(地山) 2' 10YR4/3 にぶい黄褐色土 6層を含む。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム層との漸移層。(地山)
- 4 10YR6/8 明黄褐色土 ローム。硬く締まる。(地山)
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色土 シルト質土が入る。砂質。
- 6 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土。焼土ブロック、シルトブロック含む。やや粘質。天井部。
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 ロームブロック、焼土ブロックを含む。シルト質土少量含む。
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 5YR/8 橙色の焼土ブロックを含む。
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色土 焼土。シルト質土を含む。竈の底部から壁。



- 10 10YR2/3 黒褐色砂質土
- 11 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土 やや粘質。竈軸部。
- 12 7.5YR2/2 黒褐色土 黒色の灰層に径1cmから2cmの焼土ブロックを含む。煙道部底面。
- 13 黒褐色砂質土 As-Cを含む。ローム粒、焼土粒を少量含む。9層との境界に1cm程度の厚さでロームが貼られる。
- 14 9層に径1cmから3cmのロームをやや多く混入。
- 15 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒を少量含む。緻密。
- 16 9層に最大1cmほどのロームをやや多く混入。緻密。
- 17 As-Cを含む黒褐色砂質土とローム1mmから3mmの互層。緻密で硬い。
- 18 黒褐色砂質土 As-C含む。ローム、灰が混入。
- 19 18層と灰層の協状互層。
- 20 径1cmから4cmのロームブロック70%以上。18層が混ざる。緻密で硬い。
- 21 18層を主体とする。ローム及び灰が混ざる。緻密でやや硬い。



第164図 12号住居竈平面図 土層断面図 掘方平面図



第165図 12号住居出土遺物

## 13号住居

**位置** 71-H.I-1.2グリッド 標高112.1mから112.5mの傾斜地に立地する。20号住居に切られる。住居集中部の南部にあり南に12号住居、東に17号住居がある。

**形態** 東西に長い縦長長方形。東南隅にはよく弧状を呈するが、他の3隅はほぼ直角に曲がる。規模 長軸4.29m 短軸3.72m

**床** 地形に従って、やや東に向かって下がるが、褐色土ブロックを含む黄褐色土で掘方を埋め、ほぼ均平に仕上げられる。南西隅部の床面直上に焼土塊が認められる。西南隅にもやや小さな焼土塊があって、おそらく西壁沿いに広い範囲で焼土があったものと考えられる。強く焼けて硬化した部分と焼土化の弱い部分とがある。炭化材等は認められないが、焼失した住居であったものと考えられる。

**壁** 深く掘られている。浅い東壁側でも60cm近く、西壁側では最大84cmの残存壁高がある。四壁共にわずかに上方に開くが、ほぼ垂直に立ち上がる。

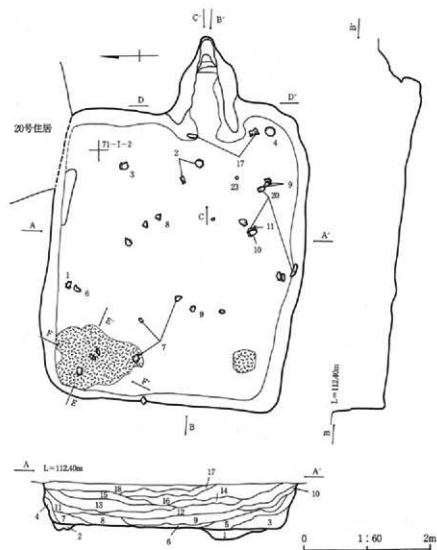
**柱穴** 床面では認められない。掘方調査においても明確な柱穴はないが、住居中央よりやや南西に偏して、深さ30cmほどのしっかりしたピットがある。

**貯蔵穴** 床面では認められない。掘方では貯蔵穴相当位置と考えられる東南隅部に直径70cmほどの円形土

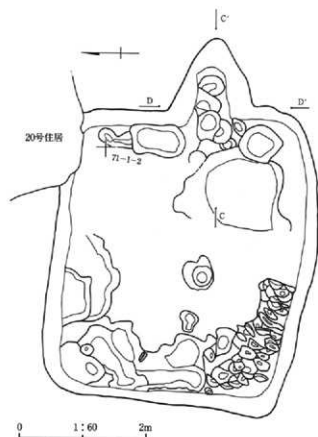
坑がある。また、竈左手部にも長軸85cm、短軸40cmほどの兩方形長方形土坑がある。いずれも遺物や炭化物等の集中が見られず、貯蔵穴としての積極的な証拠には乏しい。

**竈** 東壁中央近くを壁外に掘り込み、にぶい黄橙色の粘土を貼って構築している。主軸方向は $N-90^{\circ}-E$ を示す。短い袖を持つが、燃焼部は壁外に作られている。燃焼部の奥行き、間口共に1m近く、深さも1mに迫る大振りの竈で、貼られた粘土が焼き締まった燃焼部左右及び奥壁は、垂直に近く立ち上がる箱形の構造をなしている。底部には青黒色の灰が厚く残されていた。全体的な残りが良く、住居全体からの出土遺物は多いにもかかわらず、確実に竈に伴う遺物はなく、支脚や構造材と見られる石もない。

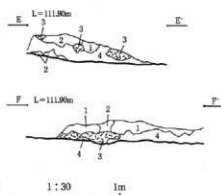
**遺物** 住居全体に土器破片が散在する。周辺の住居に比して、出土量はかなり多い。土師器が中心で、特に坏が多い。8世紀前葉の特徴を持つ丸底の坏と、中葉の偏平な坏が混在し、大半が8世紀前葉のものである。一方、土師器甕、須恵器坏、有蓋短頸壺は8世紀中葉である。出土遺物の垂直位置を見ると、8世紀中葉の遺物が床面に近い位置から出土している傾向があるため、住居の年代としてはこれを探りたい。また、滑石製紡錘車、砂岩製磁石、刀子かと思われる鉄器がそれぞれ1点出土している。



第166図 13号住居平面図 土層断面図 高低図



第167図 13号住居掘方平面図



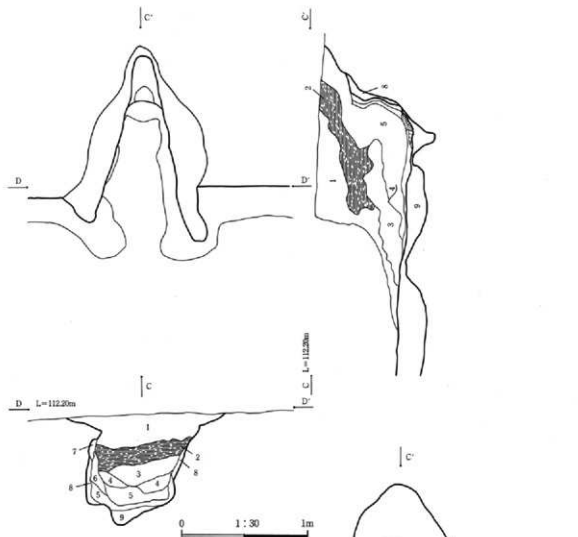
第168図 13号住居床面焼土塊 土層断面図

## 13号住居 土層観察所見

- 1 10YR7/8 黄褐色土 ロームブロック主体。As-Cを含む10YR2/2黒褐色土の硬く締まったブロックを含む。下面には10YR5/1青灰色粘質土を貼る。
- 2 黄褐色土 ロームブロックを塊状に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック含む。As-Cをわずかに含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック含む。As-Cをわずかに含む。
- 6 黒褐色土 焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 7 明褐色土 ロームブロック含む。As-Cわずかに含む。
- 8 明褐色土 ロームブロックを少量含む。As-Cを若干含む。
- 9 黒褐色土 土器片を含む。炭化物粒、As-C、ロームブロックを少量含む。
- 10 暗褐色土 ロームブロック含む。褐色土ブロック少量含む。As-Cわずかに含む。
- 11 暗褐色土 ロームブロック含む。As-Cをわずかに含む。
- 12 暗褐色土 ロームブロック、褐色土ブロック少量含む。As-C若干含む。
- 13 黒褐色土 As-C含む。炭化物粒少量含む。
- 14 黒褐色土 褐色土ブロック含む。As-Cをわずかに含む。
- 15 黒褐色土 As-C含む。炭化物粒少量含む。
- 16 暗褐色土 As-C含む。褐色土ブロック含む。
- 17 暗褐色土 ローム粒含む。As-C、褐色土ブロック少量含む。
- 18 暗褐色土 As-C含む。ローム粒、褐色土ブロック少量含む。

## 13号住居床面焼土塊 土層観察所見

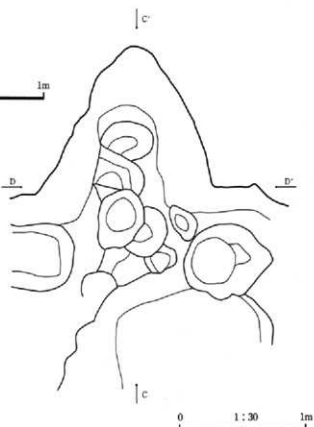
- 1 暗褐色土 軽石を含む。ローム粒、焼土粒混入。4層が破砕して変色したものか。
- 2 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
- 3 焼土 4層が焼けたもので、As-Cが混入している。
- 4 黒褐色砂質土 As-Cを含む。ロームブロック、ローム粒を含む。



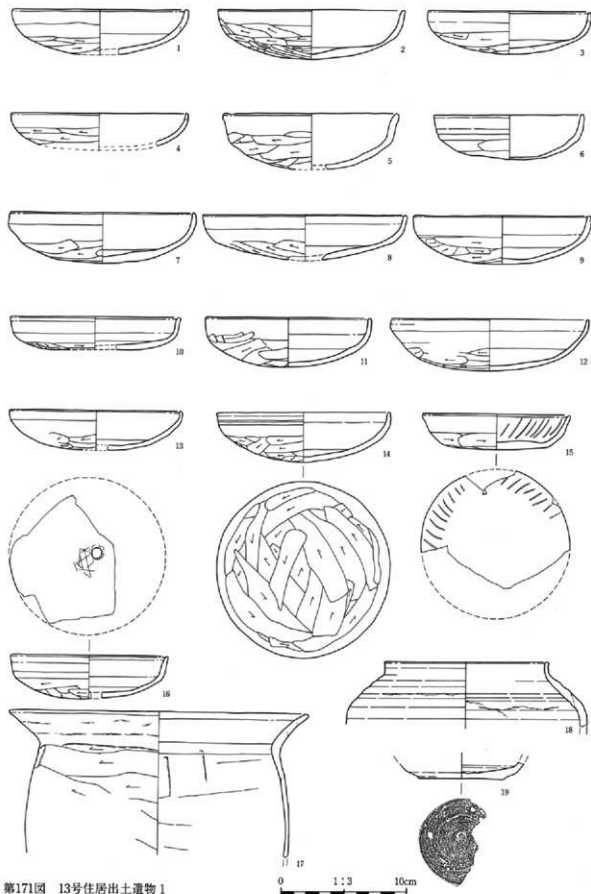
第169図 13号住居竈平面図 土層断面図

13号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR4/3 におい黄褐色砂質土 軽石を含む。焼土粒、ローム粒を少量混入する。住居外からの流入土。
- 2 10YR7/3-6/3 におい黄褐色粘土 径1cmから3cmの1層が斑点状に混入。崩落した天井部。
- 3 10YR4/4 褐色砂質土 2層の粘土、焼土、As-Cを混ざる黒褐色土が斑点状に混入。
- 4 3層同様の混土。2層の粘土が主。竈使用時の内壁からの崩落土。
- 5 5BGL7/1青黒色の灰と大粒の焼土との混土。
- 6 におい黄褐色砂質土 灰、ローム粒、焼土を混ざる。
- 7 におい黄褐色土 ローム粒を多く混ざる。
- 8 におい黄褐色土 ローム粒をやや多く混ざる。中間に焼土の薄層を挟み上半は細粒、焼土層より下は1cm大の斑点状。
- 9 ロームを主ににおい黄褐色砂質土、As-Cを混ざる黒褐色砂質土を斑状に混入する。全体に均質。やや密。硬く締まる。あるいは黒色の灰層中に直径1cmまでの焼土粒を少量混入し、焚き口近くでは焼土と灰を主体にローム粒を多く含む。

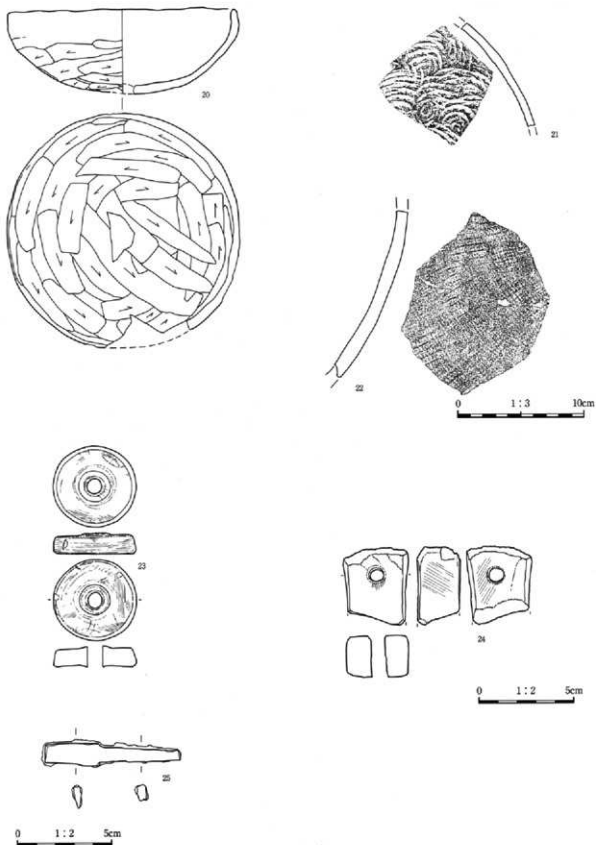


第170図 13号住居竈掘方平面図



第171图 13号住居出土遺物 1

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第172図 13号住居出土遺物2



## 14号住居

位置 71-J-K-1.2グリッド 標高112.6mから112.9mの傾斜地に立地する。東に13号・20号住居がある。

形態 ほは整った方形の平面形を示す、比較的小型の住居である。東南隅がやや丸みを帯びるが、他の三隅は整っている。掘方では西壁北部に一段高い土坑状の張り出しがつかうが、住居に伴うものであるか不明。

規模 南北軸3.22m 東西軸3.18m

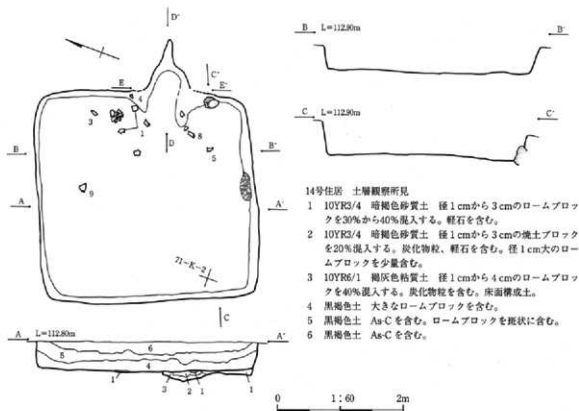
床 ロームブロックと暗褐色土の混土を貼って、ほぼ均平に仕上げられる。竈から東南隅部にかけてを除いて壁周溝がめぐる。

壁 東壁部で30cmから40cm、北西隅部で最大55cmの残存壁高がある。四壁共に壁周溝を介して垂直に近く立ち上がる。

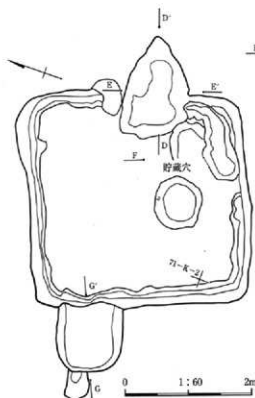
貯蔵穴 床面では認められない。掘方では東南隅部に不定形の掘り込みがあり、竈右手前の掘り込み底部に焼土や灰を含む褐色粘土があって、その上位層も焼土や炭化物粒を含む。また、住居中央南寄りには長径84cm、短径78cmの円形土坑があり、この底面にも褐色粘土が貼られ、上位に炭化物や焼土ブロックを含む層がある。この層を切って床が貼られるため、最終使用時には開口していなかったものと判断されるが、住居に伴う施設であろう。

竈 東壁南寄りの壁を掘り込んで、灰黄褐色から褐色の粘土を貼って構築する。左右共に短い袖を持つ。主軸方向はN-72°Eを示す。右袖部に小振りの礫があり、右袖と東壁の接点近くにも礫があるが、竈の構造材であるかどうかは不明。掘方でも壁石や支脚の掘え方は認められない。

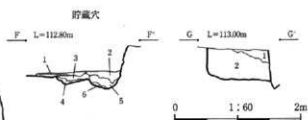
遺物 竈周辺を中心に、比較的多くの遺物が散在する。土師器と須恵器の坏が主体となる。ほかに土師器瓶と須恵器甕の破片、小型長頸壺の口縁部破片が出土している。年代はいずれも8世紀後葉である。



第173図 14号住居平面図 土層断面図 高低図



第174図 14号住居掘方平面図



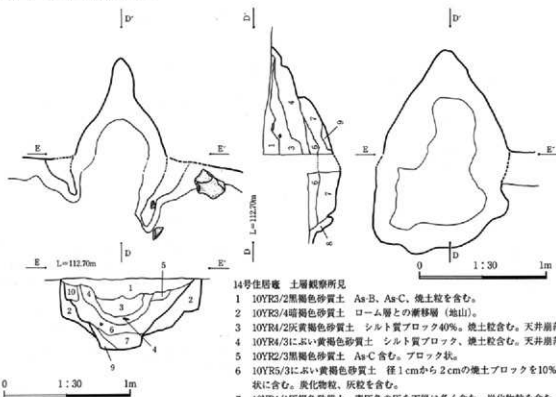
第175図 14号住居掘方 貯蔵穴  
北西張り出し部土層断面図

14号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒、ローム粒を含む。
- 2 1層よりローム粒少ない。
- 3 1層中に径1cm大の焼土小ブロック3%。炭化物粒含む。
- 4 10YR4/1 灰褐色粘質土 焼土粒、炭化物粒含む。
- 5 10YR5/8 明黄褐色土 径3cmから5cmのロームブロックを主体とし、10YR3/4暗褐色土を混入。
- 6 黄褐色土 ロームブロック。

14号住居北西張り出し部 土層観察所見

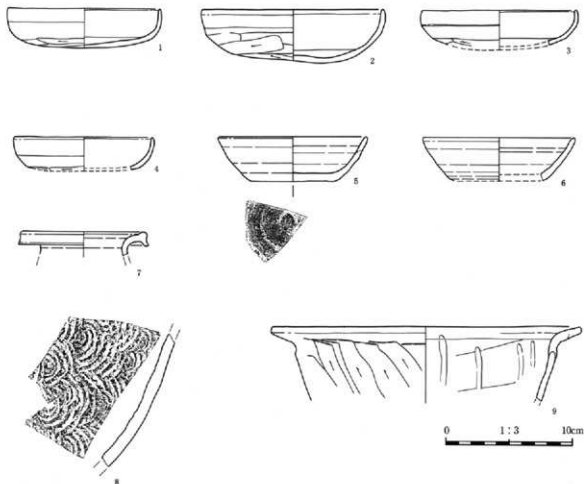
- 1 におい褐色砂質土 軽石を含む。密。
- 2 におい褐色砂質土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒を全体に混ざる。



第176図 14号住居竈平面図 土層断面図 掘方平面図

14号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR3/2黒褐色砂質土 As-B, As-C, 焼土粒を含む。
- 2 10YR3/4暗褐色砂質土 ローム層との漸移層 (地山)。
- 3 10YR4/2灰黄褐色砂質土 シルト質ブロック40%。焼土粒含む。天井崩落土。
- 4 10YR4/3におい黄褐色砂質土 シルト質ブロック、焼土粒含む。天井崩落土。
- 5 10YR2/3黒褐色砂質土 As-C含む。ブロック状。
- 6 10YR5/3におい黄褐色砂質土 径1cmから2cmの焼土ブロックを10%斑点状に含む。炭化物粒、灰粒を含む。
- 7 10YR4/1灰褐色砂質土 青灰色の灰を下層に多く含む。炭化物粒を含む。
- 8 10YR2/2黒褐色土 炭化物塊、焼土ブロックを含む。
- 9 10YR6/8明黄褐色土 地山ローム主体。黒褐色土を含む。
- 10 10YR5/1暗灰色粘質土 As-C, 焼土粒含む。

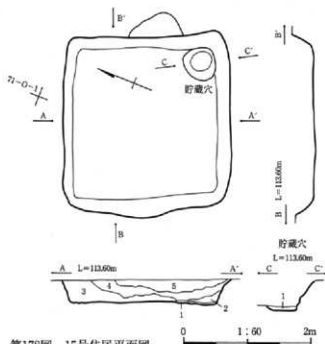


第177図 14号住居出土遺物

## 15号住居

位置 61-N.O-20グリッド 標高113.4mの台地頂部に近い平坦地に立地する。調査区界近くにあるため断定できないが、竪穴住居としてはやや孤立した位置にある。東壁部にこの住居より古い土坑がある。

形態 小型で、ほぼ方形を呈する。竈はない。東南隅に土坑があるが他の3隅は整っている。規模 東西2.35m 南北2.30m 床 はほぼ均平に仕上げられるが、硬化面は薄い。西壁際のみが周溝状にわずかに低くなっている。中央部はわずかに高くなる。壁 ソフトローム中位まで掘り込まれており、30cmから35cmの残存壁高がある。上方に向かってやや開きながら立ち上がる。

第178図 15号住居平面図  
土層断面図 高低図 貯蔵穴土層断面図

貯蔵穴 東南隅部に浅い円形の掘り込みが

あるが出土遺物はない。

竈 認められない。

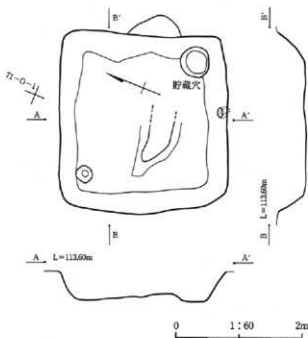
遺物 この遺構に伴う出土遺物はない。

15号住居 土層観察所見

- 1 黄褐色土
- 2 暗褐色土 ロームブロックを凝状を含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを含む。As-Cを少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロックをまばらに含む。As-Cを含む。
- 5 黒褐色土 As-Cをやや多く含む。

15号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 黒褐色砂質土 As-Cを含む黒褐色土と径1cm大のローム層移層の混土。



第179図 15号住居掘方平面図 高低図

16号住居

位置 61-E,F-20グリッド 111.4mから111.5mの緩い傾斜部に立地する。住居群の中では低い位置に当たり、西にやや離れた10号、17号住居、北側は同標高でやや離れた位置に18号住居がある。

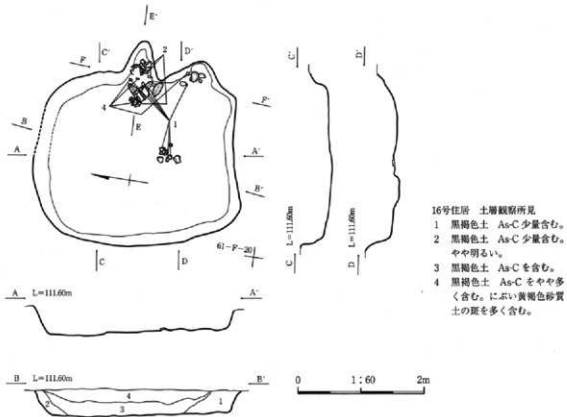
形態 ゆがんだ隅丸方形の平面形を呈する。北壁がふくらむため、計測値としては南北方向が長軸をなす。ふくらみによって北東角は弧状をなし、北西角もゆるく曲がる。南西角の屈曲はやや強い。竈右手の東壁南端部は小さな棚状に張り出し、南壁の東端も浅い円弧状に張り出す。規模 南北2.5~2.8m 東西2.3m  
床 黒ホク中にあり、黒色粘質土の掘削面を踏み固めて床とする。全体には均平であるが、住居中央部がやや低く、西部が一段下がる。

壁 東壁側で27cmから30cm、西壁側では36cmから40cmの残存壁高がある。南壁、西壁は比較的垂直に近く立ち上がるが、北壁から東壁にかけてはやや上方に開きながら立ち上がる。

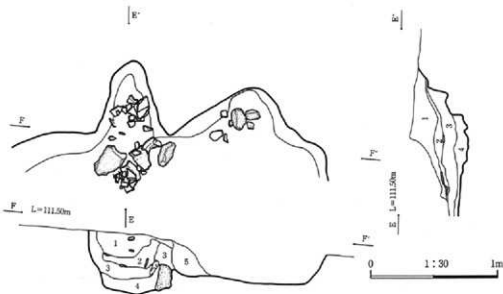
貯蔵穴 貯蔵穴は認められないが、竈右脇にあたる東壁南端部を壁外に小さく掘り込んで、床面より一段高い棚状の施設を設けている。確認面からの深さは20cmほど、床面からの高さは14cmほどで、開口50cm、奥行き35cmほどの台形状の平面形である。

竈 東壁中央部を壁外に掘り込んで、黒褐色の粘土を貼って構築する。主軸方向はN-88°-Eを示す。壁内への張り出しは認められず、焚き口相当部の両側に袖石に用いられたと思われる粗粒安山岩の削石がある。掘方中央には小ビットがあり、支脚の据え方かと思われる。

遺物 竈内から竈前にかけて棚状施設上面、さらに住居中央部南寄りに、それぞれ小さなまとまりをもって土器が出土している。竈で使用されていたと思われる土師器の甕が中心で器内の薄い武蔵型甕である。坪は平底で器高の低いものである。年代は8世紀後葉と考えられる。



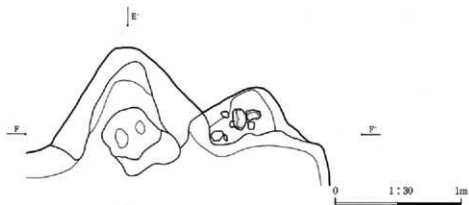
第180図 16号住居平面図 土層断面図 高低図



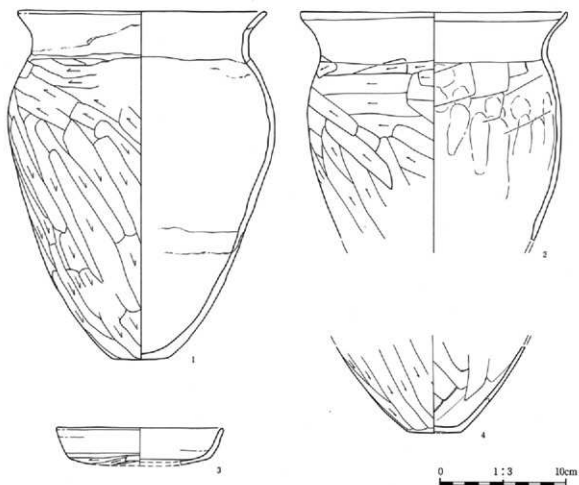
第181図 16号住居竪断面図 土層断面図

16号住居竪 土層観察所見

- 1 10YR1/3 黒褐色砂質土 にふい貴褐色土の斑点が全体に混入。
- 2 10YR3/2 黒褐色砂質土 やや粘性あり。輪及び天井部の構築材が崩落したもの。
- 3 褐色砂質土 径1mmから5mmの焼土粒をやや多く含む。中央部では特に焼土粒多い。壁際では粘土が混入する。
- 4 黒色砂質土 径1mm前後の焼土粒を全体に含む。
- 5 As-Cを含む黒褐色砂質土とにふい貴褐色砂質土の斑状混土。



第182図 16号住居電掘方平面図



第183図 16号住居出土遺物

### 17号住居

位置 61-G.H-20/71-G.H-1グリッド 標高111.8mから112.0mのややゆるい傾斜部に立地する。直接切り合う遺構はない。南に10号、北に19号、西に13号・20号住居が隣接する。東にやや離れて16号・18号住居がある。

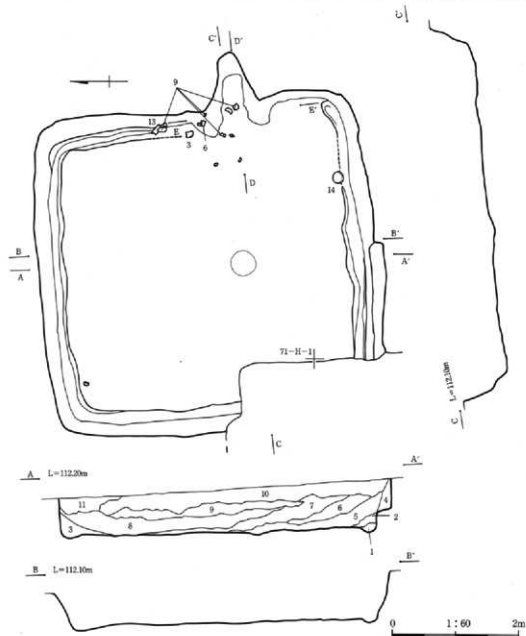
形態 西南隅が攪乱によって失われているが、整った方形を呈する大型の堅穴住居である。規模 南北

4.98m 東西4.68m

床 ロームブロック、ローム粒を主体とし、暗褐色土を含む土を貼って、ほぼ均平に仕上げられる。竈周辺では不明瞭になるが、竈左袖から壁東壁南端部を除いて、壁周溝がめぐる。

壁 四壁とも、壁周溝を介してほぼ垂直に立ち上がる。残存壁高は、低い東壁部でも50cmを越え、最も深い北壁東部では76.2cmある。

竈 東壁中央部を壁外に掘り込んで、天井部には黄褐色粘土、燃烧部には灰黄褐色粘土を貼り、灰白色粘土



17号住居 土層観察所見

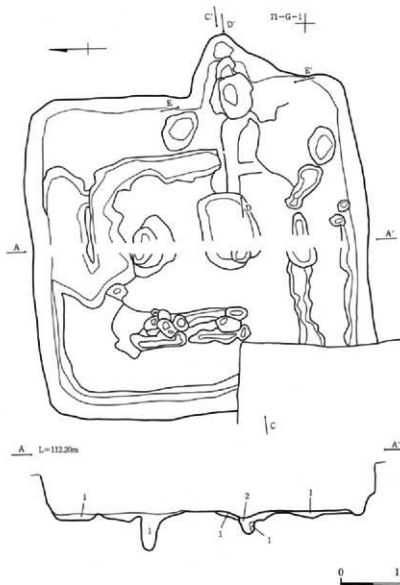
- |        |                        |         |                  |
|--------|------------------------|---------|------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックを斑状に含む。         | 6 黒褐色土  | As-C含む。ローム粒少量含む。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒少量含む。              | 7 黒褐色土  | As-C含む。ローム粒含む。   |
| 3 黒褐色土 | ローム粒、ロームブロック、As-C少量含む。 | 8 黒褐色土  | As-C含む。ローム粒少量含む。 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒少量含む。              | 9 暗褐色土  | As-C含む。やや暗い。     |
| 5 黒褐色土 | As-C含む。ローム粒少量含む。やや暗い。  | 10 暗褐色土 | As-C含む。やや明るい。    |
|        |                        | 11 暗褐色土 | As-C含む。          |

第184図 17号住居平面図 土層断面図 高低図

で袖を構築する。主軸方向はN-84.5°-Eを示す。壁内に短い袖を持つ。袖石、支脚およびその据え方は認められなかった。

**掘方** 壁周溝は西半部で深く、北壁の西半から西壁を経て南壁西半までコ字状にめぐる。竈左手と南壁東部には浅い楕円形掘り込みがあるが、施設として考えられるものではない。住居中央を一回り小さく囲むように幅広い溝状掘り込みが見られ、この内側には比較的大きな隅丸長方形や不整形の掘り込みがある。東壁北側及び西壁とこの溝状掘り込みの間は大きく掘られることがない。

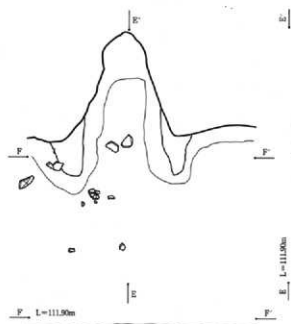
**遺物** 出土遺物は竈内から竈左手にかけて多い。土師器の坏が主体である。8世紀前葉と中葉の土器が見られ、前葉の遺物は底部丸底の土師器坏（大型と小型）、須恵器坏蓋の模倣坏、甕である。中葉の遺物としては、器高が低く偏平、あるいは平底の土師器坏、甕、環状柄の須恵器蓋などがある。垂直的な出土位置では明確に年代は分けられないが、8世紀中葉の遺物が大半を占めている。



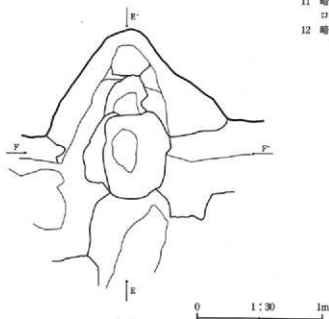
- 17号住居掘方 土層観察所見
- 1 ロームブロックを主体とし、10YR3/4暗褐色土を混ざる。
  - 2 ローム粒を主体とし、10YR3/4暗褐色土を混ざる。

第185図 17号住居掘方平面図 土層断面図





第186図 17号住居平面図 土層断面図

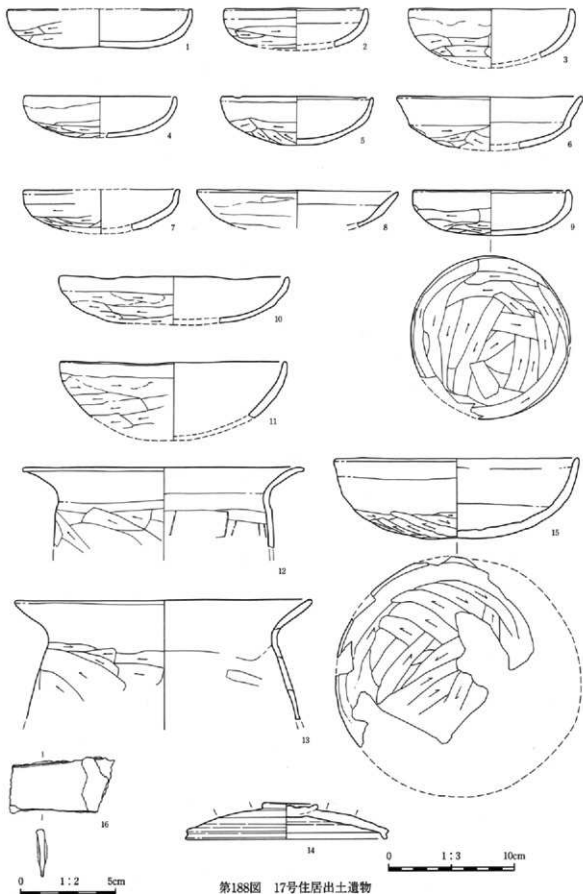


第187図 17号住居竪掘方平面図



## 17号住居竪 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色砂質土 10YR5/4にふい黄褐色砂質土が斑点状に混入。As Cを主とする径1mm以下の軽石粒を多く含む。
- 2 1層と10YR7/4 にふい黄褐色粘土の混土。
- 3 黄褐色粘土 1層が混入する。全体に硬直し、わずかに赤変している。一部は焼土ブロック化し硬い。天井部崩落土。
- 4 焼土を主とし、黄褐色粘土が混入する。天井部内壁からの崩落土。
- 5 10BG2/1 青黒色灰帯。
- 6 3層中に類似。焼土粒を多く含む。
- 7 10YR2/2 黒褐色砂質土 灰を多く含む。焼土粒含む。
- 8 10YR6/2 灰黄褐色粘質土 暗褐色土が少量混する。焼土ブロックを混する。
- 9 にふい黄褐色砂質土と10YR5/1褐色粘土の混土。焼土粒少量含む。
- 10 ロームと暗褐色砂質土、黒褐色砂質土との混土。
- 11 暗褐色砂質土と黒褐色砂質土の混土 径5mm以下の焼土粒、ローム粒をやや多く含む。
- 12 暗褐色砂質土 ローム粒10%含む。緻密で硬く締まる。



第188図 17号住居出土遺物

## 18号住居

位置 71-D,E-1.2グリッド 標高111.3mから111.5mの緩傾斜部低位に立地する。直接切り合う遺構はない。住居集中部の東端近くにあり、北に21号住居、南に16号住居、西にやや離れて19号、17号住居がある。

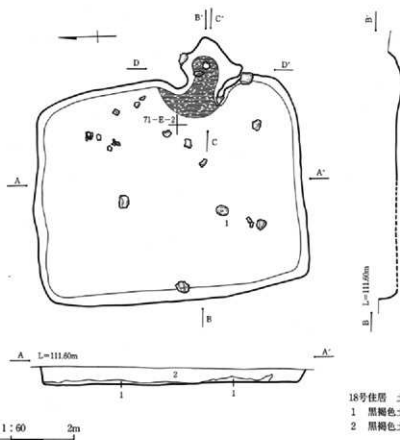
形態 南北にやや長い横長方形を基本とするが、北辺がやや短く、北東角がやや開き気味になる。南東角は円弧状を呈する。規模 長軸4.03m 短軸2.95m~3.25m

床 黒ボク土中に置かれる。硬化は比較的弱く、捉えにくい。

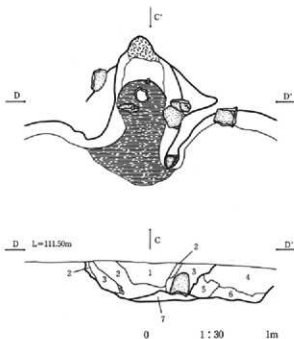
壁 西壁側では30cmを越える残存壁高があるが、東壁では20cmほど、東南角では15cmほどしかない。ほぼ垂直に立ち上がる。

竈 東壁南寄りの地山を掘り込んで作る。主軸方向はN-96°-Eを示す。袖部は住居内に短く張り出す。燃焼部は壁外にある。にぶい黄褐色の粘土を貼って構築材とし、壁には粗粒安山岩の割石を構造材として用いる。燃焼部中央やや左手に支脚用石が残されていた。竈前面に粘土が広がっている状況が観察されたが、これは竈から流れて広がったものではなく、住居底面の黒ボク土の直上に貼られたものと見られ、1号、2号、16号住居でも同様の状況が見られる。竈掘方掘削後、竈前の床から竈底面にかけて粘土を貼り、壁石を並べてから壁、天井を貼るという構築順序が想定される。

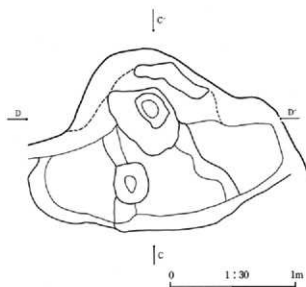
遺物 住居の東北四半に遺物が小さなまとまりを見せるが、資料化できるものは少ない。器高が低く、底部がヘラ削りで調整された坏、頂部が潰れたような形状の小振りな宝珠形柄みを持つ蓋、器高が低く偏平な土師器坏があり、8世紀中葉頃の年代が当てはまると思われる。



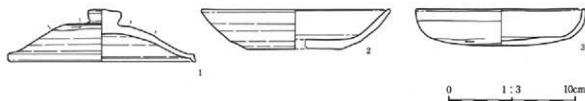
第189図 18号住居平面図 土層断面図 高低図



第190図 18号住居竈平面図 土層断面図



第191図 18号住居竈掘方平面図



第192図 18号住居出土遺物



18号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR5/4 におい黄褐色砂質土 焼土粒を少量含む。壁外から住居全体に流れ込む自然埋没土。
- 2 1層を主に灰、焼土を多く混する。壁際に混する焼土は硬く焼け締まったブロック状で一部は径1cm大の塊状をなす。中央部では径5mm大のものが全体に混じり込んでいる。
- 3 10YR5/4 におい黄褐色粘質土 やや緻密で硬い。被熱によりわずかに赤変している。主たる構築材。
- 4 黒褐色砂質土 As-Cを含む。
- 5 黒褐色砂質土 におい黄褐色砂質土を斑点上に含む。3層の径1cm大の小ブロックを少量含む。
- 6 灰白色粘土 4層を多く含む。
- 7 地山の黒ゴケ土にわずかに焼土流が混入。貼り床材と見られ、やや硬く、緻密。

18号住居竈 礎観察所見

- ① 左側壁の構造材 粗粒輝石安山岩転石。
- ② 右側壁の構造材 粗粒輝石安山岩転石。
- ③ 右側壁の構造材 粗粒輝石安山岩。水平に置かれ、②が脇に立てられている。
- ④ 支脚石 粗粒輝石安山岩 赤変している。
- ⑤ 直方体の割石。壁際に固定される。竈口の養生材か。
- ⑥ 竈と直接関係しない。砥石か？

## 19号住居

位置 71-F,G-2グリッド 標高111.7mから111.8mの緩傾斜部に立地する。直接切り合う遺構はない。南に17号住居、西に20号、22号住居、東にやや離れて18号、21号住居がある。

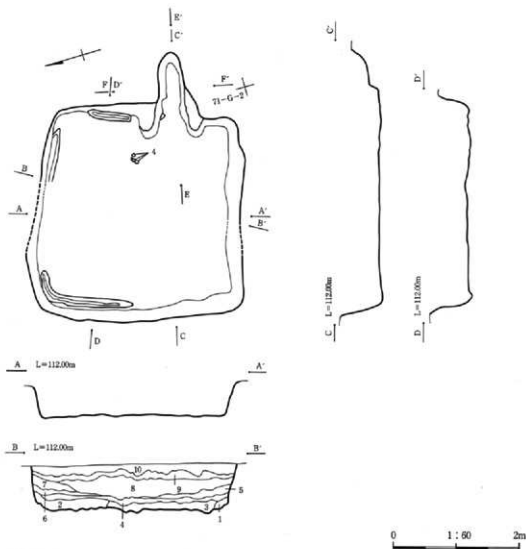
形態 東西がやや長い縦長方形。四隅の角は共に比較的整っている。規模 長軸3.02m 短軸2.84m

床 ローム土及びローム漸移土と黒色砂質土の混土で貼られる。住居中央部がわずかに高いが、ほぼ均平に仕上げられる。住居北半には壁周溝がめぐる。

壁 最も浅い東南隅で43cm、西壁中央では65cmの残存壁高がある。四壁共に垂直に近く立ち上がる。

竈 東壁南よりの地山を掘り込み、住居内に短く袖を張り出す。暗褐色、灰黄褐色の粘土を貼って作られ、支脚の据え方と思われるくぼみがあるが、支脚そのものは残っていない。遺物も少ない。

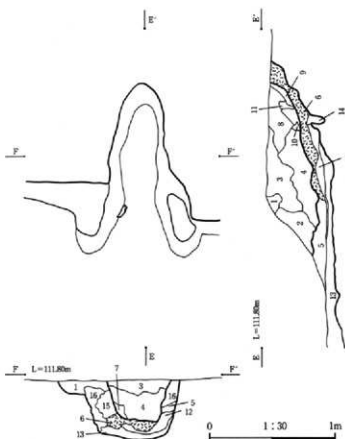
遺物 出土遺物は少ない。底部をヘラで切離し後、底部周縁をヘラ削りで調整した須恵器坏、器高が低く扁平なつくりの土師器坏、土師器甕があり、いずれも8世紀中葉のものである。



第193図 19号住居平面図 土層断面図 高低図



第194図 19号住居掘方平面図 土層断面図



第195図 19号住居竈平面図 土層断面図

19号住居 土層観察所見

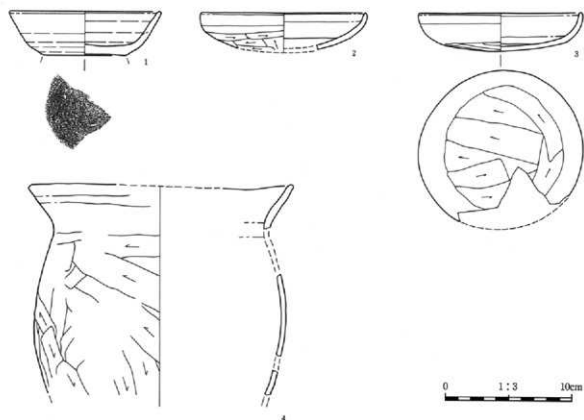
- 1 黄褐色土 褐色土ブロック少量含む。
- 2 にごった黄褐色土 ロームブロック含む。褐色土既含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。焼土ブロックわずかに含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを斑状に含む焼土ブロック、褐色土ブロックわずかに含む。
- 5 黒褐色土 As-C少量含む。
- 6 暗褐色土 As-C、ローム粒少量含む。
- 7 黒褐色土 As-C含む。ローム粒わずかに含む。
- 8 黒褐色土 As-C含む。焼土粒若干含む。
- 9 暗褐色土 As-C含む。やや暗い。
- 10 暗褐色土 As-C含む。褐色土ブロック少量含む。

19号住居掘方 土層観察所見

- 1 黒色砂質土 径1cm以下のローム小ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色砂質土を主とし、ロームを斑状に含む。上面は硬化している。

19号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR4/3 におい黄褐色砂質土 軽石を少量含む。
- 2 10YR1/3 黒褐色砂質土 軽石を含む。
- 3 2層と1層の斑状混土。4層近くではシルト質粘土を少量含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色砂質土 軽石を含む。シルト質粘土を少量含む。
- 5 10YR3/4 暗褐色粘質土 焼土粒わずかに含む。縦磨。天井部崩落土。
- 6 焼土層 カリカリに焼けた径1cmから3cmのブロック。天井崩落土。
- 7 10YR5/2 灰黄褐色粘質土 焼土を疎点状に含む。
- 8 10YR7/2 におい黄褐色シルト質土 軽石、径1cm大の焼土ブロックを少量含む。黒褐色土を疎点状に含む。煙道部天井に当たる。
- 9 8層に炭化物や焼土ブロックを含む。軽石は含まない。
- 10 10YR2/2 黒褐色砂質土 炭化物ブロックを含む。
- 11 10YR6/8 褐色砂質土 天井から崩落した焼土が崩れたもの。
- 12 暗褐色砂質土 まばらに焼土を含む。やや粘性あり。
- 13 におい黄褐色土 ローム新移層主体。焼土粒を含む黒色土との混土。床面構成土。
- 14 12層に粘土、焼土をやや多く含む。
- 15 5層を主とし、におい黄褐色砂質土と混ざる。内側は粘土主体で焼土は、淡く赤黄。縦磨で硬い。
- 16 5層とにおい黄褐色砂質土との混土。



第196図 19号住居出土遺物

## 20号住居

**位置** 71-HI-2グリッド 標高112.0mから112.2mの傾斜部に立地する。遺構の集中する部分にあたり、南西隅部で13号住居を切る。北に22号、東に19号、西に14号の各住居などがある。また、北側に1号柱穴列、2・6・7号掘立なども隣接する。

**形態** 南西角が13号住居を切り込むため不明確だが、やや平行四辺形状に歪んだ方形の平面形を呈する。確認できる三隅は整った角をなし、特に北西角は強く屈曲する。規模 南北3.4m 東西3.22m

**床** 黄褐色のロームと黒褐色土の混土で貼られ、ほぼ均平に仕上げられる。壁周溝は認められないが、壁下をめぐるような掘方に沿って、壁隙がわずかに低くなる。

**壁** 最も浅い東南隅隅でも43cm、最深の北西隅では76.5cmの残存壁高がある。四壁共に崩れは比較적으로少なく、垂直に近く立ち上がる。

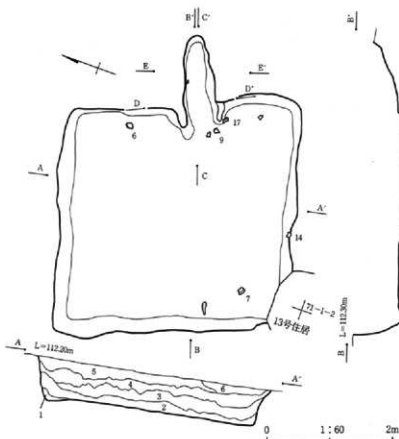
**柱穴** 床面では認められない。掘方では竈左手前及び住居中央部に径25cmから30cm、深さ15cmから20cmのピットがあるが、柱穴が想定される位置ではない。

**貯蔵穴** 床面では認められない。掘方では東南隅部が方形に広く掘り込まれ、その中でも住居の角にあたる部分が径40cm、深さ7cmほどの浅いくぼみとなっているが、遺物の出土等はない。

**竈** 東壁中央近くの地山を大きく壁外に掘り込み、にふい黄褐色から黄褐色の粘土を厚く貼って構築している。住居内に短い袖を張り出す。主軸方向はN-71°-Eを示す。左袖焼き口部には16の堯が置かれ、そのやや奥には構造材を抜き取ったかのようなピットが見られる。右側壁部掘方でも堯がみつかっており、これも構造材として用いられたものであろう。燃焼部底には銀白色の灰が厚く堆積していた。

**掘方** 壁沿いを広く掘っているが、中央部は掘り残される。竈前は大きな弧状の掘方が連続し、そこからさらに一段下がるように方形に掘られる。北東隅から北西隅にかけても弧状の掘方が続き、西壁中央部では壁に沿った幅広の溝状になっている。南西隅から南壁中央にかけては小さなピットが連続するような掘方で、土工具の痕跡が残されているものようである。

**遺物** 覆土から出土する土器は多いが、床面近くでは竈前および壁際に少量の土器が点在するのみである。土師器・須恵器の坏が主体となる。全体的に8世紀と9世紀の遺物が混在している様子で、9世紀の遺物はほとんどが土師器坏で、底部平底で体部の調整が省略されるものである。ほかに粗雑なつくりの須恵器高台付碗、環状柄みを持つ蓋が9世紀前葉の遺物となる。8世紀後葉の遺物は土師器甕、土師器台付甕、回転糸切離しの坏となる。8世紀中葉・前葉の遺物も混入しており、底部を回転ヘラ起こして切離した須恵器坏、大型の土師器坏（銅柄模倣坏）がある。8世紀中葉の13号住居を切っていることもあり、9世紀前葉の年代を当てておきたい。

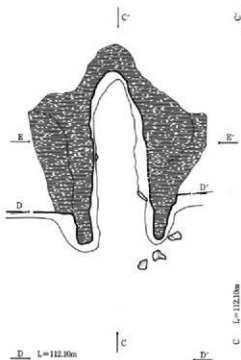
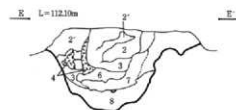


20号住居土層観察所見

- 1 黄褐色土 褐色土ブロックを混状に含む。炭化物粒若干含む。
- 2 暗褐色土 As-C、焼土粒、炭化物粒少量含む。
- 3 暗褐色土 As-C、焼土粒、炭化物粒少量含む。
- 4 褐色土 As-C、焼土粒少量含む。
- 5 褐色土 As-C含む。焼土粒わずかに含む。
- 6 覆風土

第197図 20号住居平面図 土層断面図 高低図



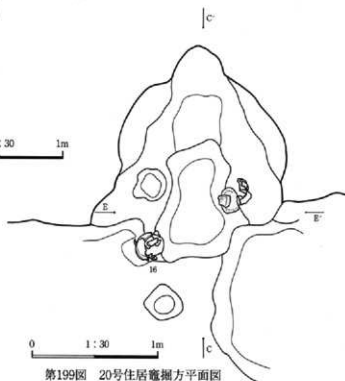


第198図 20号住居竈平面図 土層断面図

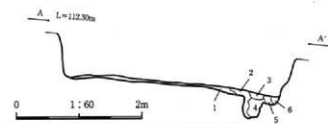
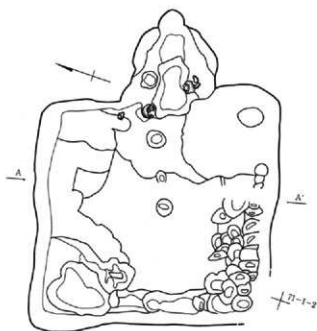
0 1:30 1m

## 20号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 細かい焼土粒、粘土粒を全体に含む。
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土 褐色砂質土が斑点状に混入。竈からの崩落土。 2' 10YR6/3にぶい黄褐色砂質土 焼土粒、軽石粒を含む。1層と2層の混土らしい。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 被熱し赤みを帯びる。天井部崩落土。
- 4 焼土 竈内壁部。
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色土 焼土粒、軽石粒を含む。被熱し、やや赤みを帯びる。
- 6 灰層。
- 7 灰と焼土ブロックの混土。
- 8 3層と径1cmから3cm大の焼土ブロックとの混土。



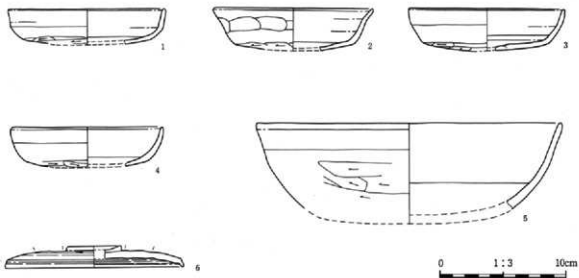
第199図 20号住居竈掘方平面図



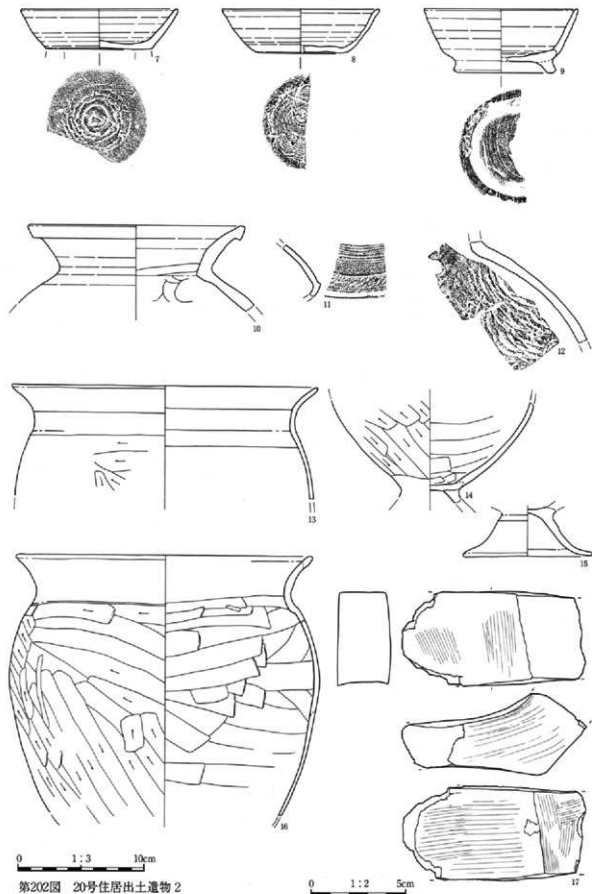
第200図 20号住居掘方平面図 土層断面図

20号住居掘方 土層観察所見

- 1 10YR5/8黄褐色ロームブロックと10YR2/3黒褐色土のブロックの混土。
- 2 1層に似るが、ロームブロックが大きく多い。
- 3 1層に似るが、黒褐色土が多く、ロームは粒状のもの。
- 4 1層に似るが、黒褐色土が多く、ロームブロックは径1cm大と小さい。
- 5 1層に似るが、ロームブロックが大きく多い。
- 6 1層に似るが、黒褐色土が主体をなし、As-Cを含む。



第201図 20号住居出土遺物 1



第202図 20号住居出土遺物 2

21号住居

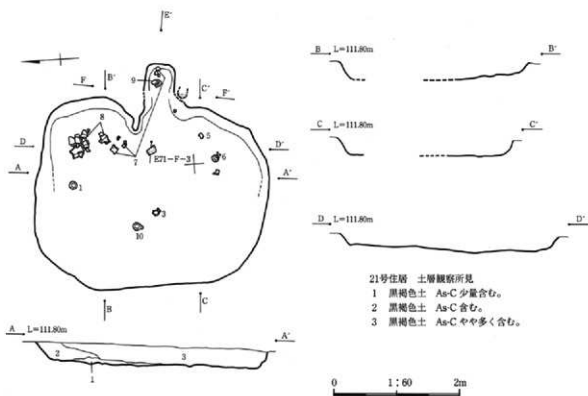
位置 71-E-F-2.3グリッド 標高111.6mから111.7mの緩傾斜部低位に立地する。直接切り合う遺構はない。住居集中部の東部にあたり、南東に18号住居、南西に19号住居がある。

形態 北壁及び東壁北部は比較的直線的であるが、他は弧状をなす。南北に長い隅丸長方形と思われるが、東壁南部から南壁にかけてはゆるい弧状をなして連続し、屈曲しない。規模 長軸3.3m 短軸2.6m  
床 黒色土中にあり、硬化は弱い。北側は比較的平らであるが、南側及び住居中央部は波打ちながらやや低くなる。

壁 やや上方に開きながら立ち上がる。東壁北部で15cmほど、東南部で20cmほどの残存壁高がある。

竈 東壁ほぼ中央を壁外に底辺の広い三角形に掘り込んで構築する。左軸は地山を掘り残しているが、右軸部はわずかに張り出すのみである。右側壁には一部構造材の石が残されていて、これを黄褐色土で被覆して竈本体を構築している。燃焼部奥にも石が据えられていて、そこから段をもって煙道に連続する。この石を覆うのは外部から流入したと思われる黒褐色土であり、構造材ではないことがわかるが、支脚としてもやや奥よりに過ぎるように思われる。

遺物 住居の東北四半に壺片が集中し、坏類は特定の傾向を持たずに点在する。器種としては須恵器の高台付碗が主体で、いずれも体部下半が膨らみ、口縁部は強く外反する。高台などのつくりはいずれの碗も粗雑で、ほとんどが還元焙焼である。高台付碗に、判読不能だが体部外面に墨書のあるもの、内面に「視」と思われる線刻のあるものが見られる。土師器壺は小振りなつくりで、口縁部は短く、コの字からはかなり崩れた形状となる。土師器坏は須恵器坏に似た形状で、10世紀代に入る可能性もある。住居の年代としては、高台付碗や壺などの特徴から、9世紀後葉としておきたい。

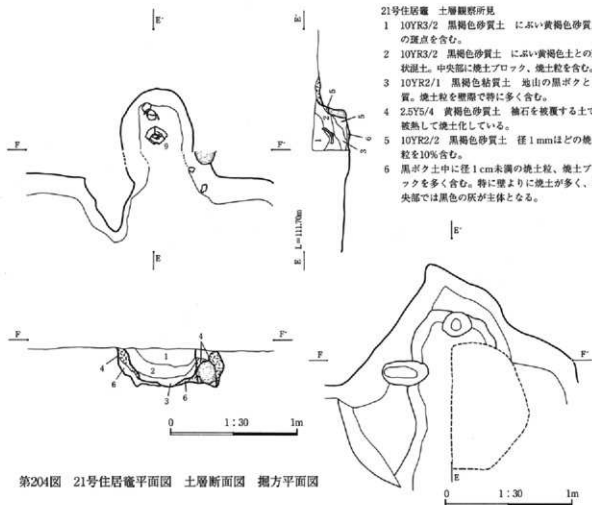


第203図 21号住居平面図 土層断面図 高低図

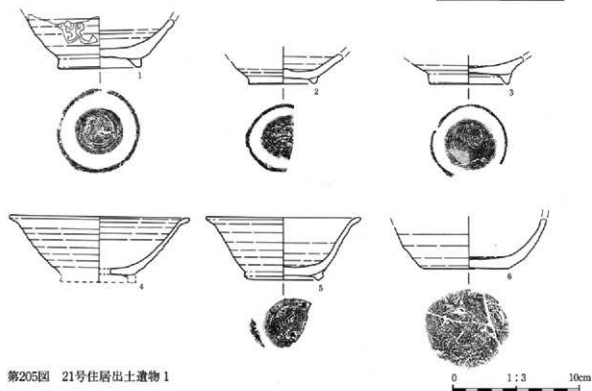
## 2 竪穴住居

### 21号住居竪 土層観察所見

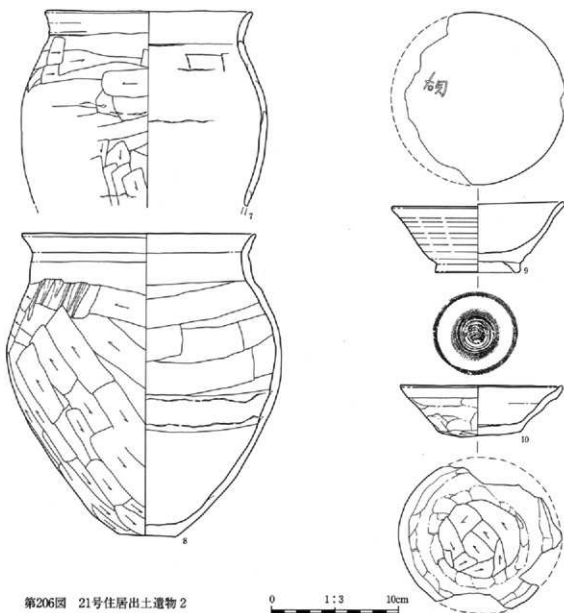
- 1 10YR3/2 黒褐色砂質土 におい黄褐色砂質土の斑点を含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色砂質土 におい黄褐色土との斑状混土。中央部に焼土ブロック、焼土粒を含む。
- 3 10YR2/1 黒褐色粘質土 地山の黒ボクと同質。焼土粒を密着で特に多く含む。
- 4 2.5Y5/4 黄褐色砂質土 礫石を被覆する土で、被熱して焼土化している。
- 5 10YR2/2 黒褐色砂質土 径1mmほどの焼土粒を10%含む。
- 6 黒ボク土中に径1cm未満の焼土粒、焼土ブロックを多く含む。特に壁よりに焼土が多く、中央部では黒色の灰が主体となる。



第204図 21号住居竪平面図 土層断面図 掘方平面図



第205図 21号住居出土遺物 1



第206図 21号住居出土遺物 2

### 22号住居

**位置** 71-H-3グリッド 標高111.9mから112.1mの緩傾斜部に立地する。8号掘立柱建物に切られる。1号柱穴列とは直接切り合わないが、本住居のほうが古いものと思われる。南に19号、20号、北西に23号北東にやや離れて27号の各住居がある。

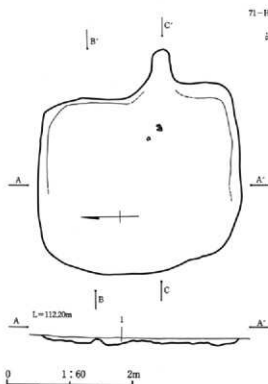
**形態** 方形あるいはやや南北に長い横長方形の住居として調査を開始したが、掘方底面のみの残存であったため、正確な形状は把握できない。規模 南北2.94m 東西推定2.7m

**床・壁** 掘方埋土と見られるAs-Cを含む黒褐色土が残存するが、床面は失われている。

**柱穴・貯蔵穴** 確認できない。

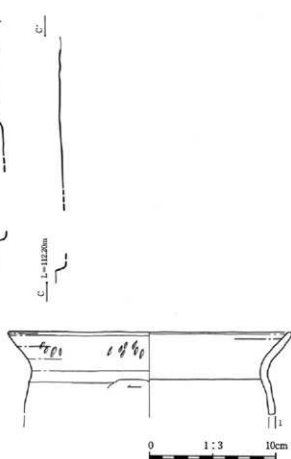
**竈** 東壁やや南寄りに想定されるが、確認できない。

**遺物** 竈想定位置の手前で土師器甕の破片が出土している。口縁部の破片のみだが、8世紀中葉の可能性が考えられる。



22号住居 土層観察所見  
1 黒褐色土 As-Cを含む。

第207図 22号住居平面図 土層断面図 高低図



第208図 22号住居出土遺物

### 23号住居

**位置** 71-IJ-3.4グリッド 標高112.3mから112.5mの傾斜部に立地する。遺構が集中する地点で、特に掘立柱建物が重複する部分に当たり、2号・6号・7号掘立柱建物を切る。南西から東にかけて、13、14、20、22号の各住居、北西に25・29号住居などがあり、北東に27号住居がある。

**形態** 南北に長く、南辺を上底とする台形状を呈する。東辺は掘立柱建物の柱穴との切り合いでやや不明瞭である。

**規模** 長軸2.98m～3.1m 短軸 北壁2.62m 南壁2.31m

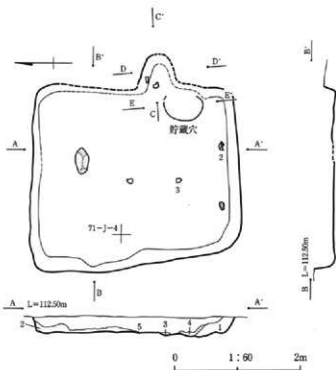
**床** ローム漸移層上面近くまで掘り下げられていて、ロームブロック混じりの黒褐色土が床面を構成している。壁際はわずかに低くなるが、ほぼ均平に作られる。住居中央より北壁よりの床上に長40cmほどの礫がある。

**壁** 北東部で15cm強、南部では30cm強の残存壁高がある。やや上方に開きながら立ち上がる。

**柱穴・貯蔵穴** 確認できない。

**竈** 東壁南よりの地山を掘り込み、粘土を貼って構築する。2号、6号掘立柱建物の柱穴との切り合いを誤認したため、詳細な構造把握ができていない。

**遺物** 竈周辺および住居中央から南壁際にかけて土器片や礫が点在する。土器は酸化焙焼成の須恵器高台付碗が大半を占めるが、還元焙焼成の須恵器高台付碗も出土している。土師器高台付甕の破片が出土しており、年代は9世紀後葉と思われる。



- 貯蔵穴  
E L=112.50m
- 23号住居 土層観察所見
- 1 暗褐色土 ロームブロックを錠状に含む。
  - 2 暗褐色土 As-Cを少量含む。
  - 3 黄褐色土
  - 4 暗褐色土 黒褐色土、ロームブロックを錠状に含む。
  - 5 暗褐色土 As-C含む。

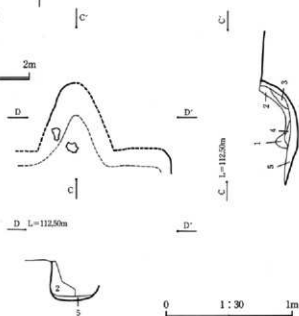
第209図 23号住居平面図 土層断面図 高低図

23号住居貯蔵穴 土層観察所見

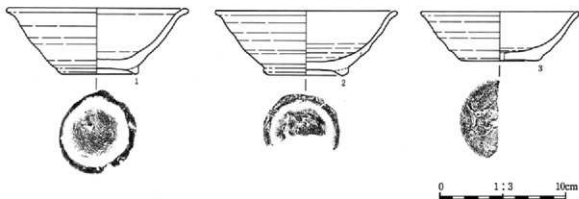
- 1 10YR3/3 暗褐色砂質土 ローム粒、焼土粒、径1cmから2cmの炭化物を20%含む。
- 2 10YR4/4 褐色砂質土 層薄か。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 径3mmから5mmのロームブロックを20%含む。

23号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR4/1 褐灰色土 灰、焼土、炭化物などが混じる。
- 2 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒含む。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 橙色の焼土粒少量含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ソフトロームを含む。
- 5 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック20%含む。As-C含む。

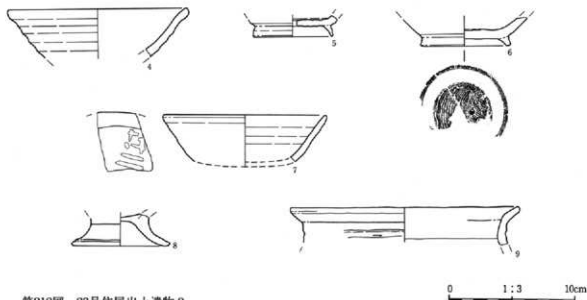


第210図 23号住居竈平面図 土層断面図



第211図 23号住居出土遺物 1





第212図 23号住居出土遺物 2

## 24号住居

**位置** 71-G.H-4.5グリッド 標高11.19mから112.0mの緩傾斜部に立地する。北半は用水路下にかかるため調査できていない。南部は1号溝に切られる。西半は27号住居を壊して、その上に本住居が造られている。南に22号住居、西に25・29号住居があり、北側には用水を挟んで48号、49号住居がある。

**形態** 竈と東壁南端部以外は把握できないため、形状を確定することができない。27号住居の覆土を掘り込んでおり、その中位に床を貼っているが、全体を確実に捉えることができない。南北方向の土層断面により西壁が確認できるが、これも大部分を1号溝に切られていて西部は不明瞭である。貼床の残存範囲と西壁の想定線は必ずしも相似形をなさない。他の住居における竈位置などから見て長方形あるいは方形の平面形状と推定する。 **規模** 東西推定長3.62m 南北確認長2.48m

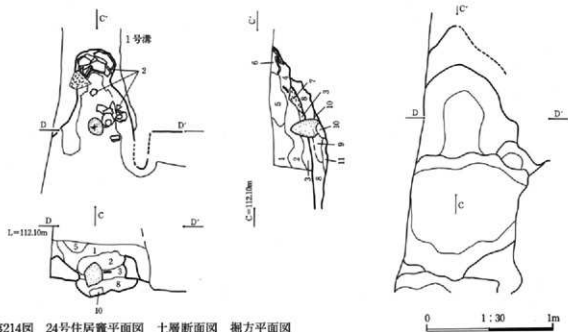
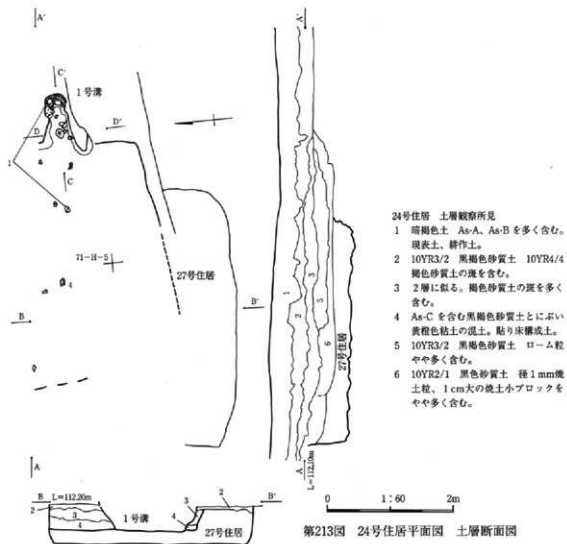
**床** 27号住居上に大部分を作るため、全体に貼り床が施される。住居中央部、特に東半部は強く硬化しているが、壁周辺および西部では軟らかく、確実な範囲が捉えがたい。床土はAs-Cを混ざる黒褐色砂質土と、竈に利用される粘土に近い、ぶい黄褐色の粘質土を混している。

**壁** 東西方向土層断面では、北壁部について、やや上方に聞きながらもほぼ垂直に立ち上がる状況が看取できた。この部分では40cm近い残存壁高がある。他の壁は切り合いのため、明確に捉えられない。

**柱穴・貯蔵穴** 認められない。

**竈** 東壁の南寄り壁外に大きく掘り込んで構築している。左右の袖は小さく住居内に張り出すが燃焼部は壁外に作られる。褐灰色およびぶい黄褐色の粘土を構築材として用いており、焼土化した粘土中に植物質のスサが観察されるものもある。主軸方向はN-84.5°-Eを示す。焼土化した面が部分的に2面認められるため、造り替えが行われた可能性がある。燃焼部中央やや手前に支脚石があるが、袖石及び他の構造用石は認められない。燃焼部奥壁立ち上がりから煙道への連続部に土器破片がまとまるが、これは煙道の構築材として用いられたものであろう。支脚周辺には2の堯が散乱する。こちらは調理に使用されたものと見られることもできるが、煙道部出土土器との接合片もある。

**遺物** 竈内以外からの遺物は少ない。口縁部が強く外反し、内面に「石（あるいは石偏か）」の線刻がある高台付碗や須恵器杯に似た形状の土師器杯が出土している。年代は9世紀後葉と思われる。

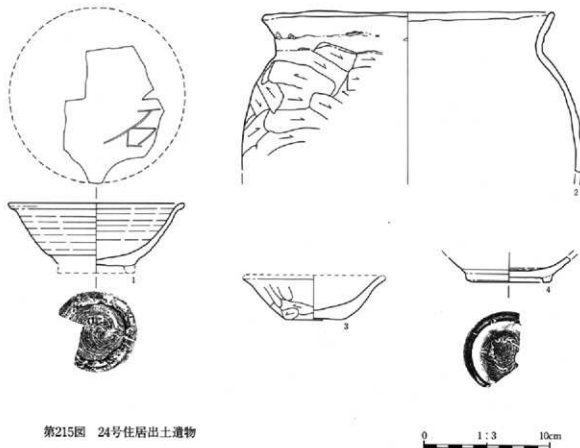


## 24号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色砂質土 As-C を含む黒色土と褐色土の混土。焼土粒、炭化物粒含む。
- 2 10YR4/1 褐色粘質土 径1cmから4cmの焼土ブロックを10%含む。As-C を含む黒色土が斑点状に含む。奥壁側に多く炭化物含む。天井崩落土。
- 3 10YR2/2 黒褐色砂質土 黒色の灰、焼土粒、炭化物粒含む。
- 4 10YR4/1 褐色粘質土 径1cmから4cmの焼土ブロックを30%含む。As-C を含む黒色土が斑点状に含む。奥壁側に多く

炭化物含む。

- 5 10YR7/2 にふい黄褐色粘質土 焼土粒、軽石、暗褐色土のブロックを斑点状に含む。2層より硬く締まっている。
- 6 10YR3/1 黒灰色土 焼土ブロック含む。
- 7 暗褐色土 強く焼き締まったスサ入りの焼土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土と焼土粒、炭化物粒の混土。
- 9 暗褐色土と細かい焼土粒、炭化物粒、灰の混土。
- 10 10YR3/1 黒褐色砂質土 焼土粒少量含む。
- 11 10YR2/2 黒褐色砂土 川砂様の砂粒主体。



第215図 24号住居出土遺物

## 25号住居

位置 71-J,K-4.5グリッド 標高112.7mから112.9mの傾斜部に立地する。1号溝に切られる。北西角で8号住居を切る。南東にやや離れて23号住居がある。

形態 調査時点では南北に2棟の住居が切り合っているものとされた。南部と北部で床下構造が異なり、これに伴って床面でも南より部分に小さくほみ状の段差がつくこと、西壁の周溝残痕と思われるくぼみがやはり同一位置近くで完結することなどによる。しかし、覆土の土層観察所見からは両者を分離することができず、東西両壁ともほぼ連続すること、北部の古いと考えられる住居に付属すべき竈が痕跡としても確認できないことなどから、1棟の住居が1号溝の影響を受けて見かけ上二分されている、あるいは南部分の歪ん

だ方形住居が先に作られ、北部に拡張されたもので、いずれにせよ埋没時には南北に長軸を持つ横長長方形の住居1棟であったものと判断する。北西隅は8号住居との切り合いのため明確ではないが、他の三角は直角に近い屈曲を見せ、整った長方形を呈している。規模 長軸 3.28m 短軸長 2.07m

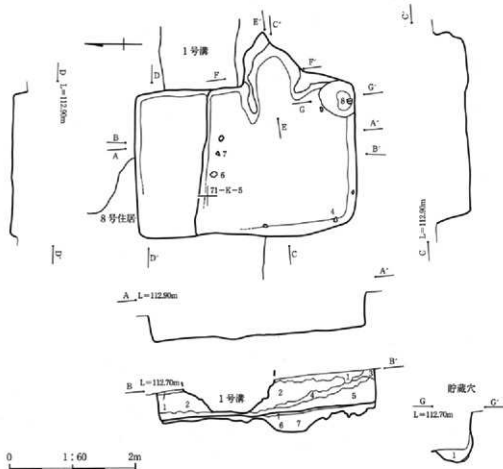
床 緩やかに波打つ。南よりに小さなくぼみ状の段差がつく。暗褐色土とロームブロックの混土が踏みしめられており、南部中央付近では黒褐色土とローム、焼土などが混じた土が硬く踏みしめられている。

壁 北東隅部で40cmほど、南西部では56cm程の残存壁高がある。西壁上部はやや崩れているが、四壁とも垂直に近い、強い立ち上がりを示す。

貯蔵穴 竈右手に当たる南東隅に壁をやや掘り込むように作られている。径63cmほどの、ややいびつな円形の平面形で、深さは床面から25cmほどある。丸底で暗褐色の砂質土で埋まっている。

竈 東壁南寄りの地山を掘り込んで構築する。特に左袖部は住居内に張り出し、燃焼部も過半が住居内に作られている。主軸方向はN-90°-Eを示す。竈前には構築材として用いられたと見られる暗褐色粘質土が広がる。構造用石、支脚石などは見られない。左袖部内に坏があるが、これも構造を支えるものとは見られない。

遺物 出土遺物は9世紀後葉~10世紀前葉のものと思われる須恵器と土師器の坏、灰軸陶器の碗破片がある。覆土中からは9世紀前葉と思われる須恵器壺、高台付碗が出土している。



第216図 25号住居平面図 土層断面図 高低図

## 2 竪穴住居

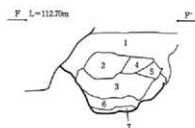
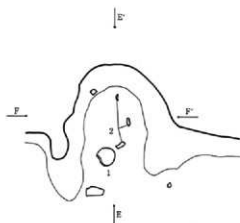
### 25号住居 土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色砂質土 As-C含む。ローム粒少量含む。
- 10YR3/2 黒褐色砂質土 As-C含む。ローム粒、焼土粒少量含む。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 ローム粒多く含む。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。
- 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 ローム粒、ローム小ブロック多く含む。北半は径1cmから3cmのブロックが塊状に混

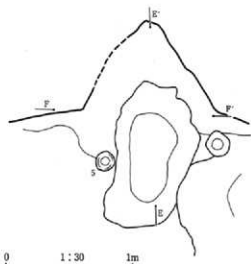
- ずる。南部は1cmから4cm大のブロックが多く混ざる。
- 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒を含む。As-Cかと思われる白色軽石含む。層まっている。床構成土。
  - 10YR3/4暗褐色砂質土と径5mmから5cmのロームブロックの斑状混土。

### 25号住居野竈穴 土層観察所見

- 10YR3/3 暗褐色砂質土 ローム粒、炭化物粒含む。ローム粒は下部に多い。サラサラした砂質土。



第217図 25号住居竈平面図 土層断面図



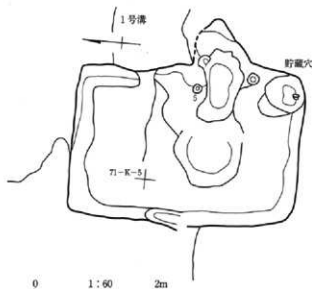
第218図 25号住居竈掘方平面図



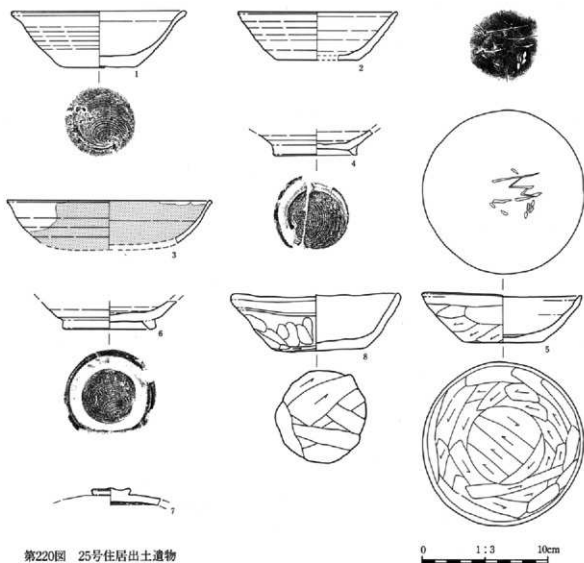
### 25号住居竈 土層観察所見

- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 ローム粒を含む。混れている。
- 1層中にロームブロックを互層状に含む。
- 10YR3/4 暗褐色砂質土 中位から下位に1mmから20mm大の焼土粒、焼土小ブロックをやや多く含む。2層との境界には黒色の灰を挟む。
- ロームブロック。
- 不明。
- 3層に広がる。青黒色の灰を多く含む。
- 10YR2/2 黒褐色土 径1cmから3cmの10YR6/8明褐色ロームブロック15%から30%を斑点状に含む。下部では黒褐色土が多い。
- 3層に広がる。焼土粒10%含む。青黒色の灰を多く含む。

0 1:30 1m



第219図 25号住居掘方平面図



第220図 25号住居出土遺物

### 25号住居

**位置** 71-M.N-4.5グリッド 標高113.3mから113.5mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。北東に7号住居があるが、南の15号住居とはやや離れている。11号掘立柱建物に切られる。

**形態** やや南北に長いが、ほぼ方形を呈する。東南隅と西南隅はやや丸みを帯びる。壁外に住居を取り巻く形で40cmから70cmの幅で黒色土が帯状に残されており、周堤の残痕である可能性が考えられた。規模長軸（南北）4.26m 短軸（東西）3.84m

**床** 明黄褐色のロームと暗褐色土の混土及びAs-Cを含む黒褐色土が踏み固められて床面を形成している。東壁の竈以北と北壁から西壁北部にかけて壁周溝がめぐる。他の部分も壁際がやや低くなり、また全体にゆるく波打つ。

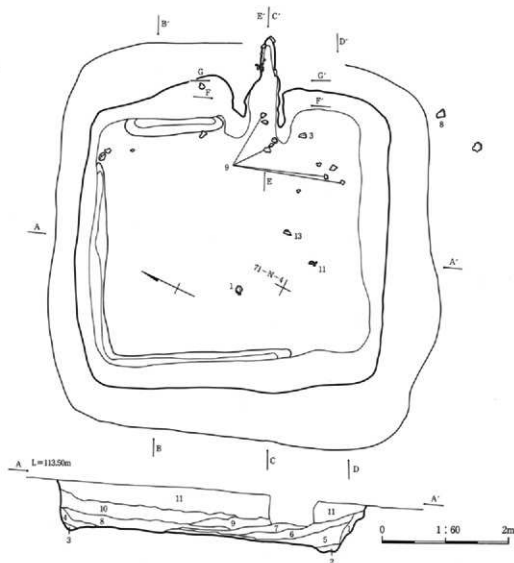
**壁** 比較的浅い東壁中央近くでも54cm、西壁南部では80cm近い残存壁高がある。基部は急角度だが、中位以上は上方に開き気味に立ち上がる。

**柱穴** 掘方では東南隅の貯蔵穴と思われる土坑以外に、他の三隅にも深さ15cmから30cmの不整形の掘り込みが見られるが、柱穴としては弱い。南壁沿いには小ピットが並んでおり、梯子穴と考えられた。

貯蔵穴 床面調査時には確認されていないが、掘方東南隅に貯蔵穴と思われる土坑状の掘り込みがあった。長径1.1m、短径0.7mほどの南北方向にやや長い長円形で、最深部までの深さは20cmほどある。

竈 東壁南寄りを壁外に大きく掘り込み、灰黄褐色粘土を貼って構築している。左右の袖も粘土で構築され、構造材は見られない。燃焼部は過半が壁外に当たり、燃焼部奥壁は強く立ち上って煙道部につながる。主軸方向はN-91°-Eを示す。

遺物 出土遺物は須恵器杯、高台付碗、蓋や土師器杯、甕など多種に及ぶ。床面に近い位置から出土するのは8世紀後葉の遺物で、上野型短頸壺の蓋や須恵器杯、土師器杯、甕がある。覆土中には9世紀前葉～中葉の遺物があり、11号掘立柱建物と関連が考慮される。

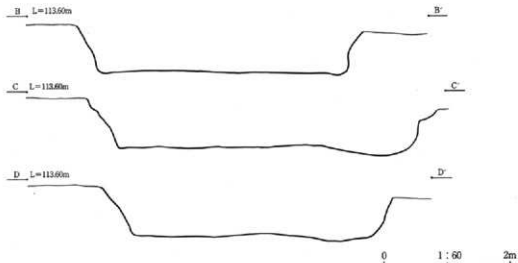


## 26号住居 土層観察所見

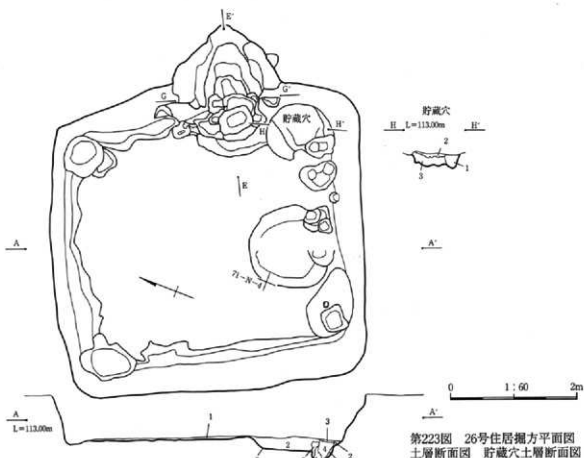
- 1 にごった黄褐色土
- 2 褐色土 ロームブロック含む。
- 3 褐色土 ロームブロック含む。
- 4 褐色土 ロームブロック少量含む。
- 5 褐色土 ローム粒含む。炭化物粒若干含む。
- 6 褐色土 ローム粒含む。焼土粒、炭化物粒少量含む。
- 7 褐色土 ロームブロック、焼土粒含む。炭化物粒若干含む。

- 8 褐色土 ローム粒、焼土粒少量含む。As-Cわずかに含む。
- 9 褐色土 焼土ブロック若干含む。炭化物、ロームブロック少量含む。
- 10 褐色土 As-C若干含む。ローム粒、炭化物粒少量含む。焼土粒わずかに含む。
- 11 暗褐色土 As-C含む。焼土粒少量含む。炭化物粒、ローム粒わずかに含む。

第221図 26号住居平面図 土層断面図



第222図 26号住居高低図



第223図 26号住居掘方平面図  
土層断面図 貯蔵穴土層断面図

26号住居貯蔵穴 土層観察所見

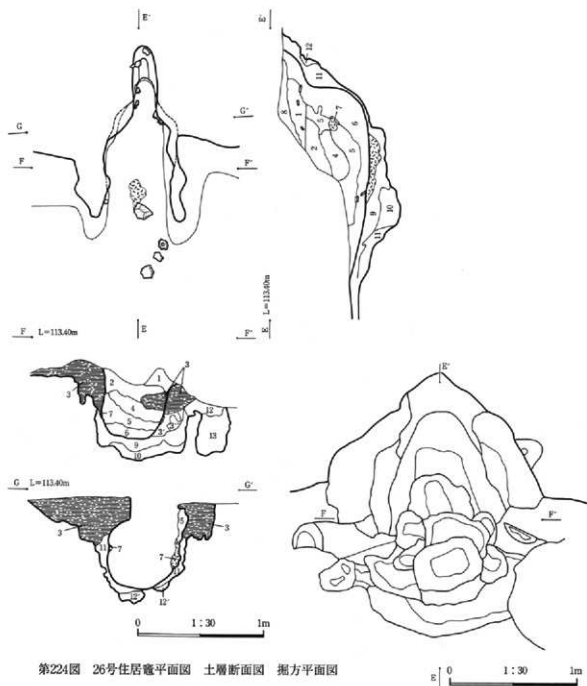
- 1 10YR2/2 黒褐色砂質土 As-C 含む。径5mm大のローム小ブロック10%含む。
- 2 10YR4/1 褐色粘質土 黒褐色土とロームが塊状に混入。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム、炭化物粒、焼土粒が塊状に混入。

26号住居掘方 土層観察所見

- 1 明黄褐色のロームと暗褐色土の混土。

- 2 黄褐色のロームブロックを主体とし、8層の粘質土ブロックや暗褐色土が混じる。ロームブロックは角張っていて、掘削後すぐに埋め戻されたような印象がある。
- 3 黒色砂質土 As-Cを混ずる。
- 4 10YR3/3 暗褐色砂質土 やわらかい。
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しっかりしている。
- 6 10YR4/4 褐色土 2層に似ている。
- 7 10YR4/4 褐色土。
- 8 10YR4/1 褐色粘質土 底面に貼られている。



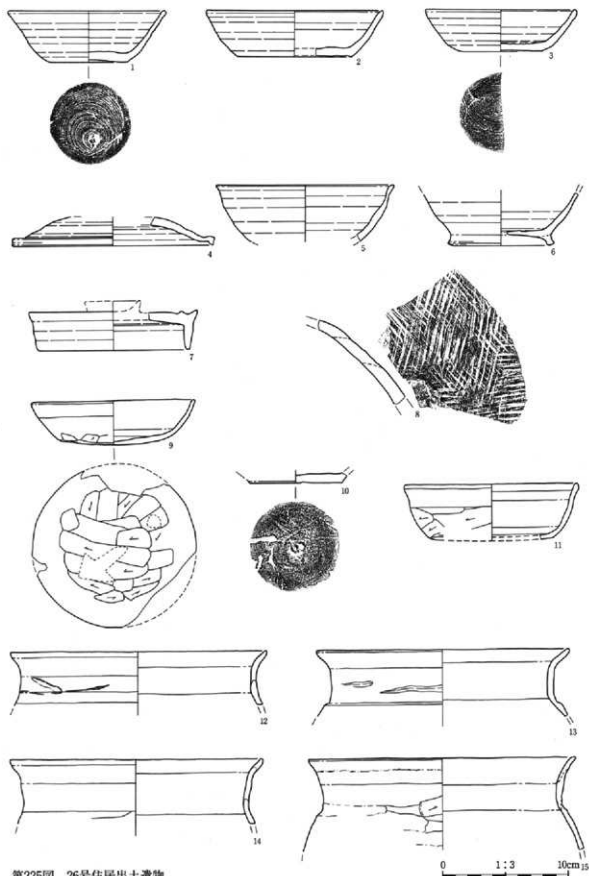


第224図 26号住居竪平面図 土層断面図 掘方平面図

## 26号住居竪 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色砂質土 ローム粒、焼土粒、3層土をわずかに含む。
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト質土 3層よりやや暗い。運道からの流入土と思われる。被熱し、わずかに非変している。
- 3 10YR5/2 灰黄褐色粘土 粘性強く、緻密で硬く締まっている。3' 10YR6/1 褐灰色土 焼土粒多く含む。3" 5YR6/3にぶい橙灰色土 焼土。
- 4 10YR6/2 灰黄褐色土 粘性弱い。崩落土中に径1cmから3cmの焼土小ブロックを少量含む。
- 5 4層と同相。焼土小ブロックやや多い。
- 6 青みがかった灰層とカリカリに焼けた3cm大の焼土ブロックの混土。奥壁部では上層に焼土ブロック、下層に灰層が堆積。

- 7 焼土 11層粘土が焼けたもの。
- 8 ぶい黄褐色砂質土 As-Cを主とする軽石を含む。
- 9 7.5YR6/3 ぶい褐色土 しっかりとした砂質土が主体だがシルト質部分あり。焼土粒、炭化物粒含む。
- 10 7.5YR3/1 黒褐色砂質土 シルト質部分あり。焼土粒、炭化物粒含む。
- 11 7.5YR4/1 褐灰色粘質土 ロームと褐灰色粘土を重ねて固めている。焼土粒、炭化物粒、軽石粒含む。
- 12 10YR5/1 褐灰色砂質土 焼土粒、炭化物粒、ローム粒含む。
- 12' ロームと黒褐色砂質土の斑状混土 緻密で硬い。
- 13 10YR7/8 黄褐色土 ロームに10YR4/1褐灰色シルト質土が斑点状に混入。下層ほど褐灰色土が多い。



第225図 26号住居出土遺物

## 27号住居

**位置** 71-G.H-4.5グリッド 標高11.19mから112.0mの緩傾斜部に立地する。北辺は用水路下にかかるため調査できていない。南部は1号溝に、東半は24号住居に上位を切られる。南に22号住居、西にやや離れて25・29号住居があり、北側には用水を挾んで48号、49号住居がある。

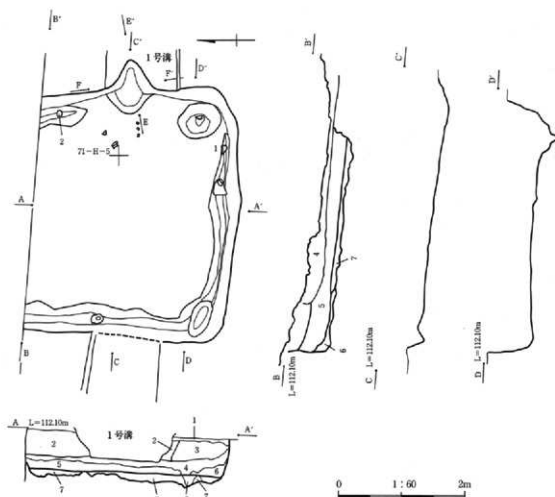
**形態** 北辺が確認できないため、全体の形状は把握できない。やや歪んだ方形ないし横長方形である可能性が高いものとする。南東隅はふくらみを持ち、南西隅はやや丸みを持ちながら屈曲する。西辺は南壁と直交するが、東壁は竈以北が西に振れている。規模 南北確認長 3.2m 東西長 3.3~3.5m

**床** ソフトローム下部まで掘り込まれ、ハードローム上面近くに床面を置く。24号住居床面から20cmほど下に当たる。As-Cを混ざる黒褐色土、暗褐色土とロームブロックの混土がごく硬く踏み締められている。竈左手から南東隅部以外は壁周溝がめぐる。

**壁** 周溝を介してほぼ垂直に立ち上がる。西壁部では最大67cmの残存壁高がある。

**貯蔵穴** 南東隅にある。長径66cm、短径58cmほどの扁円形で、床面からの深さは20cm弱ある。底面は凹凸が多いが概ね平底状を呈する。

**竈** 東壁やや南寄りには当たると思われる部分を壁外に掘り込んで構築するが、上位を24号住居に壊されてお

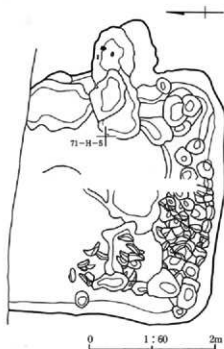


第226図 27号住居平面図 土層断面図 高低図

り、十分な構造把握はできない。淡灰色の粘土を用いて構築されている。壁構造材や袖石、支脚の据え方は確認できない。使用面底部には黒色、青灰色の灰層が厚く残されている。主軸方向はN-93°-Eを示す。

**掘方** 竈前から住居中央にかけては掘削底面が床面となるが、壁際を中心にやや深く掘り込まれており、特に南壁西部から西壁南部にかけては、土工具を突き立てて掘り返したような小さくはみが連続する。南壁沿いのくぼみは東側に弦、西側に弧をもつ半月状の平面形を呈する。

**遺物** 資料化可能な出土遺物は少ないが、9世紀前葉のものと思われる須恵器と土師器の坏が出土している。



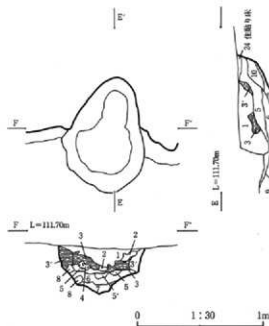
第227図 27号住居掘方平面図

27号住居 土層観察所見

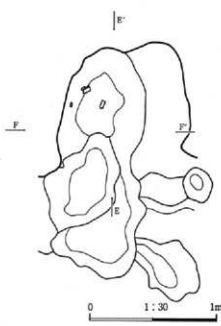
- 1 10YR3/2 黒褐色砂質土 10YR4/4褐色砂質土の灰を含む。
- 2 24号住居覆土
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。褐色砂質土の塊は含まない。
- 4 10YR2/1 黒色砂質土 焼土粒、小ブロックをやや多く含む。
- 5 10YR2/1 黒色砂質土 焼土粒、小ブロック、ローム粒をやや多く含む。
- 6 10YR2/1 黒色砂質土 焼土粒、小ブロックをやや多く含む。ローム小ブロックを壁際に多く含む。
- 7 As-Cを含む10YR2/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土と硬く締まったロームブロックの混土。下層に粘質土が貼られ、そのブロックが点在する。
- 8 10YR3/2 黒褐色砂質土 ローム粒を含む。粘質土を少量含む。

甕土層観察所見

- 1 暗褐色砂質土 As-C少量含む。ローム粒、焼土粒わずかに含む。24号住居床面構成土。
- 2 淡灰色粘土のブロック。
- 3 淡灰色粘土 壁の構装土が内側に崩落したものか。 3' 粘質土の下面が淡く赤変する。焼土粒を少量含む。
- 4 焼土ブロック。
- 5 黒色灰層 焼土粒を少量含む。 5' 焼土ブロックを多く含む。
- 6 5BG5/1 青灰色灰層 暗褐色土を含む。
- 7 黒色土 As-C含む。
- 8 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒、粒状の灰を20%含む。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを含む。
- 10 暗褐色砂質土 As-Cを含む。焼土粒、炭化物粒が点在する。



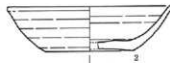
第228図 27号住居甕平面図 土層断面図



第229図 27号住居甕掘方平面図



第230図 27号住居出土遺物



## 28・29号住居

**位置** 71-K.L-5グリッド 標高112.9mから113.1mの台地頂部に近い傾斜部に立地する。遺跡内では竪穴住居の集中度が高い部分である。西の7号住居を切り、南には31号、東に8号、25号の各住居がそれぞれ近接してある。北部は用水路下にあたり、これを挟んで42・43号住居がある。29号住居の大半を壊して28号住居が作られている。29号住居は42号あるいは43号住居の一部と考えられたが、覆土が異なるため別住居とした。

**形態** 南部のみが調査されているため、全体の形状はわからない。南東隅は中段を持ってやや張り出す。南壁はわずかに影らむ。平面図上の西壁は29号住居のものであり、28号住居の西壁は内側にある周溝の位置に当たる。28号住居が用水路下で遺構が完結するものとすれば、比較的小型の縦長長方形ということになる。29号住居は形状を推定できる根拠に乏しい。 **規模** 28号住居：東西3.6m 南北確認長1.6m 29号住居：東西確認長0.5m 南北確認長0.94m

**床** 28号住居床面は褐色から暗オリーブ褐色土を踏み固めており、均平で、ごく硬く締まっている。南壁の東よりから西壁にかけて壁周溝がめぐり、土層断面 A ラインの所見とあわせて、これが本住居の床面を限るものと判断された。29号住居床面は28号住居床面とほぼ同レベルからやや高い位置にある。硬化面ははっきりしないが、掘方を As-C や Hr-FA を含む暗褐色土で埋め、その上位を床面としている。土層断面の観察から壁周溝があったものと考えられる。

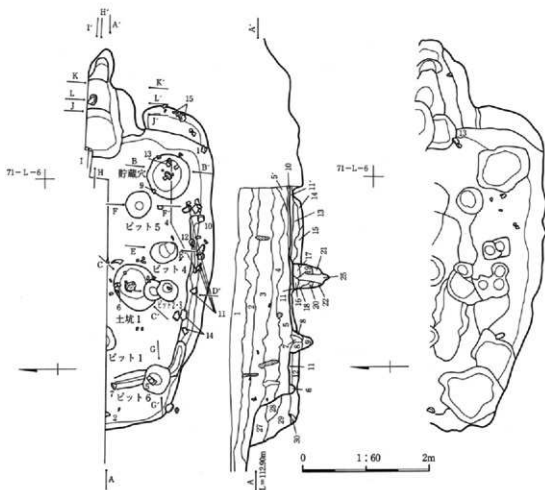
**壁** 28号住居はやや上方に開き気味に立ち上がる。南壁中央近くがもっとも残存壁高の高い部分で、63.5cm ある。29号住居はやや上方に開き気味に立ち上がるが、これは7号住居覆土を切って作っているために崩れたものかもしれない。土層断面から見ると70cm近い壁高がある。

**柱穴** 28号住居の床面調査時に6基のピットが確認されている。ピット1は径30cm、深さ30cmほどで、ロームの多い埋土の中央近くに黒褐色土の堆積があり、柱痕と考えられる。ピット2は径24cm、深さ10cmで、ピット3を切る。ピット3は径34cm、深さ21cmほどあり、明確な柱痕はないが、ロームの多い埋土中央部に黒褐色土の堆積が見られる。ピット4は径38cm、深さ32cmほどで、柱痕が認められる。ピット5は上端径38cm、深さ28cmで、逆三角形の断面形状である。ピット1はやや内側による嫌いがあるが、ピット5とともに主柱穴にあたり、ピット2・3および4が出入り口にかかる施設の痕跡としても良い位置である。ピット6は径44cm、深さ18cmほどで、半円形の断面形を呈する。また、28号住居床面下にもピットがある。29号住居に伴うものかもしれない。

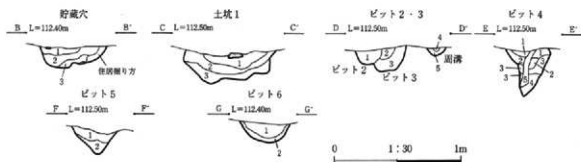
**貯蔵穴** 28号住居では東南隅にある。径67cmから70cmの比較的小さな円形の平面形で、27cmほどの深さがある。貯蔵穴の東にあたる東壁南端部は、間口95cm、奥行き15cmほどの大きさと東側に張り出す。床面からの高さ35cmほど、確認面からの深さ20cm弱の棚状施設である。29号住居では貯蔵穴等は認められない。

**竈** 28号住居にある。東壁を壁外に大きく掘り込んで構築している。左袖部は用水路下に当たり調査できない。暗灰色の粘土を構築材とし、石などの構造材は認められないが、煙道先端部近くに土器が置かれている。また、燃焼部やや奥の左よりに支脚石が据えられている。主軸方向はN-87°-Eを示す。

**遺物** 28号住居の遺物は須恵器坏、高台付椀が主体となる。底部平底で、体部の削りを省略した土器器坏やコの字状口縁の甕も出土しており、9世紀中葉頃と考えられる。29号住居にかかる覆土中や掘り方からも須恵器坏や蓋、土器器小型台甕が出土しているが、いずれも9世紀代のものと思われる。



第231図 28・29号住居平面図 土層断面図 掘方平面図



第232図 28・29号住居貯蔵穴・ピット土層断面図

## 28号・29号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 現表土。
- 2 10YR2/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ロームブロック、ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ロームブロック、ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。焼土粒を含む。ロームブロック、ローム粒を少量含む。炭化物粒わずかに含む。粘性ない。締まり弱い。5' 凝結層の灰色粘土ブロックを含む。
- 6 10YR4/4 褐色土 ローム粒を含む。As-C, Hr-FA, 焼土粒少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色土 As-C, Hr-FA含む。ロームブロック、ローム粒少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 8 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
- 9 10YR4/6 褐色土 ローム凝移層主体。ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 焼土、ローム、灰色粘土の凝状混土。貼り床構成土。凝結層の粘土や灰層も薄い凝状に挟まる。ごく硬く締まっている。
- 11 10YR4/6 褐色土 ロームが横状に踏みしめられている。貼り床構成土。硬く締まっている。11' 灰色粘土を含む。
- 12 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 13 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 14 10YR5/8 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒主体。粘性弱い。強く締まっている。
- 15 10YR5/8 黄褐色土 ロームブロック、ローム粒主体。粘性弱い。強く締まっている。14層より黄色みが強い。
- 16 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 17 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 18 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック主体。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 19 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒、ローム小ブロック主体。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 20 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 21 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロック含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 22 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを極めて多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 25 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロック少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 27 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。焼土ブロック、焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
- 28 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FAを含む。焼土粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
- 29 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。
- 30 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒を含む。粘性ない。締まり弱い。
- 31 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。炭化物粒をごくわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。31' As-C, Hr-FAを多く含む。(31層・32層は7号住居覆土)
- 32 10YR4/3 にぶい黄褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒を少量含む。

## 28号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。As-C, Hr-FA, 炭化物粒を少量含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を含む。焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。

## 28号住居ピット2・3 埋層土 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性なし。締まり弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 3 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱い。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 5 10YR4/6 褐色土 ローム粒を多量に含む。

## 28号住居ピット4 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- 2 10YR4/6 褐色土 ローム主体。ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性なし。締まり弱くほそほそ。
- 3 10YR4/6 褐色土 ローム主体。ローム粒を含む。粘性なし。締まり弱い。
- 4 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体。ローム粒、ロームブロックは少ない。粘性なし。締まり弱い。
- 5 10YR4/4 褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱くほそほそ。

## 28号住居ピット5 土層観察所見

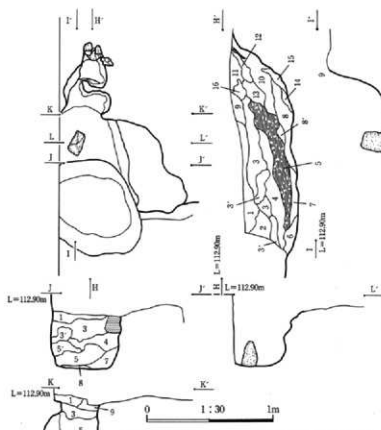
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多く含む。焼土粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。

## 28号住居ピット6 土層観察所見

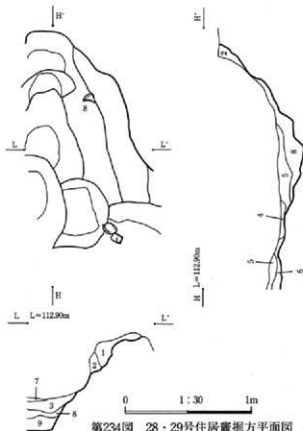
- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒、ロームブロック、焼土粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒を多く含む。

## 28号住居土坑1 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを多量に含む。ローム粒を含む。粘性なし。締まりなし。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性なし。締まり弱い。
- 3 10YR4/4 褐色土 ロームブロックを多く含む。粘性なし。締まりやや弱い。



第233図 28・29号住居竈平面図 土層断面図



第234図 28・29号住居竈掘方平面図 土層断面図

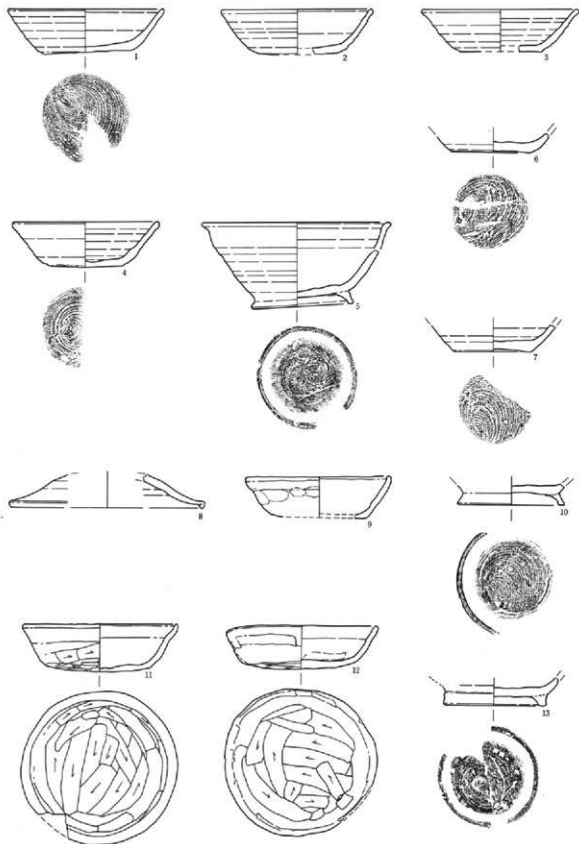
28号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA を含む。焼土粒、炭化物粒、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, 焼土粒、焼土ブロック、炭化物粒、ロームブロック、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 暗灰色粘土ブロック、焼土粒を多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。3' 暗灰色粘土ブロックを密に多量に含む。
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘土ブロック、焼土ブロックを少量含む。炭化物粒をわずかに含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 5 2.5YR4/3 オリーブ褐色粘土 焼土ブロックを少量含む。密に、良く締まっている。5' 焼土ブロックをやや多く含む。
- 6 7.5YR3/1 黒褐色土 炭化物を主体とする。焼土粒やや多く含む。粘性弱い。締まりない。
- 7 5YR3/4 にぶい赤褐色土 焼土ブロックを多く含む。灰を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 8 灰層。8' 焼土粒をやや多く含む。
- 9 10YR3/4 暗褐色粘土 As-C, Hr-FA, 焼土粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 10 7.5YR3/3 暗褐色土 焼土小ブロックを非常に多く含む。粘性ない。締まりなくボンボン。
- 11 7.5YR4/6 褐色土 焼土小ブロックを密に、多量に含む。粘性弱い。硬く締まっている。
- 12 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒を多量に含む。焼土ブロック少量含む。粘性なし。締まり弱くボンボン。
- 13 7.5YR4/4 褐色粘質土 焼土粒を多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 14 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土ブロックを含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 15 10YR4/2 灰黄褐色土 青みがかった灰色の粘質土、焼土粒を少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。

28号住居竈掘方 土層観察所見

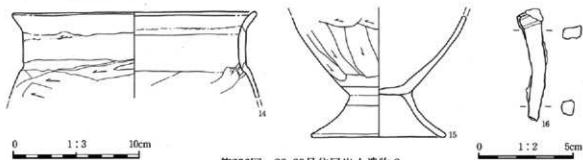
- 1 2.5Y5/1 黄灰色粘土 粘性強い。硬く締まっている。
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘土 粘性強い。締まっている。
- 3 2.5Y5/1 黄灰色粘土 ローム粒少量含む。粘性やや強い。締まりやや弱い。
- 4 7.5YR4/2 灰褐色土 粘土ブロック、焼土ブロックを多く含む。貼り床状。粘性弱い。締まっている。
- 5 7.5YR4/2 灰褐色土 粘土ブロック、焼土ブロックを多く含む。貼り床状。粘性弱い。硬く締まっている。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。住居の貼り床。
- 7 灰層。
- 8 7.5YR4/2 灰褐色土 白色粘土ブロック、焼土粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色土 焼土粒少量含む。粘性ない。締まり弱い。





第235图 28·29号住居出土物 1

0 1:3 10cm



第236図 28-29号住居出土遺物 2

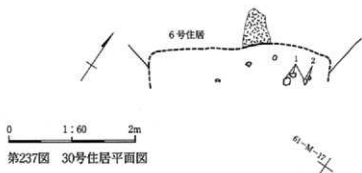
### 30号住居

**位置** 61-L-M-17グリッド 標高113.3mから113.4mの台地頂部に近い平坦面に立地する。6号住居下で確認された。

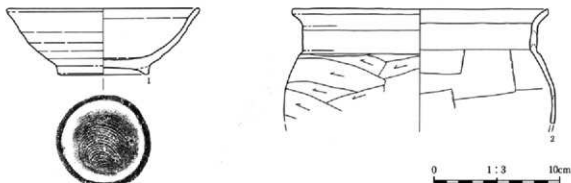
**形態** 調査区端にかかり、東壁部のみが6号住居の下面で確認されたものであるため、全体の形状はわからない。東壁は直線的であり、南北両壁へとほぼ直角に屈曲するため、方形あるいは長方形の平面形と推定される。 **規模** 南北2.86m 東西確認長0.58m

**竈** 6号住居床面に、痕跡的に残されるのみである。東壁南よりの地山を掘り込んで構築されている。主軸方向はN-55°-Eを示し、他の住居とは大きな違いを見せる。

**遺物** 資料化可能な出土遺物は少なく、9世紀後葉と思われる須恵器高台付碗と、9世紀中葉の、コの字状口縁の土師器甕が出土している。上位に乗る6号住居に9世紀後葉の年代が与えられるため、土師器甕の年代を採用するべきであろうか。



第237図 30号住居平面図



第238図 30号住居出土遺物

## 31号住居

位置 71-KL-4.5グリッド 標高112.9mから113.1mの傾斜部に立地する。竪穴住居の密度が高い部分にあたり、西に7号、北に28・29号、東に8号の各住居がある。1号溝に切られる。

形態 南北に長軸を持つ長方形。竈のない竪穴。南辺がやや長く、西辺が中ほどからややゆがんで北辺につながる。規模 長軸3.04m 短軸2.40~56m

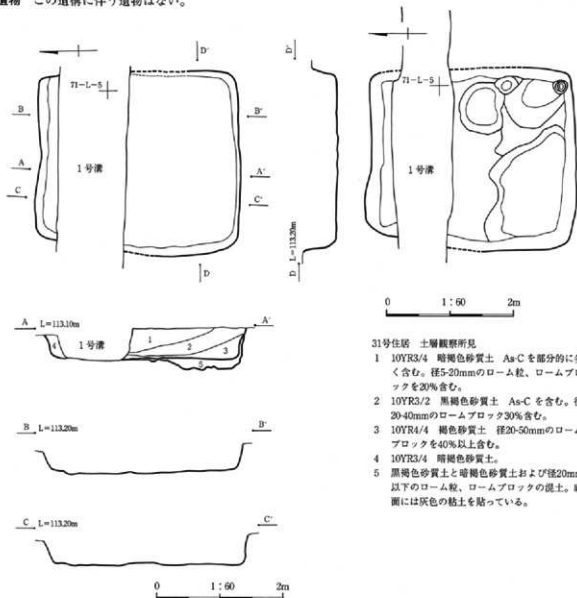
床 ソフトローム下位まで掘り込まれる。南半は大きく浅い掘り込みを黒褐色砂質土で埋めるが、全体的に軟弱で硬化面も薄い。

壁 残存最大壁高は西壁中央近くの52.5cm。四壁とも垂直に近い立ち上がりを示す。

柱穴 床面では認められない。掘方調査時に東壁南よりと東南隅部に小ピットを確認したが、住居構造にかかるものとは認められない。

貯蔵穴 竈 認められない。

遺物 この遺構に伴う遺物はない。



第239図 31号住居平面図 土層断面図 高低図 掘方平面図

35号住居

**位置** 71-RS-8.9グリッド 標高114.0mから114.1mの台地頂部に近い緩傾斜部に立地する。住居集中部の北西端に当たる。東には古墳時代の36号住居があるが、古代の住居としてはやや孤立した位置にある。1号溝に切られる。18号掘立柱建物と切る。

**形態** ややゆがんだ隅丸方形の平面形を呈する。東南隅がややふくらみ、南壁が東に延びるため、東壁が竈の右側でやや方向を変える。竈の主軸はこの部分の壁に直行する方向である。東壁をのぞくと、各壁とも中央部がややふくらみ、隅部は比較的整った屈曲を示す。規模 東西2.7m～3.2m 南北3.0m～3.4m

**床** 基本的にはハードルーム上面を床面とする。北西隅部には18号掘立柱建物の柱穴から南東方向にかけて、浅く広い掘り込みがあり、また住居中央近くにもゆがんだ円形土坑状の掘り込みがある。ここにはロームブロックを多く含む暗褐色土を埋めて床面を作っている。ほぼ均平で、堅く締まった床面である。住居南部中央近くには1.5m×0.75mほどの不定形の範囲で床が焼け、炭化物粒が特に多く見られる部分があった。

**壁** 40cmほどの残存壁高がある。ほぼ垂直に近く立ち上がる。

**柱穴** 北東隅に径40cm、深さ20cm弱の円形ピット（ピット1）がある。覆土は柱穴としても良いものと思われるが、支柱穴に相当する位置ではない。また、その北に径25cm、深さ18cmの円形ピット（ピット3）があるが、これも柱穴と判断できる位置にはない。貯蔵穴と想定されるピット3はピット1の掘方充填土と同相の覆土を持つ小ピットを切って作られており、ピット1とともに柱穴としての機能を果たしていた時期があったものかとも考えられる。

**貯蔵穴** 東南隅近くには南北方向の長径67cm、短径60cm、深さ25cmほどの土坑がある。特記すべき出土遺物はないが、炭化物や焼土粒を含む暗褐色土で埋没しており、住居内における位置ともあわせて、貯蔵穴と想定した。

**竈** 東壁中央よりやや南を掘り込んで構築している。1号溝に上部の大半を切られているため、詳細な構造はわからない。左袖部には構築材と思われる暗褐色粘土の残痕が見られる。左壁に接して川原石が出土しているが、他に石材はなく、壁石とするより、燃焼部中央に据え方が見られる支脚石が動いたものと考えたほうが妥当であろう。主軸方向はN-92°Eを示す。

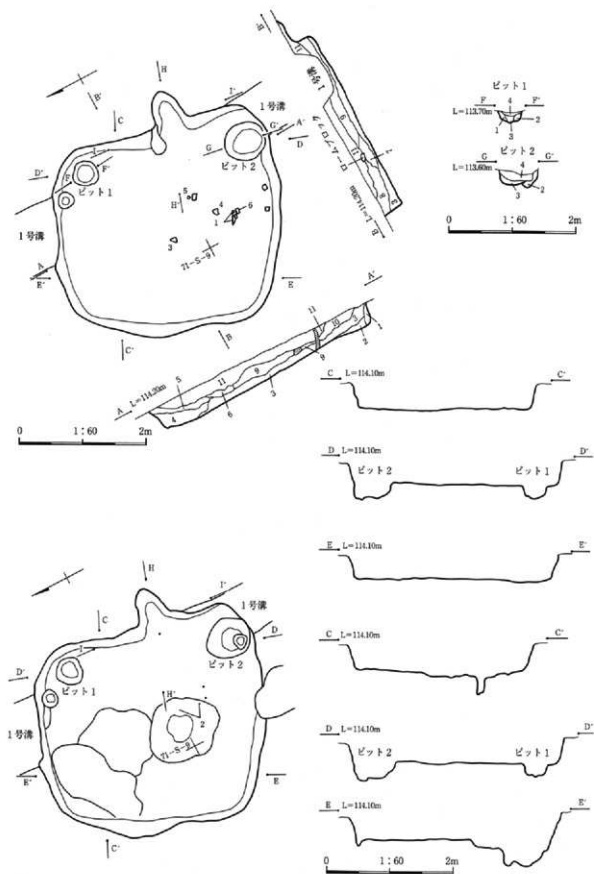
**遺物** 住居南半中央部に多く見られた。ほとんどが須恵器だが、灰釉陶器の高台付皿や土師器甕、墨書のあると土師器坏の破片なども出土している。住居の年代は9世紀後葉と思われる。

35号住居 土層観察所見

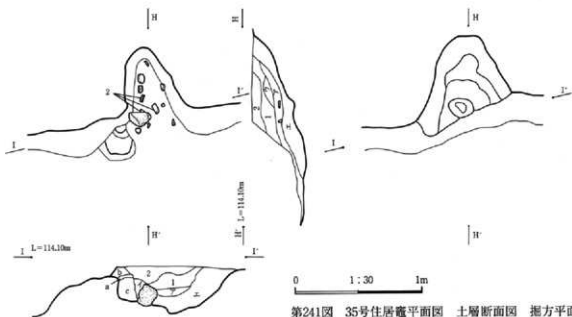
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒主体。しまり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。焼土粒、炭化物粒含む。しまり弱い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。炭化物、焼土粒含む。
- 4 10YR1/4 褐色土 ローム斑、ローム小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA含む。
- 5-10 10YR3/3 暗褐色土 ローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、As-C含む。締まっている。
- 8 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。締まっている。
- 9 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック、As-C含む。
- 11 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、As-C含む。締まっている。

35号住居 ビット1・ビット2土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ロームブロックを主体とする。空隙多く、締まりない。
- 2 10YR4/6 褐色土 汚れたロームを主体とし、ロームブロックを含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 10YR4/6 褐色土 汚れたロームを主体とする。やや粘質。しまり弱い。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。焼土粒、炭化物含む。As-C、Hr-FA少量含む。やや粘質。やや締まる。



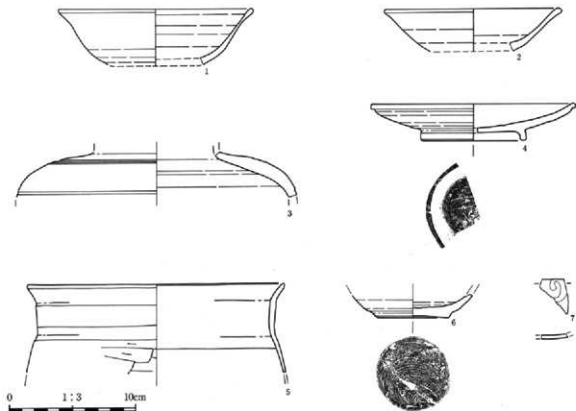
第240図 35号住居平面図 土層断面図 高低図 掘方平面図 高低図



第241図 35号住居竈平面図 土層断面図 掘方平面図

35号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA, 粘土斑, 焼土粒, 炭化物粒を含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FA, 粘土小ブロック, 炭化物粒, 焼土粒を少量含む。
- A 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒, 袖構築材の粘土ブロックを多く含む。
- I 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土ブロックを多く含む。
- ウ やや崩れた焼土ブロックを主体とし, 焼土粒, 袖材の粘土ブロックを含む。
- a 10YR3/3 暗褐色土 ローム主体, 焼土粒, 炭化物粒を含む。
- b 10YR2/3 黒褐色土 ローム泥を多く含む。焼土粒, 炭化物粒を含む。

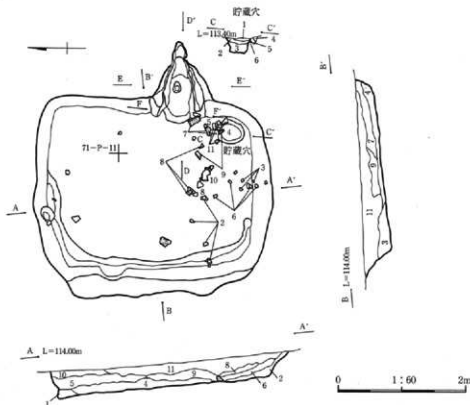


第242図 35号住居出土遺物

## 37号住居

位置 71-O.P-10.11グリッド 標高113.6mから113.8mの緩傾斜に立地する。東向き斜面の住居としては調査区内で最も北に当たる。南西に古墳時代の36号住居がある。比較的近い時期の住居としては、35号住居が西に15m、40・41号住居が東に10mほど離れている。39号ピットに切られる。

形態 南北にやや長い横長の隅丸長方形の平面形を呈する。南壁に比して北壁が長い。北東隅は東側へやや張り出しながら、鋭角味に屈曲する。他の3隅は丸みを持っている。規模 長軸3.27m 短軸(北壁2.7m、南壁2.32m)



## 37号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック3%含む。ローム粒含む。締まり弱い。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。締まり弱い。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 ローム小塊少量含む。
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒ごく少量含む。As-C、Hr-FA少量含む。締まっている。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒含む。As-C、Hr-FA含む。炭化物粒少量含む。
- 6 10YR2/1 黒色土 炭化物を主体とするが、材の形状は捉えられない。ローム粒、As-C、Hr-FA少量含む。
- 7 10YR2/2 黒褐色土 10YR2/3黒褐色土の円形斑を30%含む。As-C、Hr-FA多く含む。As-B粒少量含む。
- 8 10YR2/1 黒色土 炭化物を多く含む。ローム粒、As-C、Hr-FA含む。
- 9 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒ごく少量含む。As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒含む。
- 10 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを多く含む。As-B含む。
- 11 10YR2/3 黒褐色土 10YR2/2黒褐色土中に10YR2/3黒褐色土の円形斑が90%程度の密度で混ざる。As-C、Hr-FA多く含む。As-B含む。

## 37号住居貯蔵穴 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒を含む。粘性なく軟らかい。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色粘土ブロック、炭化物、焼土ブロックを少量含む。粘性弱く軟らかい。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒を含む。粘性なく軟らかい。
- 4 10YR4/4 褐色土 ロームを多く混じる。粘性弱い。
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。
- 6 10YR4/4 褐色土 ロームを多く混じる。粘性弱い。

第243図 37号住居平面図 土層断面図 貯蔵穴土層断面図

床 窟左手から北壁を経て西壁の南角部まで幅の広い壁周溝状の掘り込みがある。さらに北西四半は土坑状掘り込みと不定形の掘り込みが重なり合っている。これらをロームブロック、ローム粒を多く含む褐色から黄褐色土で埋めて床を作っている。このため、中央部近くがわずかに高く、壁近くが低くなる。

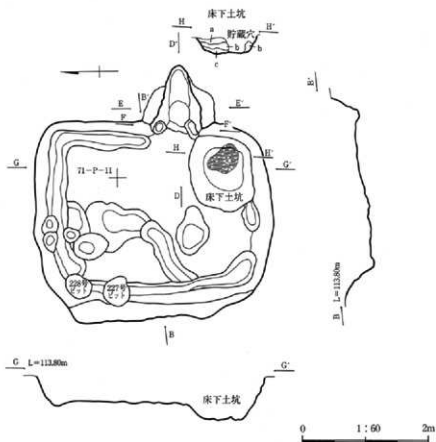
壁 40cmほどの残存壁高がある。西壁をはじめ、上部が大きく崩れているが、壁の基部の開きはさほど大きくない。周溝を介してやや上方に開くように立ち上がる。

柱穴 北西隅部で、掘方を含めいくつかのピットが見られるが、柱穴としては不適当な位置である。

貯蔵穴 東南隅部にある。径40cmほどの円形で、床面下22cmほどで平坦な底部に至る。南北1m、東西1.2mほどの大きな土坑状掘方の中に掘られており、貯蔵穴底部に当たる部分に灰白色の粘土が貼られている。

竈 東壁の南よりを壁外に大きく掘り込み、暗褐色からいぶい黄褐色の粘土および灰白色粘土を用いて構築している。燃焼部は壁外にあり、短い袖を住居内に張り出す。袖石、支脚は残っていないが、ともに据え方が確認できる。主軸方向はN-92°Eを示す。

遺物 住居南側の覆土中から多く出土し、床面直上から出土したものはほとんど無い。土師器・須恵器の甕、須恵器坏、灰軸陶器輪など器種は多岐にわたるが、須恵器の甕はすべて破片であるなど、遺物の残存率は全体的に低い。また、竈の埋没土から砂岩製の紡錘車が1点出土している。年代は9世紀中葉頃の可能性が考えられる。

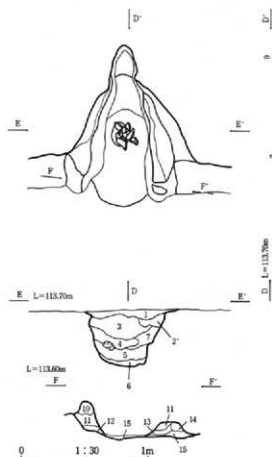


37号住居床下土坑 土層観察所見

- 1 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体。上位にロームブロックを多く含む。粘性やや強く締まっている。貼り床土。
- 2 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性やや弱く締まりやや弱い。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土 ロームブロックを含む。掘方底面に沿って白色の粘土が貼られている。粘性弱く締まり弱い。

第244図 37号住居掘方平面図 高低図 床下土坑土層断面図



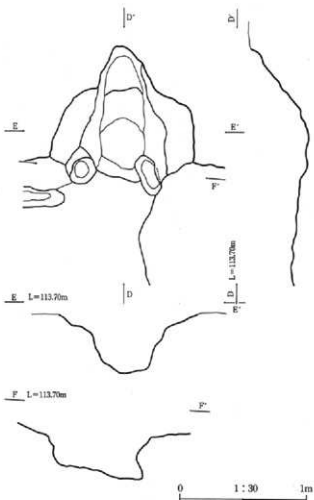


第245図 37号住居竈平面図 土層断面図

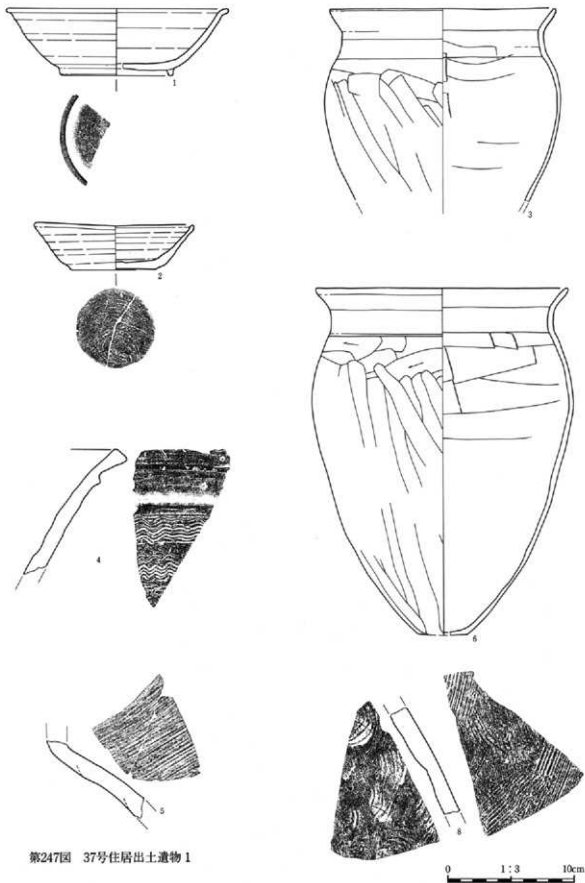
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色土 構造材の粘土主体。As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒を少量含む。白色粘土ブロックをわずかに含む。粘性弱く軟らかい。
- 11 10YR4/3 にぶい黄褐色土 構造材の粘土主体。ローム粒を少量含む。白色粘土ブロックをわずかに含む。粘性やや強くやや締まっている。
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色土 構造材の粘土主体。白色粘土ブロックをわずかに含む。粘性やや強くやや締まっている。
- 13 10YR4/3 にぶい黄褐色土 構造材の暗褐色粘土主体。ローム粒を少量含む。粘性やや強く締まりやや弱い。
- 14 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性弱く軟らかい。
- 15 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性弱く、やや軟らかい。

## 37号住居竈 土層観察所見

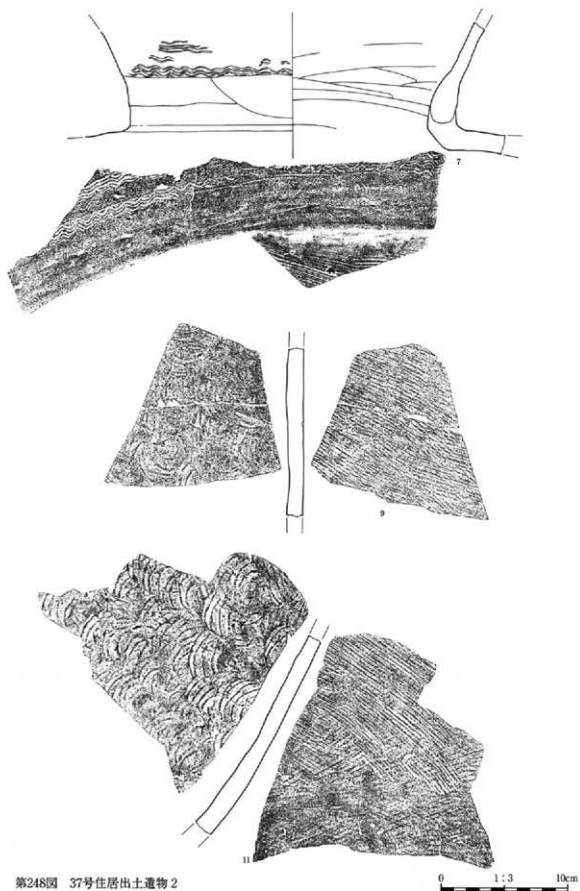
- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FAを含む。ローム粒、ロームブロックをわずかに含む。住居覆土。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 暗褐色土と粘質土の混土。ローム粒をわずかに含む。粘性なく軟らかい。
- 2' ローム土をやや多く含む。粘性弱くやや軟らかい。壁際の崩落土。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒をごくわずかに含む。黒味が強い。粘性なく軟らかい。
- 4 10YR4/3 暗褐色粘質土 焼土粒、ローム粒をごくわずかに含む。非常に硬く締まっている。天井崩落土。
- 5 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。灰を多く含む。白色粘土ブロックをごくわずかに含む。粘性弱く軟らかい。天井崩落土の崩れたもの。
- 6 10YR4/6 褐色土 ローム粒、灰を多量に含む。
- 7 4層土のしまりのないブロックを主体に、焼土ブロック、ロームブロックが混ざる。
- 8 7.5YR4/6 褐色土 白色粘土、焼土ブロックを多量に含む。粘性弱く、締まりも弱い。煙道からの流入土。
- 9 2.5YR5/6 明赤褐色土 構築材の暗褐色粘土が焼土化したもの。煙道天井部の崩落土。



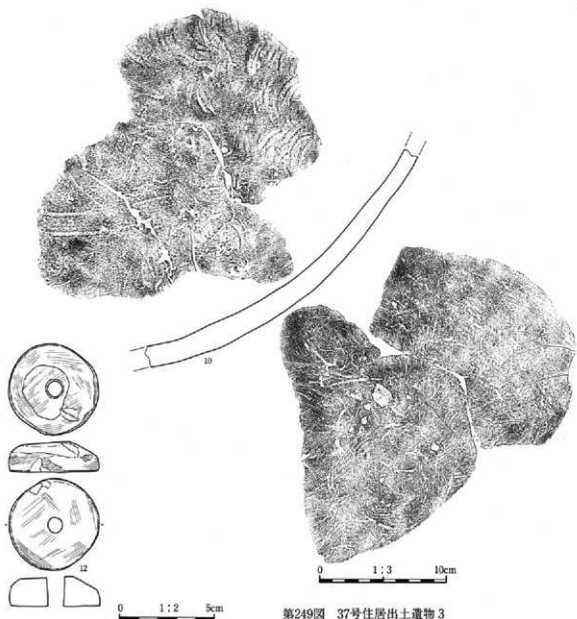
第246図 37号住居竈掘方平面図 高低図



第247図 37号住居出土遺物 1



第248図 37号住居出土遺物 2



第249図 37号住居出土遺物 3

### 38号住居

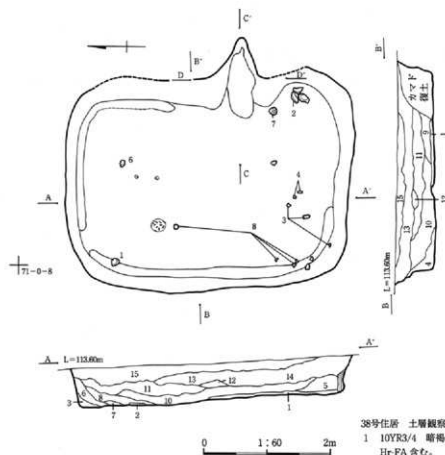
**位置** 71-N.O-6.7グリッド 標高113.3mから113.6mの傾斜部に立地する。東に39号、南から南東にかけて7・28・42号住居がある。北側は2号住居まで25mほどの間隔がある。19号掘立柱建物に切られる。

**形態** 南北に長軸を持つ横長の隅丸長方形を呈する。東南隅はやや張り出す。規模 長軸4.2m 短軸 北壁2.6m 南壁2.9m

**床** 北西隅に不定形の掘り込みがあるが、基本的には掘削面を床面としている。東側がやや低くなるが、均平で堅く締まった床面である。東壁の北寄りから北壁、西壁を経て南壁の西端部まで壁周溝が巡る。北部中央近く及び西よりに、点々と焼土が見られる。

**壁** 東部で50cmから60cm弱、西部では60cmから70cm弱の残存壁高がある。壁上部が崩れているが、基部では壁周溝を介してほぼ垂直に近く立ち上がる。

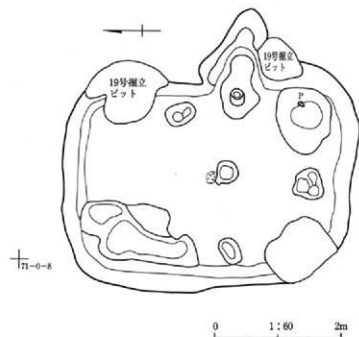
**柱穴** 中央部、南壁、西壁の中央近く、東壁北寄りにそれぞれピットがあるが、東壁部をのぞいてごく浅い



第250図 38号住居平面図 土層断面図

## 38号住居 土層観察所見

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒多く含む。As-C、Hr-FA含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム小ブロック含む。硬く締まる。床面構成土。2' ローム主体。
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。締まり弱い。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。炭化物粒少量含む。
- 5 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FA含む。炭化物粒少量含む。
- 6 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒含む。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA含む。ローム粒少量含む。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、As-C、Hr-FA含む。炭化物粒少量含む。
- 9 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒多く含む。As-C、Hr-FA含む。ローム減少量含む。
- 10 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA含む。ローム粒、焼土粒、炭化物粒少量含む。やや締まっている。
- 11 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA少量含む。やや締まっている。
- 12 10YR2/3 黒褐色土 ローム塊、崩れたロームブロックを含む。
- 13 10YR3/2 黒褐色土 As-B、As-C、Hr-FA少量含む。ローム粒少量含む。やや締まっている。
- 14 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ローム小ブロック、ローム塊を多く含む。As-C、Hr-FA含む。
- 15 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA、炭化物粒、焼土粒含む。ローム粒少量含む。締まっている。



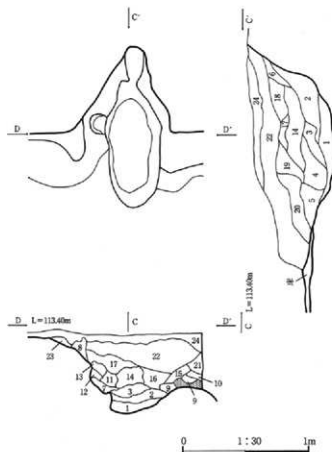
第251図 38号住居掘方平面図

ものであり、いずれも柱穴と決するに至らない。

**貯蔵穴** 床面では確認できないが、南東隅の張り出し部掘方では、東西1m、南北88cm、深さ20cmほどの不正円形の掘り込みが見られ、張り出しと併せて貯蔵施設として意識されたものであろう。

**竈** 東壁の中央よりやや東よりを掘り込んで作っている。暗褐色粘土を構築とする。石など構造物は見られないが、支脚据え方と思われる小ピットが燃焼部中央やや手前にある。主軸方向はN-97°Eを示す。

**遺物** 南西隅を中心に住居南半に多く見られた。床面直上から出土している土師器環、甕は、いずれも8世紀前葉の特徴を示している。覆土中の遺物も土師器環、底部へラ起こしの須恵器環など8世紀前葉と思われるもので、住居の年代も8世紀前葉と思われる。

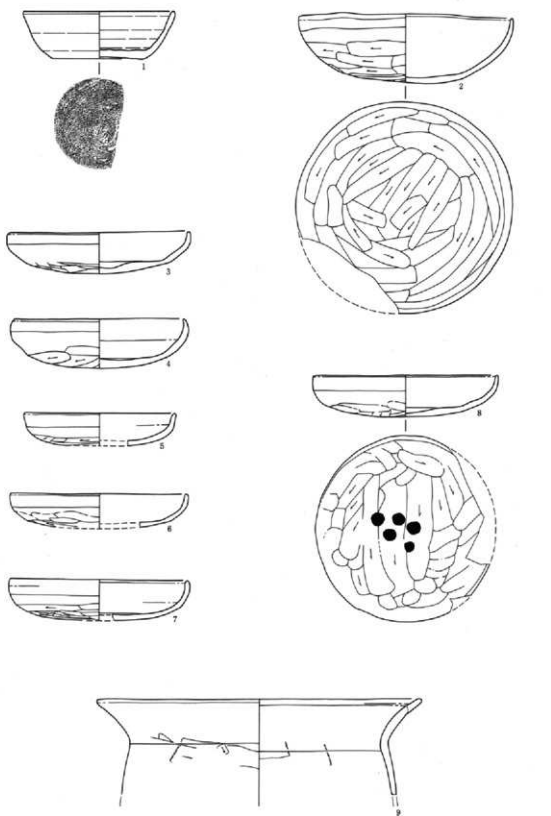


第252図 38号住居竈平面図 土層断面図

- 15 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA含む。焼土粒少量含む。ロームブロックはほとんど含まない。10YR4/4褐色土の塊を含む。やや粘質。やや締まっている。
- 16 10YR3/4 暗褐色土 12層に近いが、10YR4/4褐色土塊が多く、焼土ブロックを含む。
- 17 7.5YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 比較的多く含む。焼土、ロームの小ブロックを含む。10YR4/4褐色土の塊を少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 18 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FAを少量含む。炭化物、焼土小ブロックを多く含む。粘性やや強い。締まっている。
- 19 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FA含む。焼土粒ごく少量含む。10YR5/6黄褐色ロームブロック含む。やや粘質。締まっている。
- 20 10YR2/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA、焼土粒、炭化物粒、ローム粒含む。7.5YR4/6褐色粘質土の円筒されたブロックを含む。焼土小ブロック含む。やや粘質。締まっている。
- 21 10YR3/4 暗褐色土 12層に近い。Hr-FA やや多く、焼土小ブロックを含む。
- 22 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 比較的多く含む。ローム小ブロック含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 23 10YR3/4 暗褐色土 16層に近いが10YR4/4褐色土の塊が多い。
- 24 10YR4/4 褐色土 As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒含む。締まっている。

38号住居竈 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒多く含む。As-C、Hr-FAを混ざる。やや粘質。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 焼土。ロームの小ブロック、As-C、Hr-FA含む。やや粘質。締まり弱い。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土小ブロック含む。袖材と同じ粘土の塊を多く含む。やや粘質。やや締まっている。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FA含む。焼土粒ごく少量含む。10YR4/6褐色ロームのブロックを含む。やや粘質。締まっている。
- 5 7.5YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FA、炭化物粒、焼土粒含む。やや粘質。締まっている。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 崩れた焼土ブロックを多く混入する。粘性やや強い。やや締まっている。
- 7 7.5YR3/3 暗褐色土 袖材と同じ粘土を多く含む。焼土粒を多く含む。粘性やや強い。やや締まっている。
- 8 10YR4/4 褐色土 袖構築材。粘土。
- 9 7.5YR4/6 褐色土 As-C、Hr-FA、ローム小ブロック含む。焼土、炭化物は含まない。やや粘質。硬く締まる。
- 10 7.5YR3/4 暗褐色土 6層に似るが、焼土小ブロック含む。
- 11 7.5YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA含む。焼土の崩れた塊を含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 12 10YR4/6 褐色土 崩れたロームブロック。YP粒を含む硬く締まったブロック。
- 13 10YR4/6 褐色土 ロームブロック。YP粒を含む硬く締まったブロック。
- 14 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA含む。ロームブロック多く含む。焼土塊含む。やや粘質。やや締まっている。



第253図 38号住居出土遺物

0 1:3 10cm

## 39号住居

**位置** 71-M-6.7.8グリッド 標高113.0mから113.3mの傾斜部に立地する。西に38号住居、北東から南東にかけて42号から45号住居がある。北側はやや間隔を置いて40・41号住居がある。いくつかの土坑を切っているが、この中には掘立柱建物を構成する大型の柱穴と思われるものもある。建物として確定することはできなかったが、西側の19号、23・24号掘立柱建物と並ぶような建物があって、本住居がこれを切っている可能性がある。

**形態** 南北に長軸を持つ横長長方形。東南隅部のみやや張り出して弧状をなすが、他は小さな丸みを持って屈曲する。本遺跡の中では最大規模の竪穴住居である。平面形態は25号住居、43号住居と類似するが、主柱穴と壁際の側柱穴を有するなど、他の住居とは大きく異なる構造を持つ。規模 長軸6.4m 短軸4.1m

**床** 北東、北西、南東の各隅部はやや深く掘り窪められていて、ロームブロックを多く含む暗褐色土で埋められる。住居中央部近くは掘方底面をそのまま床としている。堅く締まった均平な床面である。北壁から西壁を経て南壁西部まで、コの字状に壁周溝が巡る。

**壁** 東側で30cmから40cm、西側で40cmから50cm弱の残存壁高がある。上部の崩れは比較的少なく、ほぼ垂直に立ち上がる。

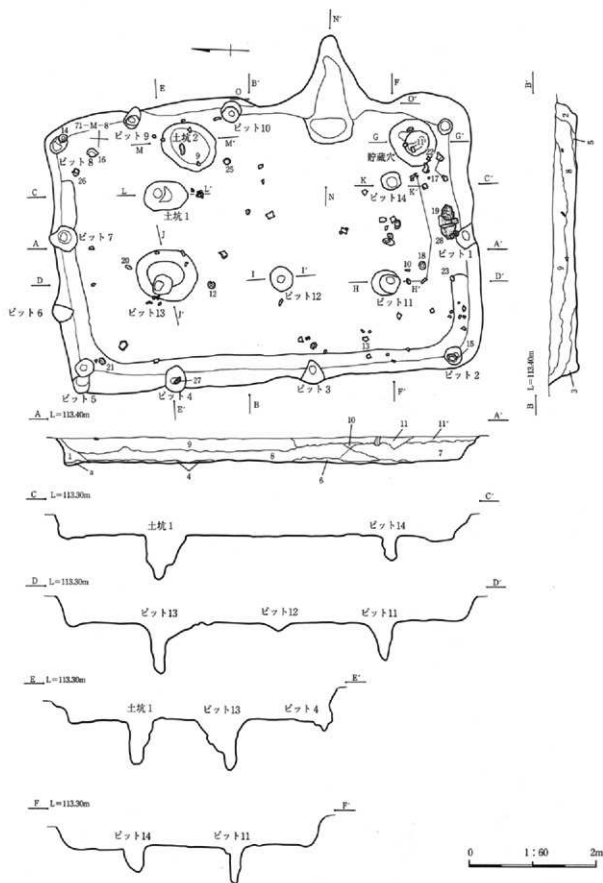
**柱穴** 主柱穴と想定されるものと、半壁を掘り込むような側柱穴の2種がある。主柱穴は東辺に2基、西辺に3基あり、それぞれ壁からやや距離を持っている。柱穴に囲まれた範囲の面積は5.7m<sup>2</sup>ほどで、住居床面積21.6m<sup>2</sup>の1/4強にすぎない。柱穴を結ぶ対角線は住居対角線よりやや南東にずれる。ピット16は他のピットと形状が異なり、土坑状を呈するものであるが、位置関係から柱穴と判断した。側柱穴は四隅に加えて長辺に2基、短辺に1基掘られている。確認面から壁を掘り込んでおり、深いものでは床面下50cmに達するものもある。壁体を押さえるだけのものではなく、構造を支持する機能を持つものと考えられるだろう。北辺にはもう1基、上部を掘り込んだ小ピットがあるが、床面まで達していないため柱穴からは除外した。掘方調査時にもいくつかのピットが見つかっており、特に南壁中央部近くには比較的深いピットが集中する。白色粘土を底面に残すものもあるが、機能を特定するに至っていない。

**貯蔵穴** 竈右手に当たる東南隅部に設けられている。長径78cm、短径67cmのややゆがんだ円形で30cmほどの深さがある。中位に小さな段を持って、皿状の底部に至る。周辺からは坏、甕の破片が比較的多く出土している。また、北壁北よりに長径95cm、短径80cm、深さ30cmほどの土坑があり、川原石や土器片が含まれるが機能を特定することができない。主柱穴であるピット13は径65cmほどの土坑を切って掘られているが、この土坑覆土は上層に炭化物や焼土を多く含み、この層に半ば埋没して鎌が出土している。住居使用時にもやや窪んだ状況で、何らかの機能を果たしていたものかもしれない。竈右手の床下にも長径85cm、短径57cmの浅いくぼみがあり、底面の一部に灰白色粘土が残っていた。

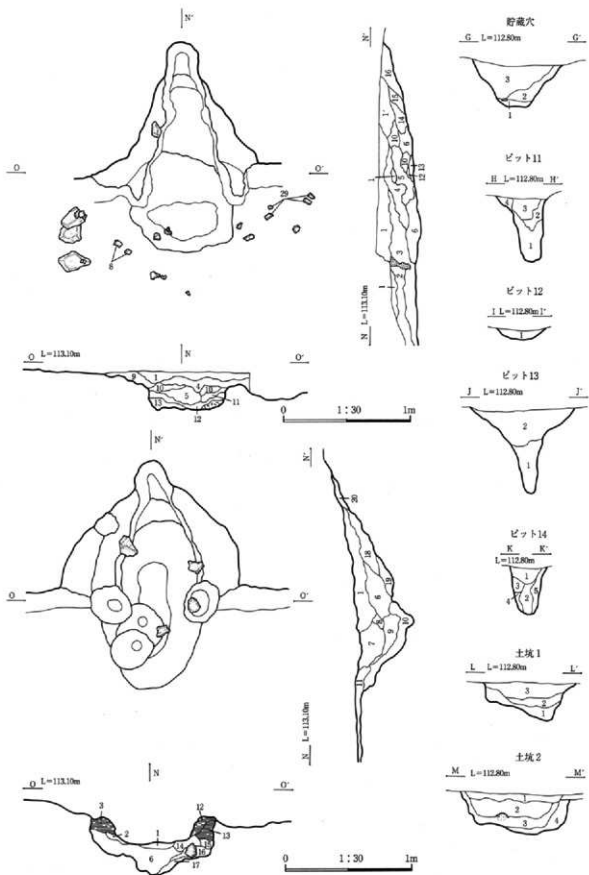
**竈** 東壁南よりに壁外に掘り込んで構築し、燃焼部は壁外にある。比較的緩やかな傾斜で煙道に連続する。褐色から暗褐色の粘土を主たる構築材とするが、底面には灰白色の粘土ブロックが含まれる。部分的に角礫を壁に埋め込んでいる。焚き口には袖石の据え方が残されており、竈左手で出土した礫がこれに当たるものかもしれない。側壁から天井への連続部などはよく残っているにもかかわらず、まとまった土器の出土などは見られなかった。

**遺物** 南壁沿いに比較的多いが、住居全体に散在する。ほとんどが須恵器の高台付塊、坏であり、墨書土器、灰釉陶器も数点出土している。北東の主柱穴近くから鉄製鎌が出土しているほか、刀子などの鉄製品が出土している。年代は、9世紀後半から10世紀前半と思われる。





第254図 39号住居平面図 土層断面図 高低図



第255図 39号住居遺・竈掘方平面図 土層断面図 貯蔵穴・ピット・土坑土層断面図



第256図 39号住居掘方平面図 高紙図 ピット土層断面図

## 第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

### 29号住居 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA、炭化物粒を含む。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム泥、As-C、Hr-FA 含む。炭化物粒、焼土粒少量含む。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。焼土粒、炭化物粒含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒少量含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 粘土面含む。焼土粒少量含む。
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。炭化物、焼土粒多く含む。
- 8 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。炭化物、焼土小ブロック含む。7層と漸移的に変化。
- 9 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA、焼土粒含む。
- 10 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA 含む。焼土は含まない。
- 11 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA 含む。ローム粒、焼土粒、炭化物粒少量含む。 11' 焼土小ブロック含む。

### 竈 土層観察所見

- 1 10YR2/3 2/2 黒褐色土 Hr-FA、As-C を多量に含む。焼土粒を少量含む。土器片含む。粘性なし。締まりやや強い。 1' 焼土粒多く含む。
- 2 10YR3/4 暗褐色土 Hr-FA、As-C 少量含む。焼土粒、焼土ブロック、粘土ブロックを若干含む。粘性なし。締まりやや強い。
- 3 10YR3/4 暗褐色土 Hr-FA、As-C 少量含む。焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。粘土ブロックを少量含む。粘性なし。締まりやや強い。
- 4 10YR4/4 褐色土 Hr-FA、As-C、焼土粒、焼土ブロックを少量含む。粘土ブロックをわずかに含む。粘性なし。締まりやや強い。
- 5 10YR4/6 褐色土 粘土ブロック主体。焼土粒少量含む。天井崩落土。粘性弱い。締まりやや強い。
- 6 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。炭化物少量含む。粘性ない。締まりやや強い。 6' 焼土少ない。
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を含む。炭化物を含む。粘性弱い。締まりない。
- 8 粘土、焼土、ロームの薄層。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA を少量含む。焼土粒、焼土ブロックをわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。
- 10 10YR4/4 褐色土 3層に似るが焼土少ない。粘性ない。やや締まっている。
- 11 7.5YR4/6 褐色土 ローム粒、焼土ブロックをわずかに含む。粘性ない。やや締まっている。
- 12 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒、径10mm程度の焼土ブロック均質に含む。炭化物粒をごくわずかに含む。粘性なし。締まりやや弱い。
- 13 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒、径25mm程度の焼土ブロックを多量に含む。粘性なし。締まりやや弱い。

### 竈間 土層観察所見

- 1 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。灰を含む。炭化物をわずかに含む。粘性なくさらさらしている。締まりやや弱い。
- 2 7.5YR4/4 褐色土 焼土粒を多量に含む。袖の粘土下に入り込んでいる。粘性弱い。締まりやや強い。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒を少量含む。袖の構築土。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 4 10YR/1 白色粘土ブロック。
- 5 10YR3/3 暗褐色土 As-C、Hr-FA を多量に含む。ロームブロックを不均質に少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。
- 6 7.5YR3/4 暗褐色土 白色粘土ブロック、焼土粒を多量に含む。炭化物粒、ローム粒を少量含む。混入物が不均質に偏在する。粘性ない。締まりやや弱く、ほそほそした触感。
- 7 10YR3/2 黒褐色土 灰を多く含む。炭化物粒、焼土粒を多量に含む。土器片を含む。粘性なし。締まり弱い。
- 8 7.5YR4/6 褐色土 7層と1層の混土。焼土粒少量含む。粘性なし。締まり弱く、ほそほそした触感。
- 9 10YR3/4 暗褐色土 炭化物粒、焼土粒を多量に含む。7層に似るが黄色みがやや強い。粘性弱い。締まり弱い。
- 10 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
- 11 10YR4/6 褐色土 住前跡床上に乗った竈からの流出土が踏み固められたもの。
- 12 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロック、白色粘土ブロックを少量含む。粘性やや弱い。硬く締まっている。竈袖。
- 13 10YR4/3 にぶい黄褐色土 焼土粒少量含む。粘性やや弱い。硬く締まっている。竈袖。
- 14 10YR4/3 にぶい黄褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多く含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 15 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。粘性弱い。締まりやや弱い。
- 16 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロック、焼土粒を多量に含む。粘性ない。締まり弱い。
- 17 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性強い。締まり強い。
- 18 7.5YR4/6 褐色土 焼土粒、焼土ブロックを多量に含む。粘性強い。締まっている。
- 19 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 20 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性ない。締まりやや弱い。

### 貯蔵穴 土層観察所見

- 1 2.5Y4/6 オリーブ褐色土 崩れたソフトローム主体。黒褐色土粒が混入する。やや粘質。締まり弱い。
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ローム泥、As-C、Hr-FA 含む。焼土粒少量含む。やや粘質。締まり弱い。
- 3 10YR2/2 黒褐色土 木質の炭化材片を含む。焼土粒、焼土小ブロック、As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。やや締まっている。

### ビット11 土層観察所見

- 1 10YR4/4 褐色土 ローム粒、ローム小ブロックを多く含む。やや粘質。締まり弱い。
- 2 7.5YR4/4 褐色土 崩れたロームブロック主体。やや粘質。締まり弱い。

- 3 7.5YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA, 炭化物粒を含む。焼土粒多く含む。粘性弱い。やや締まっている。  
 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム底、As-C, Hr-FA, 焼土粒、炭化物粒を含む。やや粘質。締まっている。

## ピット12 土層観察所見

- 1 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FA 多く含む。ローム粒、焼土粒少量含む。粘性なし。硬く締まっている。

## ピット13 土層観察所見

- 1 7.5YR4/4 褐色土 混入物の少ないソフトローム。地山がYPを混する硬く締まったロームであるため埋土とした。締まり弱い。  
 2 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒を多く含む。As-C, Hr-FAを含む。やや締まっている。鎌の基部がこの中に埋れている。

## ピット14 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 炭化物粒、焼土粒、As-C, Hr-FAを少量含む。  
 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を多く含む。締まり弱い。  
 3 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロックを多く含む。  
 4 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体。締まり弱い。  
 5 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体。締まり弱い。

## 1号土坑 土層観察所見

- 1 7.5YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック多く含む。やや粘質。締まり弱い。  
 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム底、焼土粒を含む。As-C, Hr-FA少量含む。やや粘質。やや締まっている。  
 3 10YR2/2 黒褐色土 As-C, Hr-FA多く含む。ローム粒、焼土粒少量含む。粘性ない。硬く締まっている。  
 ※ 3層は硬く締まっていて、床面の一部をなすものであろう。他の床面構成土はローム土を多く含むところから見て、住居に伴う床下土坑とするより、古い土坑の上面を踏み留めたものとしたほうが妥当かと思われる。

## 2号土坑 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 竈付近の住居土最下層土に類似している。As-C, Hr-FAを多量に含む。炭化物粒、焼土粒を多く含む。粘性なし。やや硬く締まっている。  
 2 10YR3/3 暗褐色土 1層類似したが、As-C, Hr-FAの量は少ない。ローム粒を多量に含む。粘性なし。締まり弱い。  
 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。黄色みが強い。粘性なし。締まり弱い。  
 4 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを密に、多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。  
 ※ 4層上に粘土構成土が乗り、床を作る前に掘削し、床貼り後もおそらく再掘削されて開口した土坑であることがわかる。ただし、1層が締まっているところから見ると、住居廃絶時には埋設されていた可能性が高いだろう。

## 床下ピット1 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性なし。締まりやや強い。  
 2 10YR4/6 褐色土 ローム粒を多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。  
 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性弱い。締まり弱い。  
 4 10YR4/6 褐色土 ローム粒を多く含む。粘性弱い。締まり弱い。

## 床下ピット2 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 As-C, Hr-FAを少量含む。焼土粒、炭化物粒をわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。  
 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを含む。粘性ない。締まり弱い。  
 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、ロームブロックを多く含む。粘性弱い。締まり弱い。

## 床下ピット3 土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ロームブロックを主体とする。粘性弱い。締まり弱い。

## 床下ピット4 土層観察所見

- 1 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱くばそそ。  
 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒少量含む。As-C, Hr-FAわずかに含む。粘性ない。締まり弱い。  
 3 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性ない。締まり弱くばそそ。  
 4 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。  
 5 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒主体。粘性ない。締まり弱い。

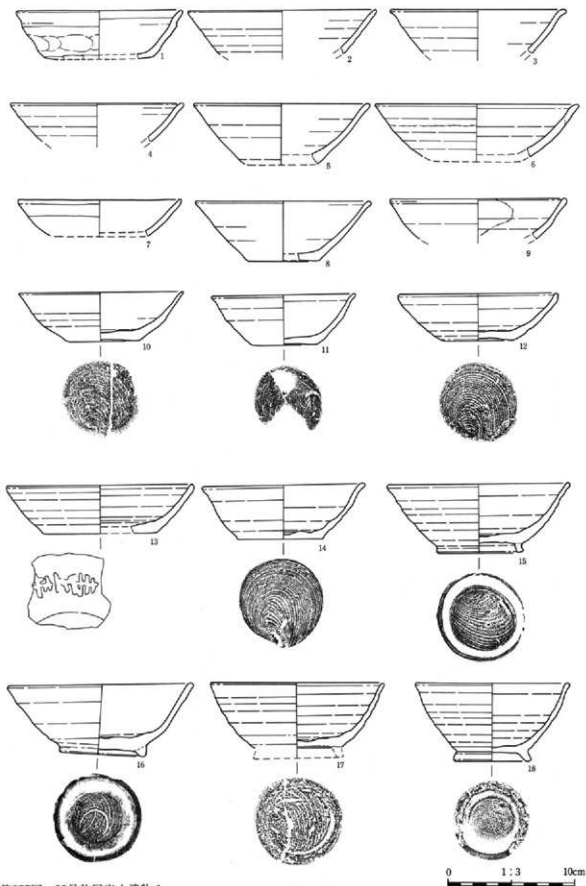
## 床下ピット5 土層観察所見

- 1 10YR2/3 黒褐色土 As-C, Hr-FA, ローム粒を少量含む。粘性弱い。締まり弱い。

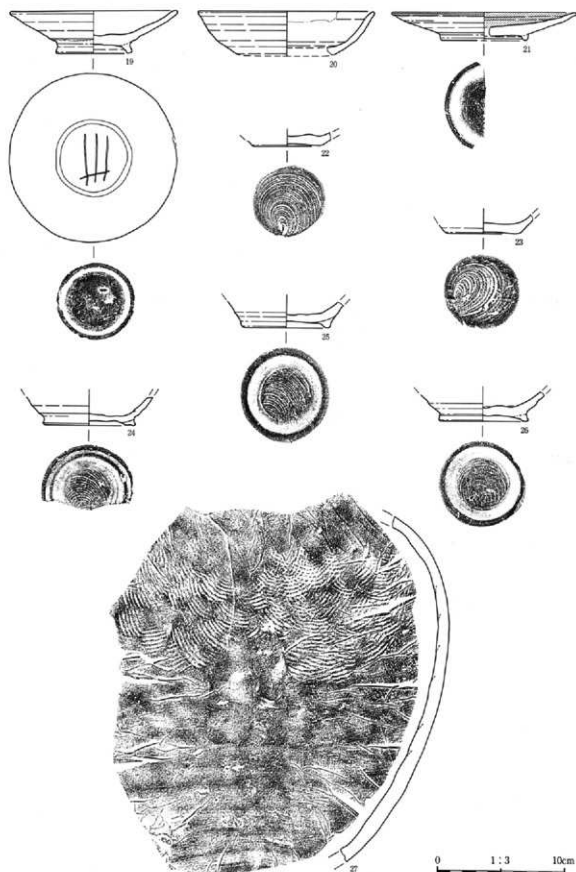
## 床下ピット6 土層観察所見

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒、焼土粒を多量に含む。粘土ブロック、炭化物粒を少量含む。粘性なし。締まり弱い。  
 2 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒、ロームブロック主体。粘性ない。締まり弱い。  
 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性ない。締まり弱い。  
 4 10YR4/6 褐色土 ローム粒、ロームブロック主体。粘性弱い。締まり弱い。

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

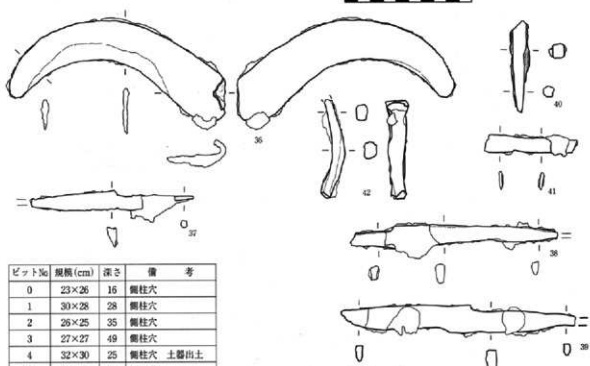
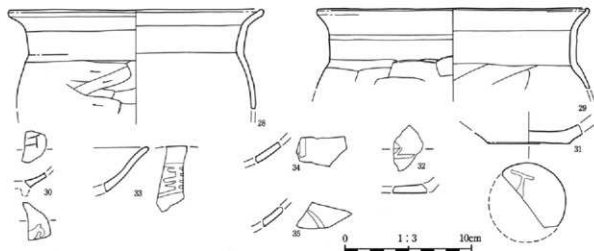


第257図 39号住居出土遺物 1



第258图 39号住居出土遺物 2

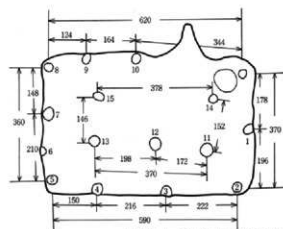
第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物



第259図 39号住居出土遺物 3

ピット№	規模 (cm)	深さ	備 考
0	23×26	16	側柱穴
1	30×28	28	側柱穴
2	26×25	35	側柱穴
3	27×27	49	側柱穴
4	32×30	25	側柱穴 土器出土
5	27×26	44	側柱穴
7	38×28	40	側柱穴
8	31×22	47	側柱穴
9	30×23	37	側柱穴
10	28×22	31	側柱穴
11	46×44	55	主柱穴
12	40×35	41	主柱穴
13	32×30	80	主柱穴
14	35×31	39	主柱穴
15	34×25	69	主柱穴 1号土坑内
床下 1	58×41	31	
床下 2	40×26	38	
床下 3	41×38	22	
床下 4	54×54	25	
床下 5	48×42	10	
床下 6	45×27	54	

第1表 39号住居ピット計測表



第260図 39号住居計測模式図



## 40号住居・41号住居

**位置** 40号住居71-L-M-9.10グリッド 41号住居71-L-10グリッド 標高112.9mから113.2mの傾斜部に立地する。40号住居が41号住居の西部を大きく切る。住居集中部の北端に近い位置に当たる。南東に44号住居がある。やや間隔を置いて南に39号住居、東に37号住居がある。

**形態・規模** 40号住居は南北に長軸を持つ横長長方形を呈する。東南隅および北壁中央を土坑に切られている。北東隅は41号住居との切り合いによりはっきりしない。西壁の両隅は丸みを持って屈曲する。長軸4.19m 短軸3.55m。41号住居は東壁のみが全体を確認できる状態であるが、竈位置から見て東西方向に長軸を持つ縦長の隅丸長方形を呈するものと思われる。南北2.53m、東西方向の確認長は2m程度であるが、掘方に見られる土坑状掘り込みが本住居に伴うものとするれば、3.5m以上あったものと想定される。

**床** 40号住居は掘方をロームブロックと暗褐色土の混土で埋め、その上位に床面を作る。床は上下2枚あり、上位は最終使用時の床面で、As-C、Hr-FA や炭化物を多く含む黒褐色土が堅く締まったものであり、西側に作られた竈がこの床面に伴う。下位床面は褐色土とロームブロックの混土が堅く締まったもので東側の竈を使用していた時期の床面である。ともに堅く締まっており、均平な床面が作られているが、41号住居と切り合う部分では、下位の41号住居覆土の締まりが弱いせいか明瞭さを欠き、この部分での床面確認ができていない。41号住居も掘方をロームブロックと暗褐色土の混土で埋め、その上位に床面を作る。竈周辺をのぞいて比較的締まりの弱い床面である。

**壁** 40号住居は北壁で40cmから48cm、西壁から南壁にかけては50cmから60cmの残存壁高がある。やや上方に開きながら立ち上がる。41号住居は30cmから40cmの残存壁高で、やや上方に開き気味ながら、40号住居に比すれば急角度で立ち上がる。

**柱穴** 両住居とも、掘方調査時に小ピットが見つかったが、柱穴と判断できるものはない。

**貯蔵穴** 40号住居では東南隅部径1mほどのゆがんだ円形の土坑がある。上部を新しい土坑によって破壊さ

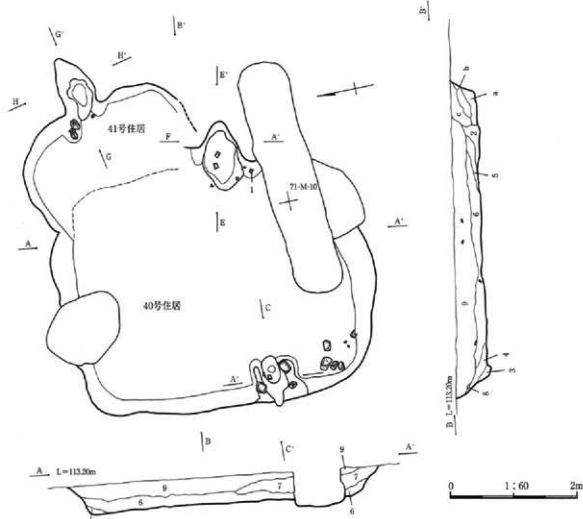


第261図 40・41号住居遺物分布図

第5章 奈良時代・平安時代以後の遺構と遺物

れているため詳細はわからないが、床面下15cmから20cmほどの浅いもので、底部に小ピットが掘られている。東壁右手に当たり、位置的には貯蔵穴として良い。西壁の右手に当たる位置には床下に径1m、深さ30cmほどの土坑がある。出土遺物はないが、床面がこの部分で切れ、覆土には焼土粒、炭化物などを含む。41号住居では貯蔵穴と認められるものはない。

竈 40号住居は東壁と西壁で竈が見つまっている。床の項で述べたように、東壁の竈(東竈)が古く、西壁の竈(西竈)が新しい。東竈は東壁中央よりやや南よりを掘り込んで、黄灰色粘土を貼って構築している。



第262図 40・41号住居平面図 土層断面図

40・41号住居 土層観察所見

- 1 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック少量含む。粘性弱い。締まり弱い。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 ローム混含む。As-C、Hr-FA、焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 3 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック含む。As-C、Hr-FA少量含む。粘性弱い。締まり強い。
- 4 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒多く含む。焼土粒、炭化物粒、As-C、Hr-FA含む。やや粘性あり。やや締まっている。
- 5 10YR4/4 褐色土 焼土粒多く含む。焼土小ブロック、炭化物粒含む。粘性なし。やや締まっている。
- 6 10YR3/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA含む。ローム粒、ローム小ブロック少量含む。やや粘質。やや締まっている。
- 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒多く含む。As-C、Hr-FA含む。やや粘質。やや締まっている。
- 8 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロックと混合したブロック。やや粘質。硬く締まっている。
- 9 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA多く含む。焼土粒、炭化物粒含む。やや砂質。やや締まっている。

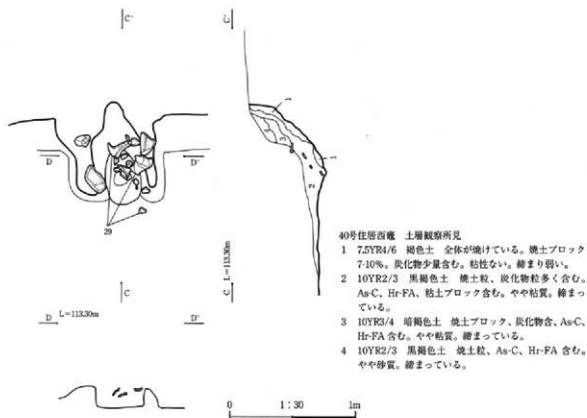
※ 以上40号住居覆土

- a 10YR4/4褐色ロームと10YR2/3-3/3黒褐色土の斑状混土。やや粘質。締まり弱い。
- b 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒、As-C、Hr-FA、焼土粒含む。粘性弱い。やや締まっている。
- c 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒、焼土小ブロック、As-C、Hr-FA含む。やや砂質。締まっている。

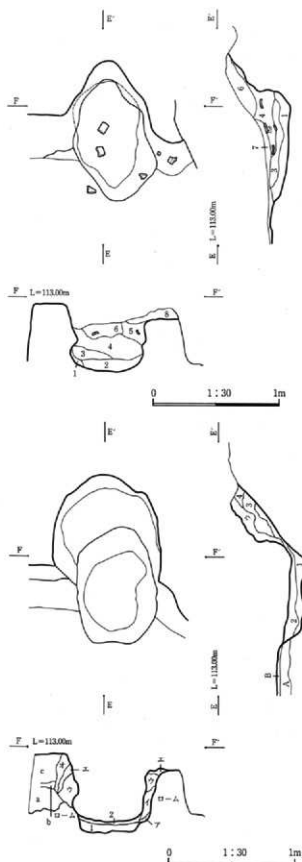
※ 以上41号住居覆土

燃焼部奥は急角度で立ち上がり、煙道に連続する。側壁は焼土化した粘土が残っているが、燃焼部の覆土には焼土小ブロックや粘土斑はあるものの天井の崩落土塊などは見られず、底面にも灰層や焼土面が残されていない。袖石や支脚の据え方も認められない。西竈は西壁の中央よりやや南よりの壁面をわずかに掘り込んで作られている。褐色の粘土で構築され、燃焼部は住居内にある。崩れが激しく、住居覆土とともに掘削してしまった部分もあるため、詳細な構造はわからないが、本来は石組みを伴うものであつたらしく、袖部には方柱状の川原石が残る。また、同質の石が竈左手に当たる南西隅でまとまって見つかっている。ここには灰や炭化物、焼土小ブロックなどもあり、竈を壊した廃材をまとめておいたものかもしれない。覆土からは比較的大きな甕の破片が出土している。西壁に作られる竈は本遺跡ではこれだけであり、同一住居で方向を違えて作り直される点、壁外への張り出しが弱い点なども特異である。41号住居の竈は東壁中央を壁外に細長く掘り込んで作られる。地山を掘り残して小さく袖を張り出し、灰白色粘土を貼っている。左袖部に角礫があり、袖石に用いられたものと考えられる。燃焼部は方形に掘り込まれ、奥壁は急角度で立ち上がって煙道に連続する。燃焼部手前には径50cm、深さ4cmほどの幅広で浅い掘り込みに続いて径30cm、深さ10cmほどのピットが掘られている。

**遺物** 40号住居からは多くの遺物が出土した。須恵器の高台付甕が大半を占め、墨書土器、灰軸陶器が出土している点では39号住居と共通するが、39号住居では見られなかった土師器も多く出土する。坏やコの字口縁が崩れてきている甕が出土している。鉄製品として刀子がある。遺物の年代から、9世紀後葉と思われる。41号住居出土遺物は掘方中の須恵器坏底部1点のみである。9世紀中葉と思われる、遺構の切り合いとも整合的な年代である。



第263図 40号住居西竈平面図 土層断面図



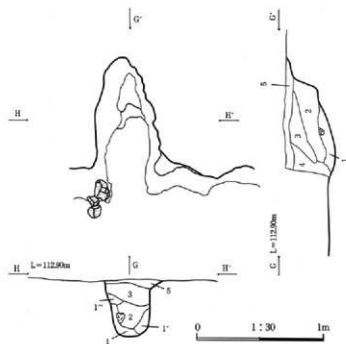
40号住居東端 土層観察所見

- 1 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒含む。As-C、Hr-FA 少量含む。粘性強い。締まっている。
- 2 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、焼土小ブロック、炭化物粒。As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。やや締まっている。
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒、焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。やや粘質。やや締まっている。
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土小ブロック多く含む。全体に焼けて赤っぽい。粘性強い。締まっている。
- 5 10YR4/4 褐色土 焼土小ブロック多く含む。黄灰色の粘土質を含む。粘性強い。締まっている。
- 6 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。締まり弱い。やや攪乱を受けている。
- 7 10YR2/3 黒褐色土 焼土粒、炭化物粒を多く含む。締まっていて、層状に炭化物を挟む。
- 8 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、As-C、Hr-FA 含む。やや砂質だが、As-Bを含むことによるものか。締まっている。

40号住居東端掘方 土層観察所見

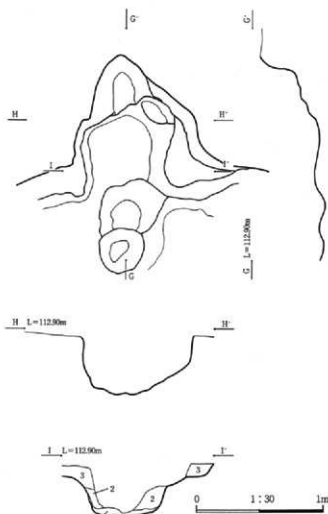
- 1 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土小ブロック少量含む。やや粘質。締まり弱い。
  - 2 10YR2/3 黒褐色土 焼土小ブロック、炭化物粒含む。やや粘質。締まりやや強い。
  - 3 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒多く含む。焼土小ブロック含む。粘性弱い。締まっている。
  - 4 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒、As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。締まっている。
- A 40号住居床下埋土  
 B 40号住居下層床面 炭化物、ロームブロックを多く含む。硬く締まる。
- ア 黄灰色粘土 この部分は焼けていない。  
 イ 10YR2/3 黒褐色土 ア層の粘土小ブロックを多く含む。焼土小ブロック、As-C、Hr-FA を含む。  
 ウ 焼土小ブロック主体。焼けていない粘土小ブロックを含む。  
 エ 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 含む。一部焼土化する。やや砂質。硬く締まっている。  
 オ 10YR4/4 褐色土 焼土粒、As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。締まっている。  
 a 10YR2/3 黒褐色土 ローム層5%。As-C、Hr-FA 少量含む。やや粘質。やや締まっている。41号住居覆土。  
 b 10YR2/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA 含む。ブロックの集合。41号住居覆土。  
 c 10YR3/4 暗褐色土 As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。締まっている。

第264図 40号住居東端平面図 土層断面図 掘方平面図 土層断面図



## 41号住居竪 土層観察所見

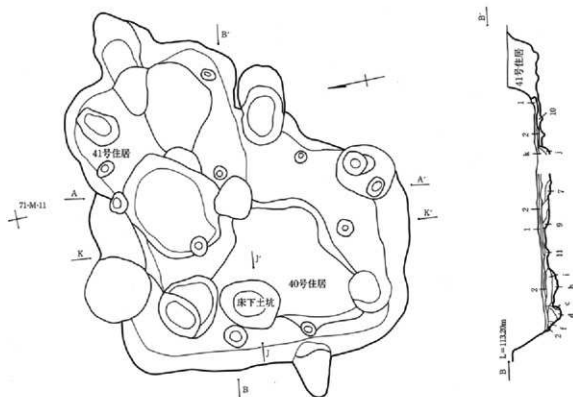
- 10YR3/4 暗褐色土 灰白色粘土、焼土ブロック多く含む。やや粘質。締まり弱い。1'粘土を多く含む。粘性やや強く締まっている。1''粘土分少なく、焼土小ブロックが多い。やや締まっている。
- 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒、焼土小ブロック多く含む。As-C、Hr-FA 含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 10YR3/3 暗褐色土 灰白色粘土混30%。As-C、Hr-FA、ロームブロック含む。やや粘質。やや締まっている。
- 10YR2/3 黒褐色土 汚れた灰白色粘土混含む。As-C、Hr-FA 含む。焼土粒少量含む。粘性弱い。やや締まっている。
- 10YR3/2 黒褐色土 As-C、Hr-FA 含む。やや砂質。やや締まっている。



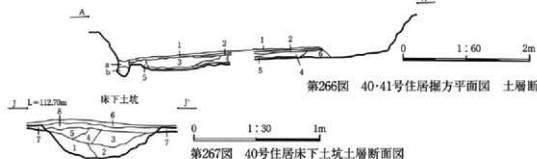
## 41号住居掘方 土層観察所見

- 10YR2/3 黒褐色土 炭化物、焼土粒多く含む。10YR5/3にぶい黄褐色粘土粒含む。やや粘質。締まり弱く乱れている。
- 7.5YR3/4 暗褐色土 炭化物、焼土粒、10YR5/3にぶい黄褐色粘土ブロック多く含む。やや粘質。やや締まっているが乱れている。
- 10YR2/3 黒褐色土 As-C、Hr-FA 多く含む。焼土粒含む。硬く締まっている。

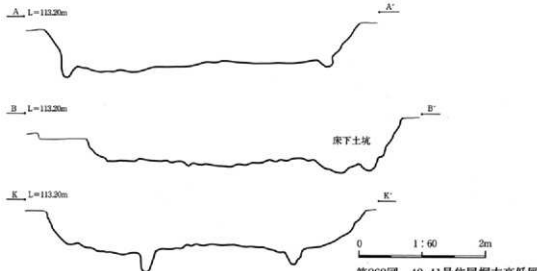
第265図 41号住居竪平面図 土層断面図 掘方平面図 土層断面図



第266図 40・41号住居掘方平面図 土層断面図



第267図 40号住居床下土坑土層断面図



第268図 40・41号住居掘方高低図